

令和3年度
人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査
報告書

令和4年3月

株式会社マーケティング・コミュニケーションズ

【目次】

第1章 調査概要

1. 調査目的	・・・2
2. 調査検討委員会	・・・2
3. モニター調査 調査事項	・・・3
4. 調査方法・調査対象	・・・6
5. 調査期間	・・・6
6. サンプル	・・・7
7. 報告書内で使用する用語、定義	・・・8

第2章 調査結果

1. 基本属性	・・・10
2. 結婚・家族を取り巻く状況	・・・12
3. 仕事を取り巻く状況	・・・44
4. 結婚・子供を持つ事と働き方	・・・60
5. 収入を取り巻く状況	・・・71
6. 老後の生活スタイル	・・・81
7. 生活全般への考え方や満足度・将来不安	・・・88

第3章 分析視点別結果

1. 独身中高年を取り巻く状況	・・・102
2. シングルマザーを取り巻く状況	・・・106
3. 都市部の流入による影響について	・・・109
4. 離婚リスクについて	・・・113
5. 婚姻状況と理想の子供の数について	・・・117
6. 結婚後のライフスタイルの理想と現実の年代別傾向	・・・119
7. 貧困と幸福度	・・・123

分析結果まとめ

山田 昌弘（中央大学文学部 教授/調査検討委員会主査）	・・・128
永瀬 伸子（お茶の水女子大学基幹研究院 教授）	・・・130
小林 盾（成蹊大学文学部 教授）	・・・132

参考資料 WEBアンケート調査票	・・・134
------------------	--------

第1章 調査概要

第1章 調査概要

1. 調査目的

コロナ下で改めて顕在化した男女共同参画の遅れの要因の一端として、家族形態の変容、社会構造が変化しているにもかかわらず、働き方、税・社会保障制度等の制度・慣行が依然として昭和の働き方・制度・慣行となっており、現在の結婚や家族の実相と合っていないことや、無意識の偏見(アンコンシャス・バイアス)を含む固定的な性別役割分担意識等に基づく構造的な問題が存在することなどが指摘されている。

本調査は、前述の問題意識を念頭に、結婚・仕事・収入に関して、意識調査等を行い、男女差、年代差、学歴差、地域差を確認した上で、男女間賃金格差の要因の一端や、働き方・制度・慣行が現在の結婚や家族の実相に合っているのかどうか等を明らかにし、人生100年時代における働き方・制度を検討する際の資料となることを目的とする。

2. 調査検討委員会

本調査の実施に当たっては、有識者からなる検討委員会を設置し、開催した。

① 構成

氏名	所属
<主査> 山田 昌弘	中央大学 文学部 教授
永瀬 伸子	お茶の水女子大学基幹研究院 教授
小林 盾	成蹊大学 文学部 教授

② 開催実績

回	日時	主な課題
第1回	令和3年12月14日(火)	・調査計画について ・調査票について
第2回	令和4年1月24日(月)	・調査結果(集計速報値)について ・分析方針について ・中間報告書の作成について
第3回	令和4年3月4日(金)	・調査結果について ・今後の分析、報告書の作成について

3.モニター調査 調査事項

調査項目、設問項目一覧は以下のとおりである。

① 設問項目一覧

【スクリーニング調査】

設問番号	項目	設問文
—	性別	※性別は登録時情報を利用する為、本アンケートでは確認していない
F1	年齢	あなたの年齢をお知らせください。
F2	居住地域	お住まいの地域を教えてください。
Q1	中学卒業時の居住地	中学卒業時どこにお住まいでしたか。
Q2	配偶者状況	現在、結婚相手や配偶者、恋人がいますか。
Q3	離婚・死別経験	過去に離婚・死別の経験はありますか。
Q4	同居している人と人数	現在、同居している方がいますか。同居している人数についてもお答えください。
Q5①	①同居している子供の有無と人数(年齢別)	あなたの子供について、年齢別に①同居している子供の有無と人数 と、②別居している子供の有無と人数を教えてください。
Q5②	②別居している子供の有無と人数(年齢別)	
Q6	住居形態	現在のお住まいの住居形態を教えてください。
Q7	最終学歴	最後に行かれた(または現在行かれている)学校は次のどれにあたりますか。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。
Q8	自身の雇用形態	あなたの職業・雇用形態について、あてはまるものを選択してください。
Q9	自身の勤務形態	現在の勤務形態について、最もあてはまるものを選択してください。
Q10	自身の業種	あなたの勤務先の業種について教えてください。
Q11	自身の職種	あなたご自身の仕事の種類について、実際にしている主な仕事の内容をお選びください。
Q12①	①自身の個人年収	今年度(2021年度)の①あなたご自身の個人年収と、②世帯年収について、教えてください。
Q12②	②世帯年収	
Q13	配偶者・恋人の雇用形態	現在の配偶者、または恋人の職業・雇用形態を教えてください。
Q14	配偶者・恋人の勤務形態	現在の配偶者、または恋人の勤務形態について、最もあてはまるものを選択してください。
Q15	配偶者・恋人の個人年収	今年度(2021年度)の配偶者、または恋人の個人年収について教えてください。

【本調査】

設問番号	項目	設問文
Q16	結婚願望	あなたは今後、結婚したいと思いますか。
Q17①	①理想の子供の数	①現実とは別に、あなたにとって理想的な子供の数は何人ですか。また、②あなたは今後、子供を育てたいと思いますか。子供がいる人は、「(今いるお子様の人数は除き)、今後何人子供を育てたいと思うか」でお答えください。
Q17②	②今後育てたい子供の数	
Q18	理想の年齢	A.あなたの人生において、下記のタイミングについて「何歳ぐらいでほしい」と考えている、もしくは考えていましたか。実際にどうであるかは別として、ご自身の理想を教えてください。また、B.あなたの人生の中で、下記のタイミングは「何歳」の時でしたか。
Q19①	①結婚相手に求める・求めたこと	結婚相手に求めることについて、教えてください。
Q19②	②現在相手に求めること	
Q20①	①理想の結婚への流れ	どのような流れで結婚したいと思っている・思っていましたか。
Q20②	②実際、どうだったか	
Q21	結婚した/結婚したい理由	現在結婚している方は、当時結婚した理由、また現在未婚の方は、今後結婚したいと思う理由について、あてはまるものをお選びください。
Q22	積極的に結婚したいと思わない理由	今後、積極的に結婚したいと思わない理由について、あてはまるものをお選びください。
Q23	配偶者・恋人との仲	あなたと配偶者、または恋人との仲について、最も当てはまるものを教えてください。
Q24	離婚可能性	将来離婚する可能性はあると思いますか。
Q25	卒業後の仕事	先ほどお答えいただいた、最終学歴を卒業された後、働かれましたか。
Q26	最終学歴後に就いた仕事の雇用形態	最終学歴後に就いた仕事の職業・雇用形態について、あてはまるものを選択してください。
Q27	最終学歴後に就いた仕事の勤め先従業員数	最終学歴後に就いた仕事について、勤め先の従業員数を教えてください。
Q28	最終学歴後に就いた仕事の継続勤務年数	最終学歴後に就いた仕事について、継続勤務年数を教えてください。
Q29①	①最終学歴後に就いた仕事の希望度・魅力度	最終学歴後に就いた仕事について、①就職前の希望度と、②実際に働いてみての魅力度を教えてください。
Q29②	②最終学歴後に就いた仕事の魅力度	
Q30	Q29①で希望通りでなかった点	どの点について希望通りでない～どちらとも言えなかったのか、あてはまるものを選択してください。
Q31	最終学歴直後に就いた仕事の要素別満足度	最終学歴直後に就いた仕事について、それぞれの要素に対する満足度を教えてください。

【本調査】

設問番号	項目	設問文
Q32①	①自分と配偶者の仕事について(結婚前)	結婚後(初婚)子供がいない時の自分と配偶者の「仕事」について、①結婚前にどのような形を望んでいるか(現在結婚していない人)、望んでいたか(現在結婚している人)、②結婚後、実際はどうだったか(現在結婚している人) について、最も当てはまるものを教えてください。
Q32②	②自分と配偶者の仕事について(結婚後)	
Q33①	①自分の収入について(結婚前)	結婚後(初婚)子供がいない時の自分の「収入」について、①結婚前にどのような形を望んでいるか(現在結婚していない人)、望んでいたか(現在結婚している人)、②結婚後、実際はどうだったか(現在結婚している人) について、最も当てはまるものを教えてください。
Q33②	②自分の収入について(結婚後)	
Q34	結婚後子供がいない時の配偶者の仕事	結婚後(初婚)子供がいない時、配偶者にはどのような形で仕事に向き合ってほしいと思っていますか。最も当てはまるものを選んでください。
Q35①	①結婚後子供がいない時の居住地希望(結婚前)	結婚後(初婚)子供がいない時の居住地の希望について、①結婚前にどのような形を望んでいるか(現在結婚していない人)、望んでいたか(現在結婚している人)、②結婚後、実際はどうだったか(現在結婚している人) について、最も当てはまるものを教えてください。
Q35②	②結婚後子供がいない時の居住地希望(結婚後)	
Q36①	①自分と配偶者の仕事について(子供が生まれる前)	第一子が生まれた後、子供が2～3歳の頃の自分と配偶者の「仕事」について、①第一子が生まれる前にどのような形を望んでいるか(現在子供がいない人)、望んでいたか(現在子供がいる人)、②子供が2～3歳の頃、実際はどうだったか(現在子供がいる人) について、最も当てはまるものを教えてください。
Q36②	②自分と配偶者の仕事について(子供が生まれた後)	
Q37①	①自分の収入について(子供が生まれる前)	第一子が生まれた後、子供が2～3歳の頃の自分の「収入」について、①第一子が生まれる前にどのような形を望んでいるか(現在結婚していない人)、望んでいたか(現在結婚している人)、②子供が2～3歳の頃、実際はどうだったか(現在子供がいる人) について、最も当てはまるものを教えてください。
Q37②	②自分の収入について(子供が生まれた後)	
Q38	子供が生まれた後の配偶者の仕事	第一子が生まれた後、子供が2～3歳の頃、配偶者にはどのような形で仕事に向き合ってほしいと思っていますか。最も当てはまるものを選んでください。
Q39	配偶者・恋人との年収の違い	配偶者・恋人との年収の違いについて、当てはまるものを全て教えてください。
Q40	昇進意欲	あなたは将来的に「昇進したい」と思いますか。
Q41	教育投資・企業内訓練について	人生の各段階における、あなたご自身へのスキルアップ～キャリアアップに向けた教育投資・企業内訓練について、それぞれ当てはまるものをお選びください。
Q42	教育投資・企業内訓練をしなかった理由	就職後～働いている段階での教育投資・企業内訓練について、どうして必要ないと判断・もしくははしたかったが出来なかったのか、理由を教えてください。
Q43	アンコンシャスバイアス	以下のような考え方について、あなたのご意見に最も近いものを教えてください。
Q44	結婚相手・恋人・デートした人数	あなたには、以下のような人が何人ぐらいいるか、それぞれお答えください。
Q45①	①70歳になった時の仕事(理想)	あなたが70歳になった時の「仕事」を考え、①どのような形が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。
Q45②	②70歳になった時の仕事(現実、どうなりそうか)	

【本調査】

設問番号	項目	設問文
Q46①	①70歳になった時の家族と居住形態(理想)	あなたが70歳になった時の「家族と居住形態」を考え、①どのような形が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。
Q46②	②70歳になった時の家族と居住形態(現実、どうなりそうか)	
Q47①	①70歳になった時の住まい(理想)	あなたが70歳になった時の「お住まい」を考え、①どのような形が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。
Q47②	②70歳になった時の住まい(現実、どうなりそうか)	
Q48①	①70歳になった時の世帯収入(理想)	あなたが70歳になった時の「世帯収入」を考え、①どの程度が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。
Q48②	②70歳になった時の世帯収入(現実、どうなりそうか)	
Q49	介護実施状況	過去～現在において、あなたご自身は介護をしている・していましたか。当てはまるものを教えてください。
Q50	介護実施時間	現在、あなたは介護にどのぐらいの時間を使っていますか。1日あたりの平均として、最も当てはまるものを教えてください。
Q51	介護への関わり方	今後、あなたの親(自分の親、配偶者の親含め)が要介護状態になった時、どのように関わるとお考えですか。お考えに最も近いものを教えてください。
Q52	自身の介護の望み	今後、あなたご自身が要介護状態になった時、どのような形での介護を望みますか。お考えに最も近いものを教えてください。
Q53①	①自身が現在抱えている不安	①現在、あなたご自身が抱えている不安と、②将来、不安に思うようなこと・状態について、それぞれ当てはまるものをお答えください。
Q53②	②将来不安に思うこと	
Q54	現在の項目ごと満足度	現在の、各項目へのあなたの満足について、それぞれ当てはまるものをお答えください。
Q55①	①20歳のころの幸福度	以下の時に、あなたはどの程度幸せでした(です)か。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点ぐらいになりますか。いずれか1つだけ選んでください。
Q55②	②現在の幸福度	

4. 調査方法・調査対象

調査方法	・インターネット・モニターに対するアンケート調査 (株式会社マーケティング・アプリケーションズの登録モニターが対象)
調査名	あなた自身に関する調査
調査対象	国内在住のインターネット・モニター(20歳以上70歳未満)

5. 調査期間

インターネット・モニター に対するアンケート調査	令和3年12月27日(月)～令和4年1月11日(火)
-----------------------------	----------------------------

6. サンプル

① 回収数：20,000人

② サンプルの割付

令和2年国勢調査における「配偶者の有無×男女年代」とエリア(2区分)に基づき、以下のとおり回収。

③ 回収サンプルの割付

回収したサンプルの構成は以下のとおりである。

【人数割合】

		①東日本			②西日本		
		未婚	既婚		未婚	既婚	
			有配偶	離死別		有配偶	離死別
男性	20代	3.5	0.6	0.02	3.0	0.6	0.02
	30代	2.1	2.7	0.1	1.6	2.4	0.1
	40代	1.9	4.3	0.3	1.5	3.7	0.3
	50代	1.4	4.1	0.4	1.0	3.5	0.4
	60代	0.8	4.0	0.5	0.6	3.7	0.5
女性	20代	3.2	0.8	0.05	2.7	0.8	0.1
	30代	1.4	3.2	0.2	1.2	2.8	0.2
	40代	1.2	4.6	0.6	1.0	4.0	0.6
	50代	0.8	4.3	0.8	0.7	3.8	0.7
	60代	0.4	4.1	1.0	0.3	3.9	1.0
合計		100%					

【回収割付】

		①東日本			②西日本		
		未婚	既婚		未婚	既婚	
			有配偶	離死別		有配偶	離死別
男性	20代	706	118	4	595	118	4
	30代	410	545	22	323	487	22
	40代	376	855	58	294	749	57
	50代	272	820	85	203	699	80
	60代	156	804	98	123	740	96
女性	20代	636	167	9	549	160	11
	30代	287	632	45	239	561	47
	40代	236	920	111	204	808	113
	50代	158	856	150	136	754	150
	60代	77	824	200	68	770	201
合計		2万人					

本調査 回収数

		①東日本			②西日本		
		未婚	既婚		未婚	既婚	
			有配偶	離死別		有配偶	離死別
男性	20代	708	116	5	596	117	4
	30代	412	541	24	326	485	22
	40代	377	854	58	297	746	57
	50代	275	816	86	203	696	83
	60代	156	804	98	123	740	96
女性	20代	636	167	9	550	159	11
	30代	289	629	46	240	560	47
	40代	239	915	113	205	806	114
	50代	160	853	151	136	754	150
	60代	78	823	200	74	776	189
合計		2万人					

※配偶関係「不詳」と回答している人を除いて総数を算出

※東日本・西日本の定義：東日本とは新潟県、長野県及び静岡県以东の都道府県、西日本とは富山県、岐阜県及び愛知県以西の府県としている

7. 報告書内で使用する用語、定義

本調査で使用する用語		本調査で用いた定義	
世帯類型	夫婦のみ世帯	世帯主とその配偶者のみで構成する世帯。本調査では、回答者とその配偶者。	
	夫婦と子供から成る世帯	夫婦と未婚の子のみで構成する世帯。	
	単独世帯	世帯員が一人だけ(回答者のみ)の世帯。本調査では回答者本人のみの世帯。	
	母子・父子世帯	片親と19歳以下の子供を含む世帯。本調査の定義においては、20歳以上の子供がいても、他に19歳以下の子供がいれば母子・父子世帯とみなす。他に祖父母などと同居していても該当。対象者は未婚もしくは離死別(既婚は除外)。	
	その他世帯	上記以外の世帯(三世代世帯も含む)。	
配偶者の有無 ※回収設定時の分類	未婚	まだ結婚したことがない人をいう。未婚には乳幼児なども含む。	
	既婚	有配偶	現在結婚している人をいう。(事実婚も含む)
		離別・死別	「死別」とは配偶者と死別し、再婚していない人をいう。「離別」とは離婚し、再婚していない人をいう。
配偶者の有無 ※分析で使用する分類	独身	現在、配偶者がいない人をいう。(「死別」「離別」経験の上、現在配偶者がいない人も含む)	
	既婚	現在結婚している人をいう。(事実婚も含む)	
既婚の定義	法律婚	婚姻の届出をしている。	
	事実婚・内縁	婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にあることを指す。本人同士に結婚する意思があり、共同生活を営んでいるのであれば事実婚として成立。	
雇用形態	正規雇用	就業状況を尋ねる設問のうち、「正規の会社員・職員・従業員」「会社などの役員」を選択した人。	
	非正規雇用	同設問において、「パート・アルバイト」「労働派遣事業所の派遣社員」「契約社員」「嘱託」「その他の形で雇用されている」を選択した人。	
	自営業・自由業・その他	同設問において、「自営業・自由業(従業員がいる)」「自営業・自由業(従業員がいない)」「自家営業の手伝い(家族従業者)」「家庭内の賃仕事(内職)」「その他」を選択した人。	
	働いていない	同設問において、「主婦・主夫」「学生」「その他(働いていない)」を選択した人。	
就職氷河期	就職氷河期コア世代	1975年～1984年生まれ＝2021年調査時点37歳～46歳で定義。	
	就職氷河期コア世代より若い世代	1985年生まれ以降＝2021年調査時点20歳～36歳で定義。	
	就職氷河期コア世代より上の世代	1974年生まれより前＝2021年調査時点47歳～69歳で定義。	

なお、結果数値(%)は、少数第二位を四捨五入(報告書内では少数第一位まで表出)しているため、合計の数字と内訳の計とが一致しない場合がある。

【集計結果について】

・クロス集計や平均値の比較に関してはカイ2乗検定等による検定を行っている。グラフ・図表で示した内容のうち、5%水準で統計的に有意ではない結果については、注釈にてその旨を記す。(特段記載がない箇所は、5%水準で統計的に有意である結果である)

第2章 調査結果

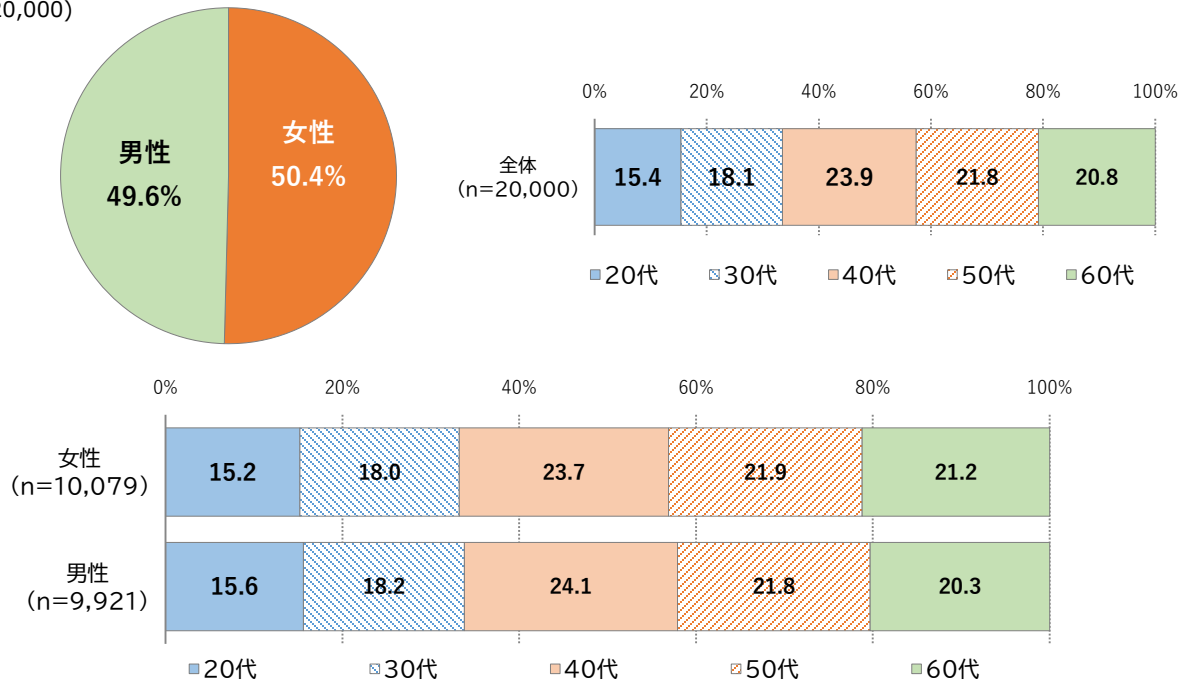
第2章 調査結果

1. 基本属性

・本調査における回答者の基本属性を以下にまとめる。

(1) 性別・年代

(n=20,000)



(2) 居住地

・都道府県ごとの回収数は以下の通り。

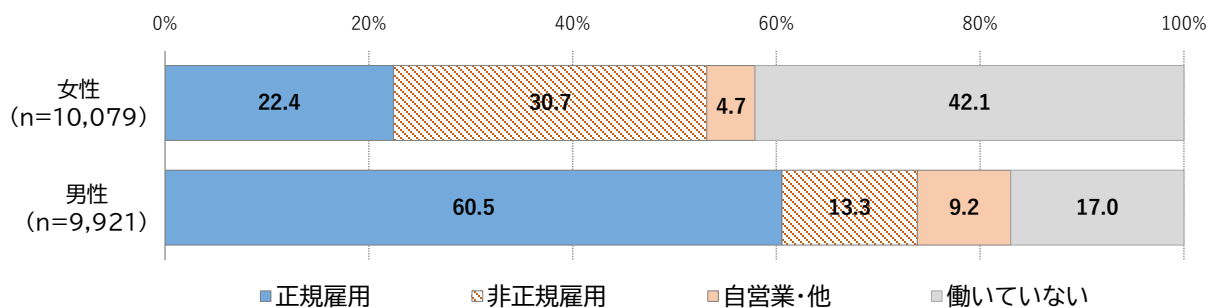
(人)

	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
全体	926	154	128	348	121	125	188	321	241	201	1335	1062	2701	1679	314	142
女性	510	81	62	182	65	75	96	170	120	99	632	541	1318	791	159	70
男性	416	73	66	166	56	50	92	151	121	102	703	521	1383	888	155	72

	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
全体	134	99	76	239	326	480	1393	271	236	453	1714	1030	245	127	77	68
女性	72	38	35	127	160	245	692	143	118	220	915	529	116	60	36	20
男性	62	61	41	112	166	235	701	128	118	233	799	501	129	67	41	48

	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄
全体	306	488	173	89	157	189	63	714	77	145	162	116	96	144	127
女性	169	258	90	38	87	89	25	401	40	80	79	54	40	67	65
男性	137	230	83	51	70	100	38	313	37	65	83	62	56	77	62

(3) 就業状況



(%)

	正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他					働いていない		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業 (従業員がいる)	自営業・自由業 (従業員がいない)	自家営業の手伝い (家族従業員)	家庭内の賃仕事 (内職)	その他	主婦・主夫	学生	その他 (働いていない)
全体 (n=20,000)	40.0	1.4	15.2	2.2	3.5	0.8	0.3	1.2	4.5	0.7	0.4	0.2	16.1	2.7	10.8
女性 (n=10,079)	21.9	0.5	24.0	2.8	3.2	0.4	0.4	0.6	2.5	0.9	0.6	0.2	31.0	2.2	8.9
男性 (n=9,921)	58.3	2.2	6.3	1.6	3.8	1.3	0.3	1.9	6.4	0.5	0.2	0.2	0.9	3.3	12.8

(4) 産業

(%)

	農業・林業・漁業	鉱業・採石業・砂利採取業	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業・郵便業	卸売業	小売業	金融業・保険業	不動産業・物品賃貸業	宿泊業・飲食サービス業	教育・学習支援業	医療・福祉業	他サービス業	その他の産業
全体 (n=14,073)	1.0	0.2	5.4	18.9	1.4	5.3	5.4	3.5	8.0	3.8	2.3	4.2	5.3	11.3	18.3	5.7
女性 (n=5,838)	0.8	0.1	3.8	12.7	0.9	2.8	3.0	3.0	11.8	4.4	1.8	6.0	6.8	17.6	19.4	5.1
男性 (n=8,235)	1.1	0.3	6.6	23.3	1.7	7.0	7.0	3.9	5.3	3.4	2.8	2.8	4.3	6.9	17.4	6.1

(5) 職業

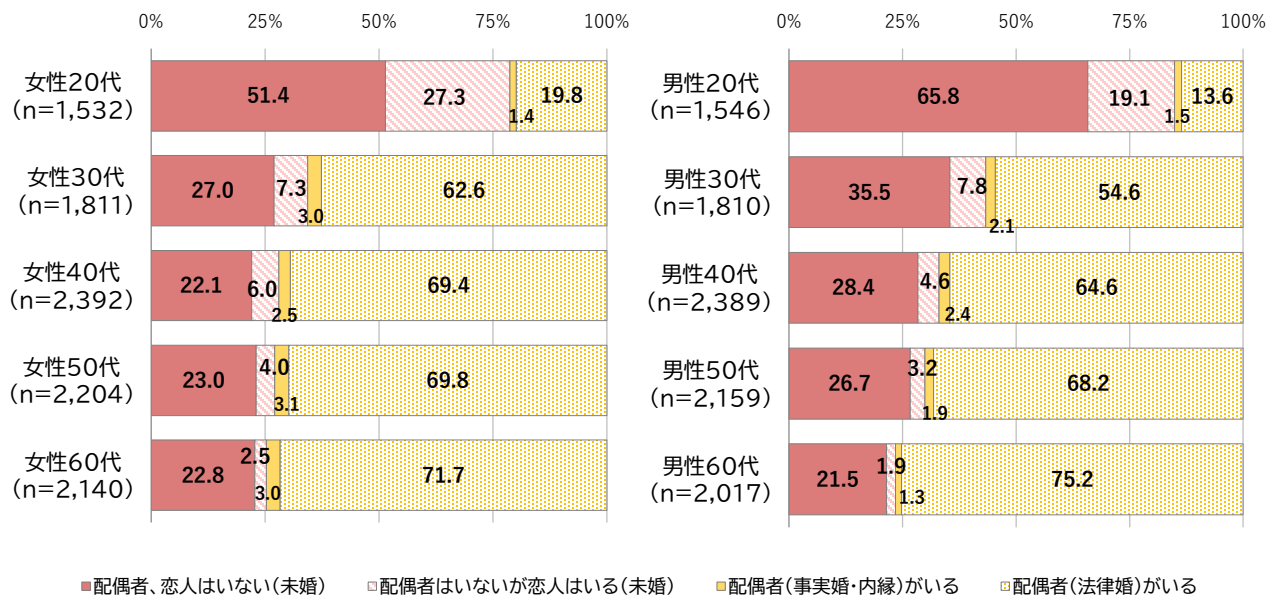
(%)

	事務職	管理職 ※課長相当以上	専門・技術職	販売	サービス	保安職	農林漁業	生産工程従事	輸送・機械運転	建設・採掘	運搬・清掃・包装など	その他
全体 (n=14,073)	25.4	9.7	18.6	9.1	13.4	1.2	0.7	7.9	1.6	1.6	4.1	6.6
女性 (n=5,838)	35.1	1.5	15.1	11.7	17.4	0.2	0.5	5.9	0.3	0.2	4.1	8.1
男性 (n=8,235)	18.4	15.6	21.1	7.3	10.6	1.9	0.9	9.4	2.5	2.6	4.2	5.6

2. 結婚・家族を取り巻く状況

(1) 現在の配偶者等の状況

- ・現在の配偶者等の状況については、男女とも「配偶者がいる(事実婚・内縁、法律婚含む)」割合は、30代以上では5割以上となり、20代では上の年代と比べて低い。
- ・「女性20代」では、「配偶者はいないが恋人はいる(未婚)」が27.3%、対して「男性20代」では19.1%。
- ・女性では40代以上になると、「配偶者がいる(事実婚・内縁、法律婚含む)」割合は、7割程度と一定。対して、「配偶者はいないが恋人はいる(未婚)」割合は、「女性40代」で6.0%、「女性50代」で4.0%、「女性60代」で2.5%。
- ・男性では、「配偶者、恋人はいない(未婚)」割合は、30代で35.5%、40代で28.4%、50代で26.7%。



(2) 離婚経験

- ・離婚経験を見てみると、現在独身の女性では、「40代」で31.9%、「50代」で44.7%、「60代」で50.1%。一方、現在独身の男性では、「40代」で13.8%、「50代」で24.3%、「60代」で33.0%。
- ・既婚者の離婚経験率は、男女ともにどの年代でも1割以下。

女性

[現在独身]	過去に離婚したことがある
20代(n=1,206)	1.4%
30代(n=622)	14.5%
40代(n=671)	31.9%
50代(n=597)	44.7%
60代(n=541)	50.1%

[現在既婚]	過去に離婚したことがある
20代(n=326)	4.0%
30代(n=1,189)	6.7%
40代(n=1,721)	7.7%
50代(n=1,607)	9.3%
60代(n=1,599)	7.3%

男性

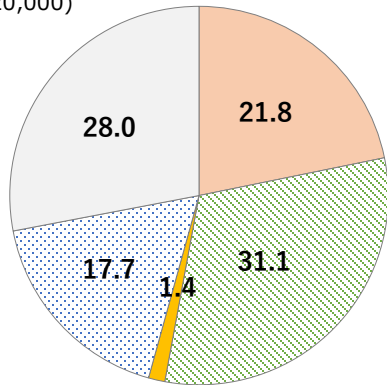
[現在独身]	過去に離婚したことがある
20代(n=1,313)	0.6%
30代(n=784)	4.6%
40代(n=789)	13.8%
50代(n=647)	24.3%
60代(n=473)	33.0%

[現在既婚]	過去に離婚したことがある
20代(n=233)	8.2%
30代(n=1,026)	5.6%
40代(n=1,600)	7.2%
50代(n=1,512)	8.3%
60代(n=1,544)	6.5%

(3) 家族形態

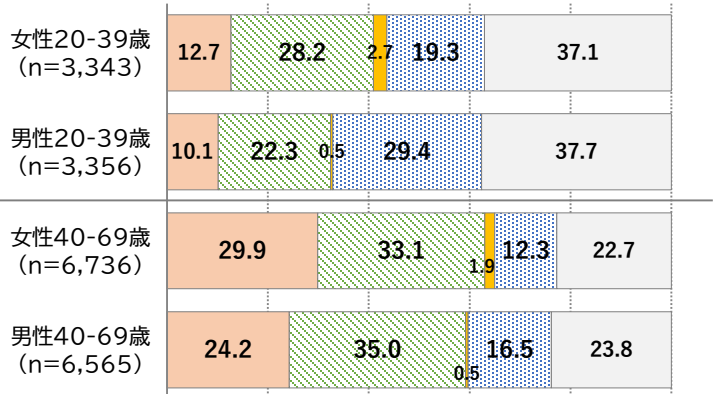
・「女性20-39歳」では、「夫婦のみ世帯」が12.7%、「夫婦と子供から成る世帯」が28.2%、「単独世帯」が19.3%。「男性20-39歳」では、「単独世帯」が29.4%と、「女性20-39歳」と比べて10%ポイント以上高い。
 ・「女性40-69歳」では、「夫婦のみ世帯」が29.9%、「夫婦と子供から成る世帯」が33.1%、「単独世帯」が12.3%。「男性40-69歳」でも「女性40-69歳」と大きな傾向は変わらない。

(n=20,000)



■ 夫婦のみ世帯 ■ 夫婦と子供から成る世帯 ■ 母子・父子世帯 ■ 単独世帯 ■ その他世帯

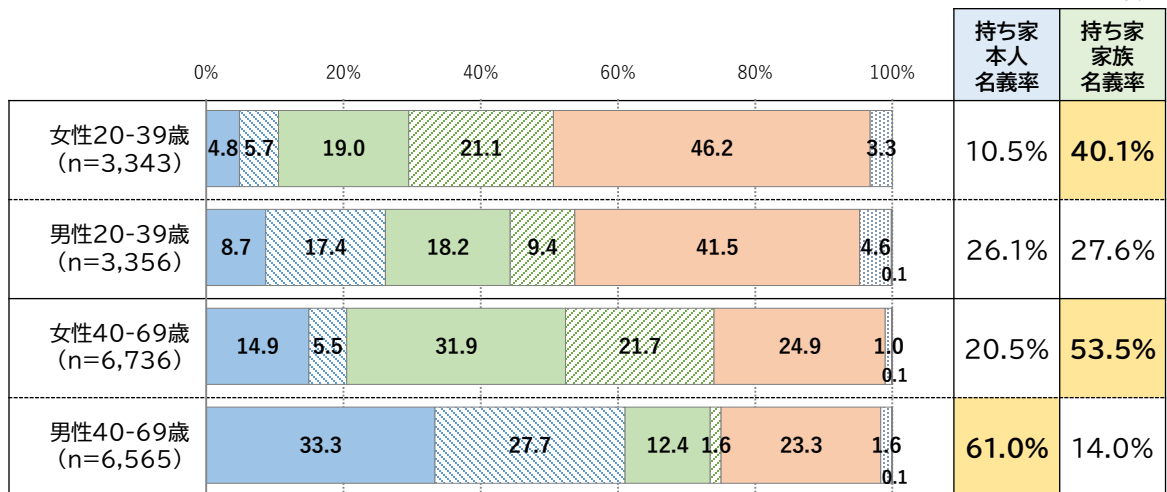
0% 20% 40% 60% 80% 100%



(4) 現在の住居形態

・男女とも「20-39歳」では、「賃貸住宅」が最も高く、4割強。持ち家の名義で見ると、「女性20-39歳」では「持ち家本人名義」が10.5%、「持ち家家族名義率」が40.1%となる。
 ・「女性40-69歳」では、「持ち家家族名義(ローンなし)」が最も高く、31.9%。「男性40-69歳」では、「持ち家本人名義(ローンなし)」が最も高く、33.3%。持ち家の名義については、「女性40-69歳」では「持ち家本人名義」が20.5%に対し、「男性40-69歳」では61.0%と差が大きい。

※40%を超えるセルに色掛け

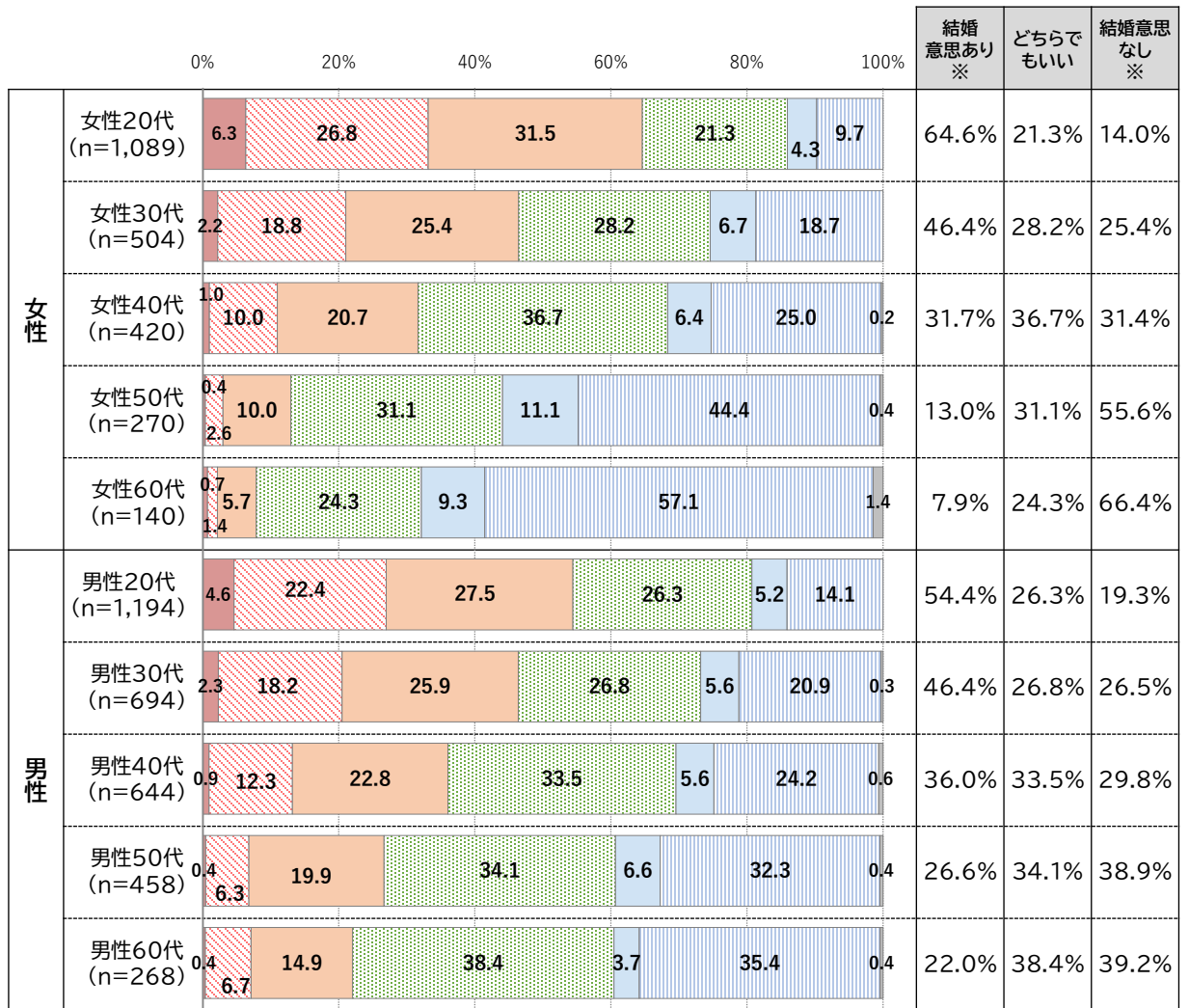


■ 持ち家 本人名義(ローンなし) ■ 持ち家 本人名義(ローン返済中)
 ■ 持ち家 家族名義(ローンなし) ■ 持ち家 家族名義(ローン返済中)
 ■ 賃貸住宅 ■ 給費住宅(寮、社宅など)
 ■ その他

(5) 今後の結婚願望(独身者対象)

・女性の結婚願望については、「結婚意思あり」は20代で64.6%、30代で46.4%。40代では「結婚意思あり」が31.7%、「結婚意思なし」が31.4%とほぼ同程度。50代以上では、「結婚意思なし」が5割を超える。
 ・男性では、「結婚意思あり」は20代で54.4%、30代で46.4%、40代で36.0%。50代以上では、「結婚意思なし」が4割弱と、同年代女性より低く、一方で「結婚意思あり」は2割強であり、同年代の女性に比べると高い。

①独身(これまで結婚経験無し)



■ 現在、既に予定がある・決まっている

■ 現在、予定はないが出来ればしたい

■ 出来ればたくない

■ その他

■ 現在、予定はないが是非したい

■ どちらでもよいと思う

■ したくない

※結婚意思あり…

「現在、既に予定がある・決まっている」
 + 「現在、予定はないが是非したい」
 + 「現在、予定はないが出来ればしたい」
 の累計値

※結婚意思なし…

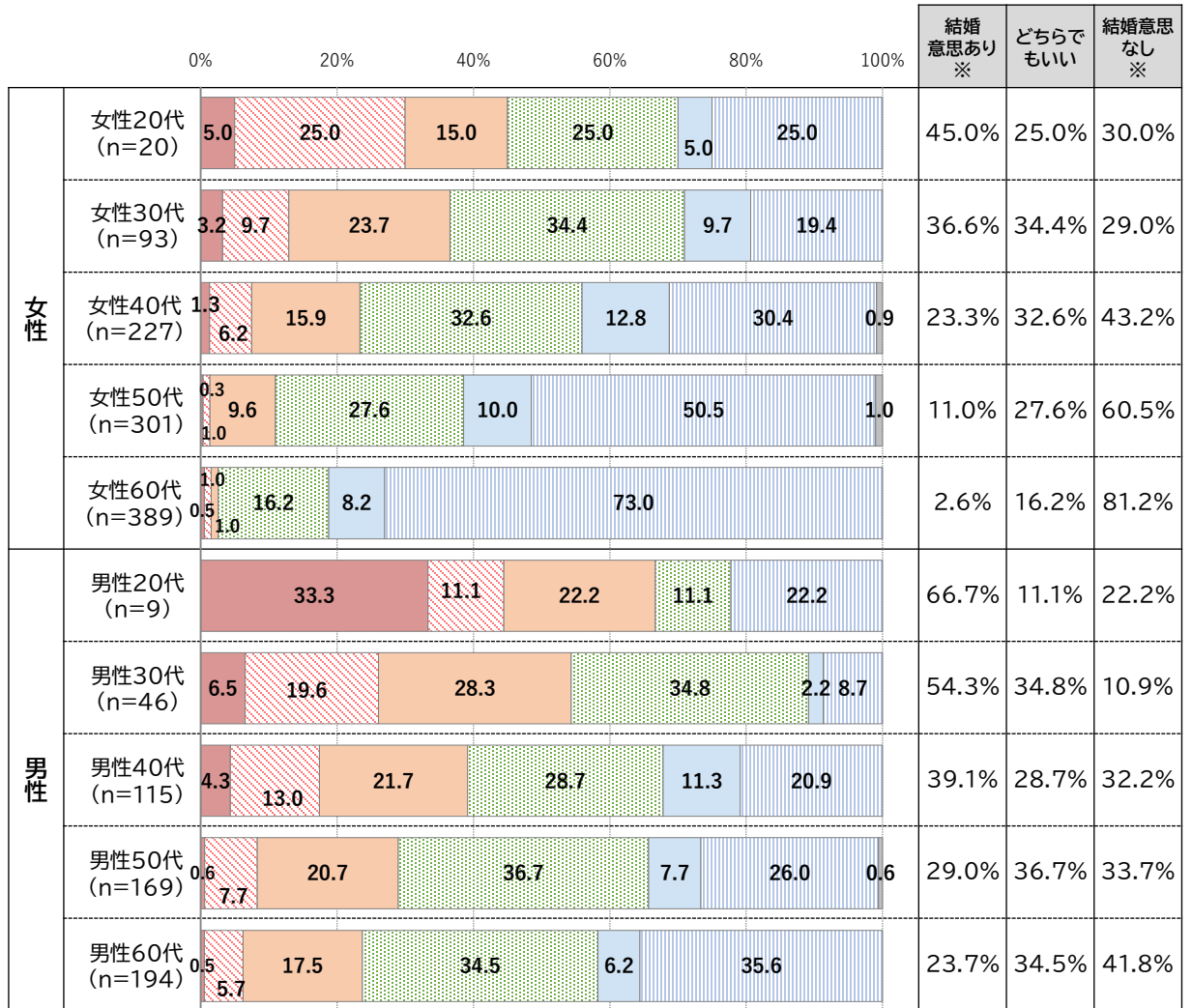
「出来ればたくない」 + 「したくない」
 の累計値

(5) 今後の結婚願望(独身者対象)

・離婚・死別経験がある女性の結婚願望について、前ページの「離婚・死別経験がない独身の女性※」の数値と比較してみると、「女性40代」では「結婚意思なし」が43.2%（※経験がない40代女性31.4%）、50代以上も同様の傾向となっており、40代以上の女性においては、「離婚・死別経験がある女性」の方が、「結婚意思なし」の割合が高くなっている。

・一方、「離婚・死別経験」がある男性・ない男性で比較してみると、「男性40代」では「結婚意思あり」が39.1%（※経験がない40代男性36.0%）、50代以上でも2～3割と、「独身者(結婚経験なし)」と同様の傾向であり、「結婚意思あり」の割合は、「離婚・死別経験」の有無でそこまで大きな違いは見られない。

②独身(離婚・死別経験あり)



■ 現在、既に予定がある・決まっている

■ 現在、予定はないが出来ればしたい

■ 出来ればたくない

■ その他

■ 現在、予定はないが是非したい

■ どちらでもいいと思う

■ したくない

※結婚意思あり…

「現在、既に予定がある・決まっている」
+ 「現在、予定はないが是非したい」
+ 「現在、予定はないが出来ればしたい」
の累計値

※結婚意思なし…

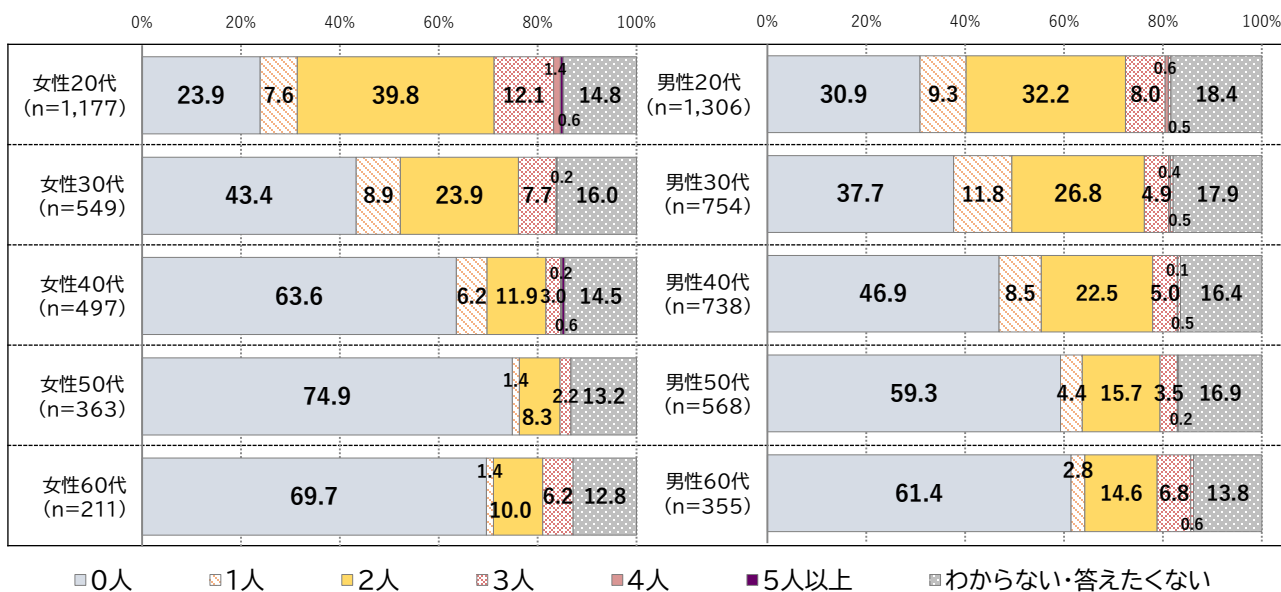
「出来ればたくない」+ 「したくない」
の累計値

(6) 理想の子供の数・今後育てたい子供の数

- ・理想の子供の数について、独身で現在子供がいない女性においては、「女性20代」では「0人」が23.9%、「2人」が39.8%。「女性30代」では「0人」が43.4%、「2人」が23.9%。独身で現在子供がいない男性においては、「男性20代」では「0人」が30.9%、「2人」が32.2%。「男性30代」では、「0人」が37.7%、「2人」が26.8%。
- ・理想の子供の人数を「1人以上」で回答しているものを見ると、男女ともにどの年代でも「2人」が最も高い。
- ・今後育てたい子供の数については、「女性20代」では「0人」が25.5%、「2人」が38.1%。「女性30代」で「0人」が45.4%、「2人」が19.1%。「男性20代」では「0人」が31.5%、「2人」が29.0%。「男性30代」では「0人」が38.7%、「2人」が22.4%。

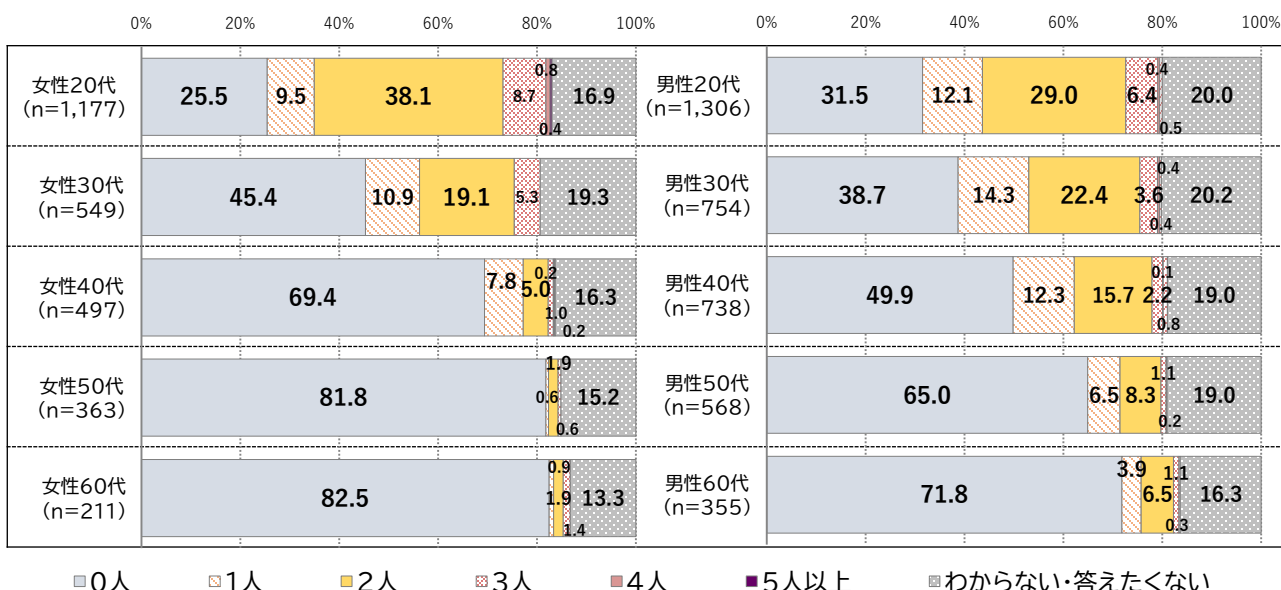
①独身(現在、子供がいない人)

理想の子供の数



■0人 ■1人 ■2人 ■3人 ■4人 ■5人以上 ■わからない・答えたくない

今後育てたい子供の数



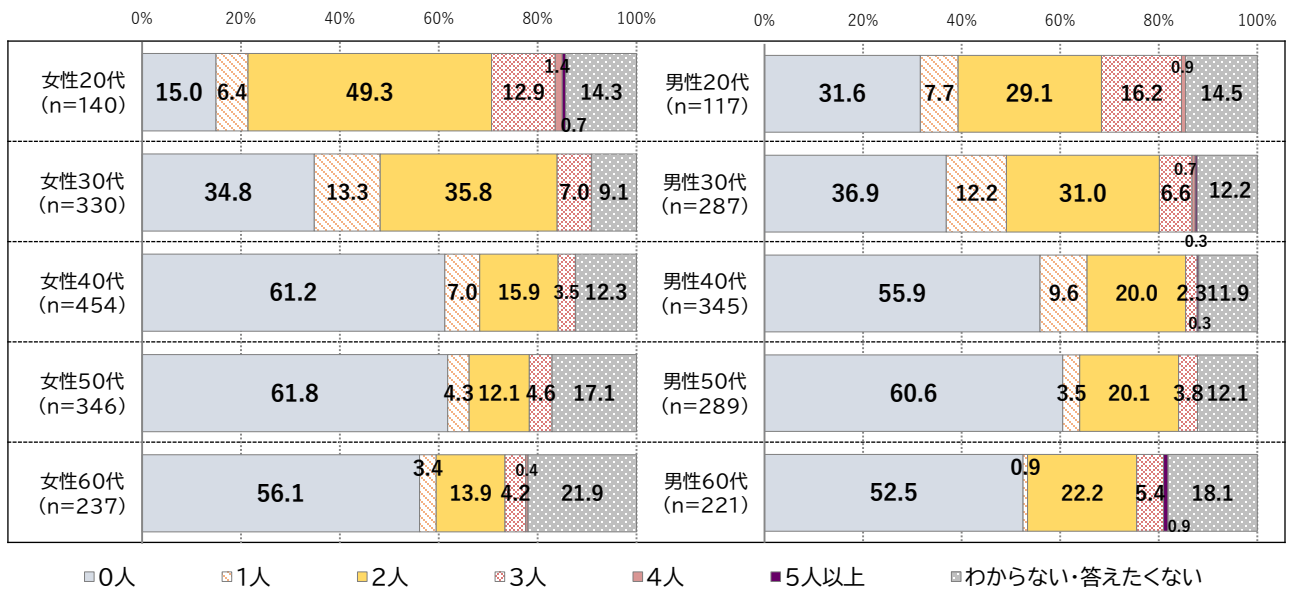
■0人 ■1人 ■2人 ■3人 ■4人 ■5人以上 ■わからない・答えたくない

(6) 理想の子供の数・今後育てたい子供の数

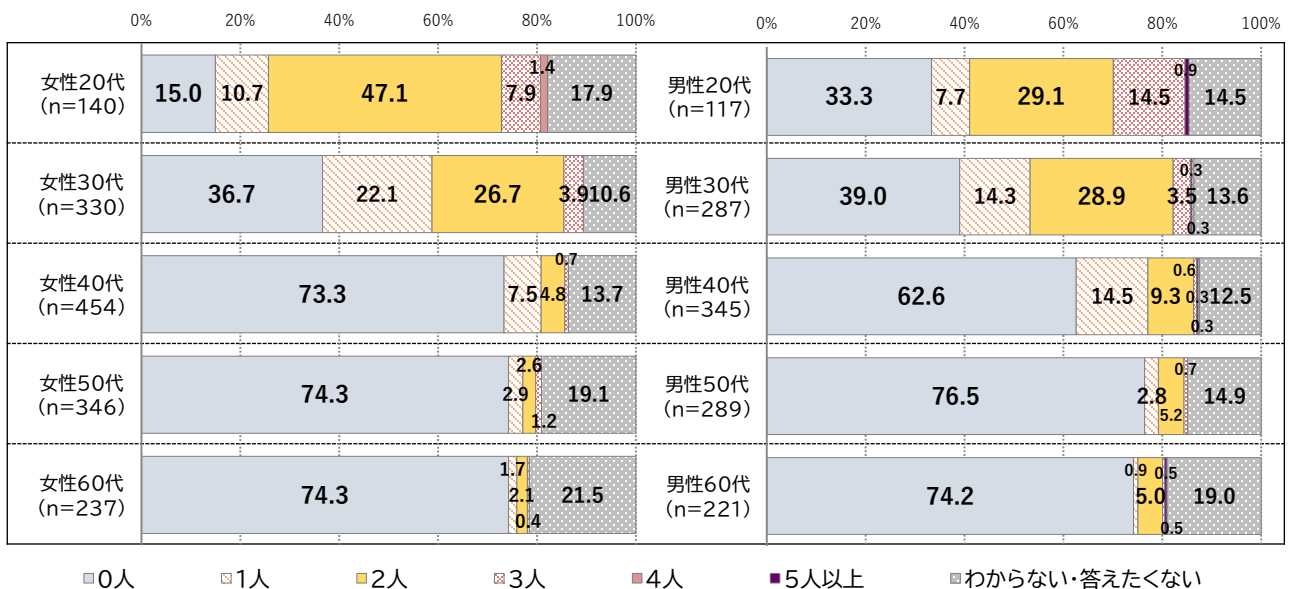
- ・理想の子供の数について、既婚で現在子供がいない女性においては、「女性20代」では「0人」が15.0%、「2人」が49.3%。「女性30代」では「0人」が34.8%、「2人」が35.8%。独身で現在子供がいない男性においては、「男性20代」では「0人」が31.6%、「2人」が29.1%。「男性30代」では、「0人」が36.9%、「2人」が31.0%。
- ・理想の子供の人数を「1人以上」で回答しているものを見ると、男女ともにどの年代でも「2人」が最も高い。
- ・今後育てたい子供の数については、「女性20代」では「0人」が15.0%、「2人」が47.1%。「女性30代」で「0人」が36.7%、「2人」が26.7%。「男性20代」では「0人」が33.3%、「2人」が29.1%。「男性30代」では「0人」が39.0%、「2人」が28.9%。

②既婚者(現在、子供がいない人)

理想の子供の数



今後育てたい子供の数



(7) 各ターニングポイントにおける理想の年齢と現実

【理想の年齢】

- ・最初に結婚する年齢は、「女性」26.1歳、「男性」28.0歳に対し、最初の結婚時の配偶者の年齢も、「女性(夫の年齢)」は28.3歳、「男性(妻の年齢)」は26.2歳となった。第一子を持つ理想の年齢は、男女ともに、最初の結婚時の年齢から+2歳ほど足した年齢で、女性は27.8歳、男性は29.9歳。
- ・自分が「この年齢までは働きたい」と思う理想の年齢は、女性で53.8歳、男性で62.0歳。対して、配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う理想の年齢は、女性が男性に望む年齢は64.9歳。男性が女性に望む年齢は55.3歳。

【現実の年齢】

- ・最初に結婚した年齢は、「女性(妻)」は26.6歳(理想は26.1歳)、「男性(夫)」は28.9歳(理想は28.0歳)と理想と現実の差は0.5~1歳程度。
- ・最初に離婚した年齢は、「女性(妻)」は33.9歳、「男性(夫)」は35.5歳。
- ・第一子を持った年齢は、「女性(妻)」は28.0歳(理想は27.8歳)、「男性(夫)」は30.7歳(理想は29.9歳)と、理想と現実の差は0.2~0.8歳程度。
- ・二回目に結婚した時の年齢は、「女性(妻)」は35.7歳、「男性(夫)」は36.6歳。

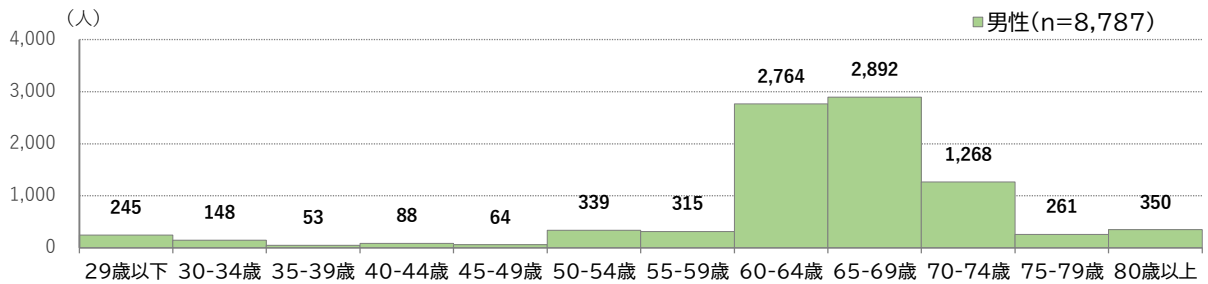
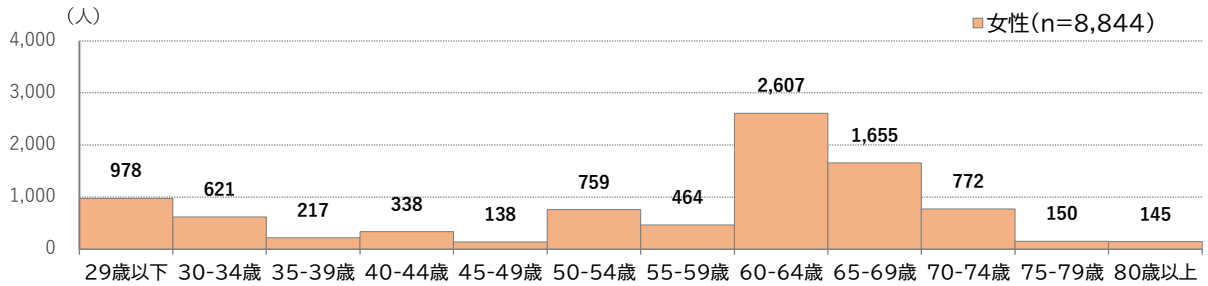
理想の年齢	女性	男性
最初に結婚する年齢	26.1歳 (n=9,030)	28.0歳 (n=8,875)
最初の結婚時の配偶者の年齢	28.3歳 (n=8,924)	26.2歳 (n=8,776)
第一子を持つ年齢	27.8歳 (n=8,840)	29.9歳 (n=8,697)
自分が「この年齢までは働きたい」と思う年齢	53.8歳 (n=8,844)	62.0歳 (n=8,787)
配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う年齢	64.9歳 (n=8,881)	55.3歳 (n=8,447)

現実の年齢	女性	男性
最初に結婚した年齢	26.6歳 (n=7,204)	28.9歳 (n=6,138)
第一子を持った年齢	28.0歳 (n=5,576)	30.7歳 (n=4,736)
最初に離婚した時の年齢	33.9歳 (n=1,270)	35.5歳 (n=804)
二回目に結婚した時の年齢	35.7歳 (n=623)	36.6歳 (n=500)

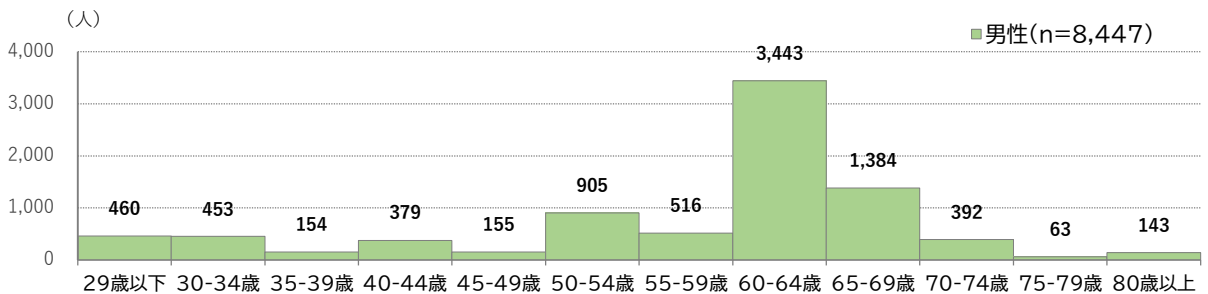
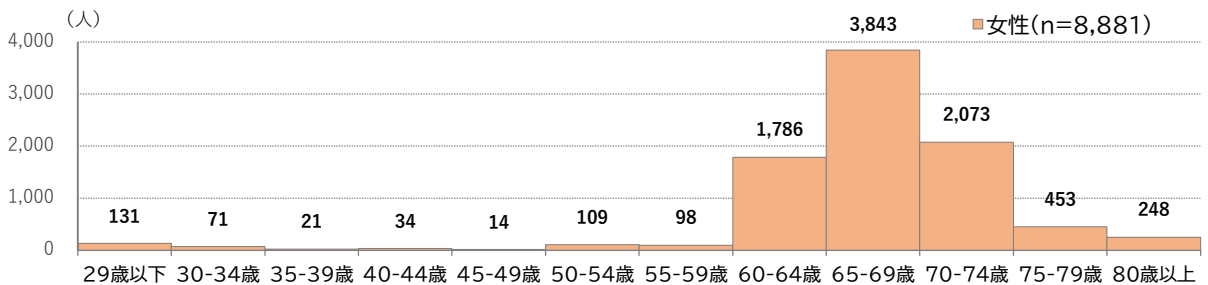
※全て全回答値の平均年齢
(必須設問としていない為、nが異なる)

(7) 各ターニングポイントにおける理想の年齢と現実

自分が「この年齢までは働きたい」と思う年齢の度数分布(無回答除く)



配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う年齢の度数分布(無回答除く)



(8) 結婚前に相手に求めたこと(理想)

・20-39歳で見ると、女性で最も高い項目は「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」59.7%、次に「価値観が近い」59.3%、「一緒にいて楽しい」54.0%。男性でも同様の項目が高い。

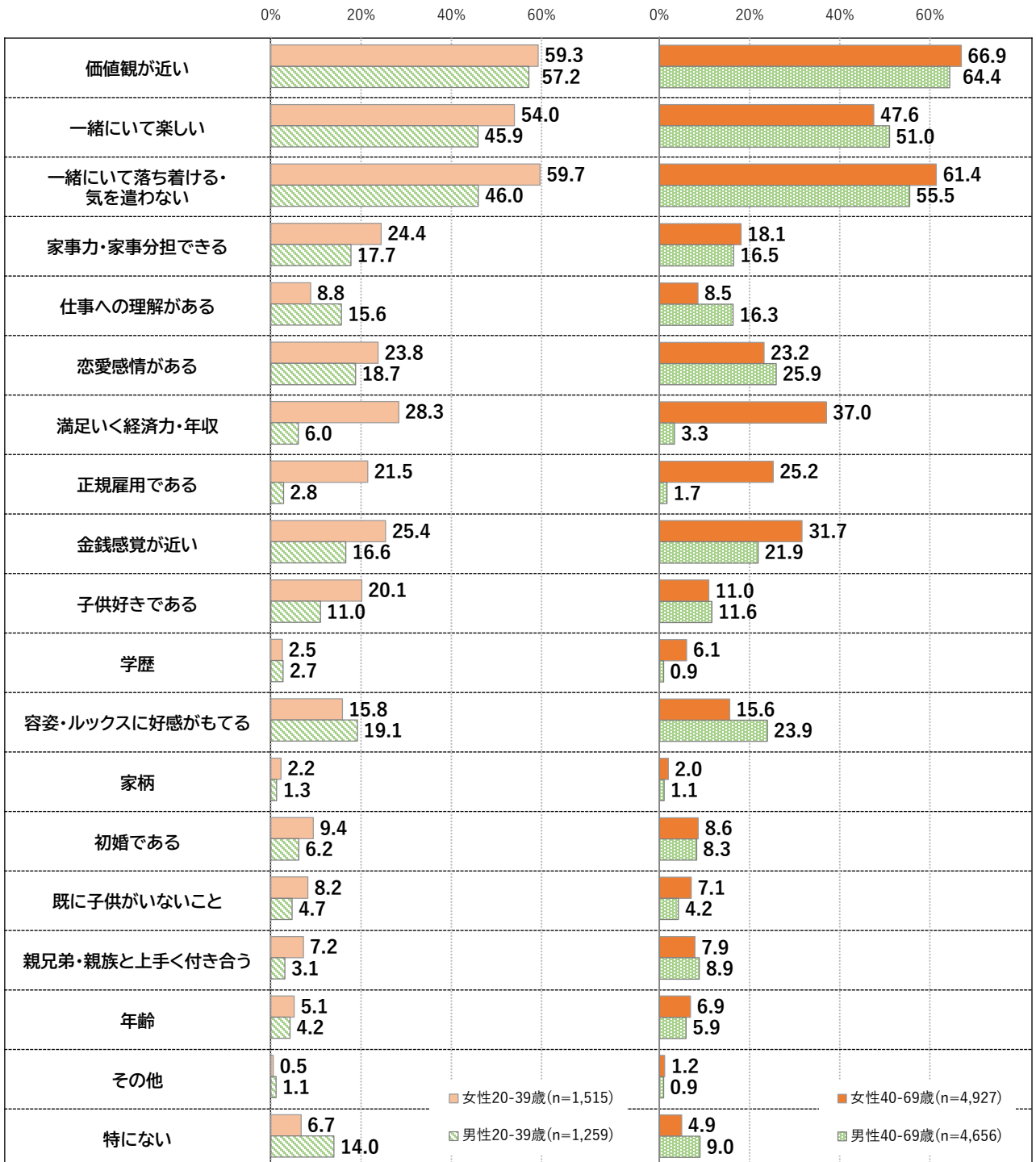
・40-69歳で見ると、女性で最も高い項目は「価値観が近い」66.9%、次に「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」61.4%、「一緒にいて楽しい」47.6%。男性でも同様の項目が高い。

・男女差がある項目について女性の方が高いのは、どちらの年代でも、「満足いく経済力・年収」「正規雇用である」「金銭感覚が近い」等。男性の方が高いのは、「容姿・ルックスに好感がもてる」。また20-39歳では「子供好きである」「家事力・家事分担できる」で女性の方が高い。

既婚(事実婚含む)

①20-39歳 既婚男女比較

②40-69歳 既婚男女比較



(8) 結婚前に相手に求めたこと(理想)

・20-39歳で見ると、女性で最も高い項目は「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」64.4%、次に「価値観が近い」62.7%、「一緒にいて楽しい」49.7%。男性でも同様の項目が高い。

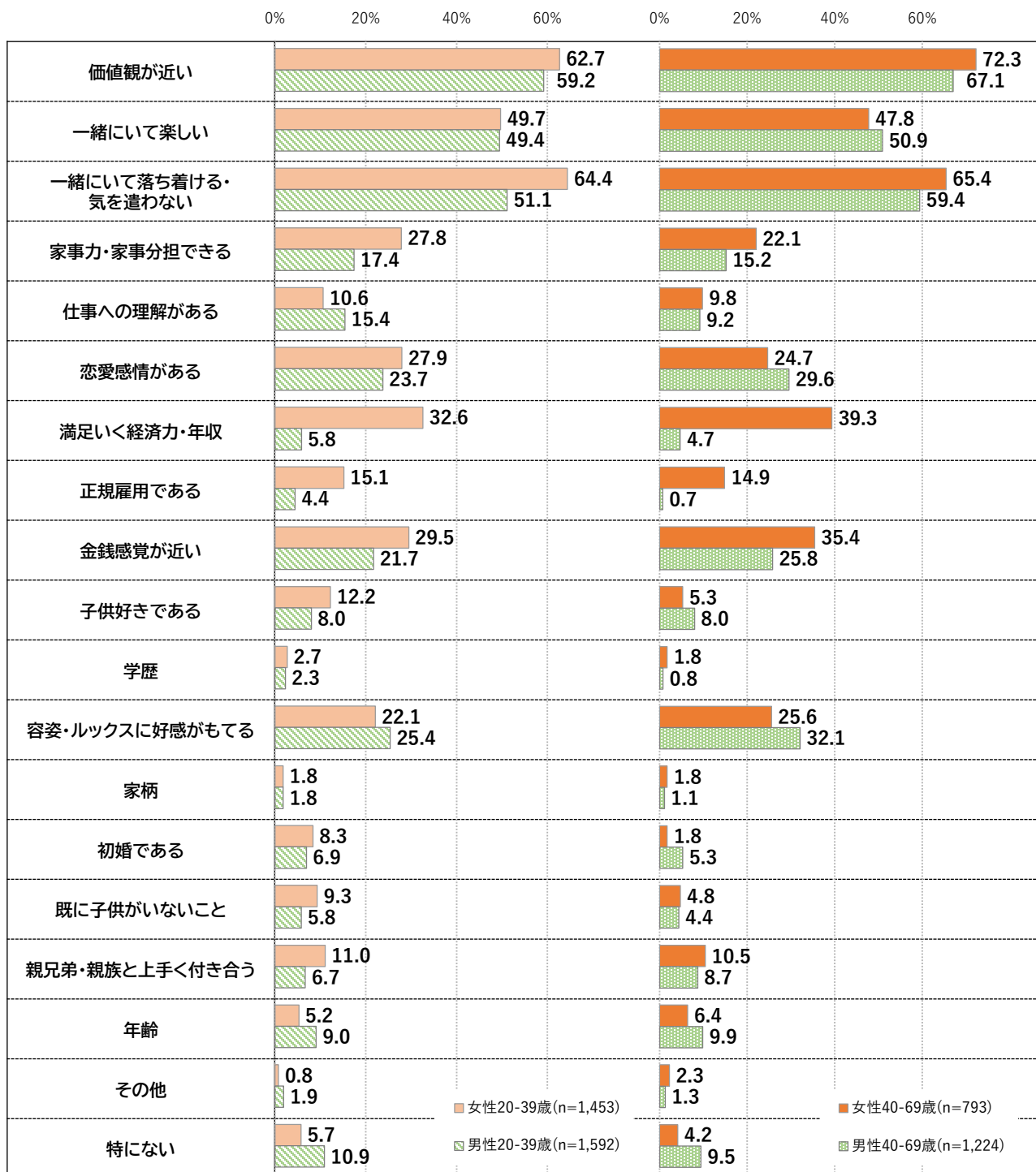
・40-69歳で見ると、女性で最も高い項目は「価値観が近い」72.3%、次に「一緒にいて落ち着ける・気を遣わない」65.4%、「一緒にいて楽しい」47.8%。男性でも同様の項目が高い。

・男女差がある項目については、どちらの年代でも、「満足いく経済力・年収」「正規雇用である」「金銭感覚が近い」「家事力・家事分担できる」等は女性の方が高い。また40-69歳では「容姿・ルックスに好感がもてる」は男性の方が高く、男女差が見られた。

独身

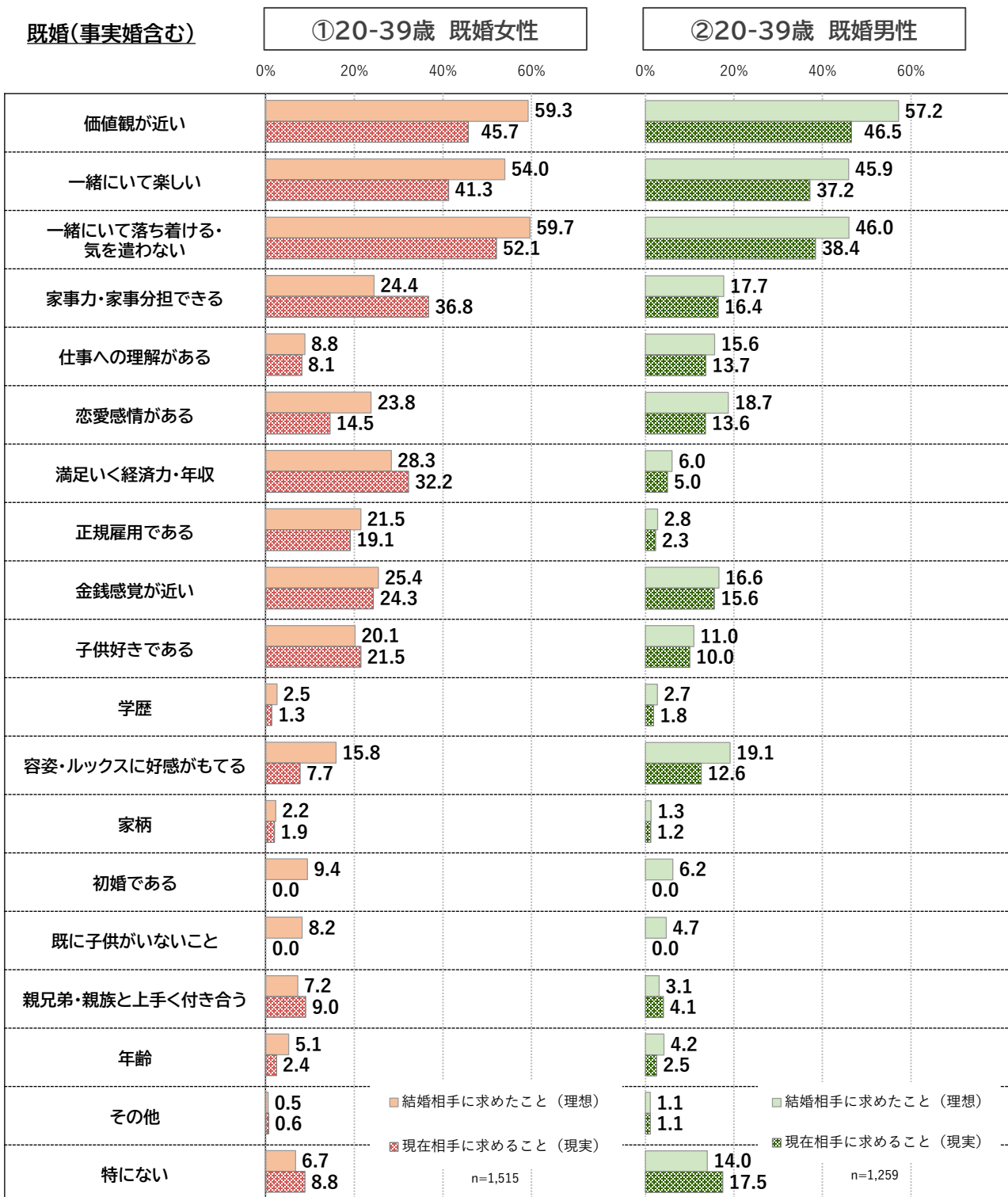
①20-39歳 独身男女比較

②40-69歳 独身男女比較



(9) 結婚前に相手に求めたこと(理想)と現在相手に求めること(現実)(20-39歳 既婚の男女)

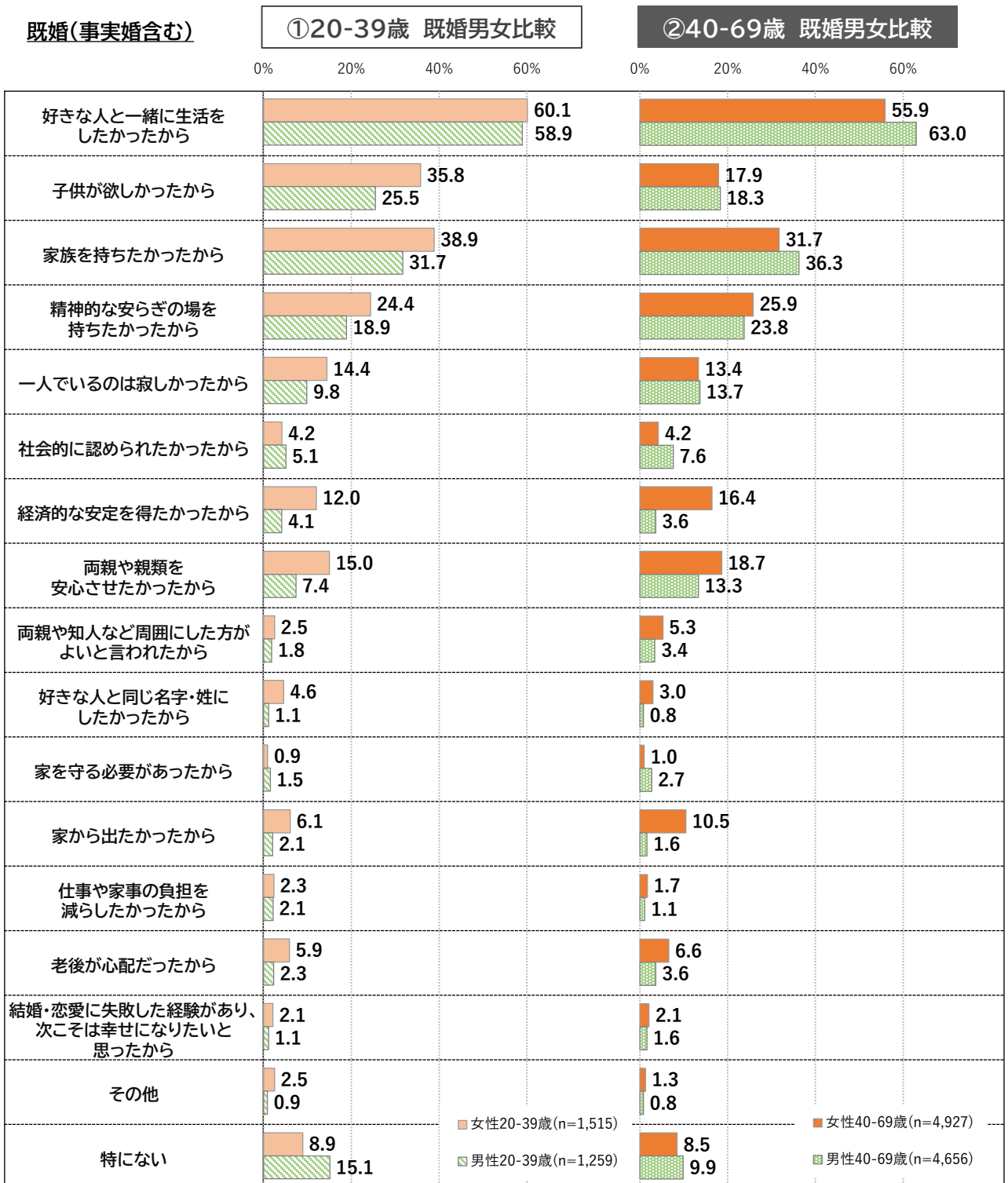
・既婚者の20-39歳において、結婚前に相手に対して求めたこと(理想)と、現在相手に求めること(現実)を比較すると、男女ともに「理想」の方が割合が高い項目が多い。
 ・一方、「現実」の方が「理想」よりも割合が高い項目(結婚してからの方が相手に求める要素として強い項目)は、女性については「家事力・家事分担できる」「満足いく経済力・年収」等となった。



(10) 結婚した理由

・既婚者の結婚した理由について、20-39歳で見ると、男女ともに最も高い項目は「好きな人と一緒に生活をしたかったから」で6割前後。次に女性では「家族を持ちたかったから」38.9%、「子供が欲しかったから」35.8%。男性も高い項目の順は同じであるが、この2つの項目については女性の方が特に高い傾向にあった。

・40-69歳でも同様に、最も高い項目は男女ともに「好きな人と一緒に生活をしたかったから」、次に「家族を持ちたかったから」、「精神的な安らぎの場を持ちたかったから」の順で高い。また、「経済的な安定を得たかったから」等については男女差が見られ、女性の方で高い傾向にあった。



(11) 結婚したい理由

・独身者の結婚したい理由について、20-39歳で見てみると、男女ともに最も高い項目は「好きな人と一緒に生活をしたい」で5割前後。次に女性では「家族を持ちたい」30.8%、「精神的な安らぎの場を持ちたい」27.5%、「子供が欲しい」26.9%。男性でも同様の項目が高いが、特に「家族を持ちたい」「子供が欲しい」「精神的な安らぎの場を持ちたい」については、女性の方が高い傾向にあった。

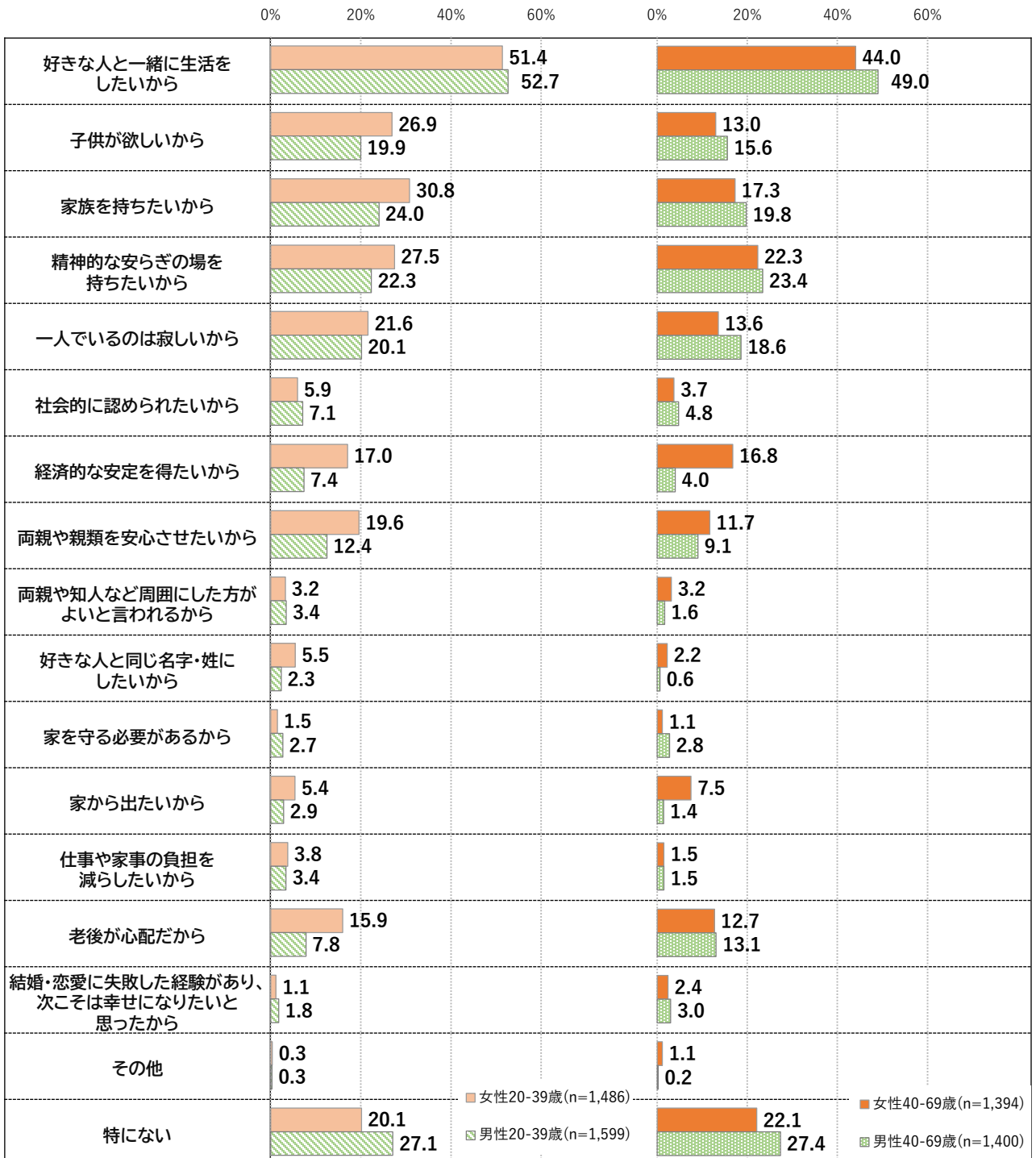
・40-69歳でも同様に、最も高い項目は男女ともに「好きな人と一緒に生活をしたい」、次に「精神的な安らぎの場を持ちたい」。

・どちらの年代でも、「経済的な安定を得たい」については女性の方が高い傾向にあった。

独身

①20-39歳 独身男女比較

②40-69歳 独身男女比較



(12) 結婚前にどのような流れで結婚したいと思っていたか(理想)と実際どうだったか(現実) (20-39歳 既婚の男女)

※「理想」は複数回答、「現実」は単数回答

・既婚者がどのような流れで結婚したいと思っていたか(理想)については、男女ともに「職場や仕事の関係、アルバイト先」が最も高い。実際どうだったか(現実)についても、「職場や仕事の関係、アルバイト先」が最も高い。

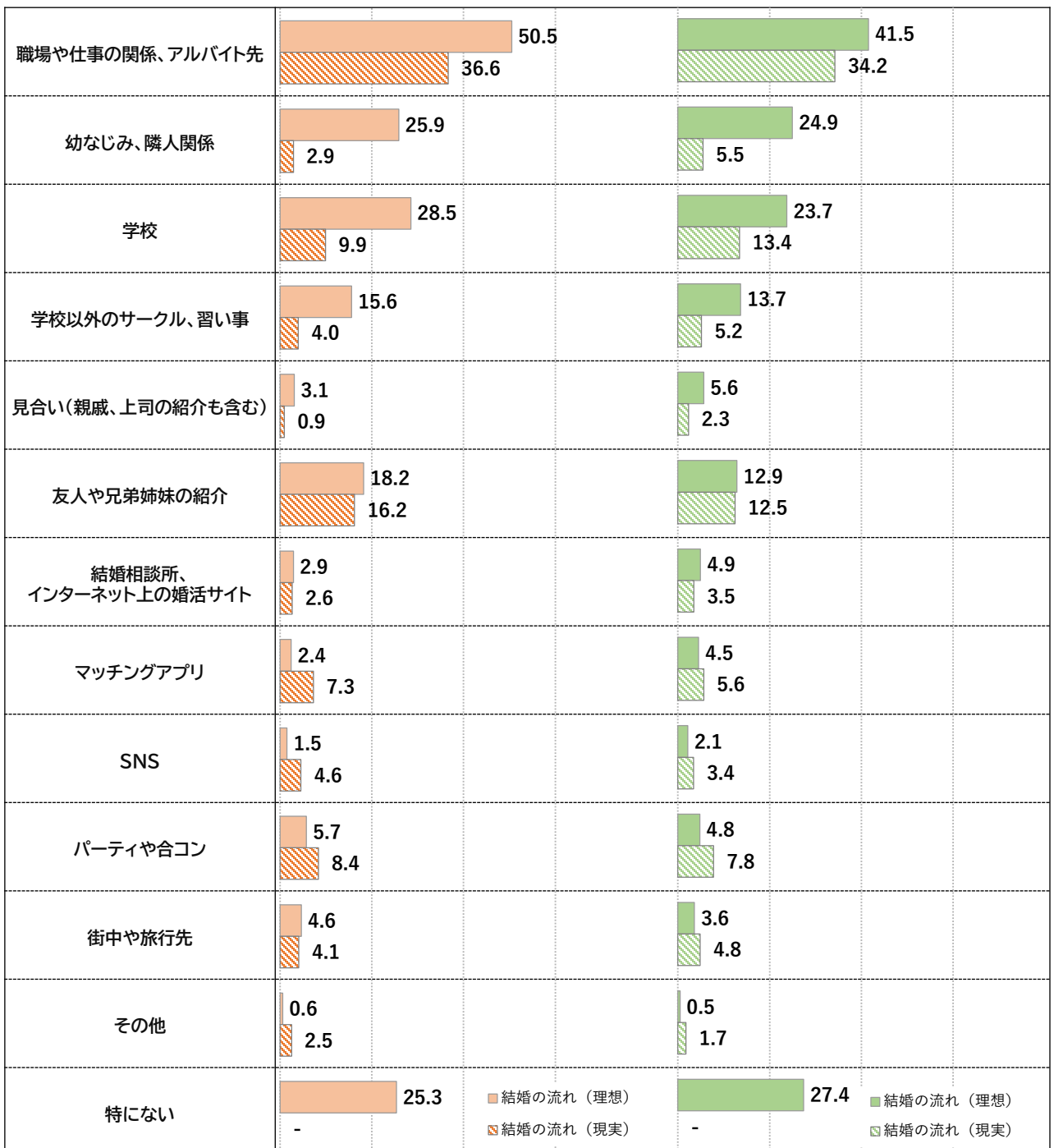
・「理想」と「現実」で大きな差(15%ポイント以上)が見られるのは、「女性20-39歳」では「幼なじみ、隣人関係」(理想25.9%、現実2.9%)、「学校」(理想28.5%、現実9.9%)。「男性20-39歳」では「幼なじみ、隣人関係」(理想24.9%、現実5.5%)。

既婚(事実婚含む):理想

①20-39歳 既婚女性
(n=1,515)

②20-39歳 既婚男性
(n=1,259)

0% 20% 40% 60%



※「結婚の流れ(現実)」は、「特にない」は選択できない

(12) 結婚前にどのような流れで結婚したいと思っていたか(理想)と実際どうだったか(現実)
(40-69歳 既婚の男女)

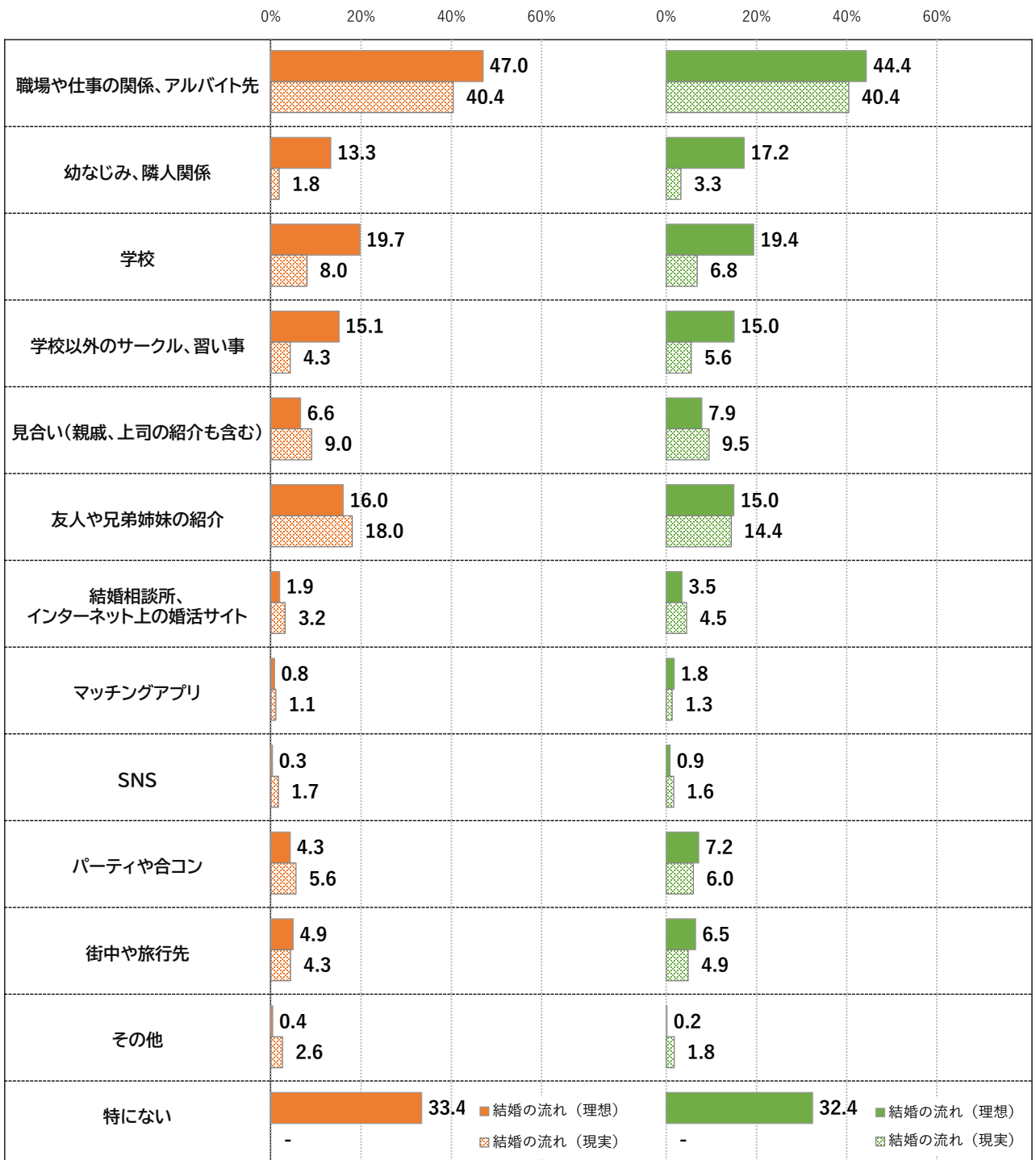
※「理想」は複数回答、「現実」は単数回答

- ・「40-69歳」も「20-39歳」と同様に、「職場や仕事の関係、アルバイト先」が理想と現実ともに最も高い。
- ・「理想」と「現実」で大きな差(10%ポイント以上)が見られるのは、「女性40-69歳」では、「幼なじみ、隣人関係」(理想13.3%、現実1.8%)、「学校」(理想19.7%、現実8.0%)。「男性40-69歳」では、「幼なじみ、隣人関係」(理想17.2%、現実3.3%)、「学校」(理想19.4%、現実6.8%)。

既婚(事実婚含む):理想

③40-69歳 既婚女性
(n=4,927)

③40-69歳 既婚男性
(n=4,656)



※「結婚の流れ(現実)」は、「特にない」は選択できない

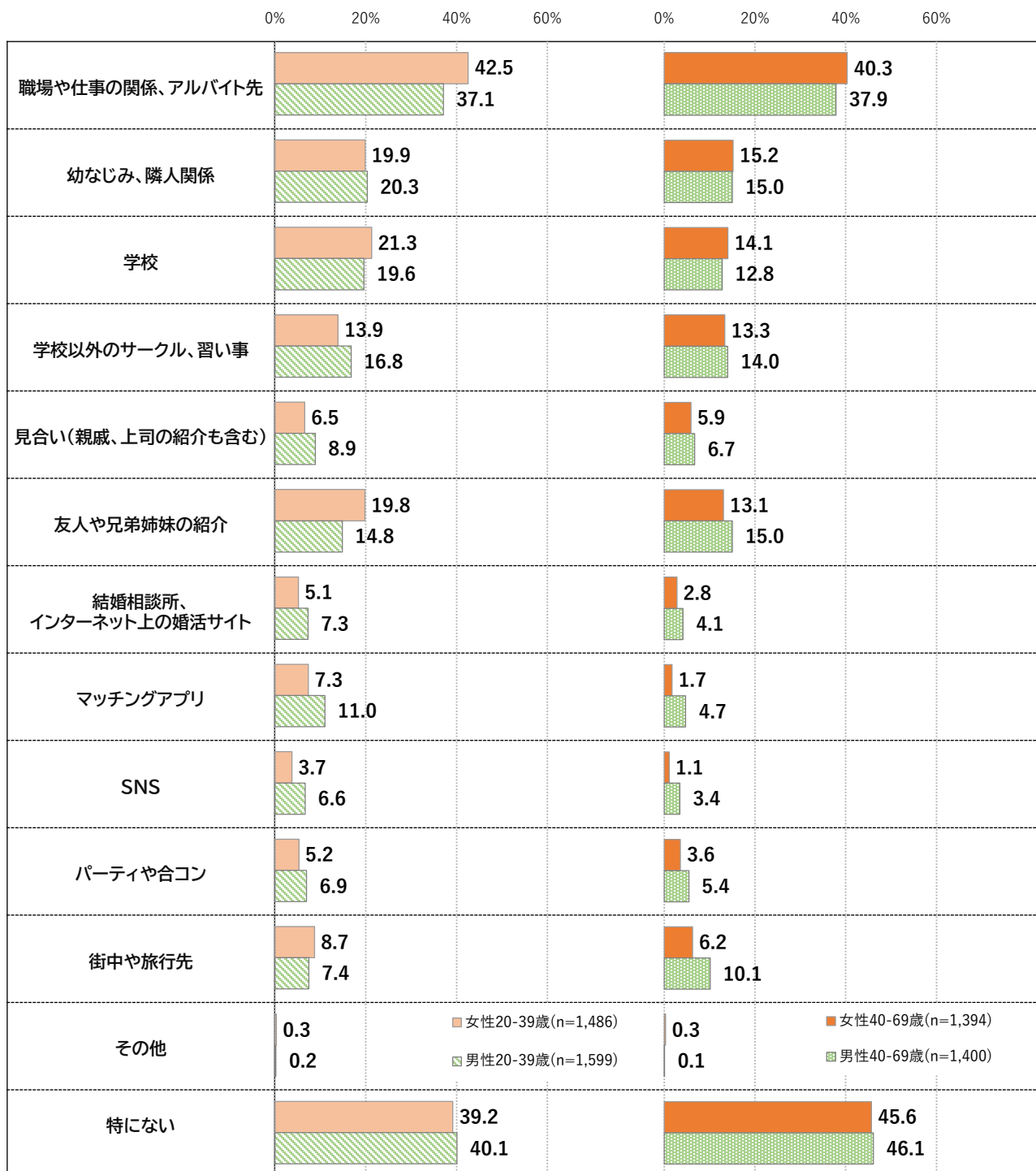
(13) どのような流れで結婚したいと思っているか(理想)

- ・独身者がどのような流れで結婚したいと思っているかについては、男女ともに全ての年代で「職場や仕事の関係、アルバイト先」が最も高いが、既婚者の割合より低い傾向にある。
- ・20-39歳では、次に「学校」「幼なじみ、隣人関係」が2割前後と高い。また、既婚男性と比べて、独身男性では、「マッチングアプリ」が11.0%とやや高かった。
- ・40-69歳では、他に2割を超える項目がなかった。

独身:理想

①20-39歳 独身男女比較

②40-69歳 独身男女比較

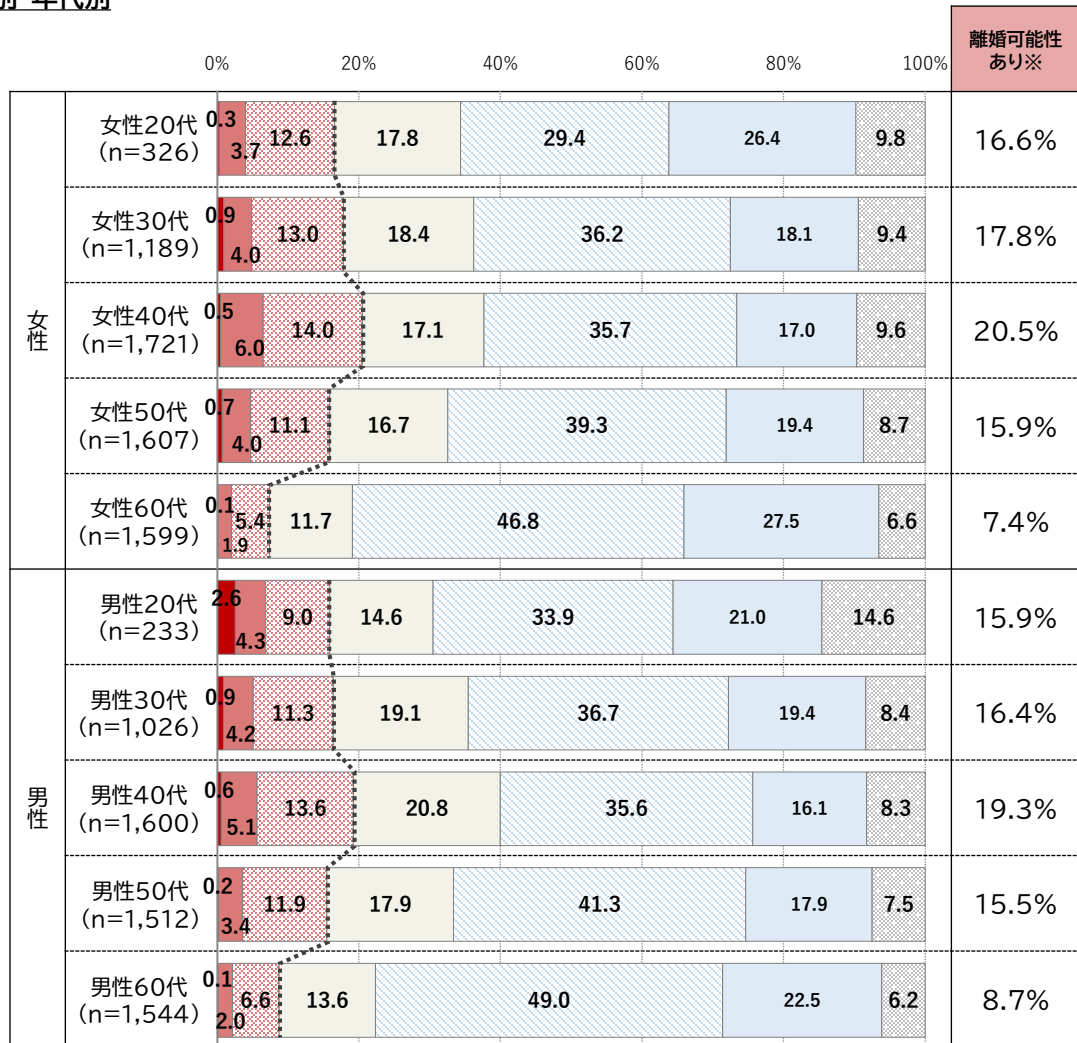


(14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

・今後離婚する可能性について、男女ともにどの年代でも「まあないと思う」とする割合が最も高く、3～5割程度。「40代」でやや下がるものの、「20-30代」と比べ「50代」以上で「絶対にならないと思う+まあないと思う」の割合が高くなる。

・「離婚可能性あり」とした割合は、男女ともに40代で最も高くなる(女性20.5%、男性19.3%)。最も低いのは、男女とも60代となった。

男女別・年代別



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうだと思う
- ▨ あるかもしれないと思う
- どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対にならないと思う
- ▨ わからない・考えられない

※離婚可能性あり…
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+
「現在、離婚準備中」の累計値

(14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・「正規雇用」「非正規雇用」で今後離婚する可能性を見てみると、女性20～30代での比較では、「正規雇用」よりも「非正規雇用」で「離婚可能性あり」とする割合が高い傾向にある。また、女性「正規雇用」で見ると、「離婚可能性あり」とした割合が最も高いのは、「女性40代」で20.5%、次に「女性50代」で19.6%。

【就業形態別】



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- ▨ あるかもしれないと思う
- まあないと思う
- ▩ わからない・考えられない

- かなりありそうだと思う
- どちらとも言えない
- 絶対にないと思う

※離婚可能性あり…
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+
「現在、離婚準備中」の累計値

(14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

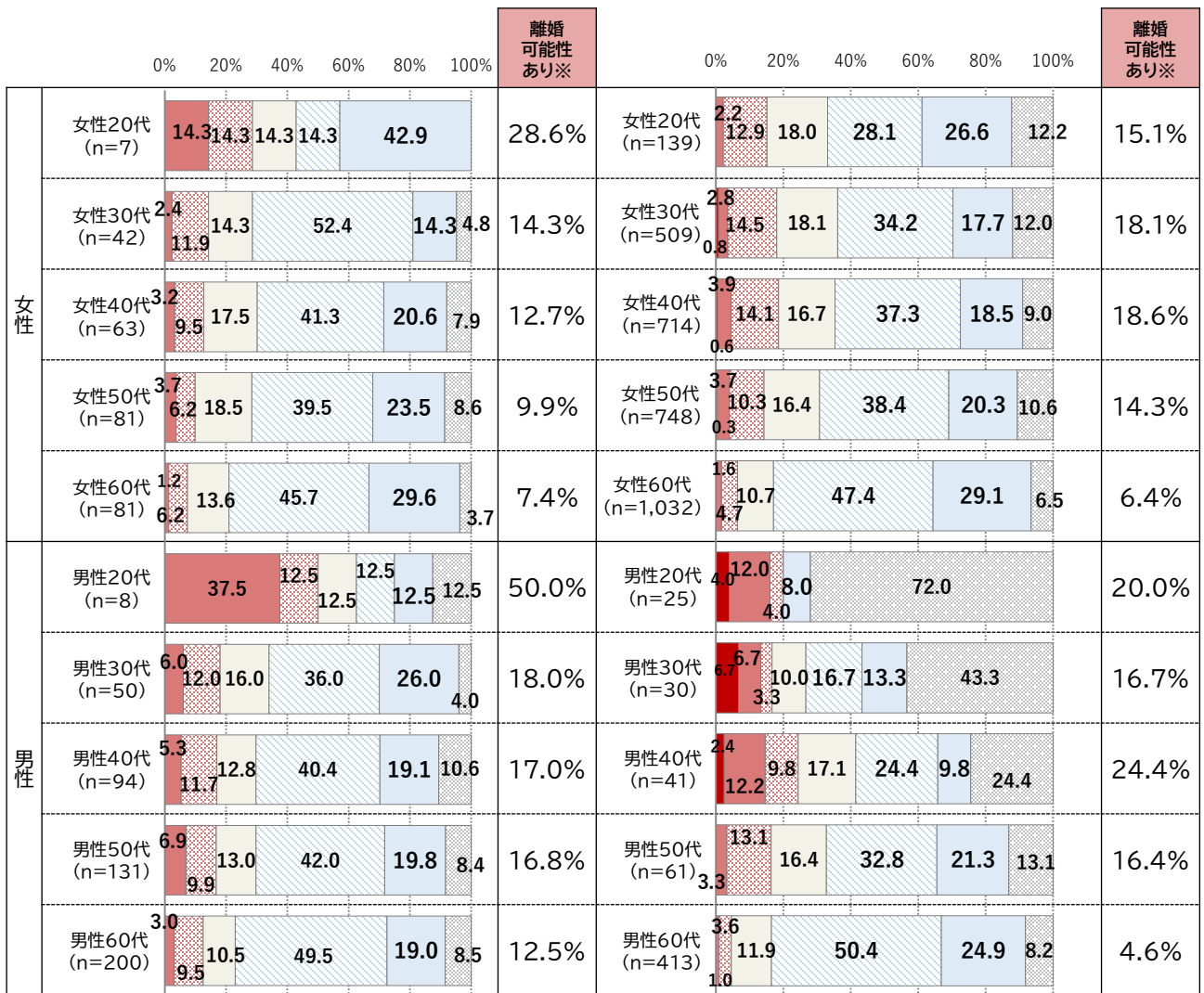
※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・今後離婚する可能性について、「無職(主婦・主夫含む)」と「正規雇用」「非正規雇用」とを比較すると、「離婚可能性あり」とした人が、40代女性では「正規雇用」20.5%、「非正規雇用」23.3%、「無職(主婦・主夫含む)」18.6%、50代女性では「正規雇用」19.6%、「非正規雇用」17.5%、「無職」14.3%となり、50代女性では、「無職」で「離婚可能性あり」とした割合が最も低い。

【就業形態別】

自営業・その他

無職(主婦・主夫含む)



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうと思う
- ▨ あるかもしれないと思う
- どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対にないと思う
- ▨ わからない・考えられない

※離婚可能性あり…
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+
「現在、離婚準備中」の累計値

(14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

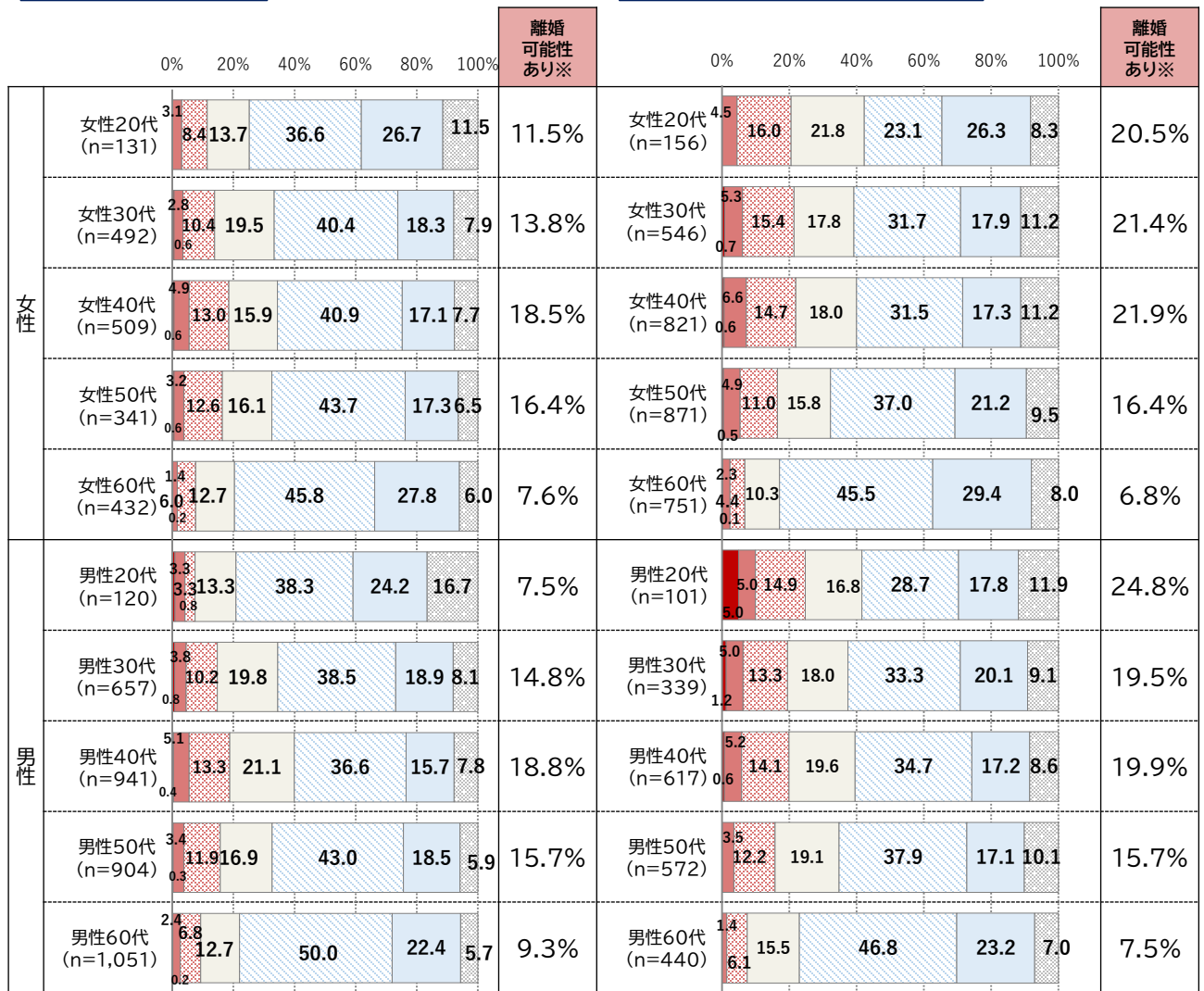
※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・学歴別に今後離婚する可能性を見てみると、20～30代での比較では、「大学・大学院卒」よりも「高校・中学校卒(専門学校含む)」で「離婚可能性あり」とする割合が高い傾向にあり、特に20代でその差が大きい。

【最終学歴別】

大学・大学院卒

高校・中学校卒(専門学校含む)



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうだと思う
- あるかもしれないと思う
- どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対がないと思う
- わからない・考えられない

※離婚可能性あり…
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+
「現在、離婚準備中」の累計値

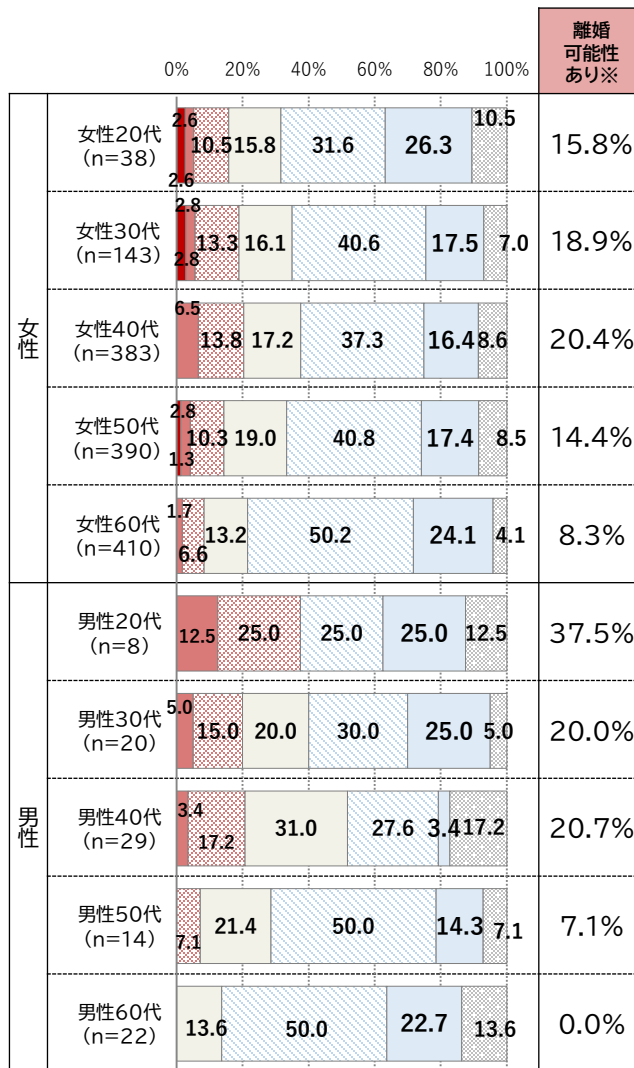
(14) 今後離婚する可能性 ※現在結婚している人(事実婚含む)

※対象者数が50人を超えるものを中心にコメントを記載

・今後離婚する可能性を、「短大卒」とその他で比較すると、「離婚可能性あり」とした人が、女性30代では「大学・大学院卒」13.8%、「短大卒」18.9%、「高校・中学校卒(専門学校含む)」21.4%となった。

【最終学歴別】

短大卒



- 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- かなりありそうだと思う
- ▨ あるかもしれないと思う
- ▨ どちらとも言えない
- まあないと思う
- 絶対がないと思う
- ▨ わからない・考えられない

※離婚可能性あり…
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+
「現在、離婚準備中」の累計値

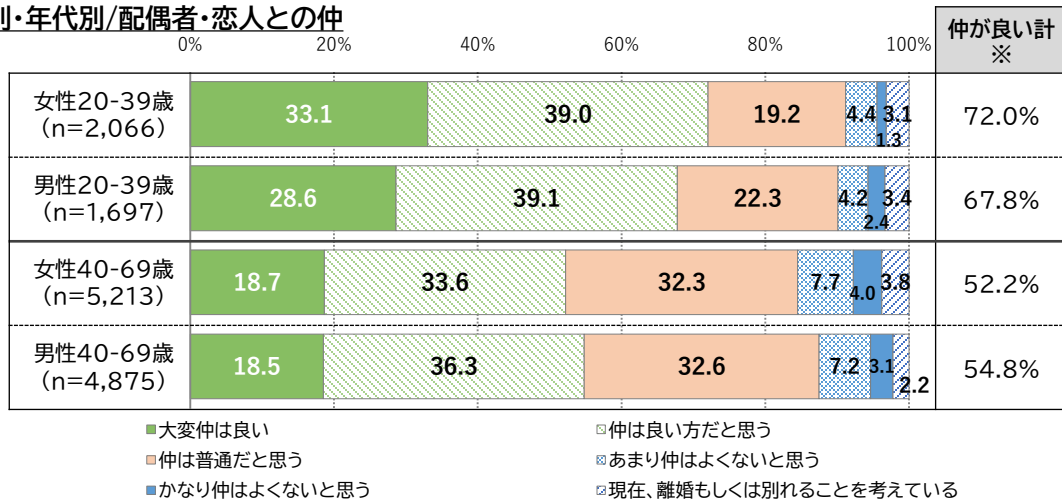
(15) 配偶者・恋人との仲

・男女別・年代別に、配偶者・恋人との仲を見ると、男女ともに全ての年代で「仲は良い方だと思う」とした割合が最も高い。また、男女とも、40-69歳よりも20-39歳で、「仲が良い(「大変仲は良い」+「仲は良い方だと思う」)」とした割合が高かった。

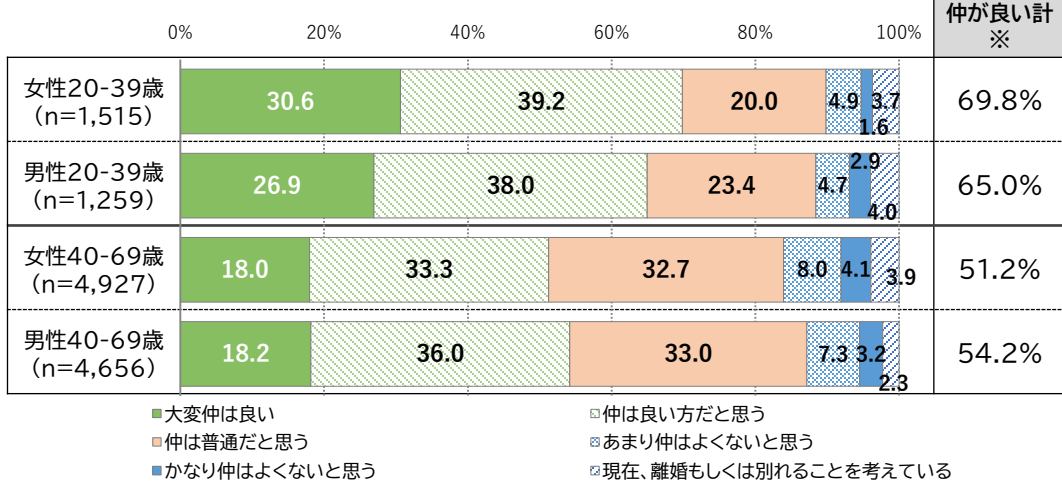
・既婚者の配偶者との仲と、独身者の恋人との仲を見てみると、男女ともに全ての年代で独身者の方が「仲が良い」とする割合が高い。特に、40-69歳の男女で、既婚者と独身者の差が大きかった。

男女別・年代別/配偶者・恋人との仲

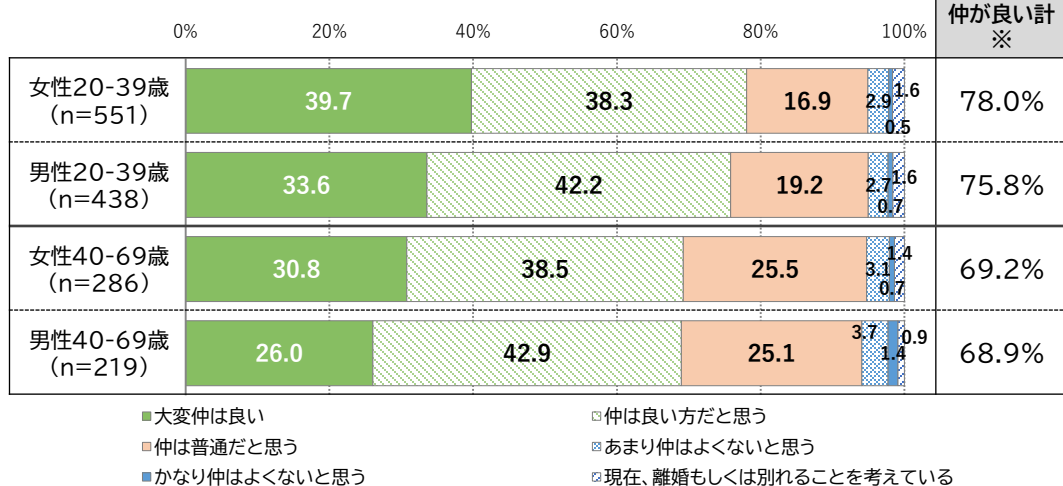
※「大変仲は良い」+「仲は良い方だと思う」の累計値



既婚者(事実婚含む)/配偶者との仲



独身者/恋人との仲

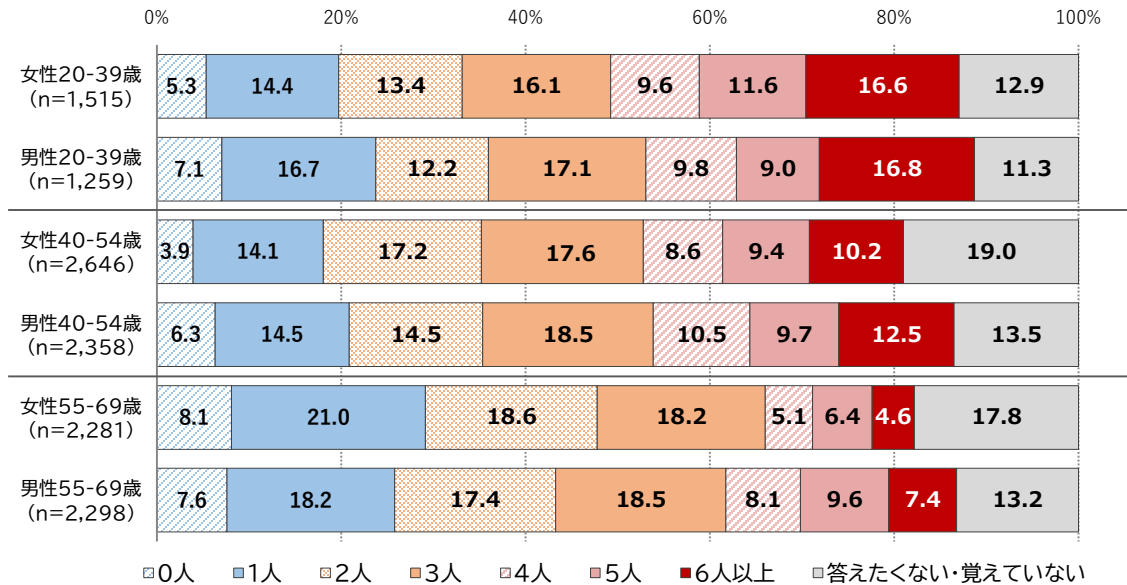


(16) これまでの恋人の人数

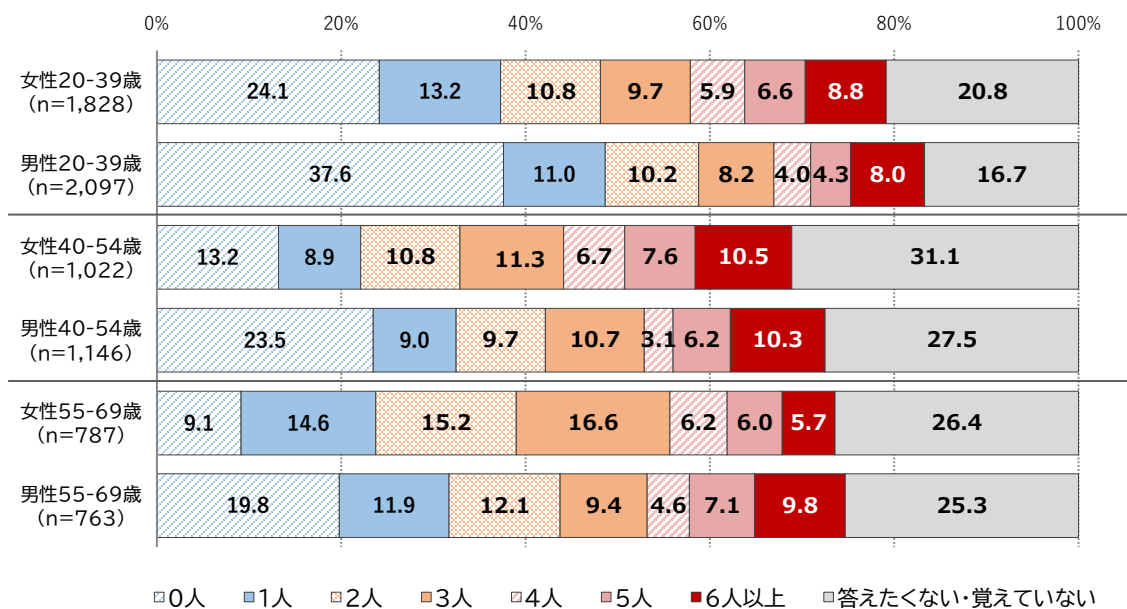
- ・既婚者のこれまでの恋人の人数を男女別・年代別で見ると、男女とも20-39歳では「6人以上」とした割合が17%弱と、上の年代に比べて高い。一方、「1人」とした割合は、男女とも55-69歳で最も高い。
- ・独身者のこれまでの恋人の人数を男女別・年代別で見ると、どの年代においても女性より男性の方で、「0人」とした割合が高い。中でも「0人」が最も高いのは「男性20-39歳」で37.6%となった。
- ・既婚者と独身者を比較すると、「6人以上」とした割合は、男女とも20-39歳では既婚者の方が高く、40-54歳ではどちらも10%強、55-69歳ではどちらも女性で5~6%、男性で7~10%となった。

①既婚

※中学卒業から最初の結婚まで、「恋人として交際」した人数（結婚相手含む）
 ※但し結婚した人で「結婚相手が恋人ではない」とする人もいるため、既婚者で「0人」の場合もある



②独身



(16) これまでの恋人の人数

①既婚

(%)

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人以上	答えた くない・ 覚えて いない
女性20-39歳 (n=1,515)	5.3	14.4	13.4	16.1	9.6	11.6	5.5	3.0	1.7	0.9	3.0	0.3	0.3	0.3	0.1	1.7	12.9
男性20-39歳 (n=1,259)	7.1	16.7	12.2	17.1	9.8	9.0	5.1	3.3	2.1	0.9	2.6	0.5	0.4	0.3	0.1	1.6	11.3
女性40-54歳 (n=2,646)	3.9	14.1	17.2	17.6	8.6	9.4	3.4	1.6	1.5	0.3	1.9	0.2	0.2	0.1	0.0	1.0	19.0
男性40-54歳 (n=2,358)	6.3	14.5	14.5	18.5	10.5	9.7	3.5	2.1	1.0	0.7	2.4	0.5	0.3	0.2	0.0	2.0	13.5
女性55-69歳 (n=2,281)	8.1	21.0	18.6	18.2	5.1	6.4	1.5	0.9	0.7	0.1	0.8	0.0	0.1	0.0	0.0	0.4	17.8
男性55-69歳 (n=2,298)	7.6	18.2	17.4	18.5	8.1	9.6	2.1	0.8	0.6	0.3	1.9	0.0	0.1	0.1	0.0	1.5	13.2

②独身

(%)

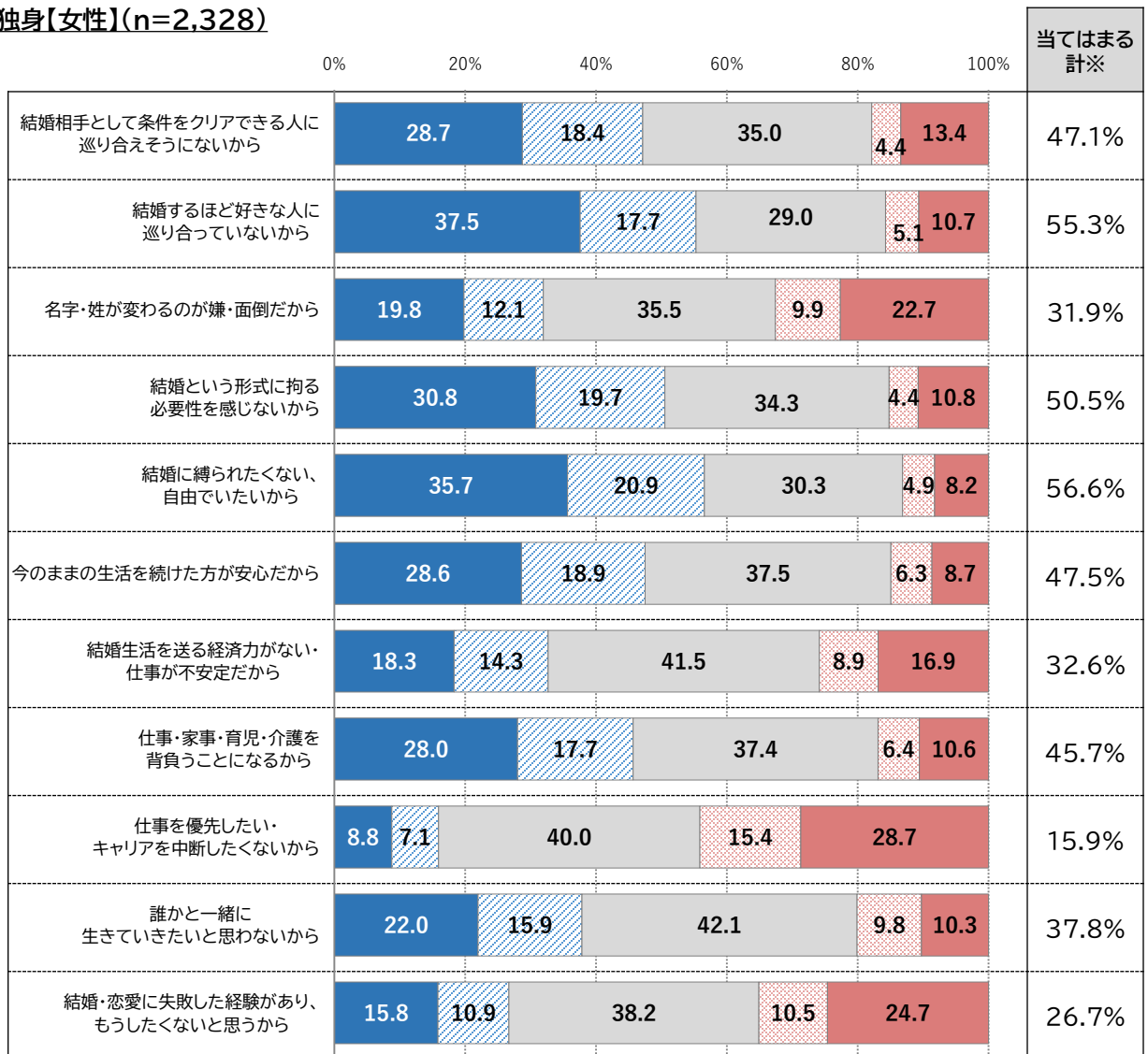
	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人以上	答えた くない・ 覚えて いない
女性20-39歳 (n=1,828)	24.1	13.2	10.8	9.7	5.9	6.6	2.8	1.9	1.0	0.6	1.4	0.4	0.2	0.1	0.1	0.4	20.8
男性20-39歳 (n=2,097)	37.6	11.0	10.2	8.2	4.0	4.3	2.6	1.7	1.3	0.3	1.2	0.3	0.1	0.0	0.0	0.5	16.7
女性40-54歳 (n=1,022)	13.2	8.9	10.8	11.3	6.7	7.6	2.0	1.7	2.1	0.5	2.3	0.4	0.1	0.2	0.0	1.4	31.1
男性40-54歳 (n=1,146)	23.5	9.0	9.7	10.7	3.1	6.2	2.5	1.8	1.3	0.3	1.7	0.0	0.1	0.0	0.0	2.5	27.5
女性55-69歳 (n=787)	9.1	14.6	15.2	16.6	6.2	6.0	1.4	1.0	0.5	0.3	1.3	0.0	0.1	0.0	0.0	1.1	26.4
男性55-69歳 (n=763)	19.8	11.9	12.1	9.4	4.6	7.1	1.3	1.0	1.0	0.4	2.5	0.3	0.7	0.0	0.0	2.6	25.3

(17) 積極的には結婚したいと思わない理由

- ・独身の女性が積極的に結婚したいと思わない理由について、「当てはまる」とした割合が最も高いものは、「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」37.5%。次に「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」35.7%、「結婚という形式に拘る必要性を感じないから」30.8%。
- ・「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値で見ても、この3項目が5割を超えている。

※「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値

独身【女性】(n=2,328)



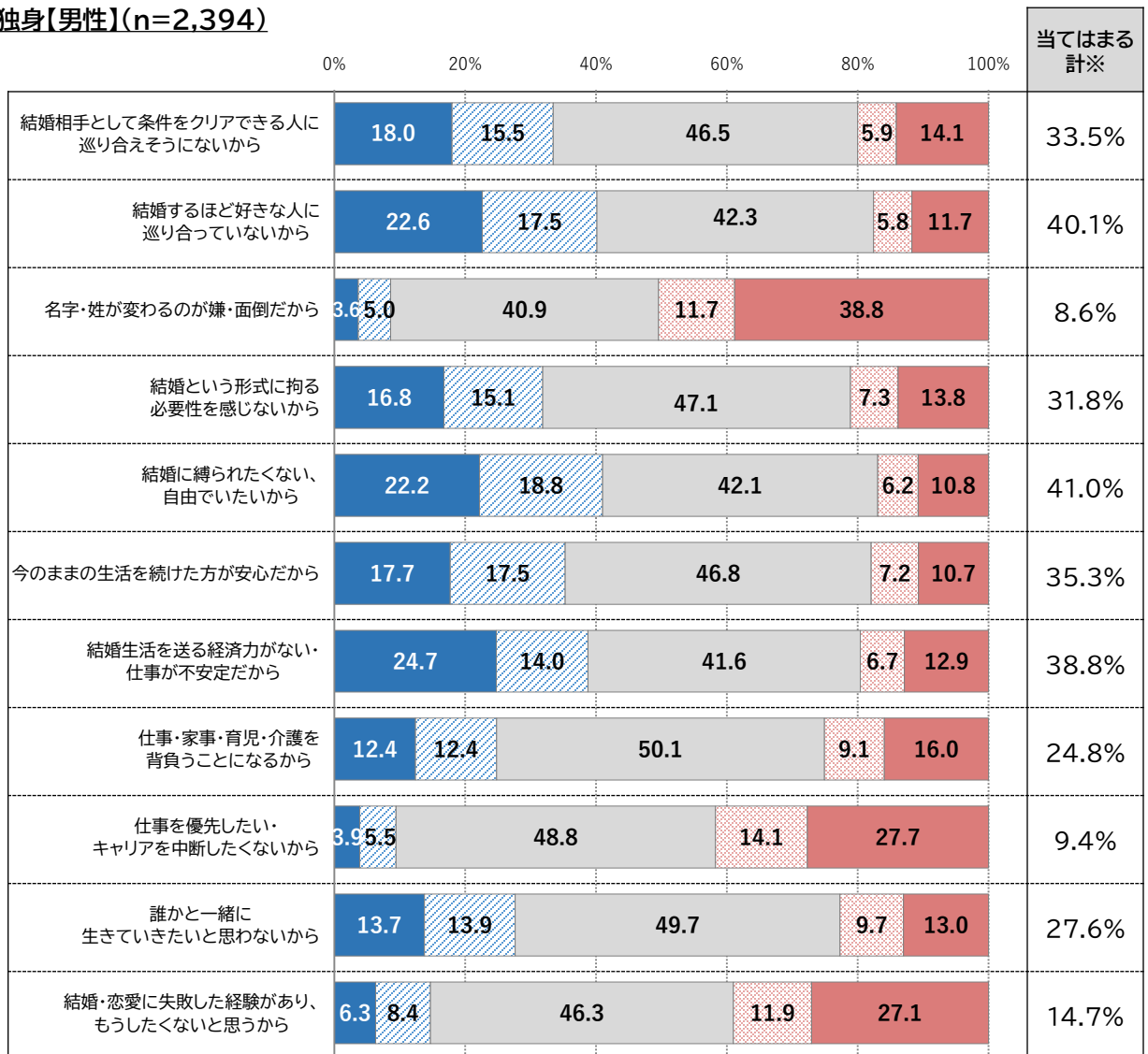
■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらとも言えない ■ やや当てはまらない ■ 当てはまらない

(17) 積極的には結婚したいと思わない理由

- ・独身の男性が積極的に結婚したいと思わない理由について、「当てはまる」とした割合が最も高いものは、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」で24.7%。次に「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」22.6%、「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」22.2%。
- ・「当てはまる+やや当てはまる」の累計値で見ても、この3項目が高く、約4割となっている。

※「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値

独身【男性】(n=2,394)



■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらとも言えない ■ やや当てはまらない ■ 当てはまらない

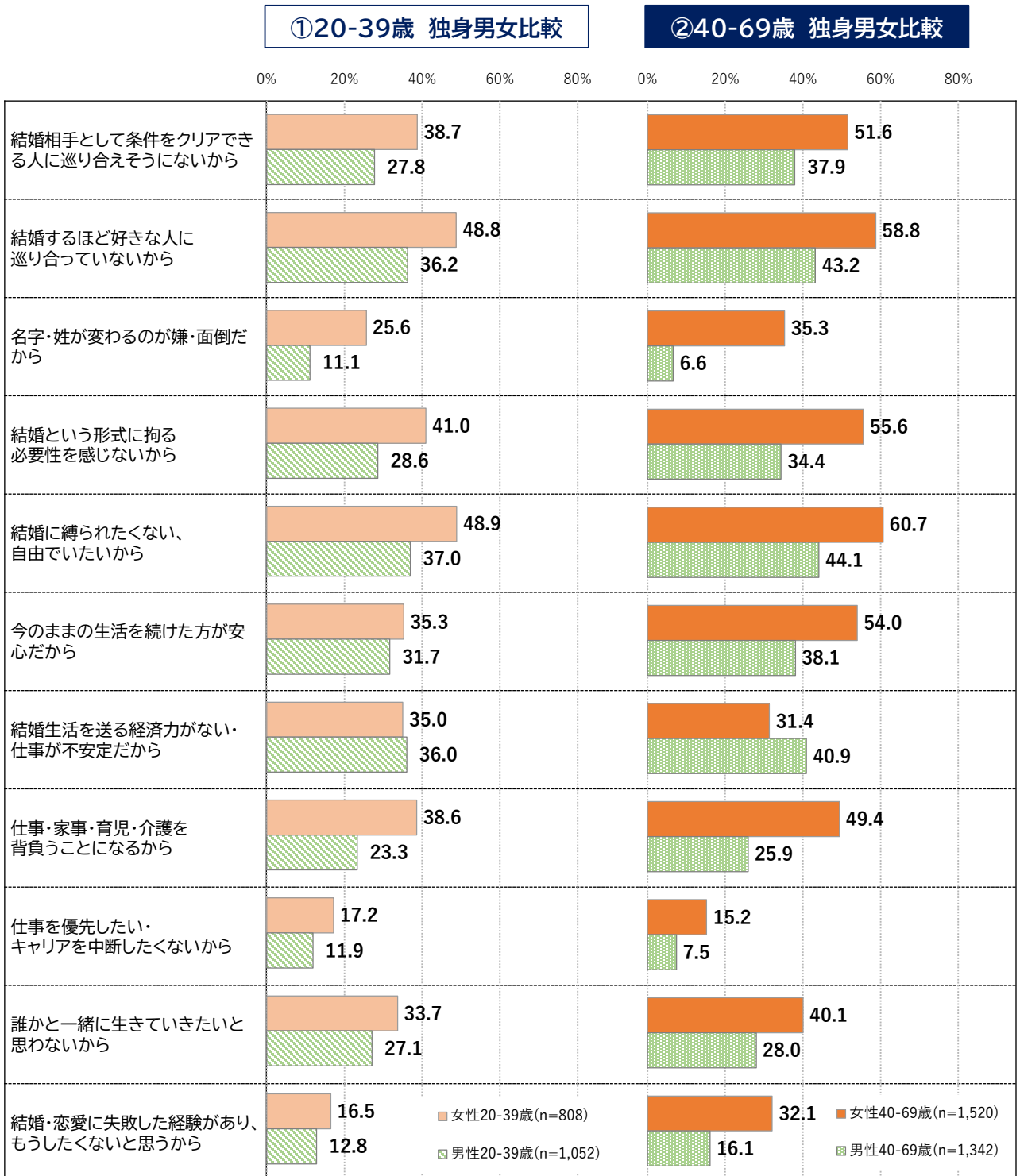
(17) 積極的には結婚したいと思わない理由

・20-39歳、40-69歳の独身者について、男女ともに最も高い項目は「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」。

・20-39歳で見ると、全体的に女性の方が男性より割合が高い項目が多く、中でも「仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから」(女性38.6%、男性23.3%)、「名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから」(女性25.6%、男性11.1%)については、15%ポイント近く男女差がある。

・40-69歳でも、全体的に女性の方が男性より割合が高い項目が多い。中でも「名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから」(女性35.3%、男性6.6%)は29%ポイントの差、「仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから」(女性49.4%、男性25.9%)についても24%ポイント近く男女差があった。

独身 (「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値を掲載)

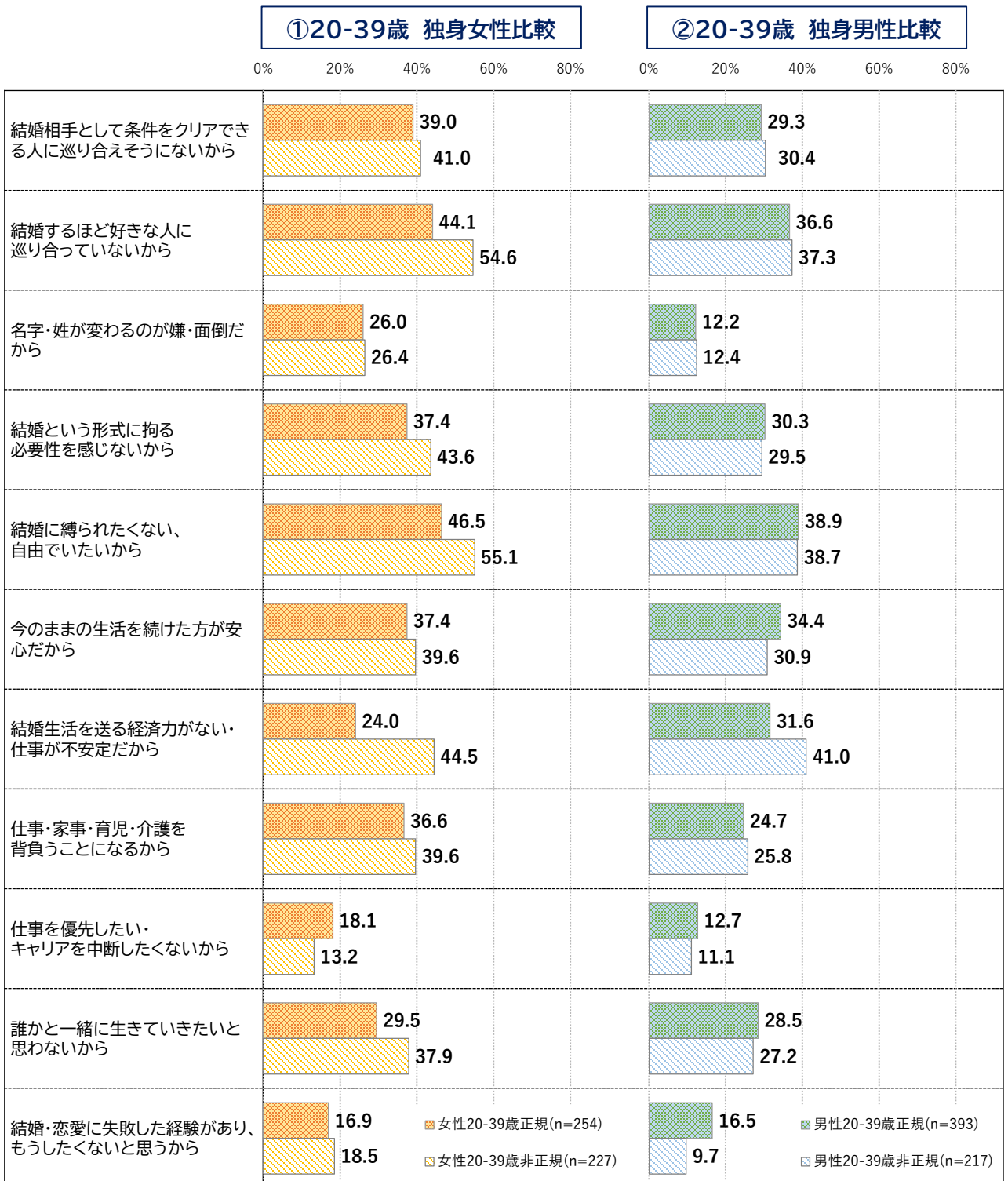


(17) 積極的には結婚したいと思わない理由

・20-39歳の独身女性を雇用形態別で見ると、全体的に「非正規雇用」の方が割合が高い項目が多い。中でも「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」(正規24.0%、非正規44.5%)については20%ポイント以上の差がある。他、「結婚するほど好きな人に巡り合っていないから」「結婚に縛られたくない、自由でいたいから」も10%ポイント前後の差があった。

・20-39歳の独身男性を雇用形態別で見ると、「非正規雇用」で最も高い項目は、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」41.0%となり、「正規雇用」31.6%と比べて、10%ポイント近い差がある。

正規・非正規別 (「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値を掲載)

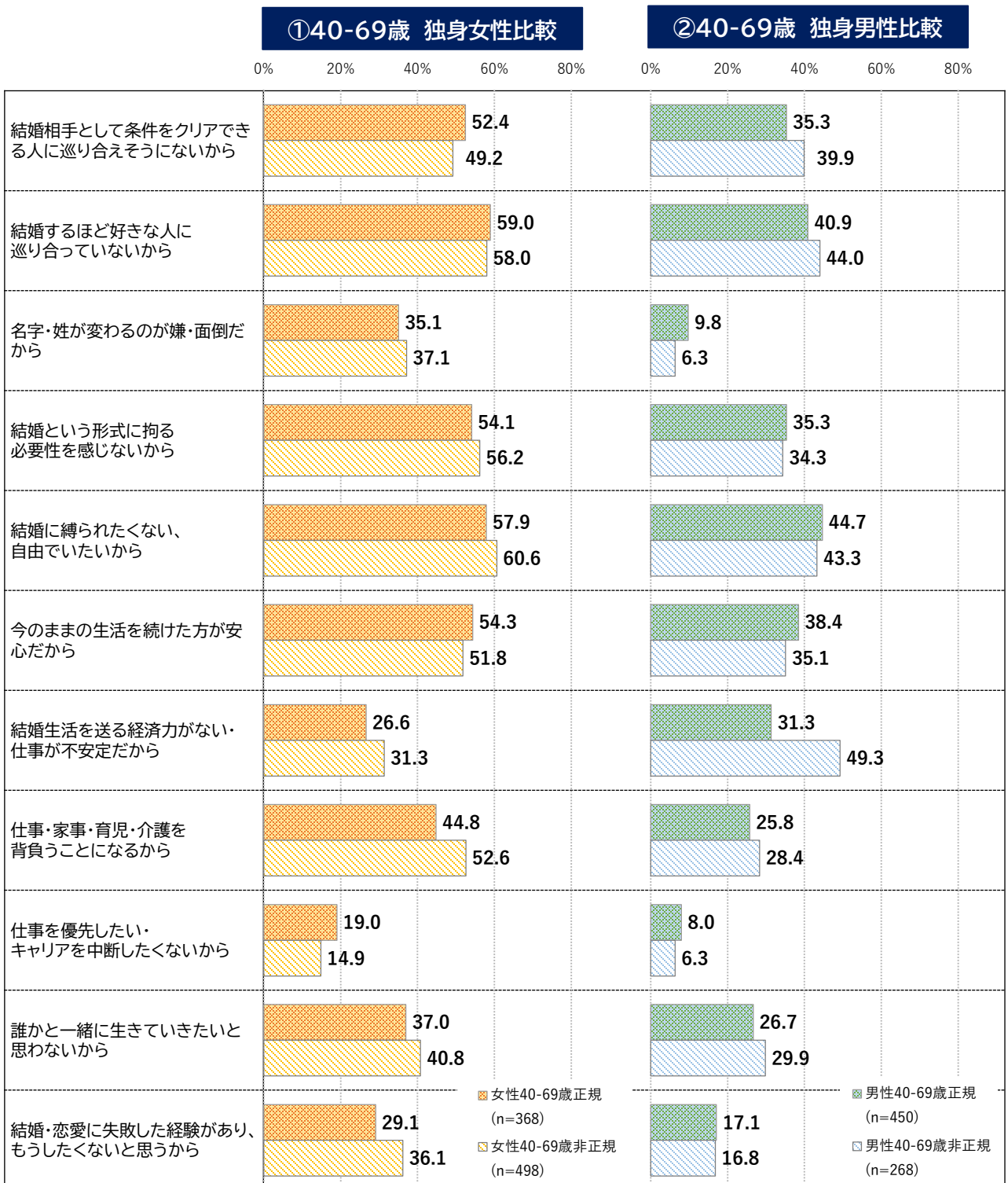


(17) 積極的には結婚したいと思わない理由

・40-69歳の独身女性を雇用形態別で見ると、「正規雇用」・「非正規雇用」で差が見られるものは、「仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから」で8%ポイントの差があった。

・40-69歳の独身男性を雇用形態別で見ると、「非正規雇用」で最も高い項目は、「結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから」49.3%となり、「正規雇用」31.3%と比べて、18%ポイントの差がある。

正規・非正規別（「当てはまる」+「やや当てはまる」の累計値を掲載）



調査結果まとめ

◆結婚意思・理想の子供数について

- 1 独身者(結婚経験なし)の「結婚意思あり」割合は、20代では女性65%、男性54%、30代では男女ともに46%。その後、50代では女性13%、男性27%と差が開く。
- 2 離婚・死別経験がある独身者の「結婚意思あり(再婚意思)」割合は、女性では未婚者と比べて全体的に低い。一方、男性は未婚者と比べて同程度かやや高くなっている。
- 3 子供がいない独身者の「理想の子供数」は、「0人」と「2人」に分かれる傾向。20代女性では「0人」24%/「2人」40%、30代女性では「0人」43%/「2人」24%。

- 独身者(結婚経験がない人)の今後の結婚意思については、20～30代では46～65%と男女ともに高い。40代になると男女とも32%～36%まで下がる。50代以降で男女差が大きくなり、女性50代13%に対して、男性50代では27%と倍以上。女性60代では8%、男性60代では22%と3倍近い。
- 離婚・死別経験がある独身者については、結婚経験がない独身者に比べて、女性では全年代で結婚意思(再婚意思)が下回る。一方男性では、どの年代でも結婚経験がない独身者に対して、ほぼ同じ割合～やや高くなっており、男性の方が再婚意思が高いことが窺える。
- 子供がいない独身者の「理想の子供の数」については、「0人(子供がいない)」は女性20代で24%、女性30代で43%。男性20代で31%、男性30代で38%。「1人以上(子供が欲しい)」とした回答の中では「2人」とした割合が最も高く、女性20代で40%、女性30代で24%、男性20代で32%、男性30代で27%。

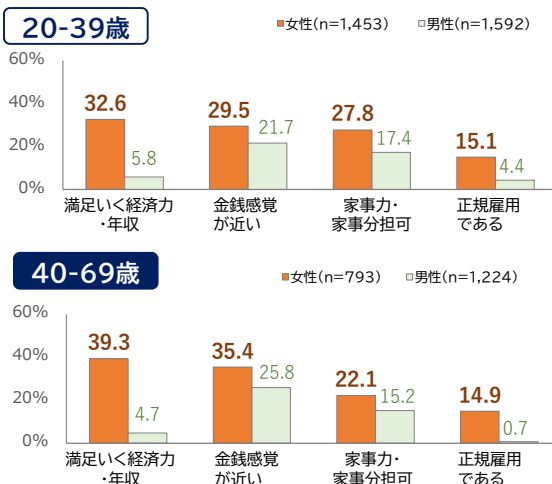
・独身者の今後の結婚願望 ※40%以上オレンジ、20%以上黄色掛け

対象者区分	今後「結婚意思あり」		
	女性	男性	
結婚経験なし	20代	64.6%	54.4%
	30代	46.4%	46.4%
	40代	31.7%	36.0%
	50代	13.0%	26.6%
結婚経験あり	60代	7.9%	22.0%
	20代	45.0%	66.7%
	30代	36.6%	54.3%
	40代	23.3%	39.1%
	50代	11.0%	29.0%
	60代	2.6%	23.7%

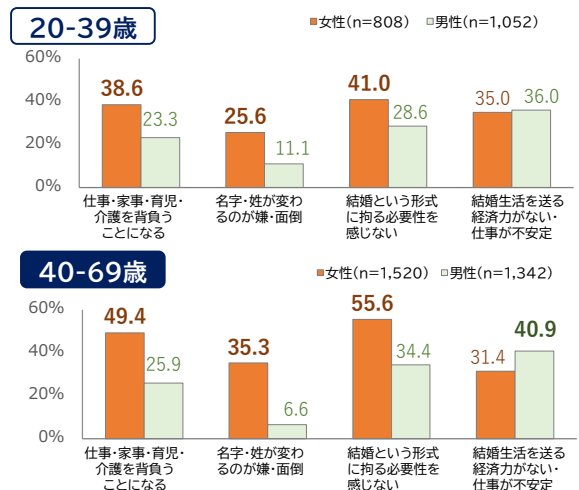
◆結婚したい理由・したくない理由

- 1 結婚相手に求めることは、「一緒にいて落ち着ける・楽しい」「近い価値観」が高い。また女性は、「満足いく経済力」「正規雇用」「家事力」「金銭感覚」をより男性に求める。
- 2 結婚した理由・したい理由は、「好きな人と一緒に生活したいから」が高い。加えて20-39歳女性は、男性に比べ「家族、子供を持ちたいから」も高い。
- 3 結婚したくない理由で男女差が大きいものは、「仕事・家事・育児・介護を背負うことになる」「名字が変わる」は女性が、「経済力がない」は40歳以上の男性で高い。

<独身者が結婚相手に求める要素> ※男女差がある選択肢を抜粋



<結婚したくない理由> ※男女差がある選択肢を抜粋



調査結果まとめ

◆ターニングポイントの年齢

- 理想の結婚年齢は、「**妻26歳／夫28歳**」。
理想の第一子を持つ年齢は、2年後の「**妻28歳／夫30歳**」。
- 最初の結婚年齢(現実)は、「**妻27歳／夫29歳**」、第一子を持った年齢は、「**妻28歳／夫31歳**」。二回目の結婚年齢は、「**女性36歳／男性37歳**」。
- この年齢まで働きたいと思う理想は、「**女性54歳／男性62歳**」。配偶者にこの年齢まで働いて欲しいと思う理想は、「**妻には55歳まで**」「**夫には65歳まで**」働いて欲しい。

	理想の年齢		現実の年齢	
	女性	男性	女性	男性
最初に結婚する年齢	26.1歳	28.0歳	26.6歳	28.9歳
最初の結婚時の配偶者の年齢	28.3歳	26.2歳		
第一子を持つ年齢	27.8歳	29.9歳	28.0歳	30.7歳
二回目に結婚した時の年齢			35.7歳	36.6歳
自分が「この年齢までは働きたい」と思う年齢	53.8歳	62.0歳		
配偶者に「この年齢までは働いて欲しい」と思う年齢	64.9歳	55.3歳		

◆離婚を取り巻く状況

- 既婚者の過去離婚経験率は、男女ともに全年代で**1割未満**。
既婚者の今後「離婚する可能性あり」とした割合は、**男女とも15%程度**。
- 「離婚可能性」が高い年代は、**男女とも40代で2割前後**。60代では1割未満。
女性は30代までは、「**非正規雇用→主婦→正規雇用**」の順で離婚可能性が高い。
- 男女とも20-30代の若い層では、「**大学・大学院卒**」と「**高卒・中卒**」で比較すると、「**高卒・中卒**」で離婚可能性が高い傾向があった。

・既婚者の今後の離婚可能性

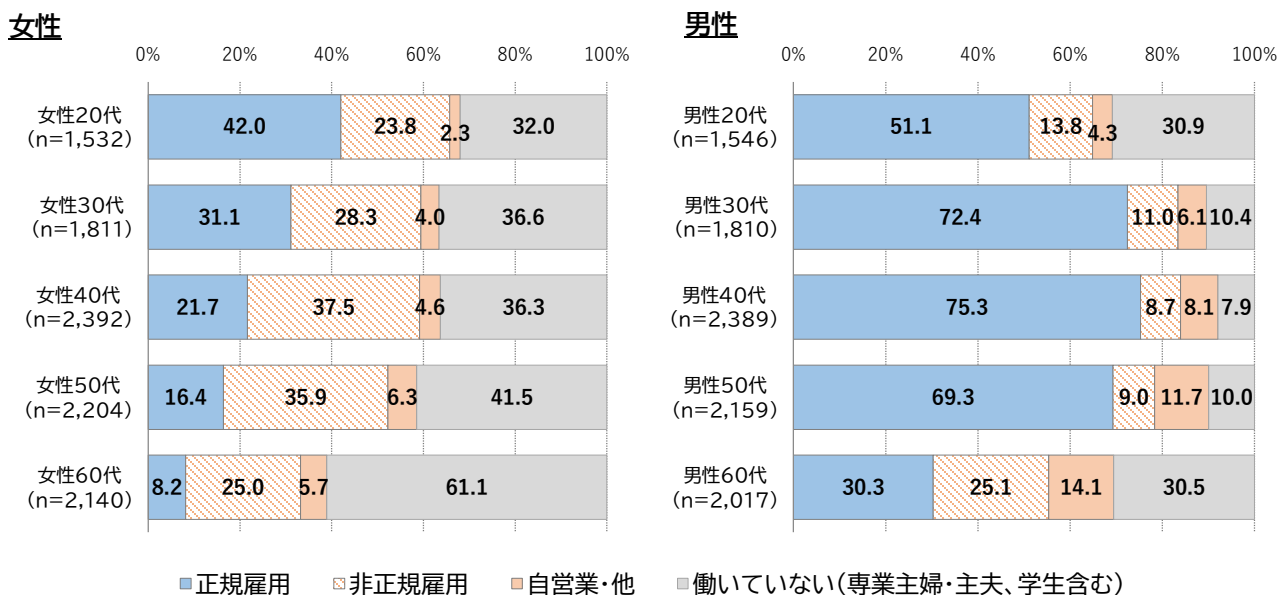
対象者区分	今後「離婚可能性あり」	
	女性	男性
全年代	15.4%	14.9%
20代	16.6%	15.9%
30代	17.8%	16.4%
40代	20.5%	19.3%
50代	15.9%	15.5%
60代	7.4%	8.7%

- 既婚者が「過去に離婚したことがある」割合は、どの年代でも4～9%程度。一方、今後離婚する可能性ありとした割合は、女性全体で15.4%、男性14.9%と同程度。年代別に見ると、女性40代で20.5%、男性40代で19.3%と最も高く、その後女性50代で15.9%、男性15.5%とやや下がり、女性60代で7.4%、男性60代でも8.7%と、男女とも60代になると1割未満に下がる。
- 離婚する可能性について、雇用形態別に見てみると、20代の女性については、非正規雇用23.7%／無職(主婦含む)15.1%／正規雇用12.5%、30代女性については非正規雇用20.7%／無職(主婦含む)18.1%／正規雇用15.1%と、「非正規雇用」が最も離婚意向が高く、その次に無職(主婦含む)、その次に正規雇用となった。
- 学歴別に離婚する可能性を見てみると、男女ともに20～30代は、大学・大学院卒では15%以下であるのに対し、高校・中学校卒では2割前後と、高校・中学校卒の方が離婚可能性が高い傾向が見られた。

3. 仕事を取り巻く状況

(1) 現職の就業状況

- ・現職の就業状況について、男女別・年代別に見ると、男性では「20代～50代」で「正規雇用」の割合が最も高く、「60代」では「非正規雇用」「働いていない」の割合が高まる。
- ・一方で、「女性」では、20代で「正規雇用」が最も高く、上の年代になるほどその割合は低くなり、「非正規雇用」の割合は25%～38%の間で推移。

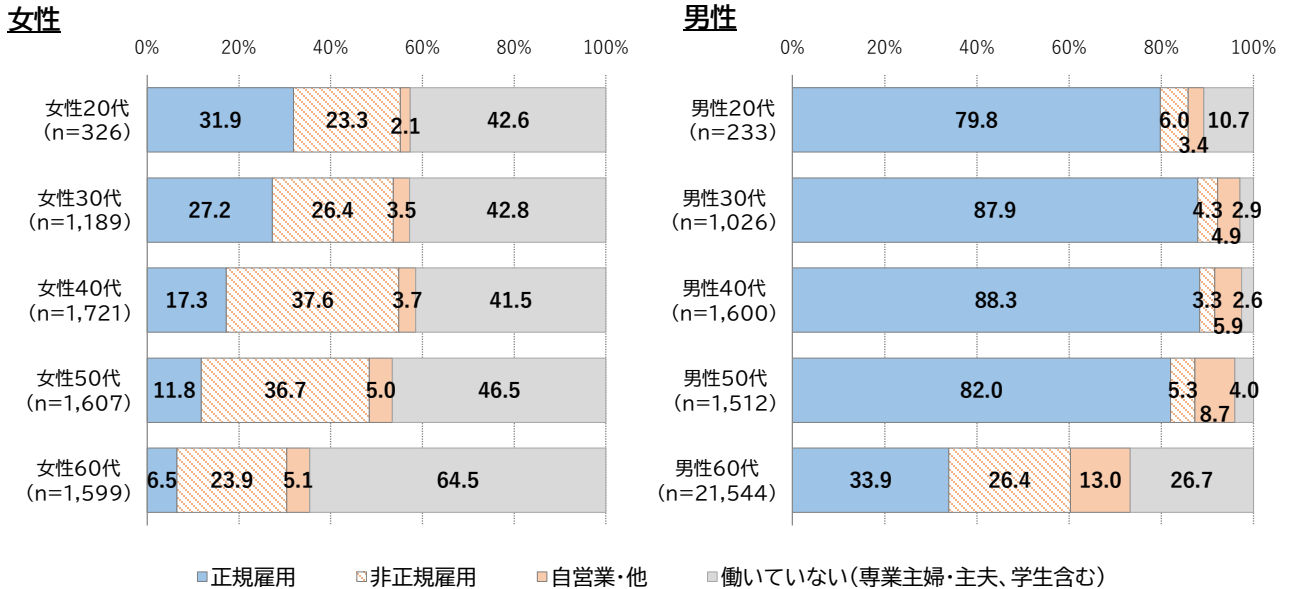


	正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他					働いていない		
	正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業(従業員がいる)	自営業・自由業(従業員がいない)	自家営業の手伝い(家族従業員)	家庭内の責任仕事(内職)	その他	主婦・主夫	学生	その他(働いていない)
女性20代 (n=1,532)	41.0	1.0	16.2	4.0	3.3	0.1	0.1	0.5	1.1	0.3	0.1	0.2	8.6	13.4	9.9
女性30代 (n=1,811)	30.6	0.6	21.3	3.0	3.0	0.4	0.4	0.3	2.1	0.5	0.9	0.3	26.8	0.5	9.2
女性40代 (n=2,392)	21.2	0.5	30.1	3.4	3.2	0.5	0.3	0.5	2.5	0.7	0.8	0.1	29.3	0.1	6.9
女性50代 (n=2,204)	16.2	0.2	28.9	2.9	3.6	0.2	0.2	0.7	3.3	1.4	0.7	0.2	34.5	0.0	6.9
女性60代 (n=2,140)	7.7	0.5	20.1	1.0	2.6	0.7	0.6	0.9	3.0	1.4	0.4	0.1	49.1	0.0	12.0
男性20代 (n=1,546)	50.6	0.5	9.6	1.4	2.1	0.3	0.5	0.6	2.7	0.6	0.1	0.2	0.1	20.6	10.2
男性30代 (n=1,810)	71.9	0.6	6.4	2.0	1.9	0.5	0.2	1.1	3.9	0.7	0.2	0.2	0.3	0.2	9.9
男性40代 (n=2,389)	73.5	1.8	4.7	1.5	2.1	0.1	0.1	1.9	5.1	0.7	0.2	0.2	0.6	0.1	7.2
男性50代 (n=2,159)	66.2	3.1	3.7	1.8	3.0	0.3	0.2	2.5	8.6	0.2	0.2	0.1	1.3	0.0	8.7
男性60代 (n=2,017)	25.6	4.7	8.4	1.2	9.8	5.1	0.5	2.7	10.8	0.2	0.0	0.3	2.1	0.0	28.5

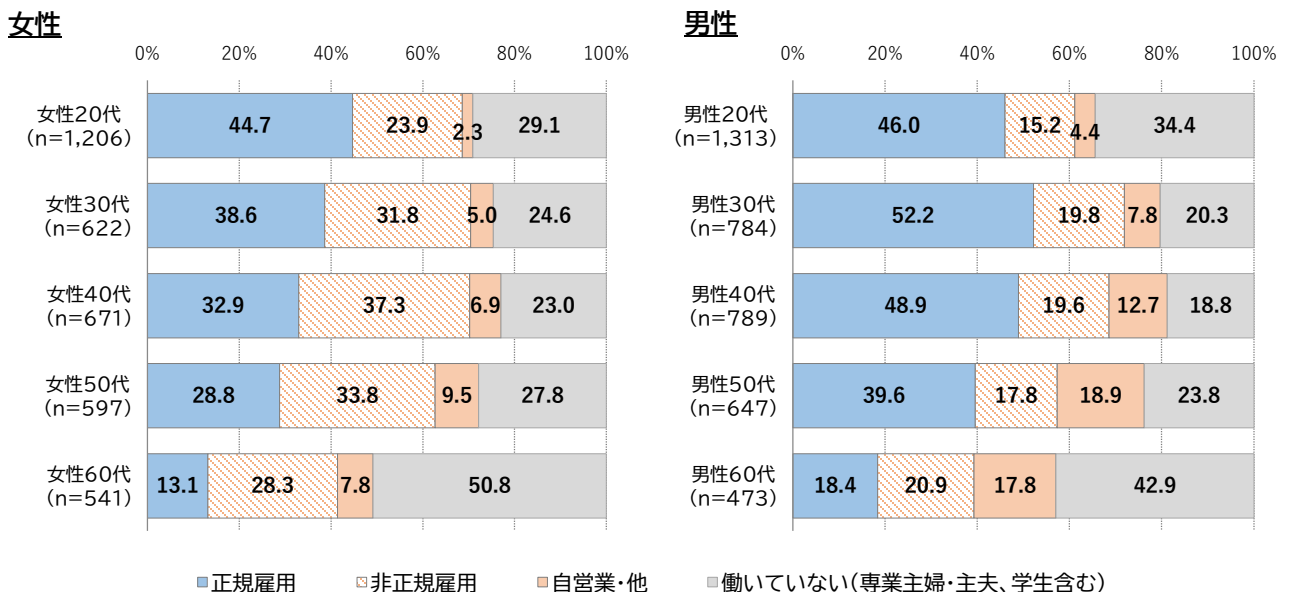
(1) 現職の就業状況

- ・配偶者の有無別に就業状況を見たところ、女性は「有配偶」と比べ「独身」で年代に関わらず「正規雇用」の割合が高く、特に20代の「独身」で44.7%（20代の「有配偶」は31.9%）。
- ・反対に男性では「有配偶」で「正規雇用」の割合が高く、20～50代の「有配偶」で8割前後であるのに対し、「独身」では、4～5割前後。

有配偶(事実婚含む)



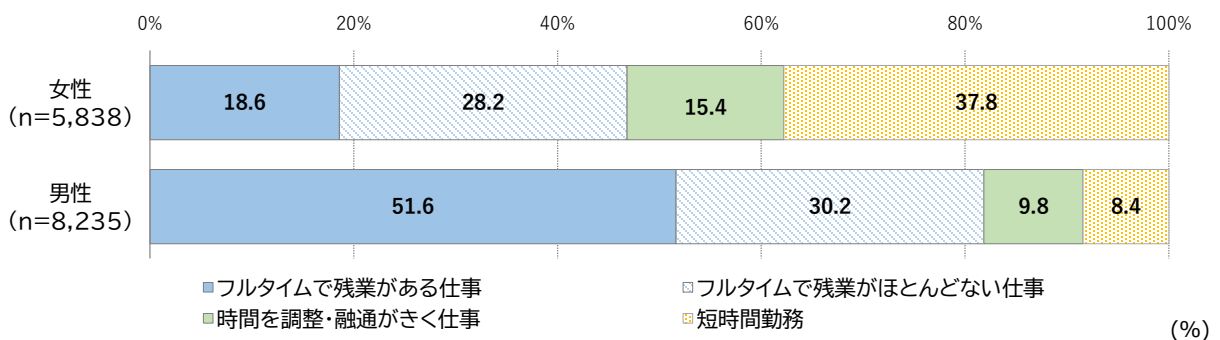
独身



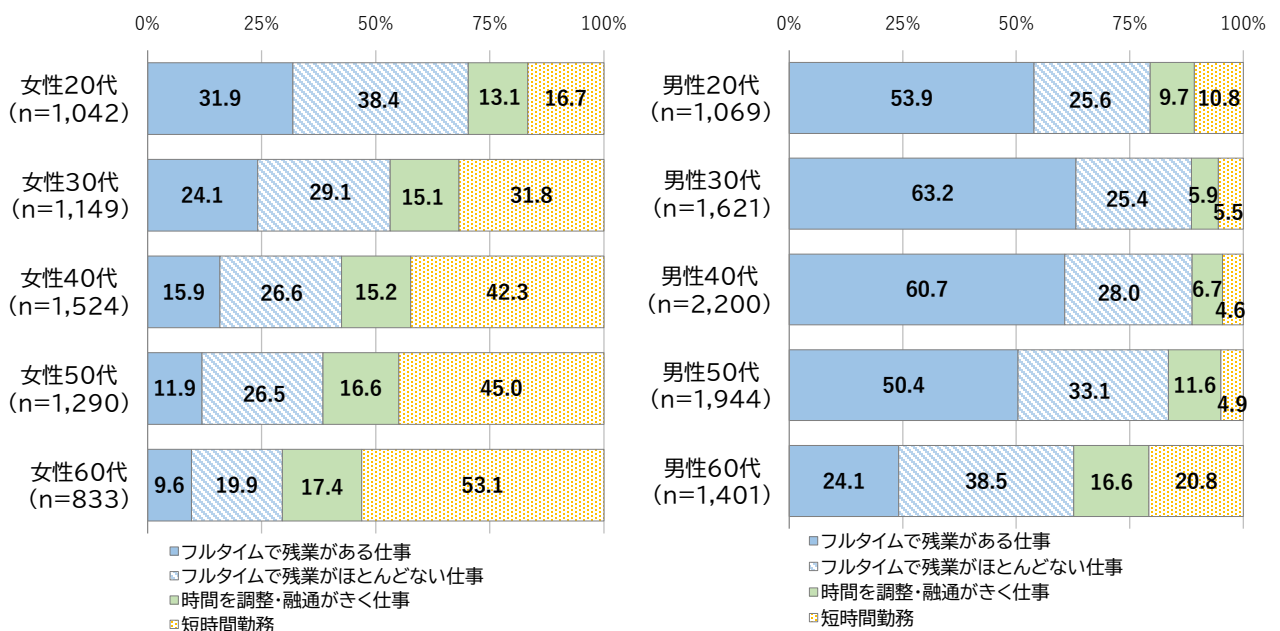
(2) 現職の勤務形態

- ・現在働いている人を対象に、現職の勤務形態を尋ねたところ、女性では「短時間勤務」が最も高く37.8%、次いで「フルタイムで残業がほとんどない仕事」が28.2%。一方で、男性では「フルタイムで残業がある仕事」が最も高く、51.6%と半数を超える。
- ・年代別に見ると、女性は前項の就業状況と同様に「正規雇用」の比率が高い「20代」ほど「フルタイムで残業がある仕事」の割合が高く、年代が上がるにつれ、その割合は減少する。男性も同様に、「60代」を除いて「フルタイムで残業がある仕事」の割合が高く、「30～40代」で6割を超え、最も高い。
- ・フルタイムでの「残業がある仕事」「残業がほとんどない仕事」の比率を見ると、女性は、「正規雇用」割合が比較的高い「20代」でも前者31.9%、後者38.4%（男性「20代」は前者53.9%、後者25.6%）。30代より上の年代になると、フルタイムにおける「残業がある仕事」の割合は、男女間で倍以上違う。

※残業がある仕事…残業が月10時間以上
※残業がほとんどない仕事…残業が月9時間以下



	フルタイム				時間を調整・融通がきく仕事		短時間勤務		
	残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事	残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事	残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事	残業がほとんどない(月9時間以下残業)仕事	週64時間を超える仕事	週64時間以下の仕事	週30時間以上40時間未満	週20時間以上30時間未満	週20時間未満
全体 (n=14,073)	12.2	9.4	16.4	29.4	3.6	8.5	6.0	7.2	7.4
女性 (n=5,838)	5.1	4.0	9.4	28.2	4.4	11.0	9.7	14.0	14.1
男性 (n=8,235)	17.1	13.2	21.3	30.2	3.0	6.7	3.3	2.5	2.6



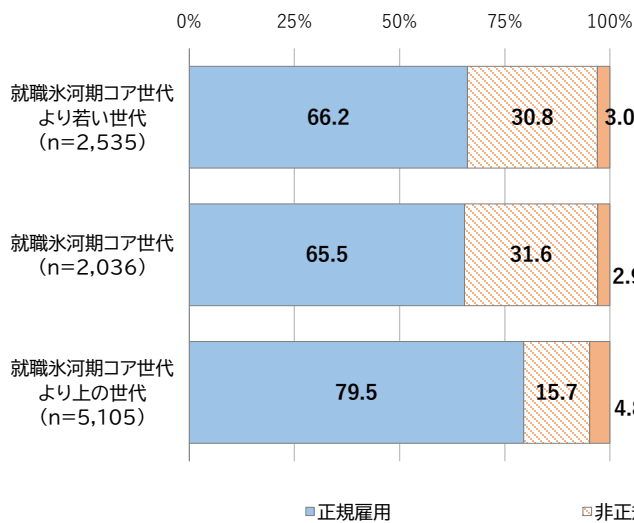
(3) 初職をめぐる状況 雇用形態(最終学歴後に働いていた人が対象)

- ・最終学歴後に働いていた人を対象に、「就職氷河期コア世代」とそれより若い世代、上の世代に区分した(定義は下記参照)ところ、男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」で「正規雇用」の割合が最も高く、女性で79.5%、男性で88.0%。
- ・「就職氷河期コア世代」「コア世代より若い世代」ではどちらも大きな差は見られず、「非正規雇用」は女性で3割超、男性で2割弱。

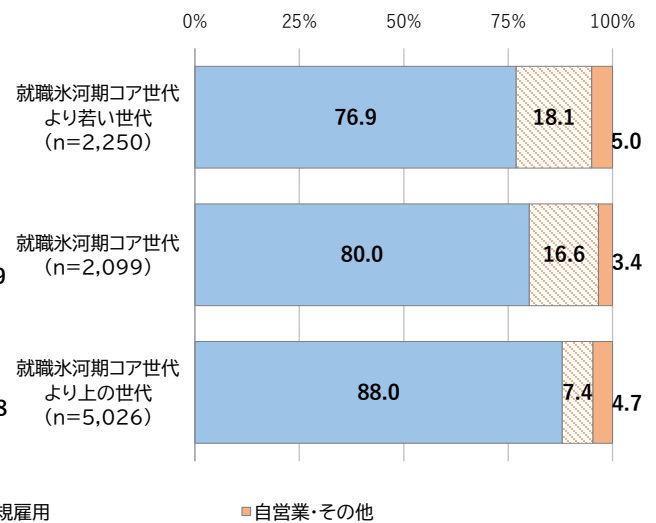
【定義】

- ・「就職氷河期コア世代」1975年～1984年生まれ＝2021年調査時点37歳～46歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より若い世代」1985年生まれ以降＝2021年調査時点20歳～36歳で定義
- ・「就職氷河期コア世代より上の世代」1974年生まれより前＝2021年調査時点47歳～69歳で定義

女性



男性



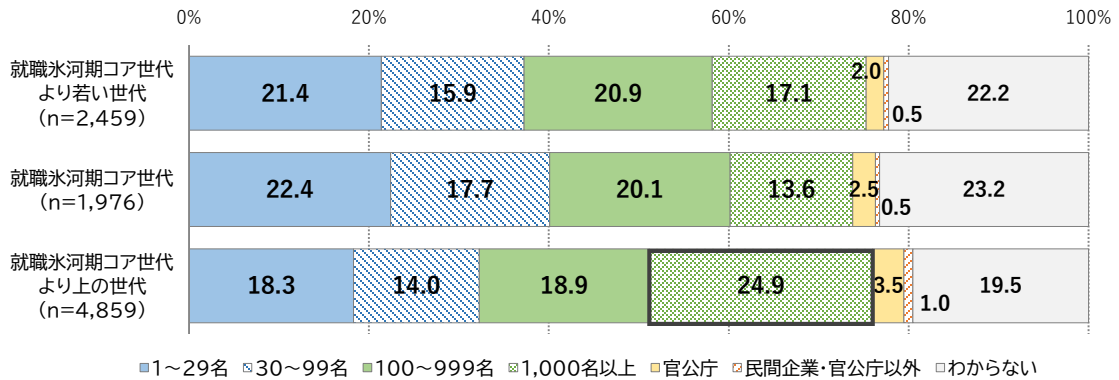
(%)

		正規雇用		非正規雇用					自営業・自由業・その他				
		正規の会社員・職員・従業員	会社などの役員	パート・アルバイト	労働派遣事業所の派遣社員	契約社員	嘱託	その他の形で雇用されている	自営業・自由業(従業員がいる)	自営業・自由業(従業員がいない)	自家営業の手伝い(家族従業員)	家庭内の賃仕事(内職)	その他
女性	若い世代 (n=2,535)	65.3	0.9	23.2	2.8	3.4	0.8	0.7	0.2	0.7	0.4	1.1	0.5
	コア世代 (n=2,036)	65.1	0.4	22.2	2.9	4.7	0.8	0.9	0.2	0.7	0.4	0.9	0.8
	上の世代 (n=5,105)	79.2	0.3	11.7	0.7	2.3	0.4	0.7	0.6	1.3	1.1	0.8	1.1
男性	若い世代 (n=2,250)	76.3	0.7	12.2	2.0	2.7	0.5	0.8	0.7	2.1	0.7	0.9	0.6
	コア世代 (n=2,099)	79.4	0.6	11.8	1.8	2.4	0.3	0.3	0.6	1.3	0.7	0.6	0.2
	上の世代 (n=5,026)	86.8	1.2	4.3	0.5	1.4	0.4	0.7	0.9	2.2	0.8	0.3	0.5

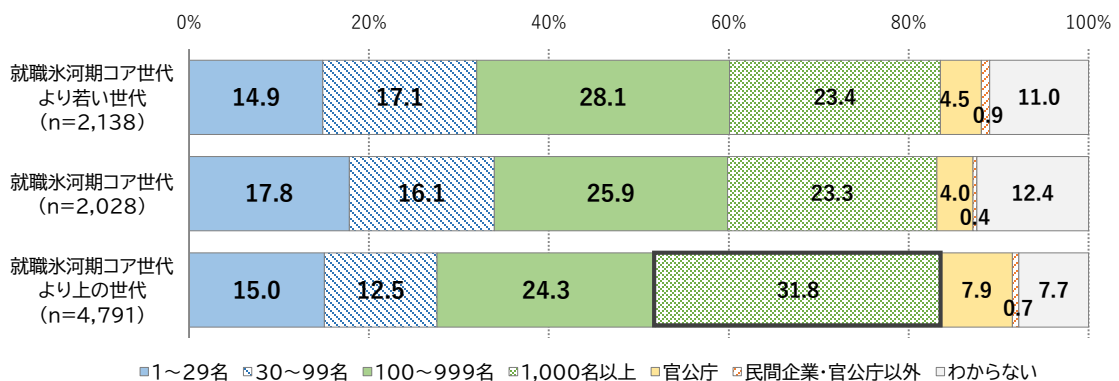
(4) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の勤め先の企業規模

・最終学歴後の初職で雇用されていると回答した人に対し、勤め先の企業規模について尋ねた。
 ・男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」では「1,000名以上」の割合が最も高い。一方で、「就職氷河期コア世代」と「コア世代より若い世代」では男女ともに大きな差は見られない。

女性



男性



※本社、支店、工場なども含めた従業員総数、パート等も含む。

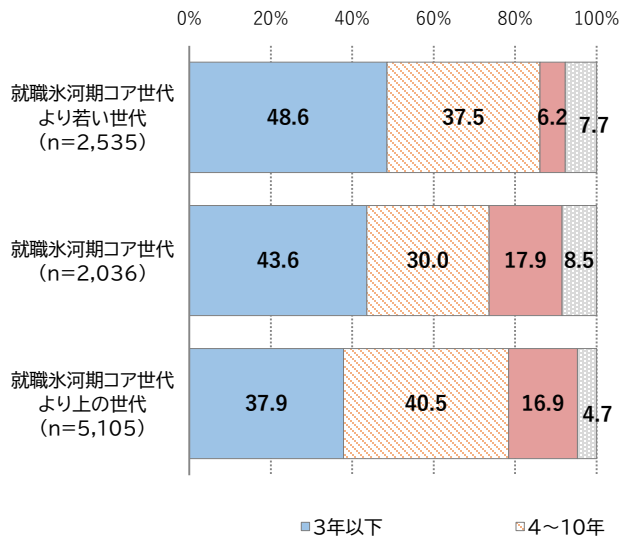
(%)

		1~29名		30~99名		100~999名		1,000名以上	官公庁	民間企業・官公庁以外	わからない
		1~4名	5~29名	30~49名	50~99名	100~299名	300~999名				
女性	若い世代 (n=2,459)	3.1	18.3	7.1	8.8	11.0	9.9	17.1	2.0	0.5	22.2
	コア世代 (n=1,976)	4.2	18.2	8.2	9.4	11.4	8.7	13.6	2.5	0.5	23.2
	上の世代 (n=4,859)	3.7	14.6	6.0	7.9	10.2	8.7	24.9	3.5	1.0	19.5
男性	若い世代 (n=2,138)	2.9	12.0	7.4	9.7	14.8	13.3	23.4	4.5	0.9	11.0
	コア世代 (n=2,028)	2.9	14.9	7.4	8.7	14.4	11.5	23.3	4.0	0.4	12.4
	上の世代 (n=4,791)	3.2	11.9	5.0	7.5	12.9	11.4	31.8	7.9	0.7	7.7

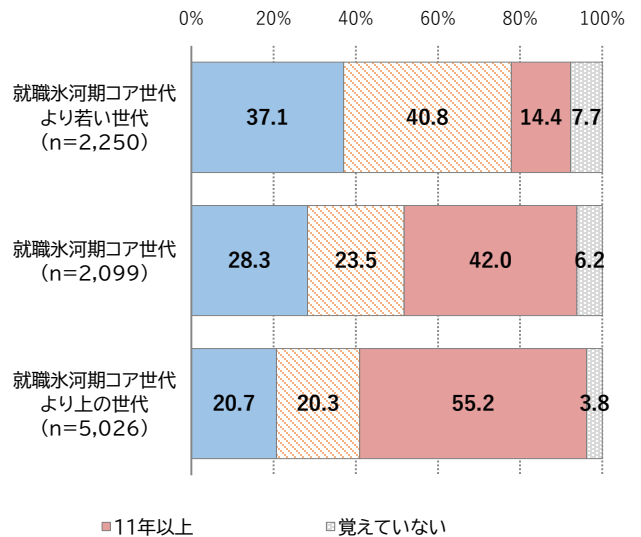
(5) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の勤続年数

- ・初職の勤続年数について、「就職氷河期コア世代」と「コア世代より上の世代」とを比較したところ、男女ともに「コア世代」で「3年以下」の割合が高く、特に男性でその差は大きい。
- ・また、男性では女性に比べ「11年以上」の割合が高いものの、「コア世代」よりも「コア世代より上の世代」の方が、「11年以上」の割合は高い。

女性



男性



		3年以下		4~10年		11年以上			覚えていない
		1年未満	1~3年	4~5年	6~10年	11~15年	16~20年	21年以上	
女性	若い世代 (n=2,535)	15.6	32.9	17.9	19.6	5.8	0.2	0.2	7.7
	コア世代 (n=2,036)	12.7	30.9	14.5	15.5	7.6	5.7	4.6	8.5
	上の世代 (n=5,105)	6.9	31.0	21.0	19.5	5.1	2.7	9.1	4.7
男性	若い世代 (n=2,250)	11.3	25.7	16.6	24.2	12.8	1.6	0.1	7.7
	コア世代 (n=2,099)	9.1	19.2	10.9	12.6	13.2	15.0	13.8	6.2
	上の世代 (n=5,026)	6.0	14.7	9.0	11.3	5.7	4.1	45.4	3.8

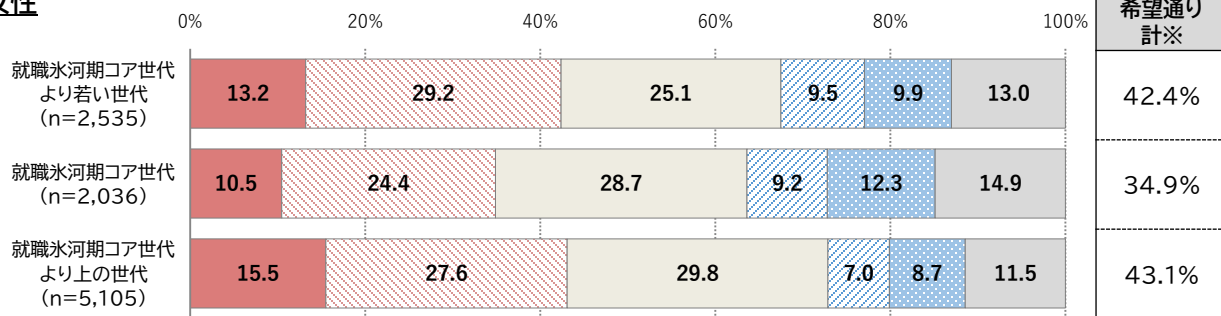
(6) 初職をめぐる状況 最終学歴後についての仕事の希望度・働いてみての魅力度

- ・初職の就職前に感じていた仕事に対する希望度について、女性では、「希望通り」とした割合は、「就職氷河期コア世代」で34.9%。一方、その他の世代では4割を超える。同様に男性でも、「就職氷河期コア世代」は「希望通り」と回答した割合は32.5%と、他世代と比べ低い。
- ・実際に働いてみての魅力度についても、希望度と同様の傾向であり、男女ともに「就職氷河期コア世代」は「魅力的」と回答した割合が低くなっている。

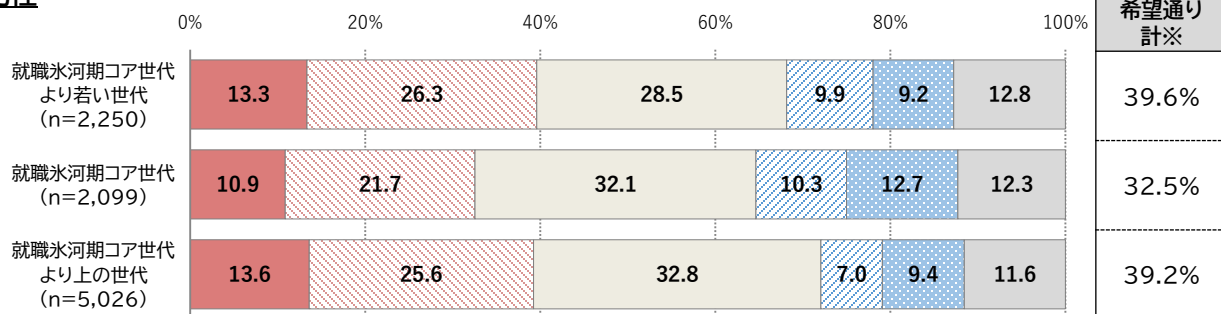
【就職前に感じていた仕事に対する希望度】

※「希望通り」+「やや希望通り」の累計値

女性



男性

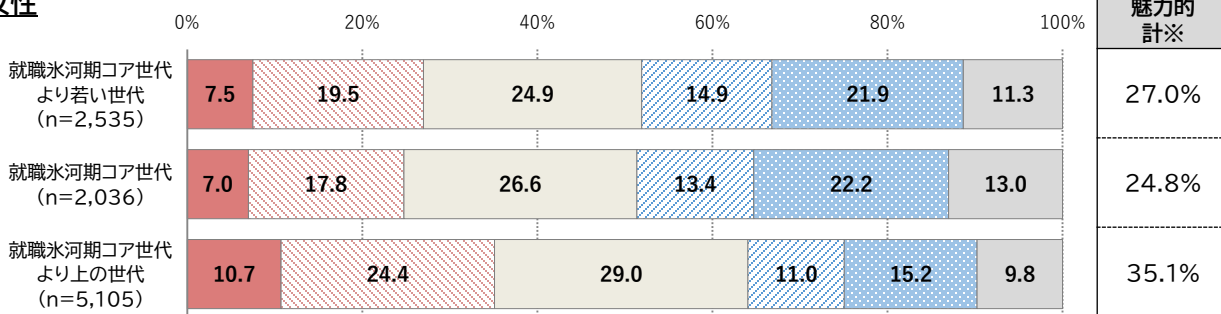


■希望通り □やや希望通り □どちらとも言えない □やや希望通りでない □希望通りでない □覚えていない

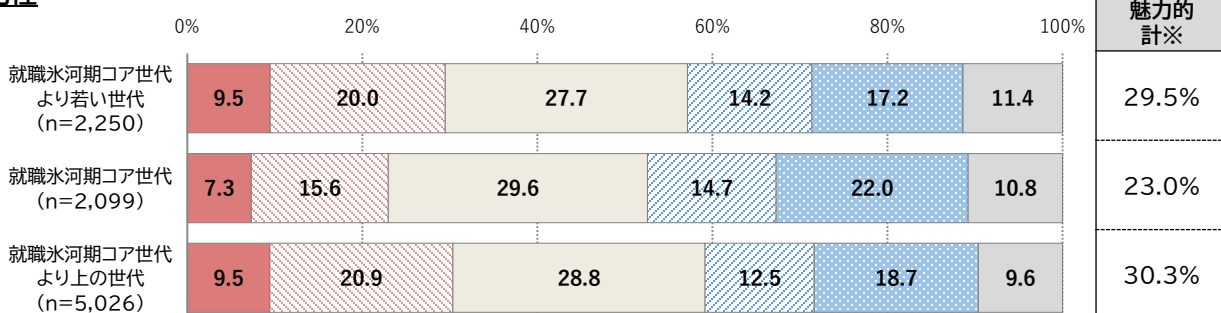
【実際に働いてみての魅力度】

※「魅力的」+「やや魅力的」の累計値

女性



男性



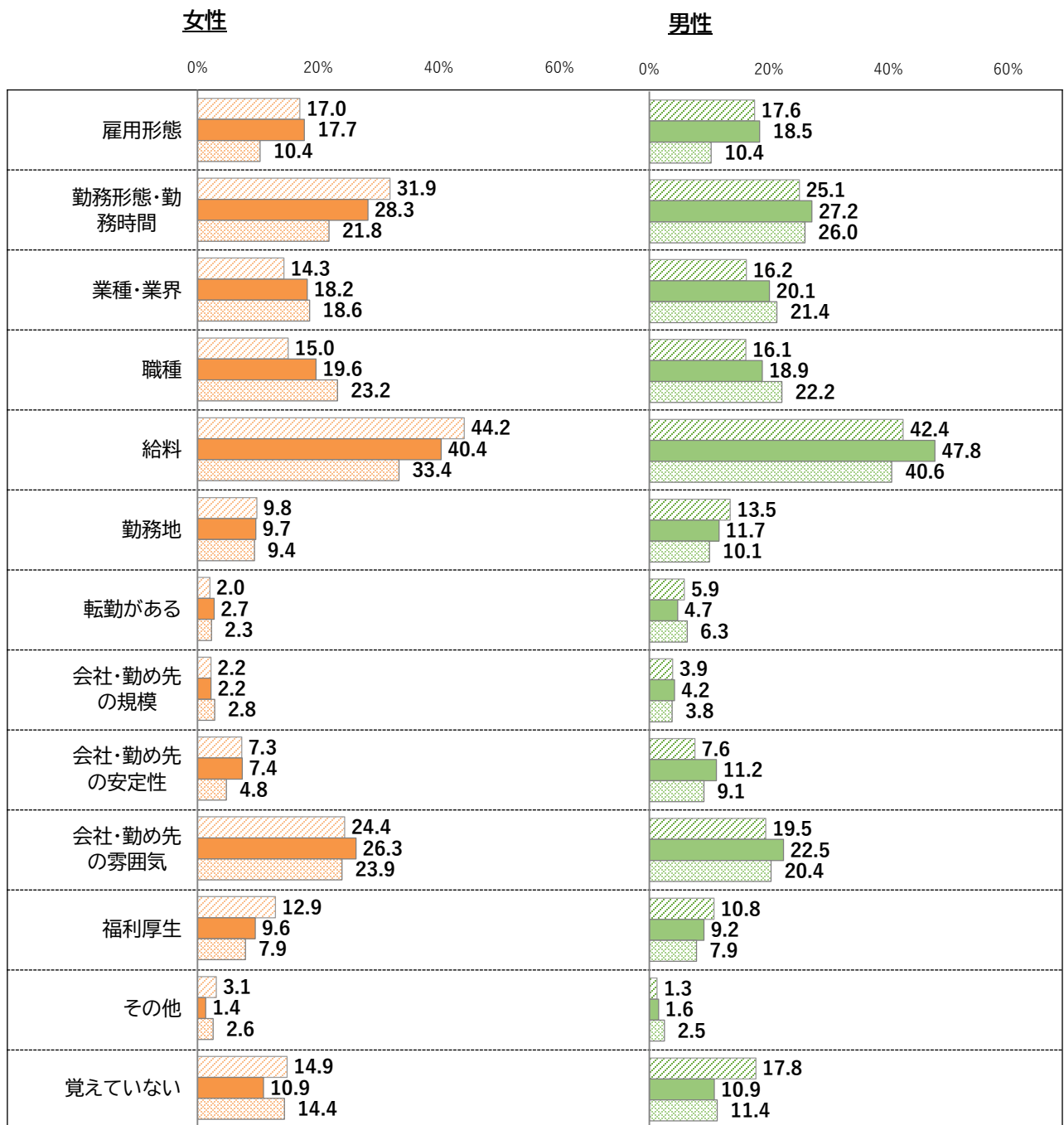
■魅力的 □やや魅力的 □どちらとも言えない □やや魅力的でない □魅力的でない □覚えていない

(7) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事で希望通りではなかった点

・初職が「希望通りでなかった～どちらとも言えない」と回答した人に対し、希望通りではなかった点を尋ねた。男女ともに、どの世代でも共通して「給料」が最も高く、その他では「会社・勤め先の雰囲気」「勤務形態・勤務時間」が高い。

・女性では、「給料」「勤務形態・勤務時間帯」「福利厚生」などの項目で、「就職氷河期コア世代より若い世代」が最も高い。一方で、男性では、「就職氷河期コア世代」が最も高い項目が多くなっており、「給料」は女性と比べ男性で、「コア世代」と「他世代(前後)」との差が大きい。

※最終学歴後について仕事の就職前の希望度について、「希望通りでない～どちらとも言えない」と回答した人が対象



■ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,131)
■ 就職氷河期コア世代(n=1,023)
■ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=2,322)

■ 就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,072)
■ 就職氷河期コア世代(n=1,158)
■ 就職氷河期コア世代より上の世代(n=2,473)

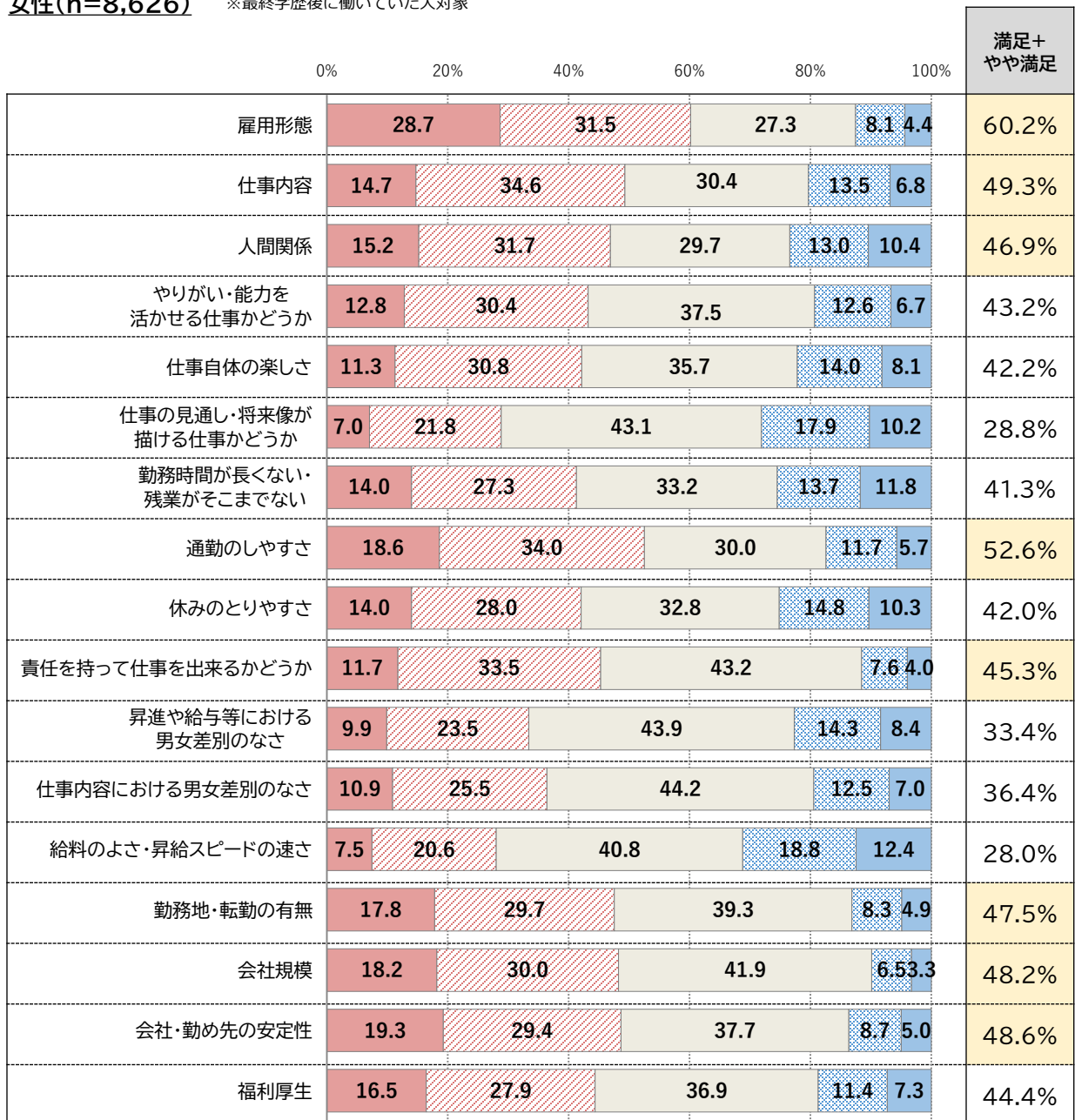
(8) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の満足度

- ・初職の仕事の満足度について、女性では「雇用形態」「通勤のしやすさ」で「満足+やや満足」の値が5割を超え、高い。
- ・一方で、満足度が低いのは、「給料のよさ・昇給スピードの速さ」が28.0%、「仕事の見通し・将来像が描ける仕事かどうか」が28.8%。

女性(n=8,626)

※最終学歴後に働いていた人対象

※45%を超える項目に色掛け



■ 満足 ▨ やや満足 □ どちらとも言えない ▨ やや不満 ■ 不満

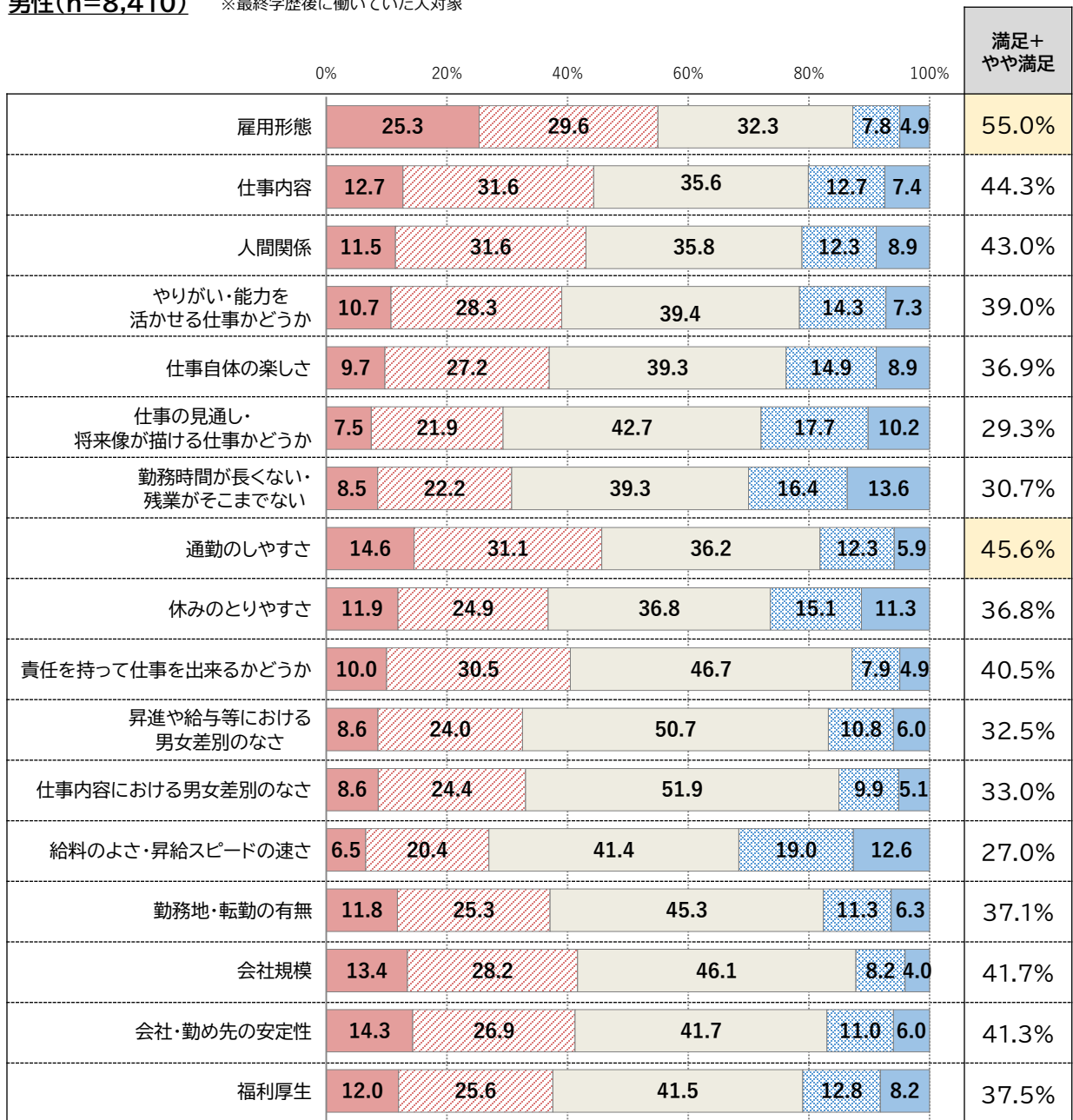
(8) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の満足度

- ・男性では、女性と同様「雇用形態」が最も高い項目であるが、前項の女性の値と比べると、男性は「満足+やや満足」の値が4割を下回る項目が多く、全体的に満足度は低い傾向。
- ・特に満足度が低いのは、「給料のよさ・昇給スピードの速さ」27.0%、「仕事の見通し・将来像が描ける仕事かどうか」29.3%と、3割を下回る。
- ・男女で差が見られるのは、「勤務時間が長くない・残業がそこまでない」「勤務地・転勤の有無」で、10%ポイント以上男性の満足度が下回る。

男性(n=8,410)

※最終学歴後に働いていた人対象

※45%を超える項目に色掛け



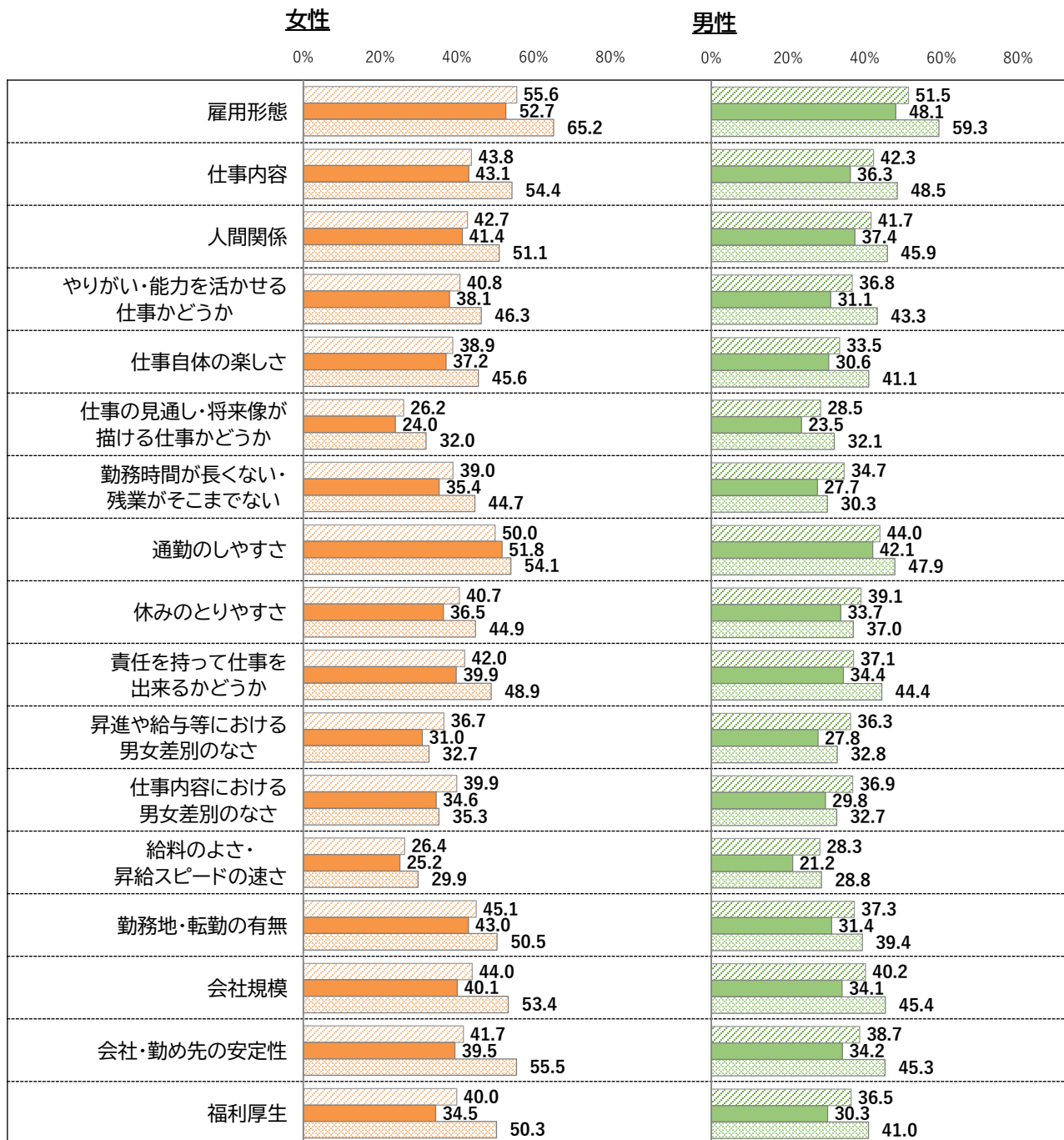
■ 満足 ▨ やや満足 □ どちらとも言えない ▤ やや不満 ■ 不満

(8) 初職をめぐる状況 最終学歴後について仕事の満足度

・男女別・世代別に見ると、男女ともに「就職氷河期コア世代より上の世代」で初職の満足度は高い傾向にあり、「上の世代」の男女でともに最も高いのは「雇用形態」で6割前後、次いで「仕事内容」「通勤のしやすさ」が高い。

・「就職氷河期コア世代」と「コア世代より若い世代」を比較すると、女性では「昇進や給与等における男女差別のなさ」「仕事内容における男女差別のなさ」「福利厚生」で差が見られる。同様に男性では、「勤務時間が長くない・残業がそこまでない」「昇進や給与等における男女差別のなさ」「仕事内容における男女差別のなさ」「給料のよさ・昇給スピードの速さ」「福利厚生」等で差が見られる。

男女別・世代別(満足+やや満足の値を掲載)



就職氷河期コア世代より若い世代(n=2,248)
 就職氷河期コア世代(n=1,771)
 就職氷河期コア世代より上の世代(n=4,607)

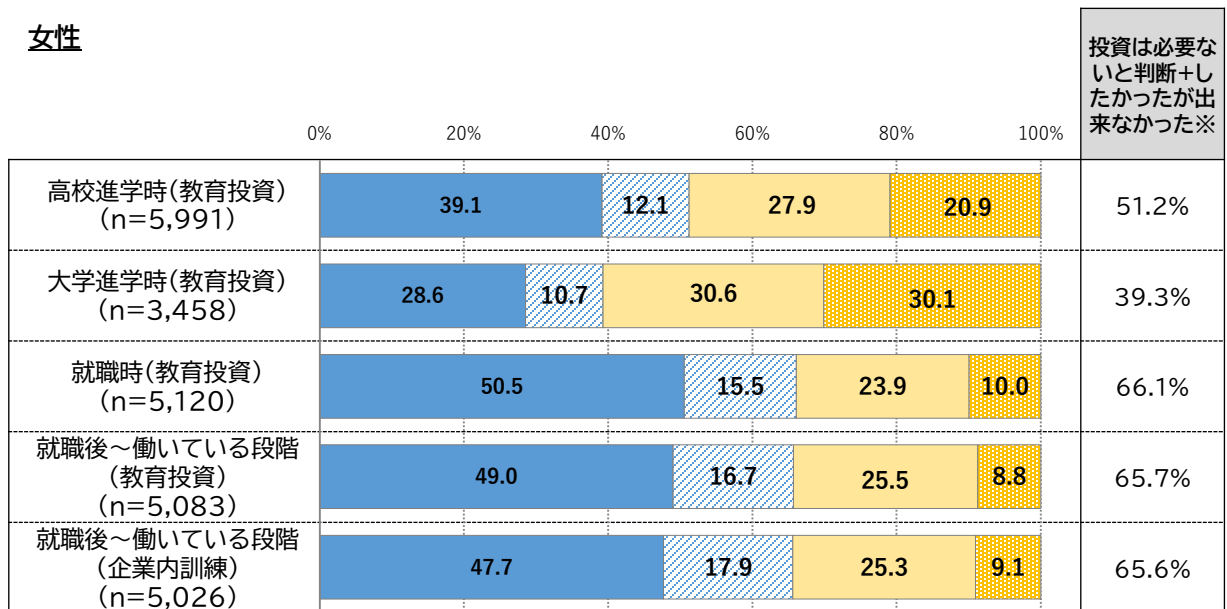
就職氷河期コア世代より若い世代(n=1,994)
 就職氷河期コア世代(n=1,873)
 就職氷河期コア世代より上の世代(n=4,543)

(9) 教育投資・企業内訓練についての現状

・教育投資・企業内訓練について、女性では「投資は必要ないと判断+したかったが出来なかった」の計が、「就職時」で66.1%に対し、男性では60.1%と差が見られる。同様に、「就職後～働いている段階(教育投資・企業内訓練)」でも女性の方が男性より10%ポイント以上値が低い。

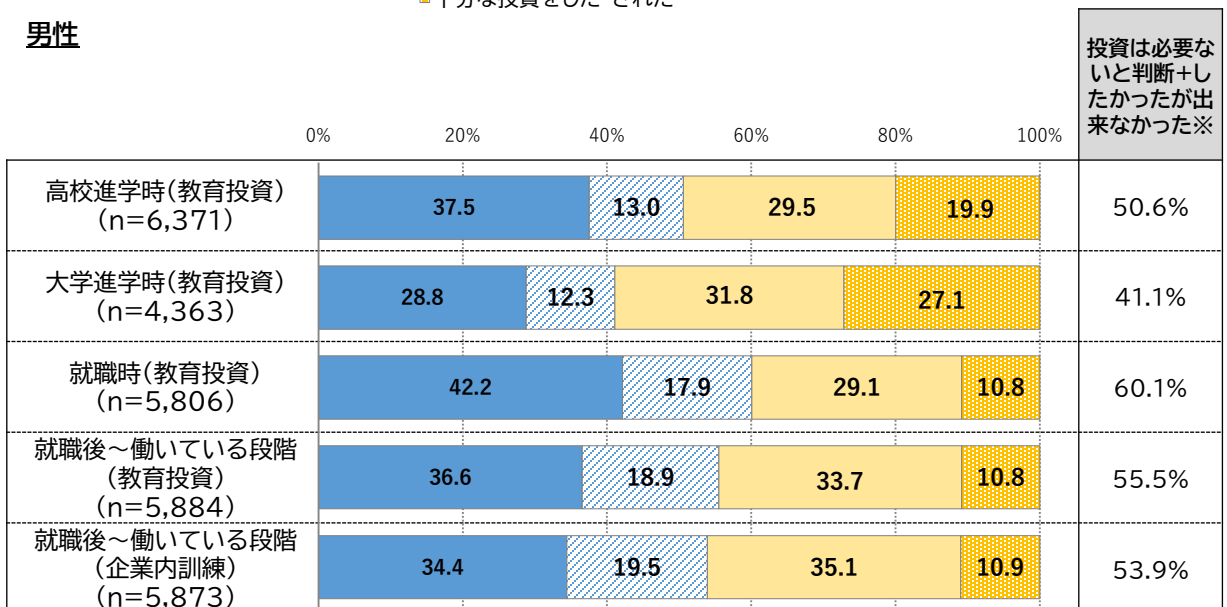
※「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」+「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」の累計値
 ※「該当しない」は除外して集計

女性



- 投資は必要ないと判断し、していない・なかった
- ▨ 投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった
- ある程度投資をした・された
- 十分な投資をした・された

男性



- 投資は必要ないと判断し、していない・なかった
- ▨ 投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった
- ある程度投資をした・された
- 十分な投資をした・された

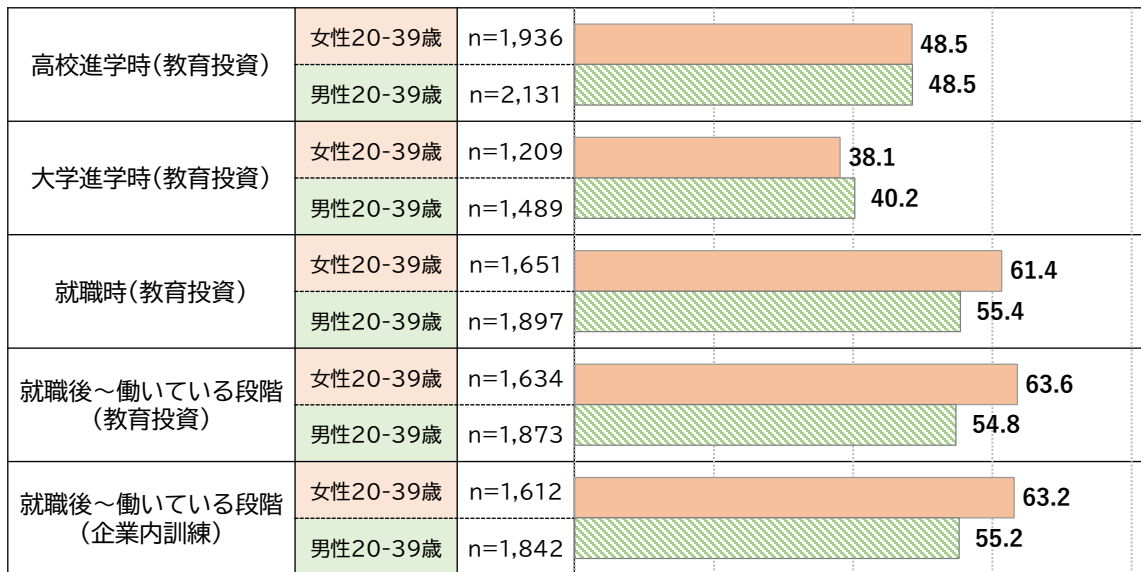
(9) 教育投資・企業内訓練についての現状

- ・高校進学時～就職後までの各段階における、教育投資・企業内訓練について聞いた(値は全て、「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」+「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」の累計値)。
- ・男女別・年代別に見ると、男女ともに「20-39歳」に比べ「40-69歳」の方がどの項目においても高い傾向。
- ・40-69歳の男女を比較すると、「就職後～働いている段階(企業内訓練)」において女性が66.8%、男性が53.3%と、その差が大きい。

20-39歳 男女比較

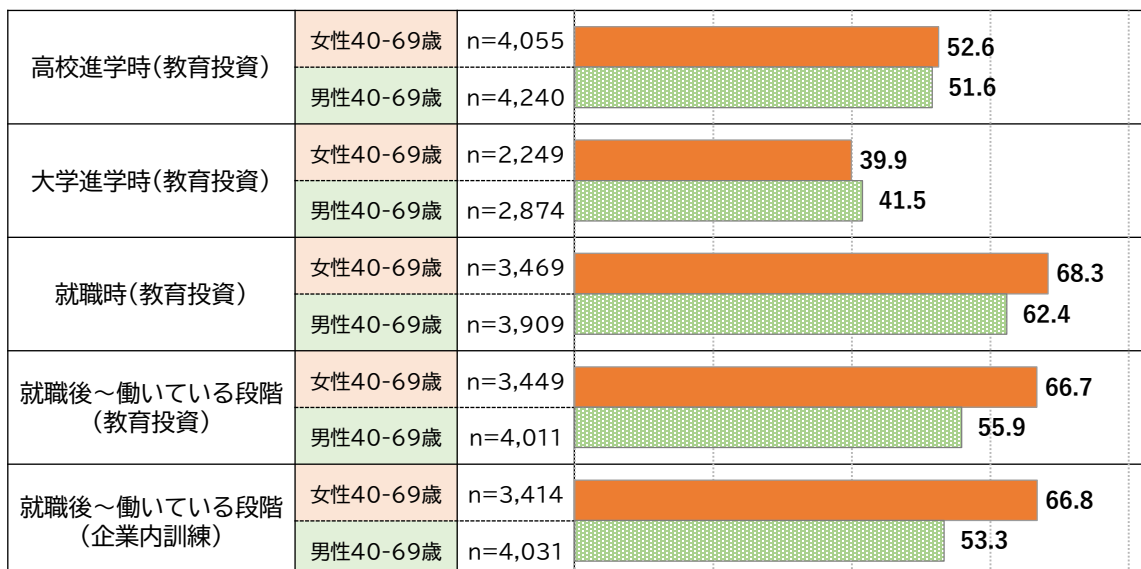
※「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」+
「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」の累計値の値を掲載

0% 20% 40% 60% 80%



40-69歳 男女比較

0% 20% 40% 60% 80%



(10) 就職後～働いている段階での教育投資・企業内訓練が必要ない・出来なかった理由

- ・20-39歳の男女を比較すると、男女ともに最も高いのは「教育投資が必要な仕事ではなかったから」で約36%。男女で差が見られ、女性の方が高い項目は、「ずっと働く訳ではないと思ったから」。
- ・40-69歳の男女を比較すると、「教育投資が必要な仕事ではなかったから」が特に女性で高く44.4%。また、男女で差が見られ、女性の方が高い項目は、20-39歳と同様「ずっと働く訳ではないと思ったから」。

※「投資は必要ないと判断し、していない・なかった」「投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった」と回答した人が対象



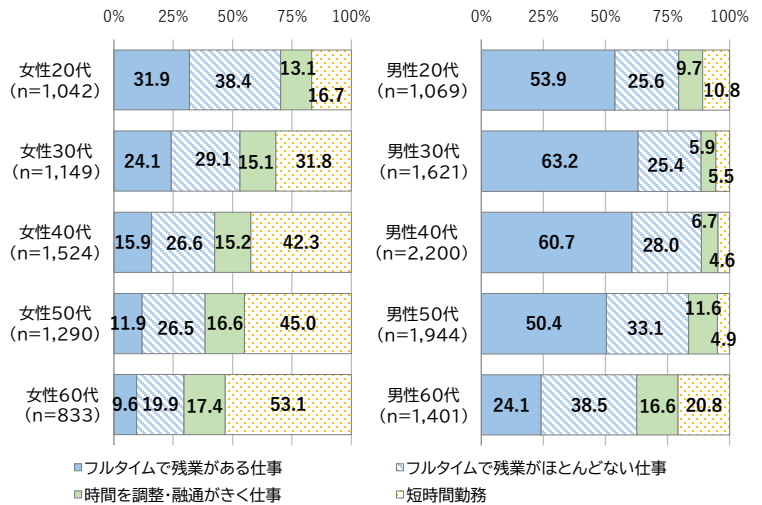
調査結果まとめ

◆現職の状況

1 女性は20代で「正規雇用」の割合が最も高く、以降は減少。「非正規雇用」の割合は「40代」で最も高い。一方で男性は30-50代で「正規雇用」が7~8割、「非正規雇用」は約1割。

2 正規雇用比率に比例して、男性では「フルタイム(残業有)」が50代以下で5割超も、女性では年齢が上がるほど「短時間勤務」の割合が上昇。また「フルタイム(残業有)」比率も低い。

	正規雇用	非正規雇用
女性20代(n=1,532)	42.0%	23.8%
女性30代(n=1,811)	31.1%	28.3%
女性40代(n=2,392)	21.7%	37.5%
女性50代(n=2,204)	16.4%	35.9%
女性60代(n=2,140)	8.2%	25.0%
男性20代(n=1,546)	51.1%	13.8%
男性30代(n=1,810)	72.4%	11.0%
男性40代(n=2,389)	75.3%	8.7%
男性50代(n=2,159)	69.3%	9.0%
男性60代(n=2,017)	30.3%	25.1%

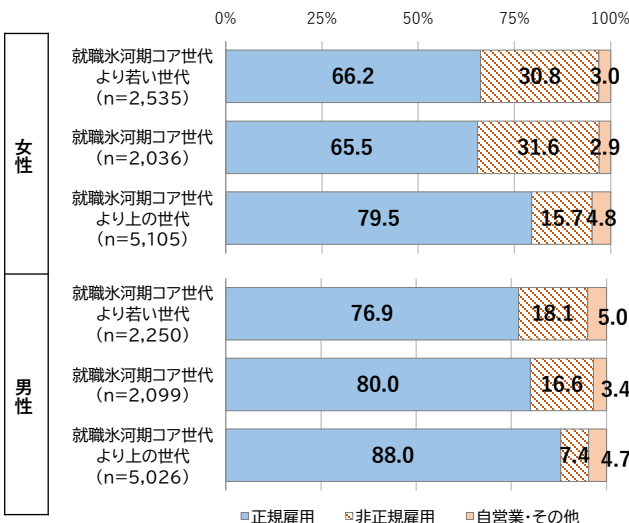


◆就職氷河期コア世代について、初職をめぐる状況

1 最終学歴後についた初職は、「就職氷河期コア世代より上の世代」で「正規雇用」の割合が最も高い。「就職氷河期コア世代」以降は、「女性」7割弱、「男性」8割弱で同程度。

2 初職の企業規模は、男女ともに「氷河期より上の世代」で「1,000名以上」の企業が多く、それ以降の世代では「100名以下」の割合が高まる。

3 初職の勤続年数が「3年以下」の割合は、「コア世代女性」で44%(上の世代38%)、「コア世代男性」で28%(上の世代21%)と、コア世代の方が3年以下離職率が高い。



		企業規模	
		100名未満	1,000名以上
女性	若い世代(n=2,459)	37.3%	17.1%
	コア世代(n=1,976)	40.1%	13.6%
	上の世代(n=4,859)	32.2%	24.9%
男性	若い世代(n=2,138)	32.0%	23.4%
	コア世代(n=2,028)	33.9%	23.3%
	上の世代(n=4,791)	27.6%	31.8%

調査結果まとめ

◆就職氷河期コア世代の初職の希望度・働いての魅力度

- 1 就職前に感じていた「仕事への希望度(希望通りだったか)」は男女ともに「コア世代」で低く、女性35%、男性33%。他世代では男女ともに4割前後。
- 2 初職が希望通りでなかった点は、男女ともに「給料」「勤務形態・時間」「会社の雰囲気」が高いのは共通も、「給料」については、男性でより「希望通りではない」値が高い。
- 3 「コア世代より若い世代」では、初職が非正規雇用であっても「希望通り」とする割合が「コア世代」と比べ高く、「非正規=消極的な選択」と捉えていない人もいると推測。

初職が非正規雇用		就職前希望通りだったか(希望通り計)	働いてみて魅力的だったか(魅力的計)
女性	若い世代(n=782)	29.3%	22.8%
	コア世代(n=643)	23.3%	22.1%
男性	若い世代(n=407)	26.5%	23.3%
	コア世代(n=348)	16.4%	14.1%

- 初職が非正規雇用の人を見ると、「コア世代」については、「就職前希望通りだったか」の値は「若い世代」と比べて女性では6%ポイント程度低く、男性では10%ポイント低いことから、「希望通りでなく、非正規雇用にならざるを得なかった」人が一定数いると考えられる。
- 反対に、「若い世代」では、職業の幅も広がる現状の中、「非正規雇用も選択肢の1つ」と前向きに捉えている人が含まれていると推測される。

◆初職の満足度

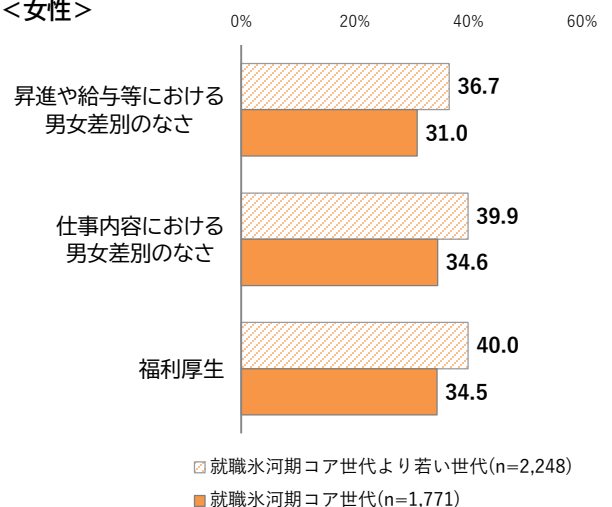
- 1 男女ともに「雇用形態」「通勤のしやすさ」の満足度が高いのは共通。女性に比べ男性は、「勤務時間が長くない・残業がそこまでない」「勤務地・転勤有無」の満足度が低い。
- 2 「就職氷河期コア世代」は男女とも、他世代と比べ各要素に対する満足度は低い。「コア世代より若い世代」と比較すると、女性では「昇進や給与等における男女差別のなさ」「仕事内容における男女差別のなさ」の満足度が低い。

- 初職で働いてみての満足度は、「勤務時間の長さ」「勤務地・転勤の有無」など、「働き方」の点で男女の差が見られ、男性でより満足度が低い。コア世代より若い世代では、給与や仕事面での「女性」ならではの差別はやや改善の傾向が見られた。

【働いてみての満足度】

	女性 (n=8,626)	男性 (n=8,410)
雇用形態	60.2%	55.0%
仕事内容	49.3%	44.3%
人間関係	46.9%	43.0%
勤務時間が長くない・ 残業がそこまで多くない	41.3%	30.7%
勤務地・転勤の有無	47.5%	37.1%
会社規模	48.2%	41.7%
会社・勤め先の安定性	48.6%	41.3%

<女性>



4. 結婚・子供を持つ事と働き方

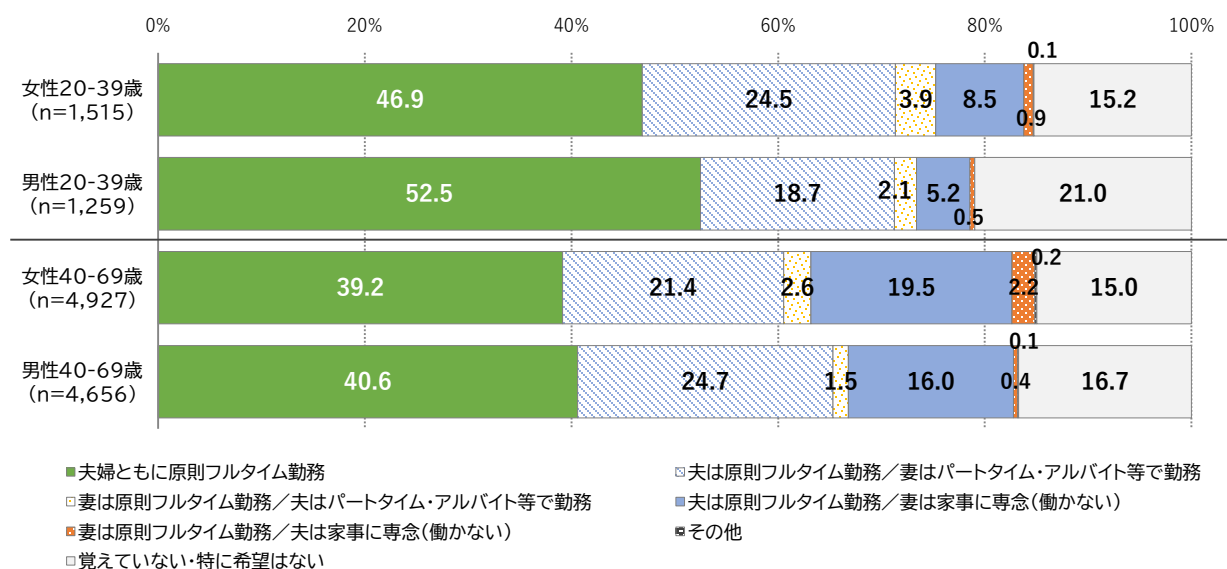
(1) 結婚後の自分と配偶者の仕事 理想と現実 ※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・結婚後の自分と配偶者の仕事について、既婚者の「理想」では、男女ともにどの年代も「夫婦ともに原則フルタイム勤務」が最も高く、特に「男性20-39歳」で52.5%、「女性20-39歳」で46.9%と高い。続いて、「夫は原則フルタイム勤務/妻はパートタイム・アルバイト等で勤務」。

・既婚者の「現実」についても、男女ともにどの年代でも「夫婦ともに原則フルタイム勤務」が最も高いが、「現実」の割合が「理想」よりも5%ポイント以上下がる。逆に「現実」の割合の方が「理想」に比べ高い項目(5%ポイント以上)は、「夫は原則フルタイム勤務/妻は家事に専念(働かない)」。

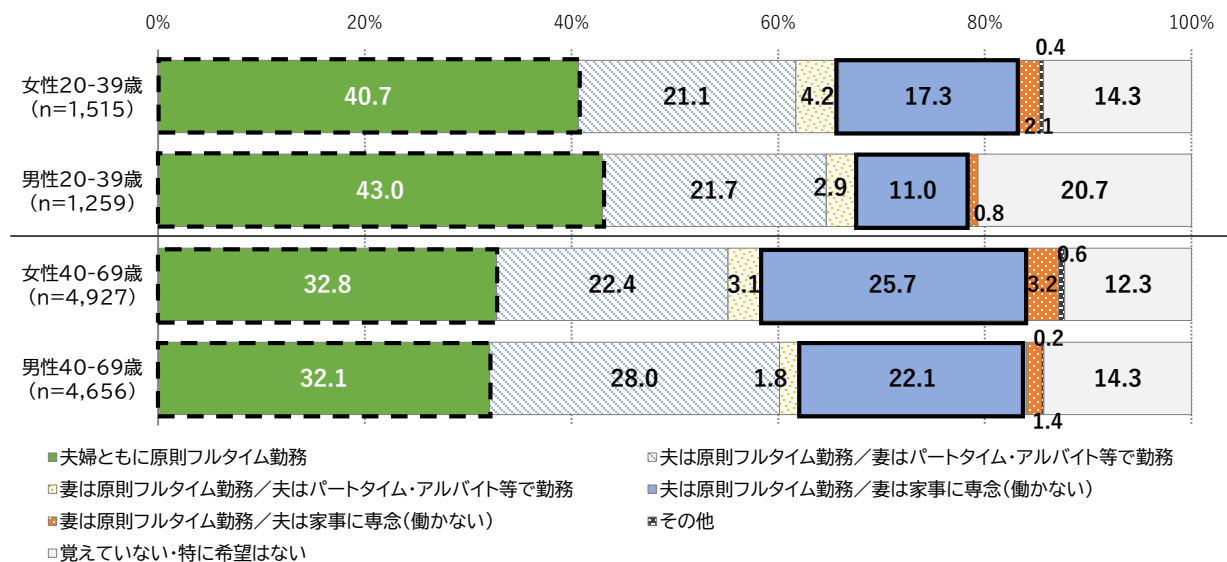
既婚

【結婚後の自分と配偶者の仕事について望む形(理想)】



【結婚後の自分と配偶者の仕事についての実際の形(現実)】

※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目
 黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目



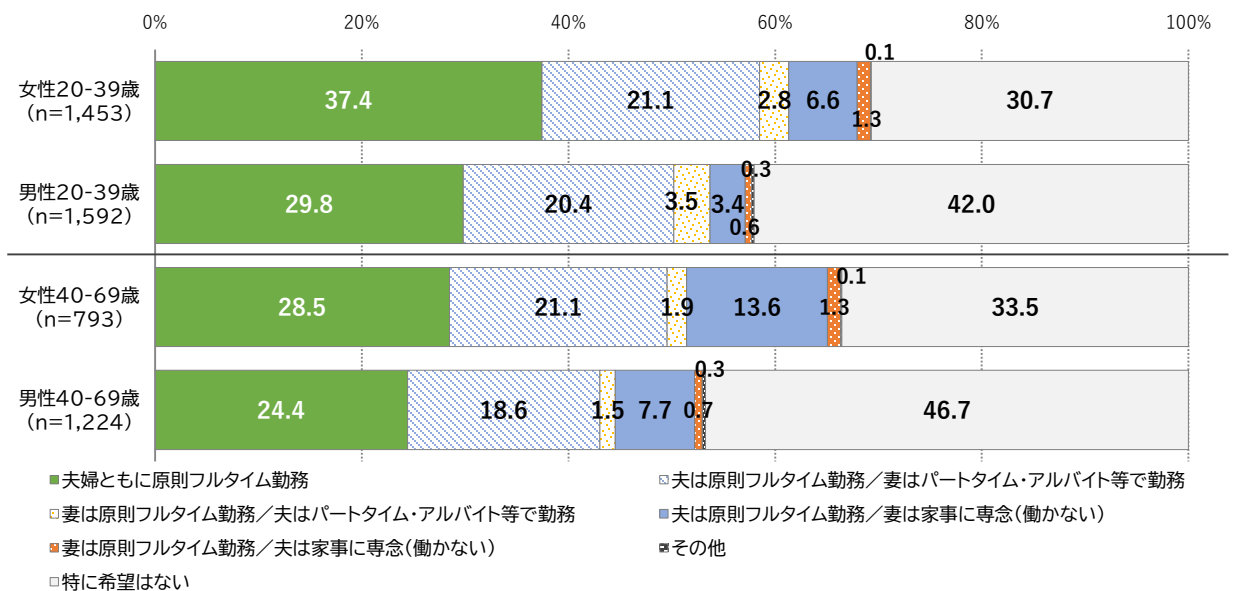
(1) 結婚後の自分と配偶者の仕事理想

※結婚後（初婚） 子供がない時を想定

・結婚後の自分と配偶者の仕事について、独身で結婚意思がある人の「理想」では、「特に希望はない」を除いて最も高い項目は、男女ともにどの年代でも「夫婦ともに原則フルタイム勤務」。

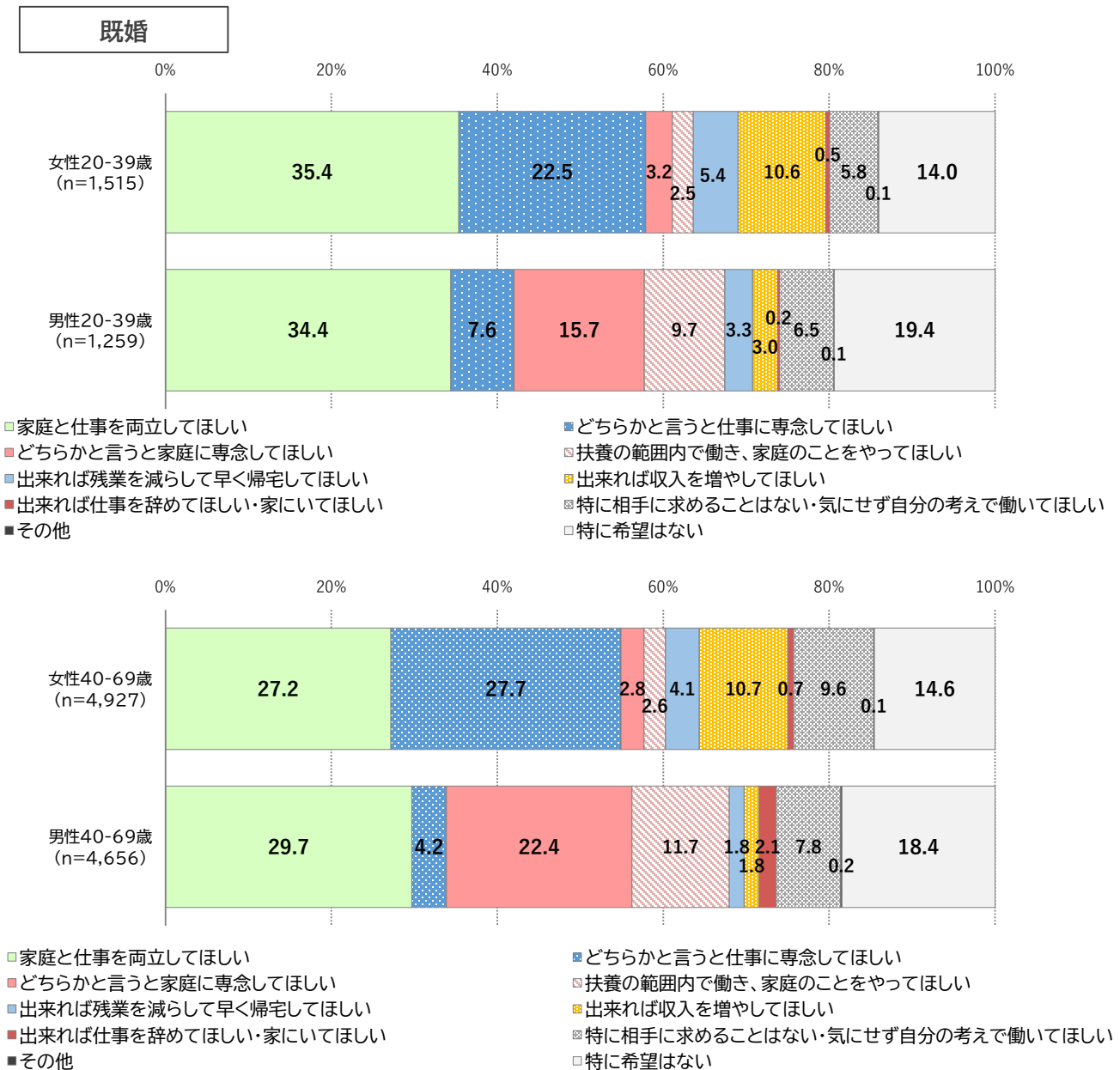
独身・結婚意思あり

【結婚後の自分と配偶者の仕事について望む形(理想)】



(2) 結婚後の配偶者の働き方への望み(どう思っていたか) ※結婚後(初婚) 子供がいない時を想定

・既婚者の「配偶者の働き方への望み(どう思っていたか)」については、まず20-39歳で見ると、「家庭と仕事を両立してほしい」が男女とも最も高い。女性では「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が22.5%、男性では「特に希望はない」が19.4%、「どちらかと言うと家庭に専念してほしい」が15.7%。
 ・40-69歳では、女性で「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が27.7%、「家庭と仕事を両立してほしい」が27.2%。男性で「家庭と仕事を両立してほしい」が29.7%、「どちらかと言うと家庭に専念してほしい」が22.4%。



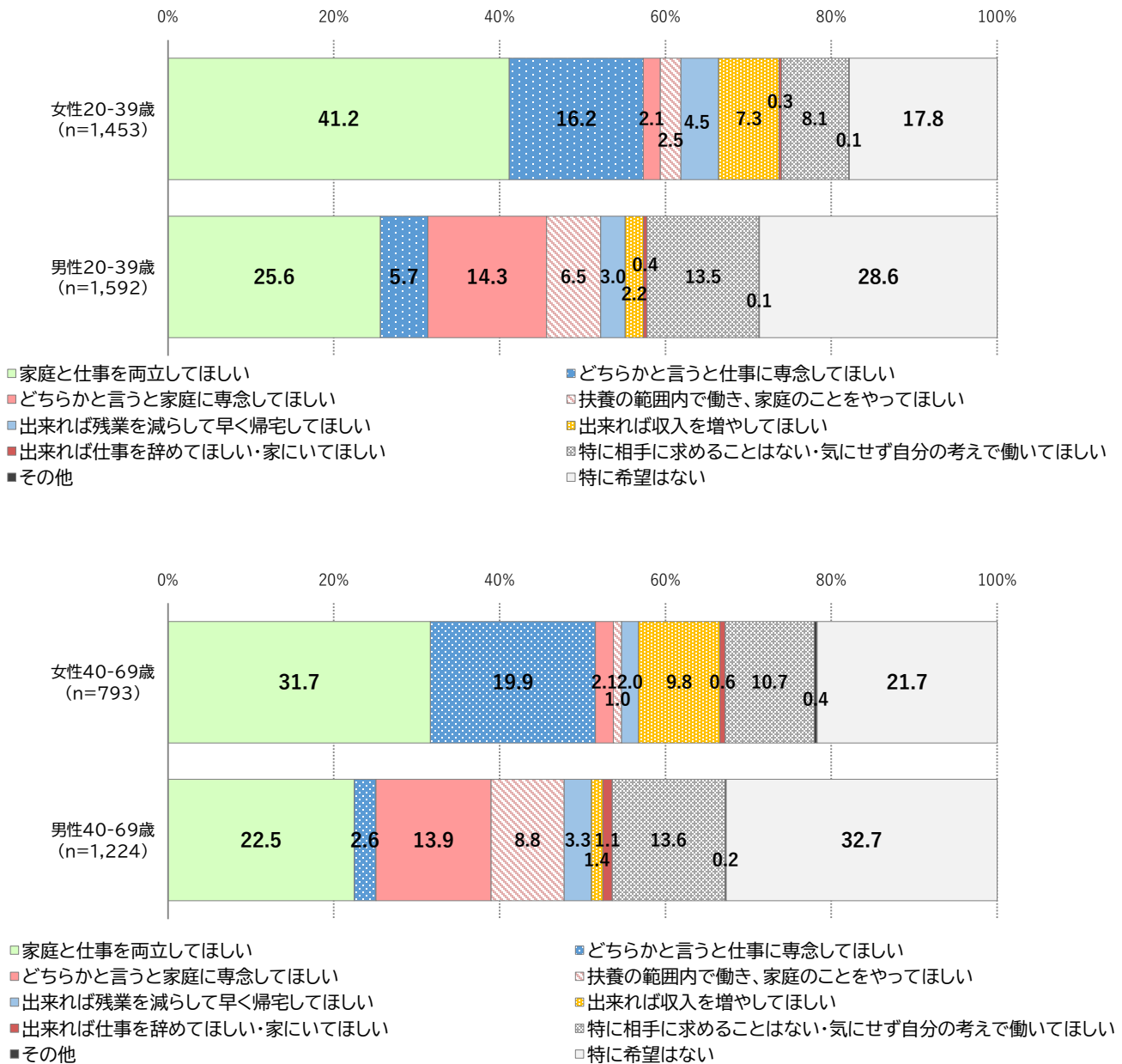
(2) 結婚後の配偶者の働き方への望み・どう思っていたか

※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・独身で結婚意思がある人の「配偶者の働き方への望み」については、20-39歳を見てみると、女性では「家庭と仕事を両立してほしい」41.2%が最も高い。男性では、「特に希望はない」が28.6%、次に「家庭と仕事を両立してほしい」が25.6%。

・40-69歳を見てみると、女性では「家庭と仕事を両立してほしい」が31.7%、「特に希望はない」が21.7%。男性では、「特に希望はない」が32.7%、「家庭と仕事を両立してほしい」が22.5%。

独身・結婚意思あり

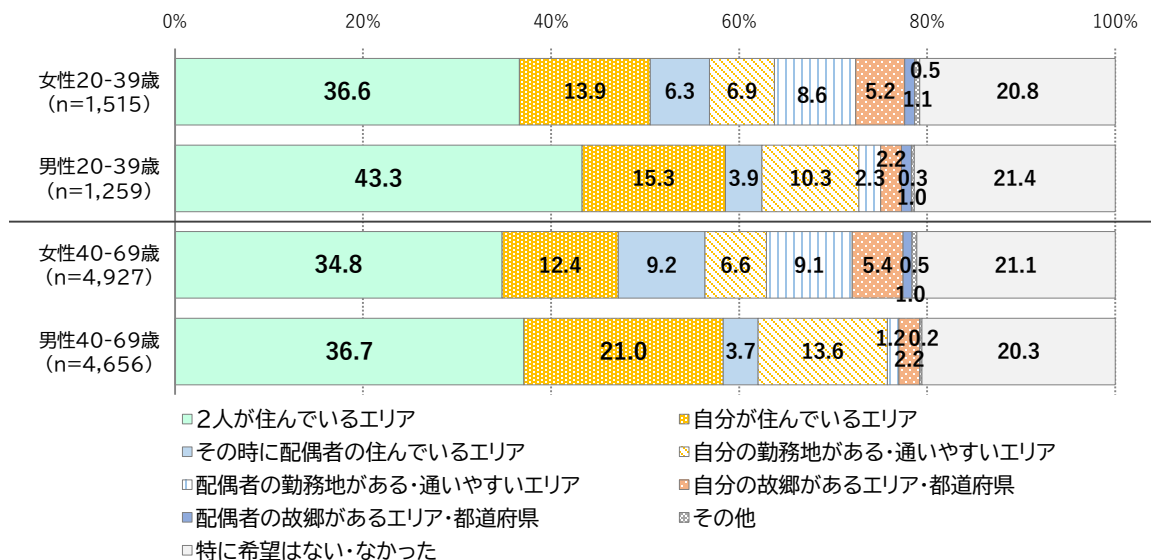


(3) 結婚後の居住地 理想と現実 ※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

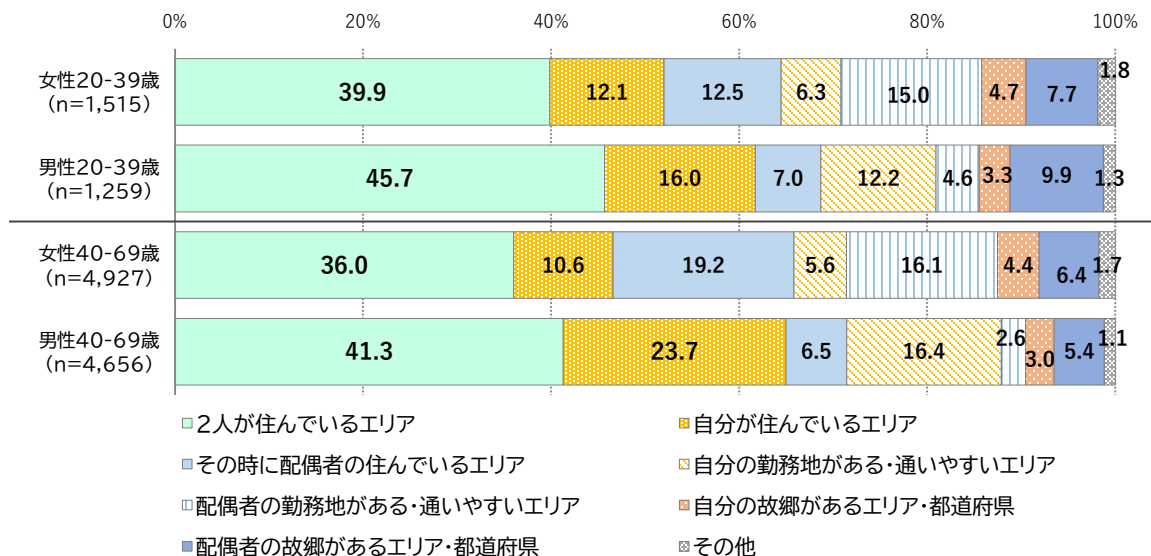
- ・既婚者の「結婚後の居住地の理想」については、男女ともにどの年代でも「2人が住んでいるエリア」が最も高い。
- ・既婚者の「結婚後の居住地が実際どうだったか(現実)」についても、男女ともにどの年代でも「2人が住んでいるエリア」が最も高い。
- ・「理想」と「現実」ともに、40-69歳男性で、「自分が住んでいるエリア」の割合が、他の年代や女性に比べてやや高い。

既婚

【理想の居住地】



【実際にどうだったか(現実)】

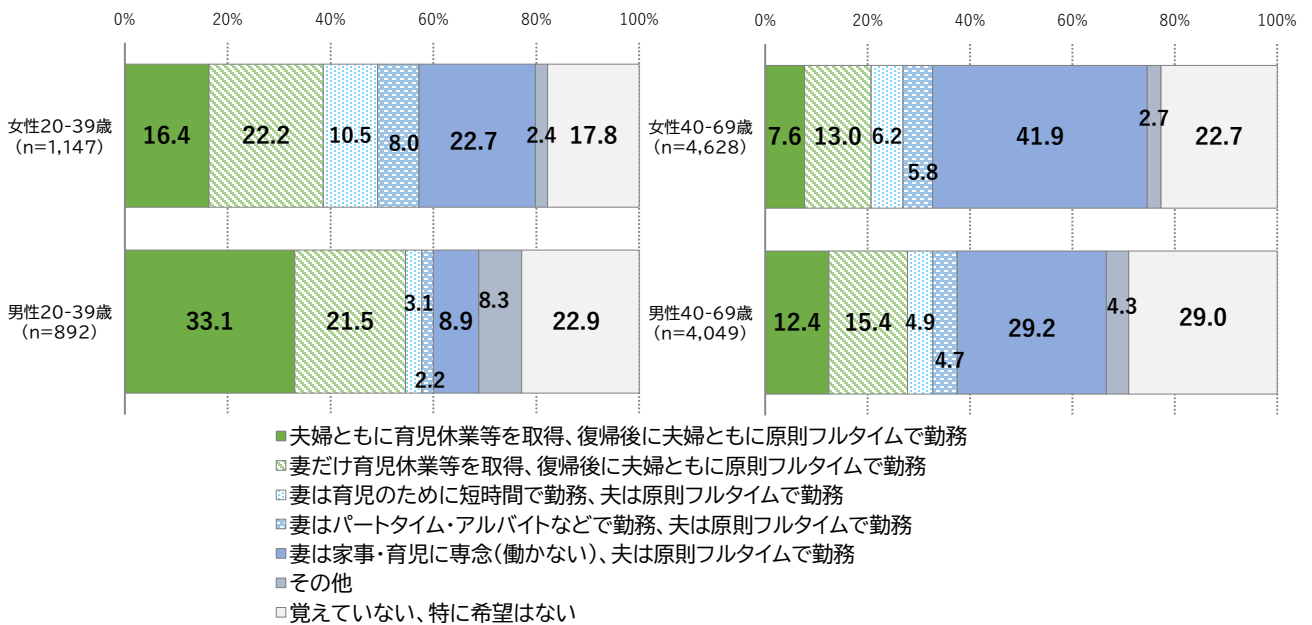


(4) 第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事 理想と現実 ※第一子が生まれてから、子供が2~3歳のころを想定

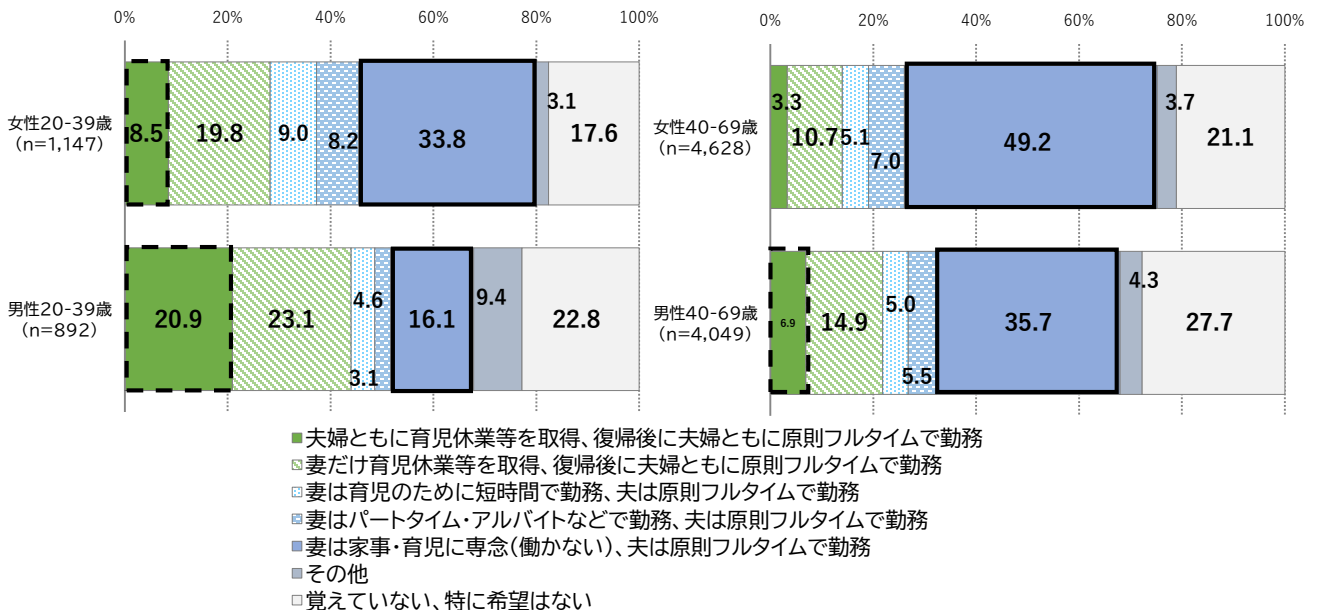
・第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事について、子供がいる人の「理想」では、20-39歳男性以外では「妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイム勤務」が最も高く、20-39歳女性で22.7%、40-69歳女性で41.9%、40-69歳男性で29.2%。一方、20-39歳男性では、「夫婦ともに育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務」が最も高く、33.1%。
 ・「実際どうだったか(現実)」については、男女ともに全ての年代で、「理想」に対して「現実」の割合の方が5%ポイント以上高い項目は、「妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイム勤務」。

子供がいる

【理想の配偶者の仕事の形】



【実際にどうだったか(現実)】



※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目
 黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目

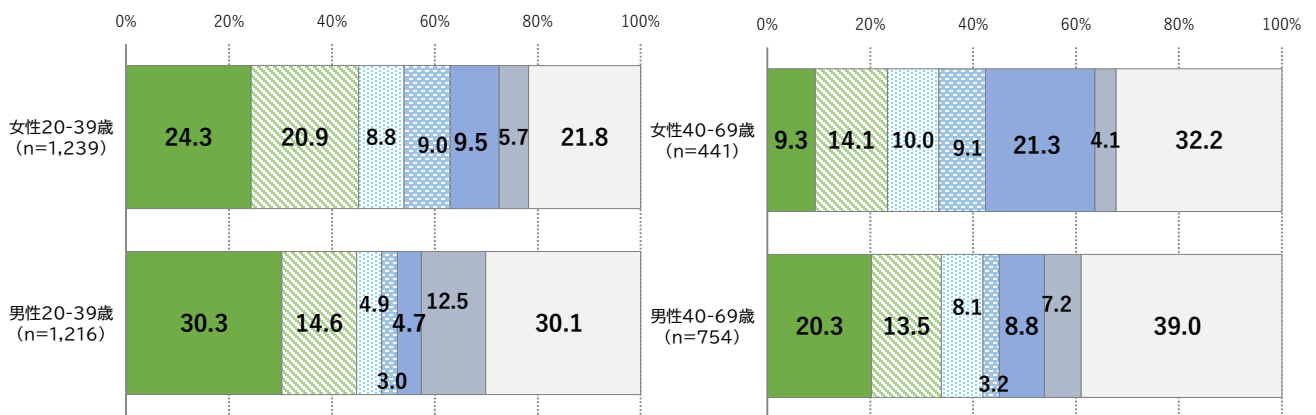
(4) 第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事 理想

※第一子が生まれてから、子供が2～3歳のころを想定

- ・第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事について、子供がいない人で今後子供を持つ意思がある人の「理想」では、男女とも40-69歳では、「特に希望はない」が3割以上と最も高い。
- ・20-39歳では、男女とも「夫婦ともに育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務」が最も高い。

子供がいない・子供を持つ意思あり

【理想の配偶者の仕事の形】



- 夫婦ともに育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務
- ▨ 妻だけ育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務
- ▩ 妻は育児のために短時間で勤務、夫は原則フルタイムで勤務
- ▧ 妻はパートタイム・アルバイトなどで勤務、夫は原則フルタイムで勤務
- 妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイムで勤務
- その他
- 特に希望はない

(4) 第一子が生まれた後の自分と配偶者の仕事 理想と現実 ※第一子が生まれてから、子供が2～3歳のころを想定

子供がいる

		夫婦ともに育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	妻だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫婦ともに育児のために短時間で勤務	妻は育児のために短時間で勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫は育児のために短時間で勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻はパートタイム・アルバイトなどで勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫はパートタイム・アルバイトなどで勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイムで勤務	夫は家事・育児に専念(働かない)、妻は原則フルタイムで勤務	その他	覚えていない、特に希望はない
理想	女性20-39歳 (n=1,147)	16.4	22.2	0.6	0.9	10.5	0.1	8.0	0.1	22.7	0.5	0.2	17.8
	男性20-39歳 (n=892)	33.1	21.5	5.7	1.9	3.1	0.2	2.2	0.2	8.9	0.1	0.1	22.9
	女性40-69歳 (n=4,628)	7.6	13.0	0.4	0.6	6.2	0.2	5.8	0.2	41.9	0.8	0.5	22.7
	男性40-69歳 (n=4,049)	12.4	15.4	2.4	0.6	4.9	0.3	4.7	0.2	29.2	0.5	0.2	29.0
現実	女性20-39歳 (n=1,147)	8.5	19.8	0.7	0.6	9.0	0.1	8.2	0.2	33.8	0.5	1.0	17.6
	男性20-39歳 (n=892)	20.9	23.1	6.5	1.2	4.6	0.4	3.1	0.1	16.1	0.3	0.8	22.8
	女性40-69歳 (n=4,628)	3.3	10.7	0.4	0.3	5.1	0.2	7.0	0.2	49.2	1.1	1.4	21.1
	男性40-69歳 (n=4,049)	6.9	14.8	2.1	0.5	5.0	0.2	5.5	0.4	35.7	0.7	0.4	27.7

子供がいない・子供を持つ意思あり

		夫婦ともに育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	妻だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫だけ育児休業等取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	夫婦ともに育児のために短時間で勤務	妻は育児のために短時間で勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫は育児のために短時間で勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻はパートタイム・アルバイトなどで勤務、夫は原則フルタイムで勤務	夫はパートタイム・アルバイトなどで勤務、妻は原則フルタイムで勤務	妻は家事・育児に専念(働かない)、夫は原則フルタイムで勤務	夫は家事・育児に専念(働かない)、妻は原則フルタイムで勤務	その他	覚えていない、特に希望はない
理想	女性20-39歳 (n=1,239)	24.3	20.9	1.6	2.9	8.8	0.4	9.0	0.2	9.5	0.5	0.1	21.8
	男性20-39歳 (n=1,216)	30.3	14.6	5.1	5.2	4.9	1.3	3.0	0.4	4.7	0.3	0.2	30.1
	女性40-69歳 (n=441)	9.3	14.1	0.5	1.8	10.0	0.5	9.1	0.2	21.3	0.0	1.1	32.2
	男性40-69歳 (n=754)	20.3	13.5	2.4	3.2	8.1	0.7	3.2	0.1	8.8	0.4	0.4	39.0

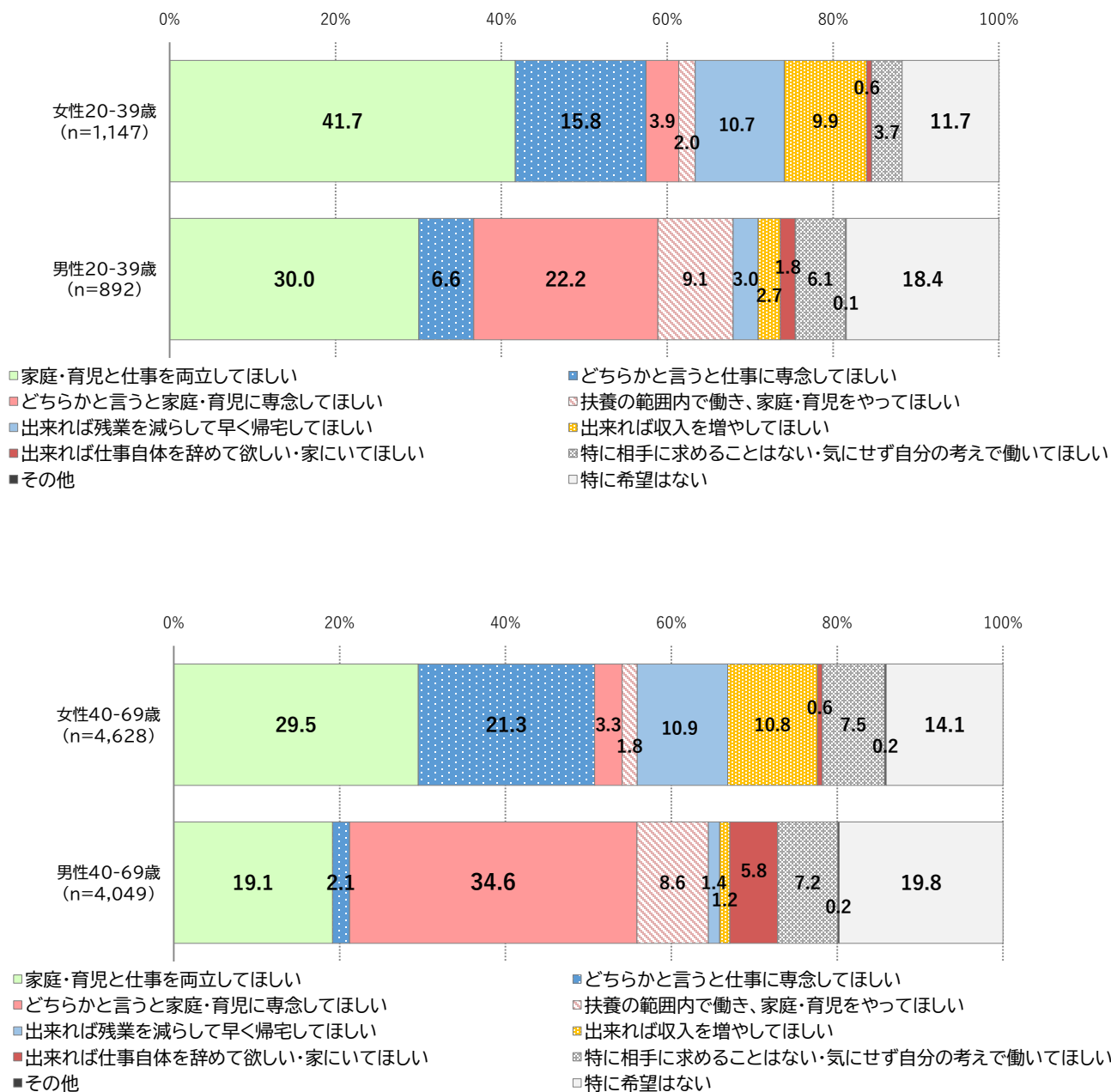
(5) 第一子が生まれた後の配偶者の働き方への望み(どう思っていたか)

※第一子が生まれてから、
子供が2〜3歳のころを想定

・第一子が生まれた後の「配偶者への働き方への望み(どう思っていたか)」については、まず20-39歳で見ると、「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が男女とも最も高い。次に、女性では「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が15.8%、男性では「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が22.2%。

・40-69歳を見てみると、女性では、「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が29.5%、「どちらかと言うと仕事に専念してほしい」が21.3%。男性は、「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が34.6%と3割を超える。

子供がいる



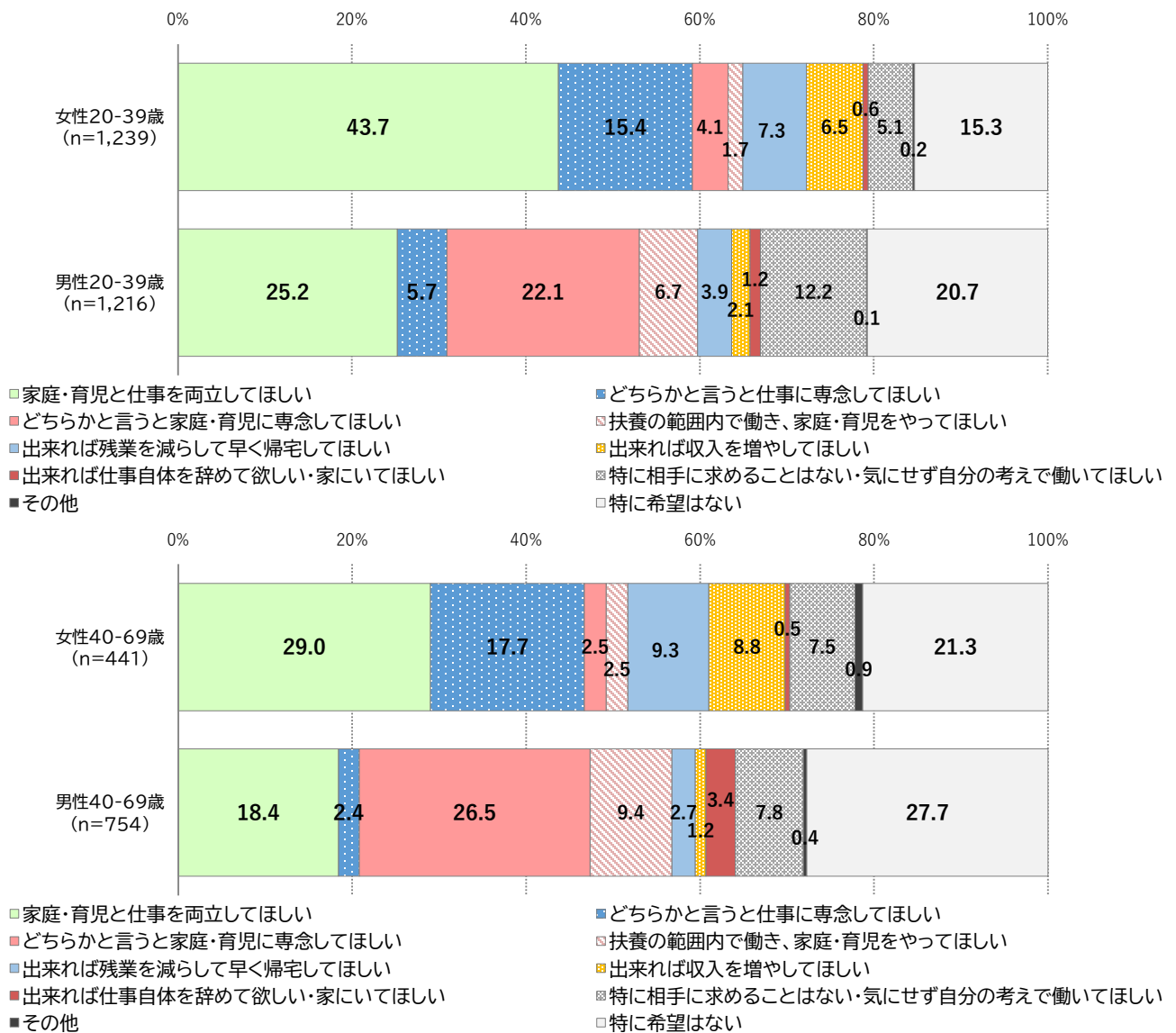
(5) 第一子が生まれた後の配偶者の働き方への望み(理想)

※第一子が生まれてから、
子供が2~3歳のころを想定

・子供がいない人で今後子供を持つ意思がある人の、第一子が生まれた後の「配偶者への働き方への望み(理想)」については、まず20-39歳で見ると、女性では「家庭・育児と仕事を両立してほしい」43.7%が最も高い。男性でも「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が最も高いが、25.2%と同年代の女性と比べると10%ポイント以上低く、次に「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が22.1%。

・40-69歳で見ると、女性では、「家庭・育児と仕事を両立してほしい」が29.0%、「特に希望はない」が21.3%。男性は、「特に希望はない」が27.7%、「どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい」が26.5%。

子供がいない・子供を持つ意思あり



調査結果まとめ

◆結婚・子供を持つ事と働き方における、「理想」と「現実」のギャップ

- 1 結婚後、また第一子が生まれた後の段階でも、既婚者の「理想」よりも、「現実」で増えているのは「**夫はフルタイム、妻は家事に専念(働かない)**」。
- 2 逆に、「理想」に対して「現実」の値が下回っている⇨そうしたいと思っていたが、思っていたより出来なかったものは、「**夫婦ともに原則フルタイム**」。
- 3 「**夫婦ともにフルタイム**」を望んでいるのは、既婚者では女性よりも**男性**が多い。一方、**家事や育児に専念**することを望んでいるのは、**女性**が多い(特に第一子出産後)。

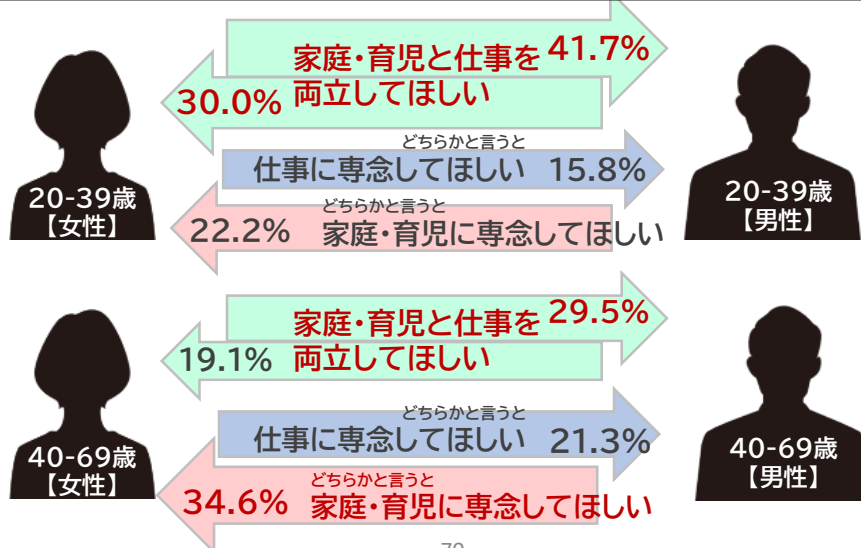
・結婚後の自分と配偶者の仕事について 理想と現実 (選択肢抜粋)

対象者区分			夫婦ともに原則フルタイム		夫はフルタイム妻は家事に専念(働かない)	
			理想	現実	理想	現実
既婚	20-39歳	女性	46.9%	40.7%	8.5%	17.3%
		男性	52.5%	43.0%	5.2%	11.0%
	40-69歳	女性	39.2%	32.8%	19.5%	25.7%
		男性	40.6%	32.1%	16.0%	22.1%
单身	20-39歳	女性	37.4%		6.6%	
		男性	29.8%		3.4%	
	40-69歳	女性	28.5%		13.6%	
		男性	24.4%		7.7%	

◆結婚・子供を持った段階での、配偶者への働き方の要望

- 1 女性の若い年代(20-39歳)では、結婚後、また第一子が生まれた後も、**夫**に対しては「**家庭・育児と仕事を両立してほしい**」要望が最も高い。
- 2 女性の上の年代(40-69歳)では、**夫**に対して、「**家庭・育児と仕事を両立してほしい**」要望と、「**どちらかと言うと仕事に専念してほしい**」要望、どちらも一定数ある。
- 3 男性では、特に第一子が生まれた後は、**妻**に対して「**どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい**」要望が高く、**上の年代(40-69歳)**では最も高い要望となる。

・子供がいる男女における「第一子が生まれた後の配偶者の働き方」への望み (選択肢抜粋)

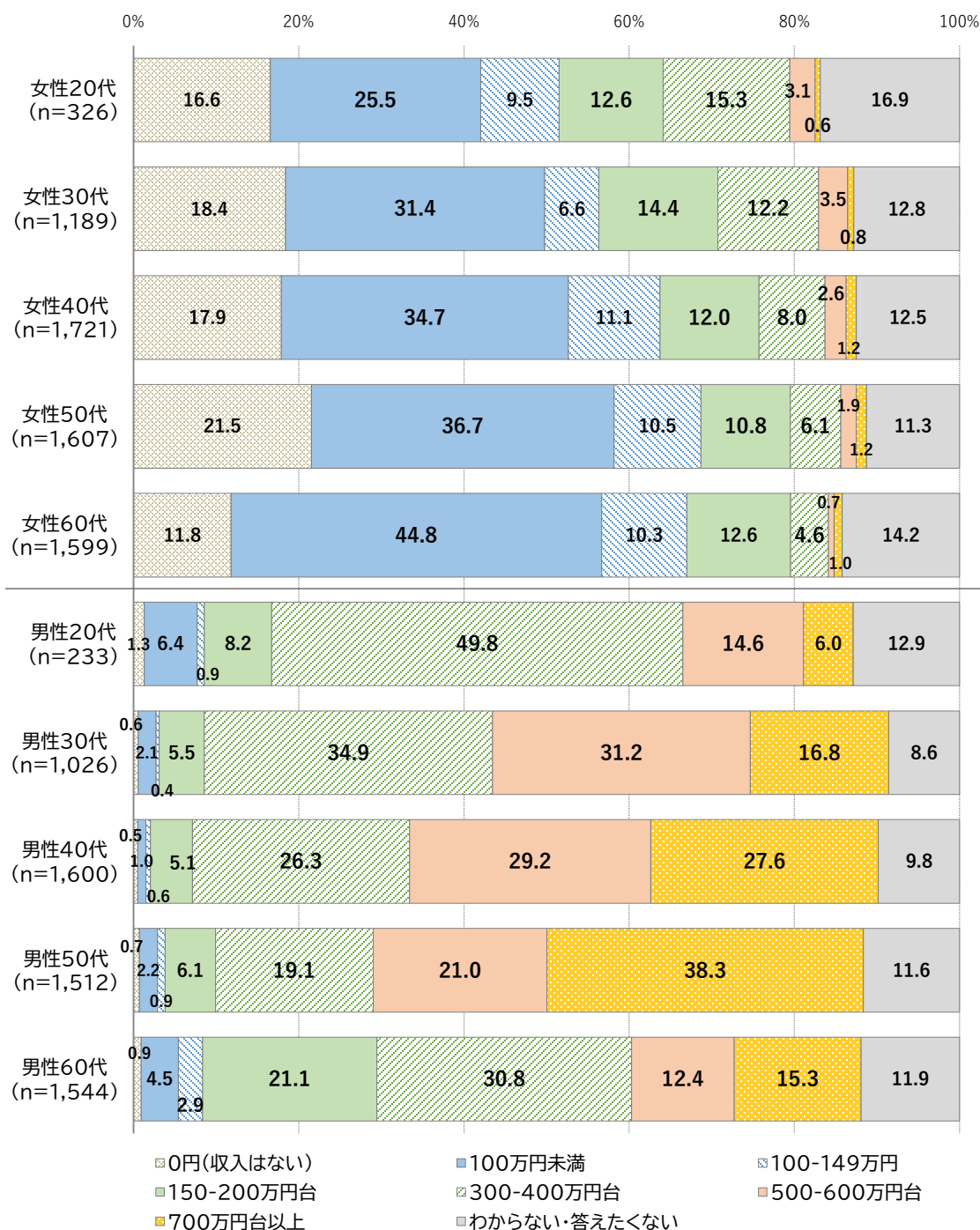


5. 収入を取り巻く状況

(1) 個人年収

- ・男女別・年代別に既婚者の個人年収を見てみると、女性では年代が上になるほど「100万円未満」の割合が高くなり、「40代」では34.7%、「50代」では36.7%、「60代」では44.8%となる。
- ・男性を年代別に見ると、「20代」では「300-400万円台」が49.8%と最も高く、「30代」では「300-400万円台」34.9%、「500-600万円台」31.2%が高い。「40代」では「300-400万円台」「500-600万円台」「700万円以上」が全て26~29%程度となり、「50代」では「700万円台以上」が38.3%、「60代」では「300-400万円台」が30.8%と高い。

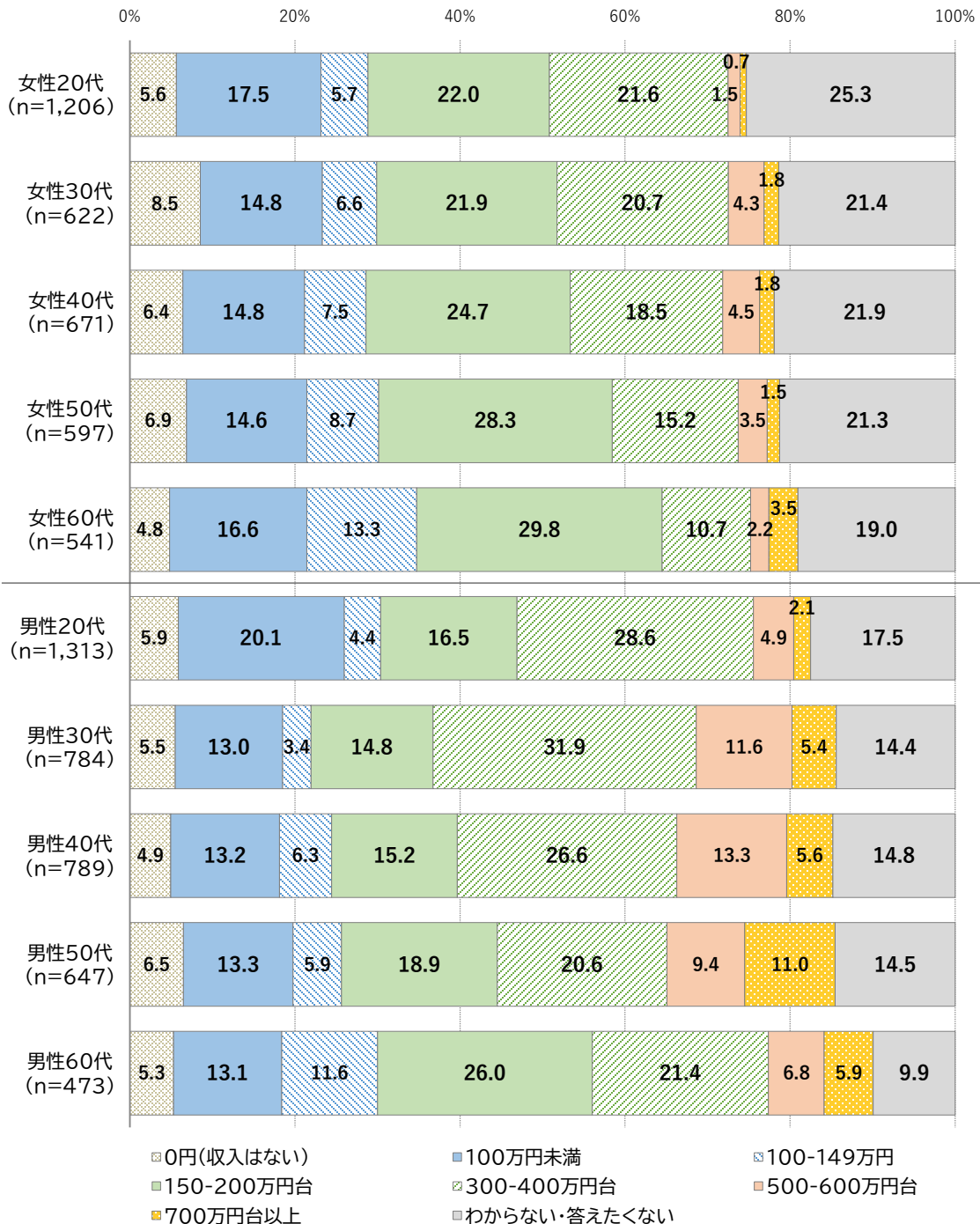
既婚



(1) 個人年収

- ・男女別・年代別に独身者の個人年収を見てみると、女性では既婚者ほど年代による差がそこまで大きくはなく、「150-200万円台」が最も高い(2~3割程度)。20-40代では「300-400万円台」も2割前後の割合となる。またどの年代でも「100万円未満」の割合が、既婚者と比較して低い。
- ・男性独身者では逆に、既婚者と比較して、どの年代でも「100万円未満」の割合が高く、「700万円以上」の割合が低い。

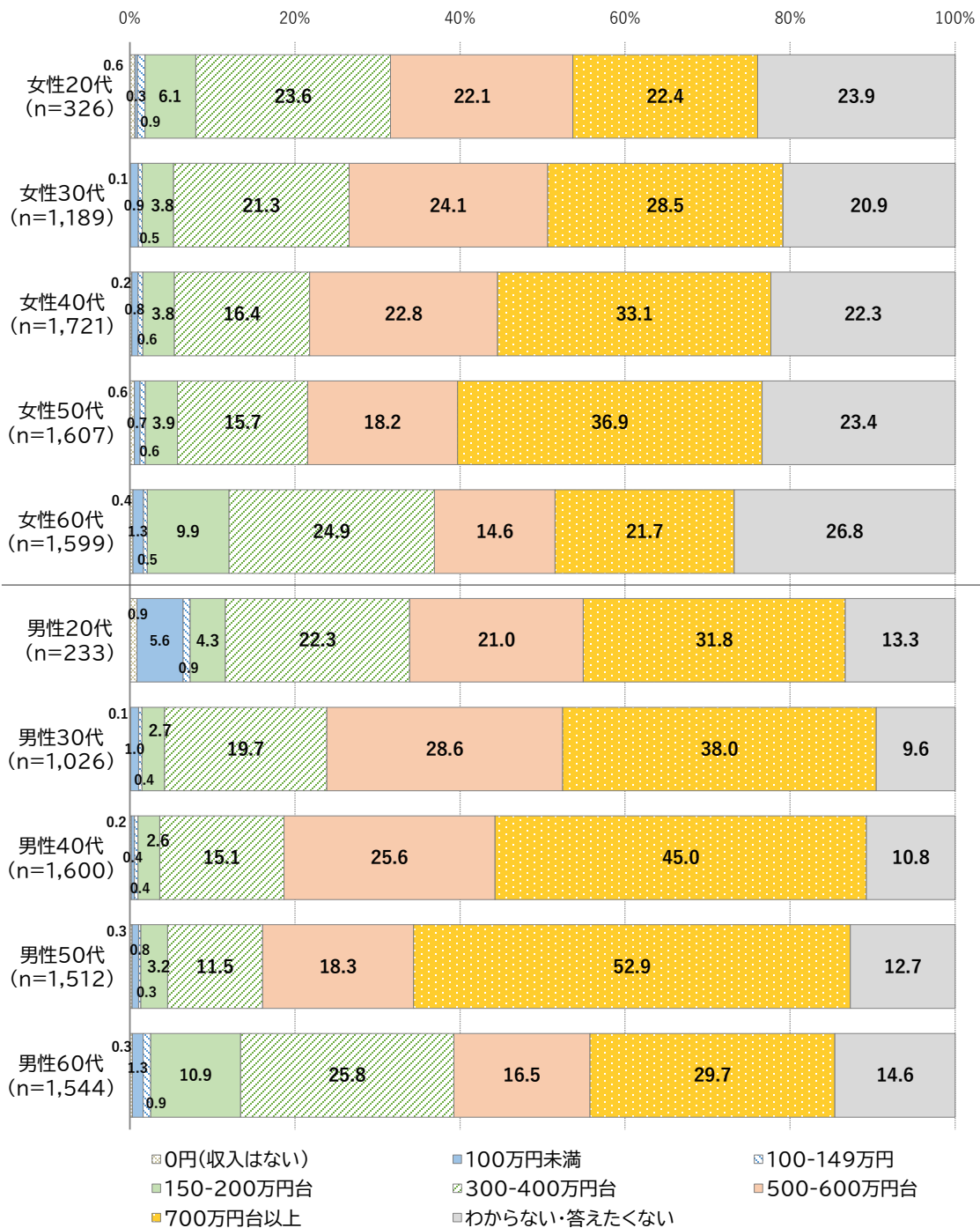
独身



(2) 世帯年収

- ・男女別・年代別に既婚者の世帯年収をしてみると、女性では50代までは年代が上がるほど「700万円台以上」の割合が高くなり、「女性50代」では36.9%となる。
- ・男性でも同様に、50代までは年代が上がるほど「700万円台以上」の割合が高くなり、「男性50代」では52.9%となる。

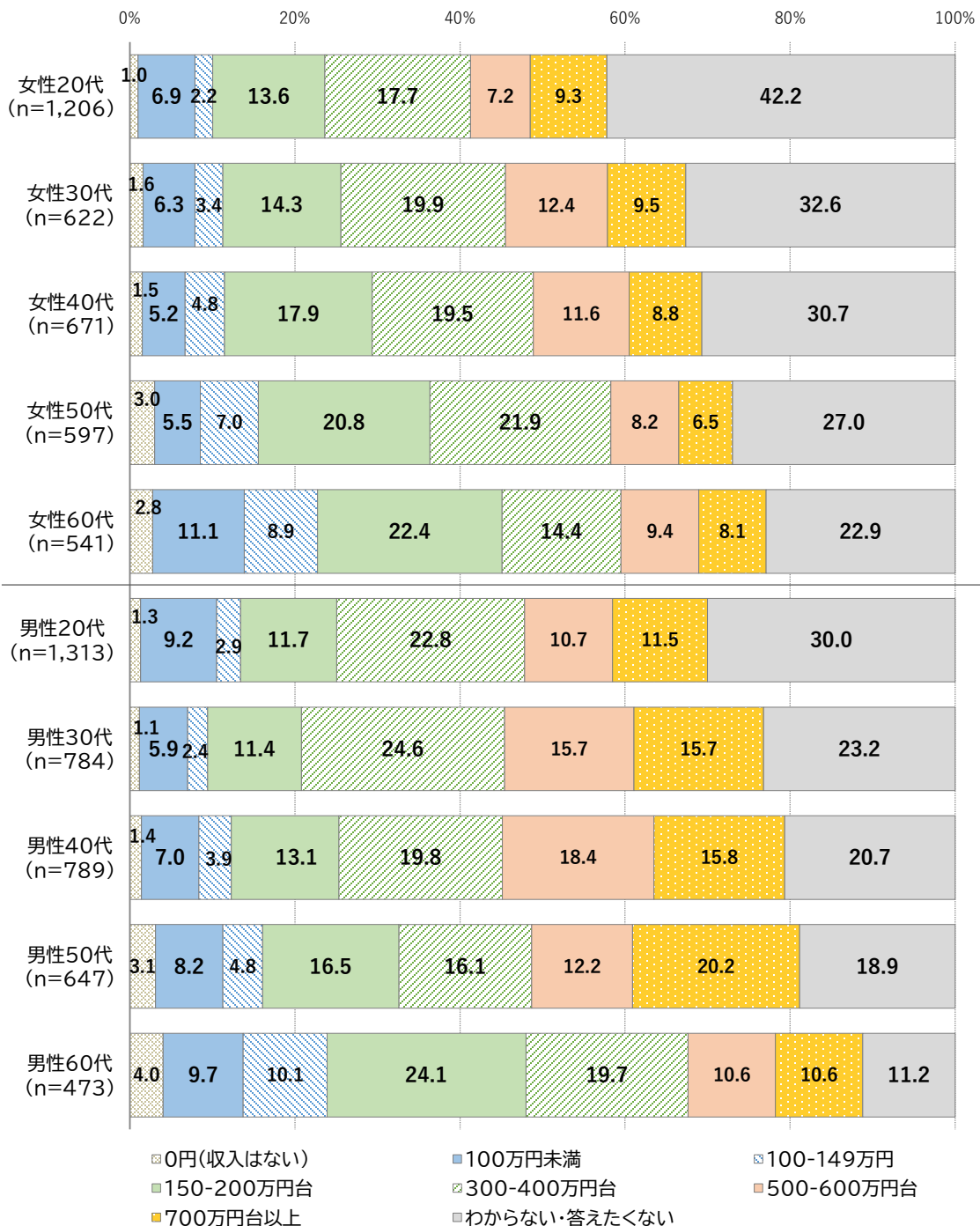
既婚



(2) 世帯年収

・男女別・年代別に独身者の世帯年収を見てみると、女性では「20代」では4割以上が、「30-40代」でも3割以上が、「わからない・答えたくない」としており、個人年収での回答より割合が高い。
 ・男性でも同様に、20-30代では「わからない・答えたくない」の割合が個人年収での回答に比べて高くなっている。

独身



(3) 結婚後の収入の希望と現実

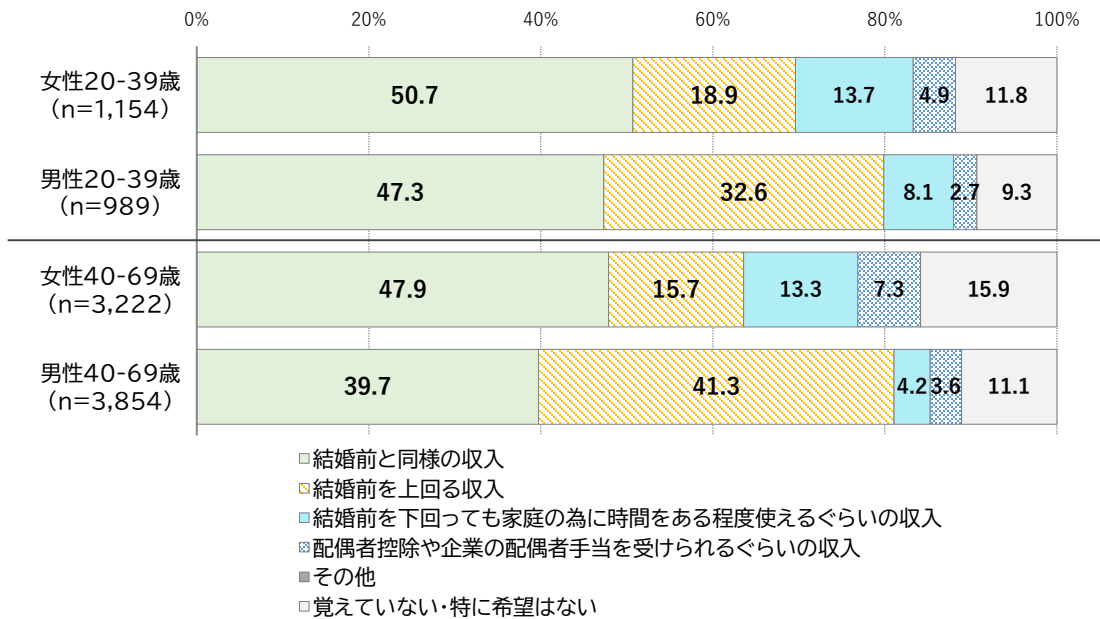
※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・結婚後の収入について、既婚者の「理想」では、「女性20-39歳」「女性40-69歳」「男性20-39歳」では「結婚前と同様の収入」が最も高く、5割前後。「男性40-69歳」では、「結婚前を上回る収入」「結婚前と同様の収入」がどちらも4割程度。

・既婚者の「現実」については、男女ともどの年代でも「結婚前と同様の収入」が高い。また、「理想」よりも「現実」の割合が5%ポイント以上下がる項目は、女性では「結婚前と同様の収入」、「女性20-39歳」では加えて「結婚前を上回る収入」。男性では「結婚前を上回る収入」。逆に「現実」の割合の方が「理想」に比べ高い項目（5%ポイント以上）は、女性では「配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらゐの収入」、「女性20-39歳」では加えて「結婚前を下回っても家庭の為に時間をある程度使えるぐらゐの収入」。

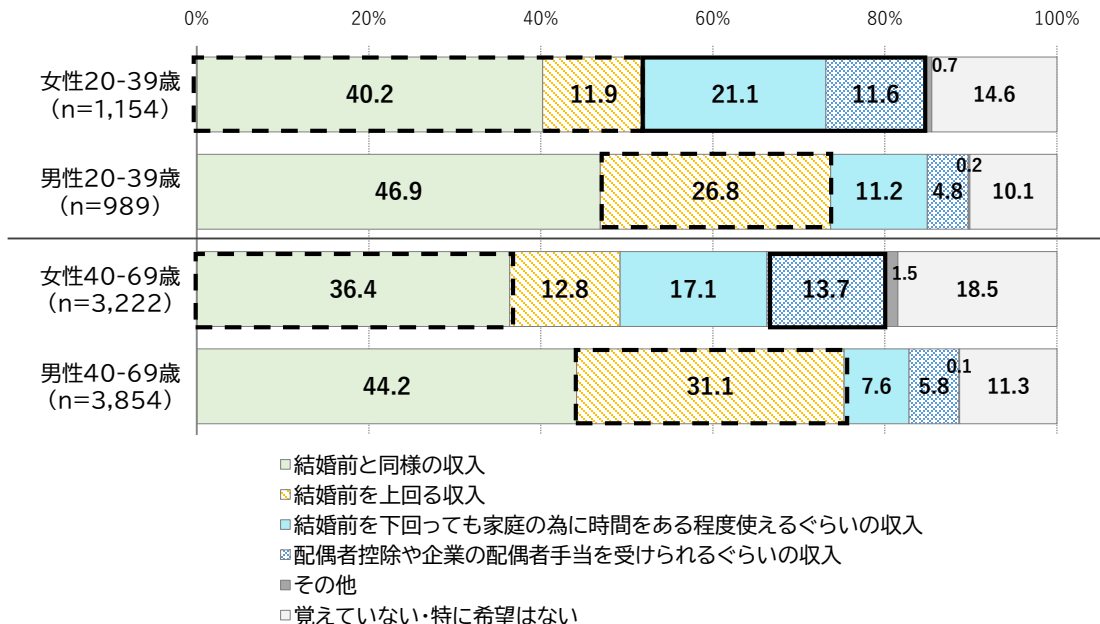
既婚

【結婚前の望み(理想)】



【実際どうだったか(現実)】

※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目
黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目



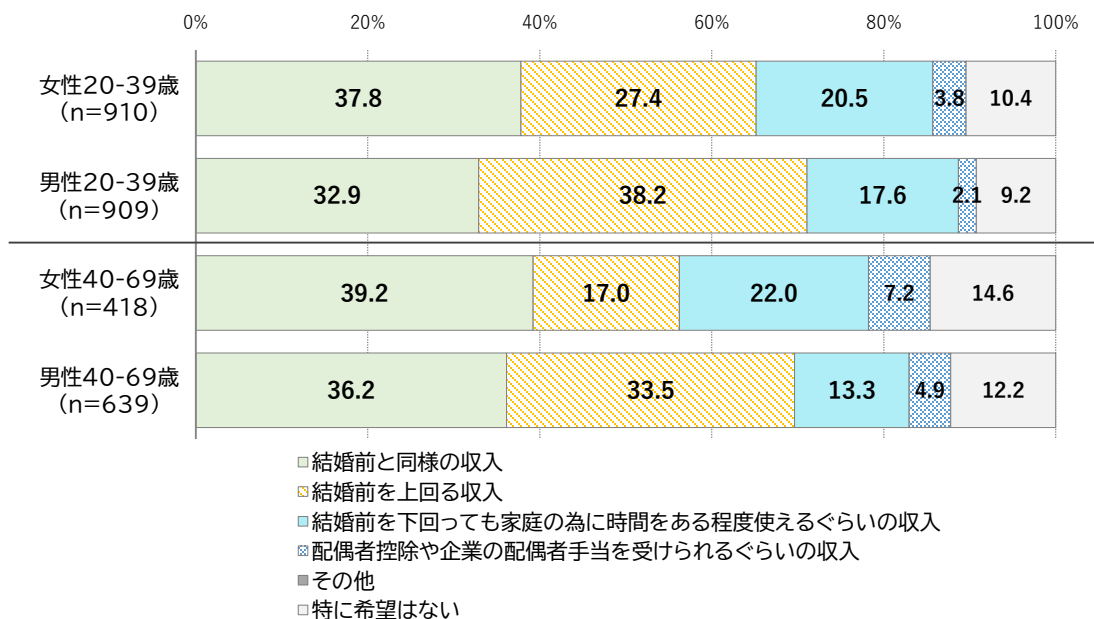
(3) 結婚後の収入の希望

※結婚後（初婚）子供がいない時を想定

・結婚後の収入について、独身者の「理想」では、女性はその年代でも「結婚前と同様の収入」が最も高く、4割程度。男性は20-39歳では、「結婚前を上回る収入」が38.2%、「結婚前と同様の収入」が32.9%。40-69歳では、「結婚前と同様の収入」が36.2%、「結婚前を上回る収入」が33.5%。
 ・男女ともに全ての年代で、既婚者と比べると、「結婚前を下回っても家庭の為に時間をある程度使えるぐらいの収入」の割合が高い。

独身

【結婚前の望み(理想)】



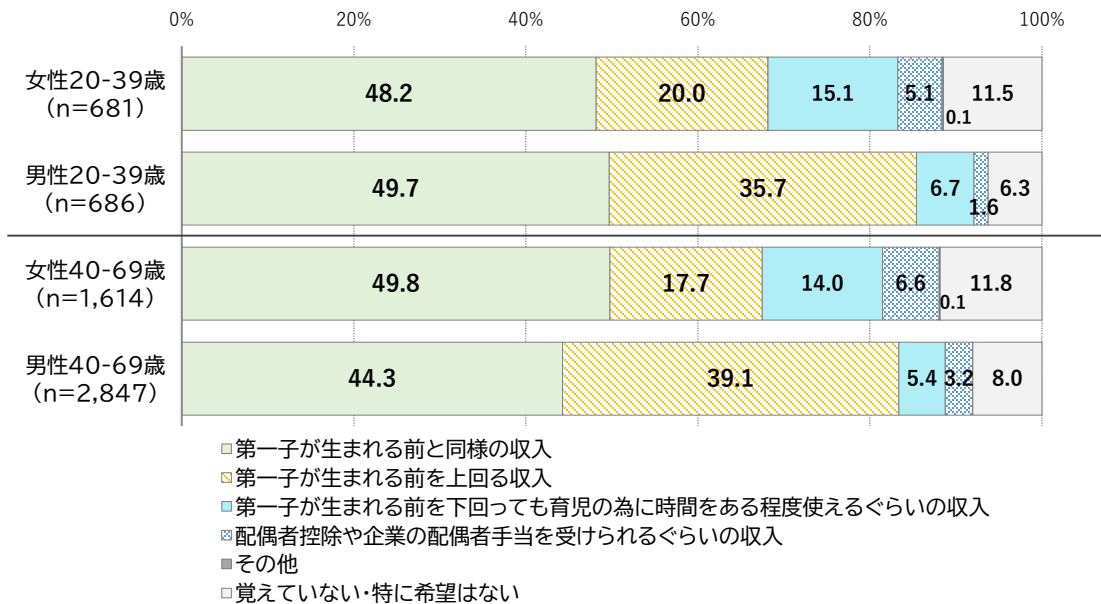
(4) 第一子が生まれた後の収入の希望と現実 ※第一子が生まれてから、子供が2~3歳のころを想定

・第一子が生まれた後の収入について、子供がいる人の「理想」では、男女ともに全ての年代で「第一子が生まれる前と同様の収入」が最も高く、4~5割程度。加えて男性では、「第一子が生まれる前を上回る収入」も4割弱となった。

・子供がいる人の「現実」については、男女ともにどの年代でも「第一子が生まれる前と同様の収入」が高い。また、「理想」よりも「現実」の割合が5%ポイント以上下がる項目は、女性では「第一子が生まれる前と同様の収入」「第一子が生まれる前を上回る収入」。男性では「第一子が生まれる前を上回る収入」。逆に「現実」の割合の方が「理想」に比べ高い項目(5%ポイント以上)は、女性では「配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらいの収入」、「女性20-39歳」では加えて「第一子が生まれる前を下回っても育児の為に時間をある程度使えるぐらいの収入」。「男性40-69歳」では、「第一子が生まれる前と同様の収入」。

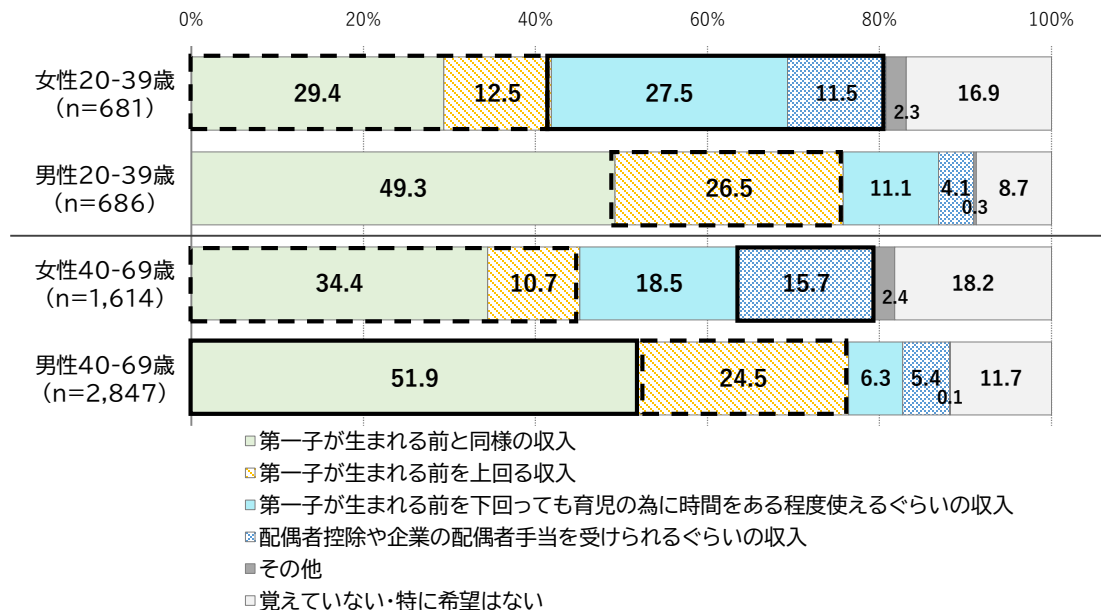
子供がいる

【第一子が生まれる前の望み(理想)】



【実際どうだったか(現実)】

※黒実線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上高い項目
 黒点線四角囲み…「現実」の方が「理想」よりも5%ポイント以上低い項目



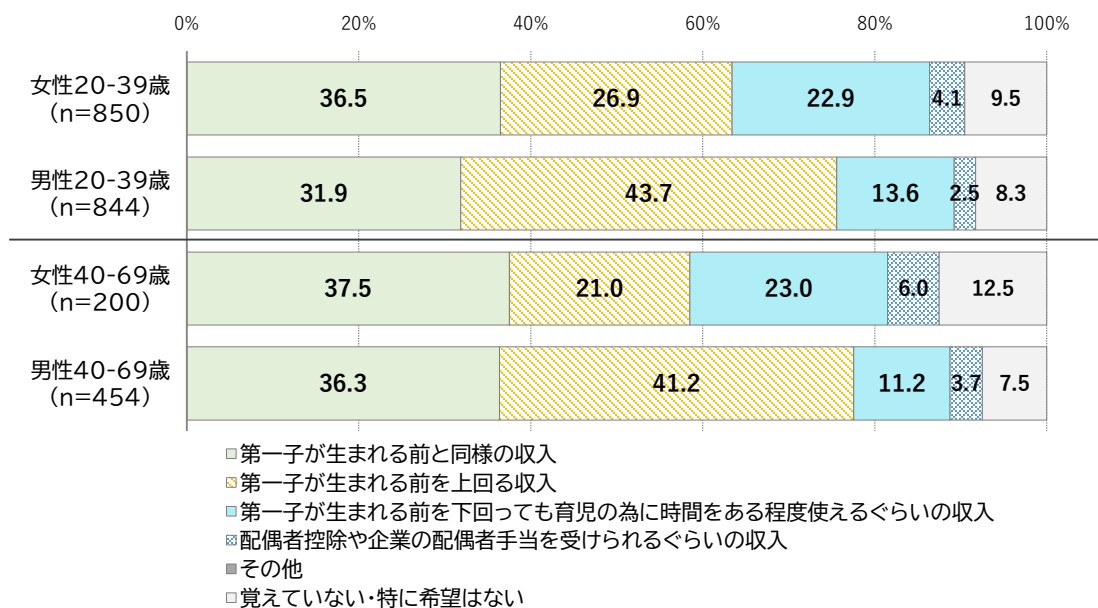
(4) 第一子が生まれた後の収入の希望

※第一子が生まれてから、子供が2~3歳のころを想定

- ・第一子が生まれた後の収入について、子供がいない人の「理想」では、女性ではどちらの年代でも「第一子が生まれる前と同様の収入」が最も高く4割弱。男性ではどちらの年代でも「第一子が生まれる前を上回る収入」が4割強。
- ・男女ともに全ての年代で、子供がいる人と比べると、「第一子が生まれる前を下回っても育児の為に時間のある程度使えるぐらいの収入」の割合が高い。

子供がいない

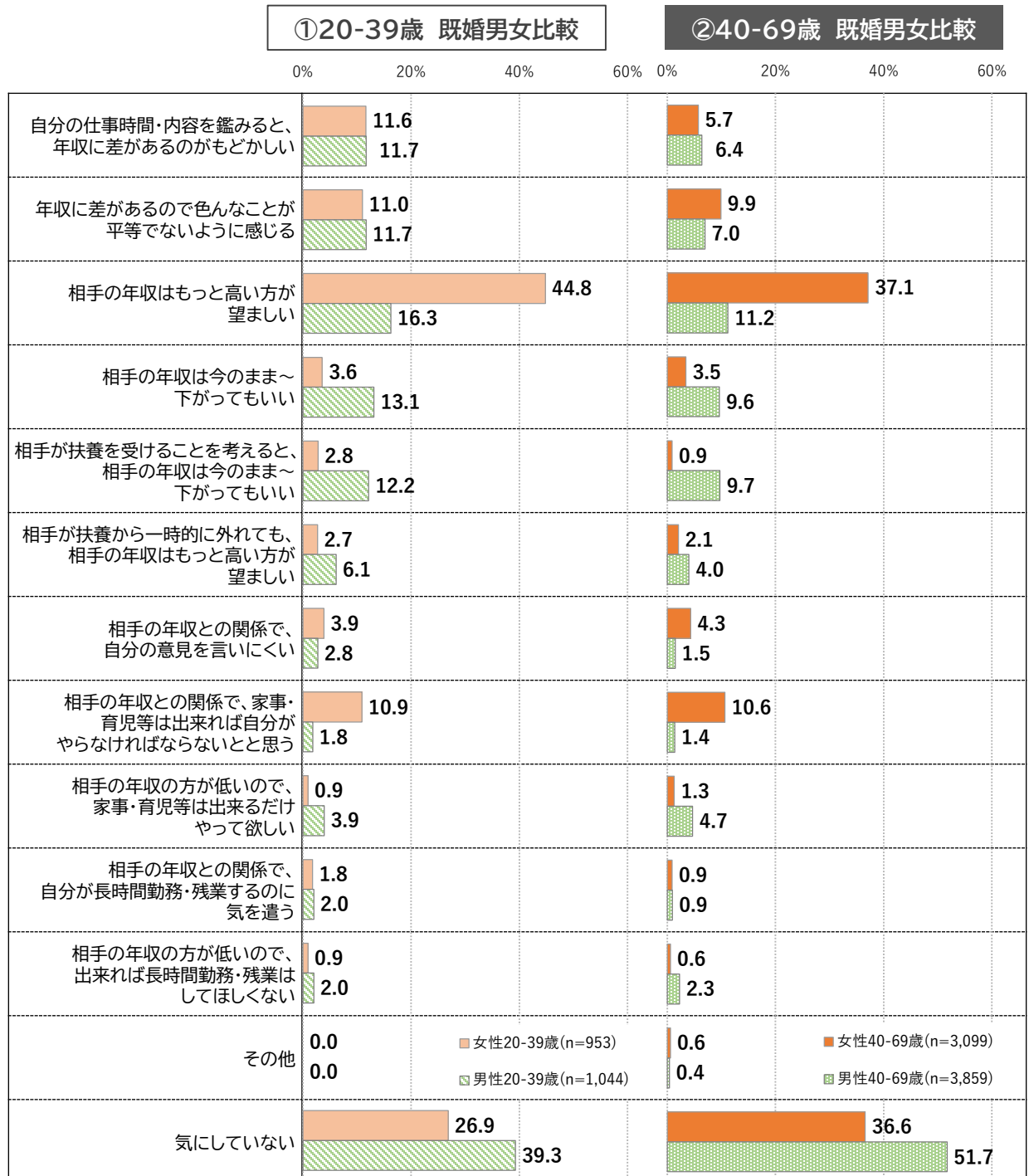
【第一子が生まれる前の望み(理想)】



(5) 配偶者との年収の違い

- ・既婚者の配偶者との年収の違いについて、男女ともに「気にしていない」が2割以上いるが、女性よりも男性で「気にしていない」とする割合が高く、「男性20-39歳」で39.3%、「男性40-69歳」で51.7%。
- ・20-39歳、40-69歳どちらの年代でも、女性で最も高い項目は「相手の年収はもっと高い方が望ましい」で、20-39歳で44.8%、40-69歳で37.1%と、若い女性の方が高い。
- ・他の項目で女性が男性を上回るものは、「相手の年収との関係で、家事・育児等は出来れば自分がやらなければならないと思う」など。逆に男性が女性を上回るものは、「相手の年収は今のまま～下がってもいい」「相手が扶養を受けることを考えると、相手の年収は今のまま～下がってもいい」など。

男女別・年代別（「当てはまる」＋「やや当てはまる」の累計値を掲載）



調査結果まとめ

◆個人年収について

- 1 既婚女性は、20-30代では3割前後が、40-50代では35%前後が、60代では45%が「100万円未満」。収入がない層も、20-50代では2割前後。
- 2 既婚女性と独身女性を比較すると、全年代で「100万円未満」が既婚女性の方が高く、30代以上では倍以上違う。また、個人年収の男女差は、特に既婚者で大きい。
- 3 配偶者との年収の違いについて、女性は男性に「もっと高い方が望ましい」、男性は女性に「(扶養等も考えて)今のまま～下がってもいい」という意識が高い。

- ・ 既婚女性の個人年収については、年収がある人のボリュームゾーンは全年代で「100万円未満」。20代で25.5%、30代で31.4%、40代で34.7%、50代で36.7%、60代で44.8%。「収入がない」割合は、20代で16.6%、30代で18.4%、40代で17.9%、50代で21.5%、60代で11.8%と、50代で最も高い。
- ・ 独身女性の個人年収について、既婚女性のボリュームゾーンである「100万円未満」の割合は、全年代で2割未満、「収入がない」割合も全年代で1割未満と、既婚女性と差が大きい。また、個人年収における男女差については、独身よりも既婚者でかなりの開きが見られた。
- ・ 既婚者における配偶者との年収の違いへの考え方について、男女別・年代別の傾向は、男性では4割以上、女性では3割前後が「気にしていない」としたものの、女性では男性に対して「相手の年収はもっと高い方が望ましい」と4割前後が考えており、特に20-39歳女性でその傾向が見られた。一方、男性においては、「相手の年収は今のまま～下がってもいい」「相手が扶養を受けることを考えると、相手の年収は今のまま～下がってもいい」がそれぞれ1割程度おり、男女における考え方の違いを裏付ける結果となった。一方、女性においては「相手の年収との関係で、家事・育児等は出来るだけ自分がやらなければならないと思う」もやや高い傾向。

◆結婚・子供を持つ事と働き方における、「理想」と「現実」のギャップ

- 1 結婚後・第一子誕生後ともに、既婚20-39歳女性の「理想」よりも「現実」で増えるのは、「収入が下回っても家庭に時間がとれる」「配偶者控除が受けられるぐらゐの収入」。
- 2 逆に、「理想」に対して「現実」の値が下回っている⇨そうしたいと思っていたが、思っていたより出来なかったものは、女性では「結婚前、第一子誕生前と同様の収入」。
- 3 結婚・第一子誕生前に、「その前よりも上回る収入」を望む割合は男性の方が高く、特に40代以上の男性で高い。

・第一子が生まれた後の自分の収入 理想と現実 (選択肢抜粋)

対象者区分			理想				現実			
			第一子が生まれる前と同様の収入	第一子が生まれる前を上回る収入	第一子が生まれる前を下回っても育児の為にある程度時間を使えるぐらゐの収入	配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらゐの収入	第一子が生まれる前と同様の収入	第一子が生まれる前を上回る収入	第一子が生まれる前を下回っても育児の為にある程度時間を使えるぐらゐの収入	配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらゐの収入
既婚	20-39歳	女性	48.2%	20.0%	15.1%	5.1%	29.4%	12.5%	27.5%	11.5%
		男性	49.7%	35.7%	6.7%	1.6%	49.3%	26.5%	11.1%	4.1%
	40-69歳	女性	49.8%	17.7%	14.0%	6.6%	34.4%	10.7%	18.5%	15.7%
		男性	44.3%	39.1%	5.4%	3.2%	51.9%	24.5%	6.3%	5.4%

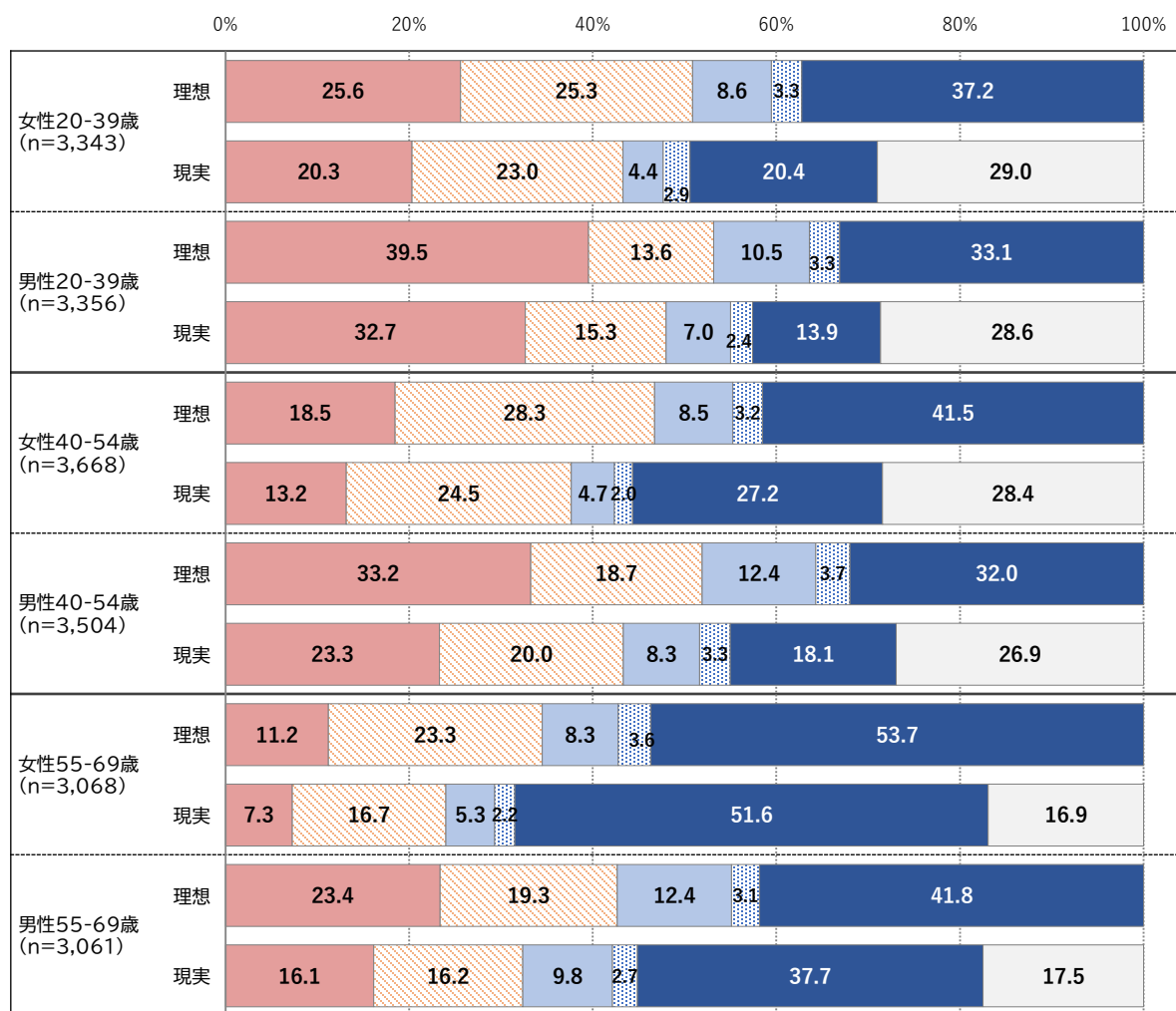
6. 老後の生活スタイル

(1) 70歳の時の仕事

・70歳になった時の仕事の状況について、「理想」では、女性は、どの年代でも「働いていない」が最も高い。男性は20-39歳、40-54歳では「フルタイムで働いている」が3割以上と最も高く、55-69歳では「働いていない」が4割と最も高い。

・「現実どうなりそうか」では、女性は20-39歳、40-54歳で「わからない・考えられない」が3割弱と最も高いが、55-69歳では「働いていない」が5割と最も高くなる。男性は、20-39歳では「フルタイムで働いている」が32.7%、40-54歳では「わからない・考えられない」が26.9%、55-69歳では「働いていない」が37.7%とそれぞれ最も高い。

【理想の仕事の形と現実どうなりそうか】

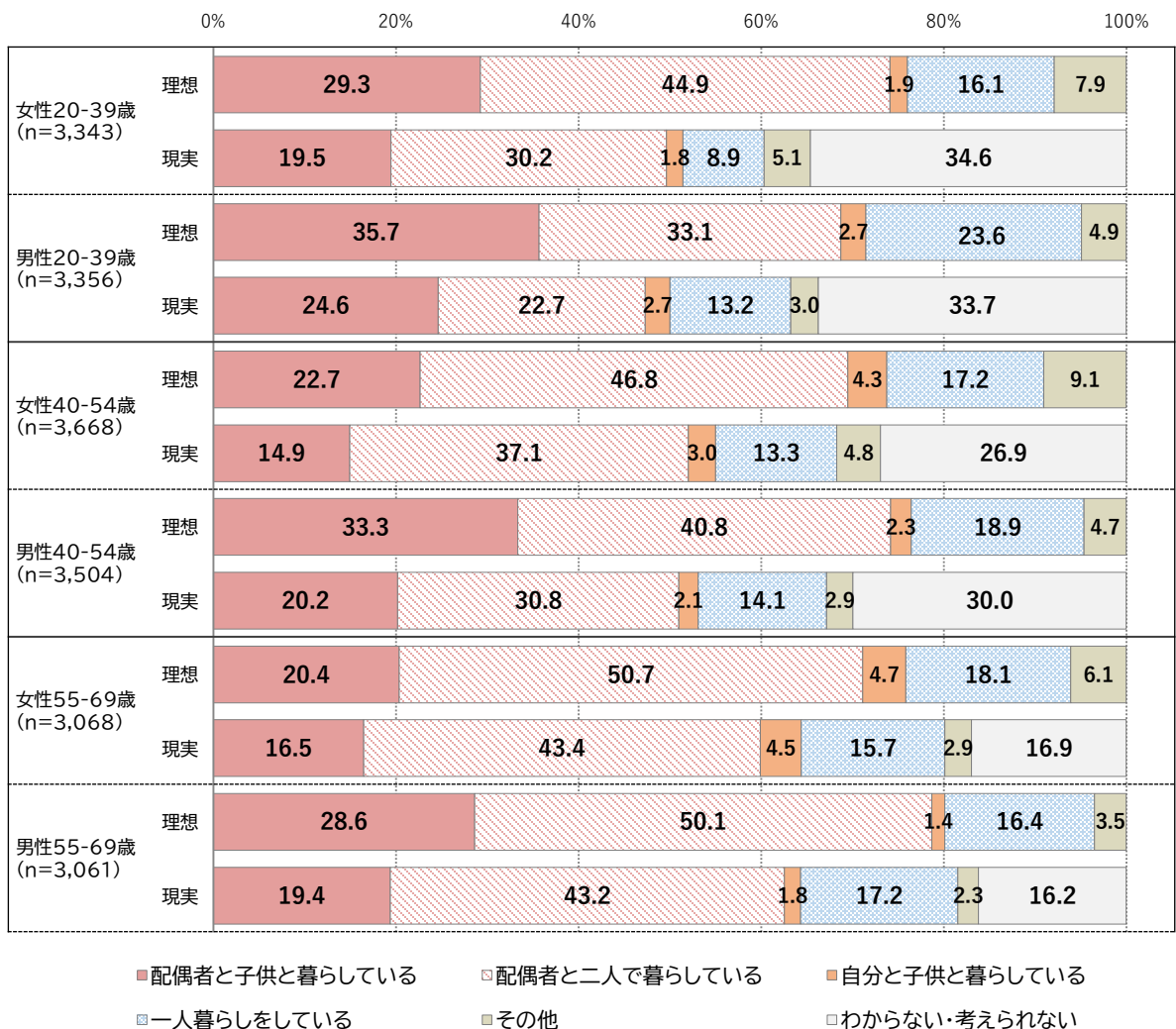


- フルタイムで働いている
- パートタイム・短時間勤務で働いている
- 自営業やフリーランスとして働いている
- その他の形で働いている
- 働いていない
- わからない・考えられない

(2) 70歳時の家族と居住形態

- ・70歳になった時の家族と居住形態について、「理想」では、全ての年代において、女性は男性に比べて、「配偶者と二人で暮らしている」の割合が高く、特に20-39歳で差が大きい。また、男性は女性に比べて「配偶者と子供と暮らしている」の割合が高い。
- ・「理想」と同様に「現実どうなりそうか」でも、どの年代でも男性の方が「配偶者と子供と暮らしている」割合が高く、女性の方が「配偶者と二人で暮らしている」割合が高い。

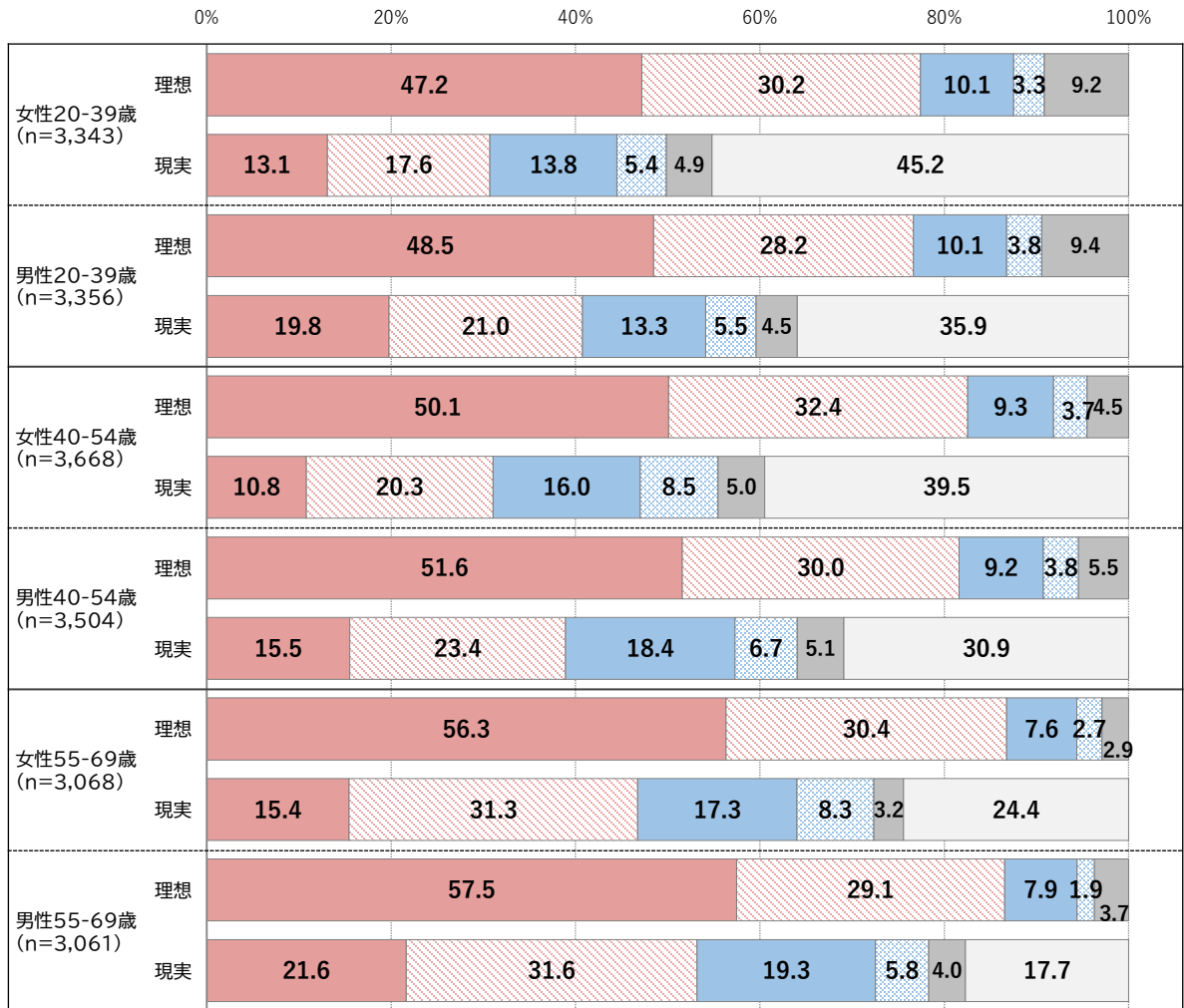
【理想の居住形態と現実どうなりそうか】



(3) 70歳時の世帯収入

- ・70歳になった時の世帯収入について、「理想」ではどの年代も男女でそこまで大きな差は見られず、「月30万円以上」が最も高く、次に「月20万円台」が高い。年代が上がるにつれて、「月30万円以上」の割合が高くなる。
- ・「現実どうなりそうか」では、どの年代でも女性に比べて男性の方が金額が高い傾向にあり、女性の方が「わからない・考えられない」の割合が高い。

【理想の世帯収入と現実どうなりそうか】



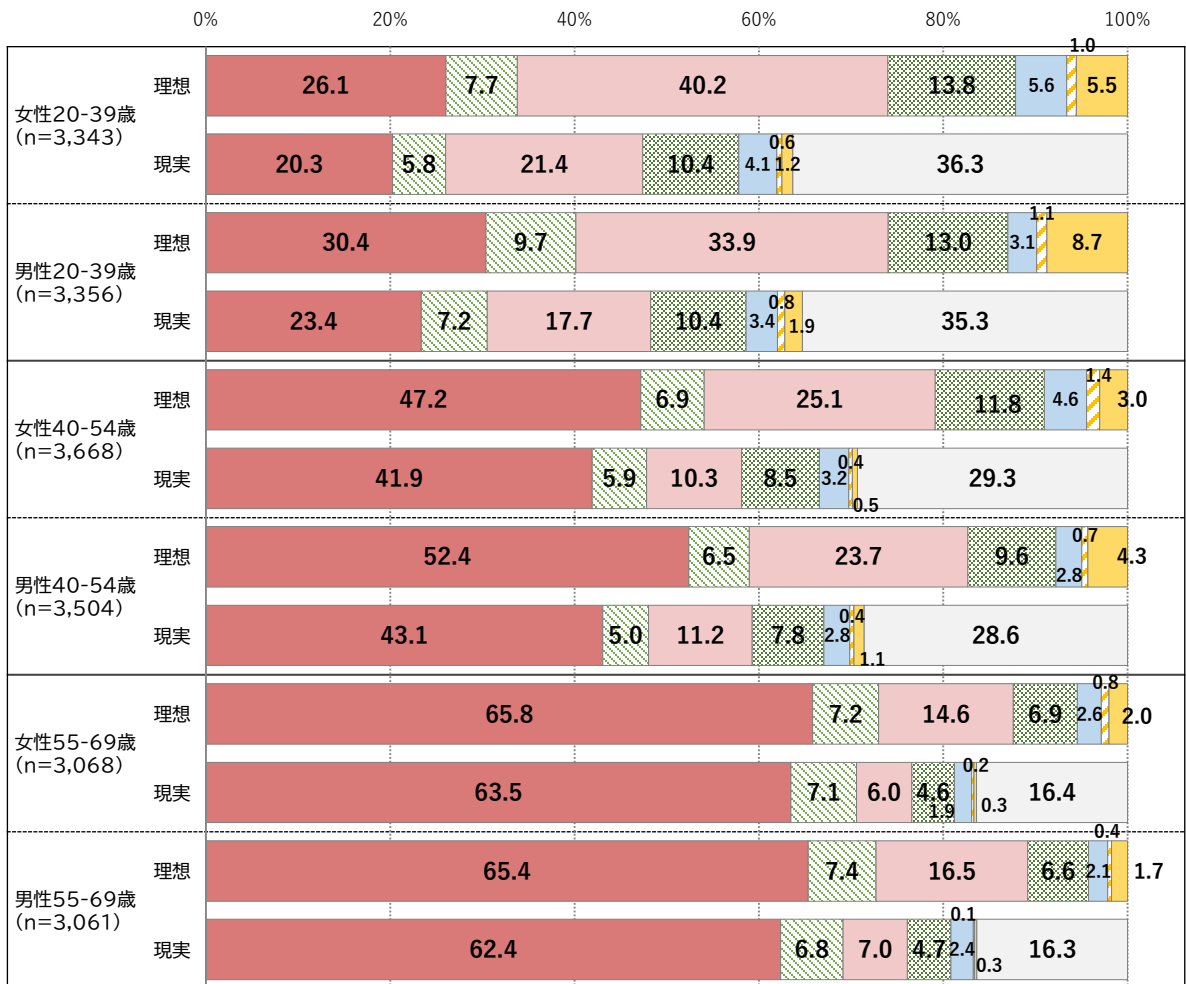
■月30万円以上 □月20万円台 ■月10万円台 □月10万円未満 ■収入なし □わからない・考えられない

(4) 70歳時の住まい

・70歳になった時の住まいについて、「理想」では、男女ともに20-39歳では「今とは別の持ち家に住んでいる」が最も高く、40-54歳、55-69歳では「今住んでいる持ち家に住み続けている」が最も高い。また、男女ともに20-39歳では、「ホテル住まいなど家を持たずに過ごしている」も一定数いる。

・「現実どうなりそうか」では、男女ともに20-39歳では「わからない・考えられない」が最も高く、40-54歳、55-69歳では「今住んでいる持ち家に住み続けている」が最も高い。

【理想の住まいと現実どうなりそうか】

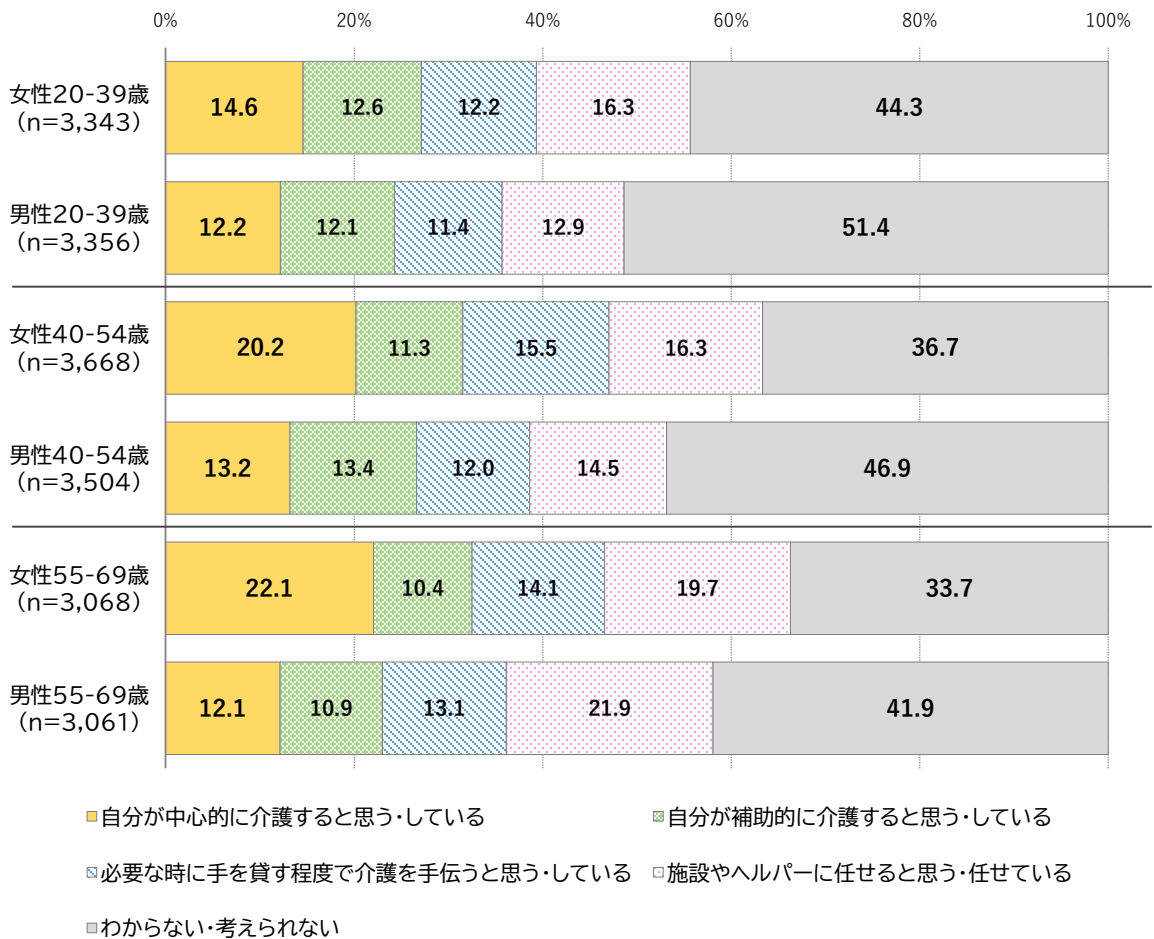


- 今住んでいる持ち家に住み続けている
- 今とは別の持ち家に住んでいる
- 老人ホームやグループホームなど施設に入所している
- シェアハウスに住んでいる
- ホテル住まいなど家を持たずに過ごしている
- 今住んでいる賃貸に住み続けている
- 今とは別の賃貸に住んでいる
- わからない・考えられない

(5) 今後の自分の親の介護へのかかわり方

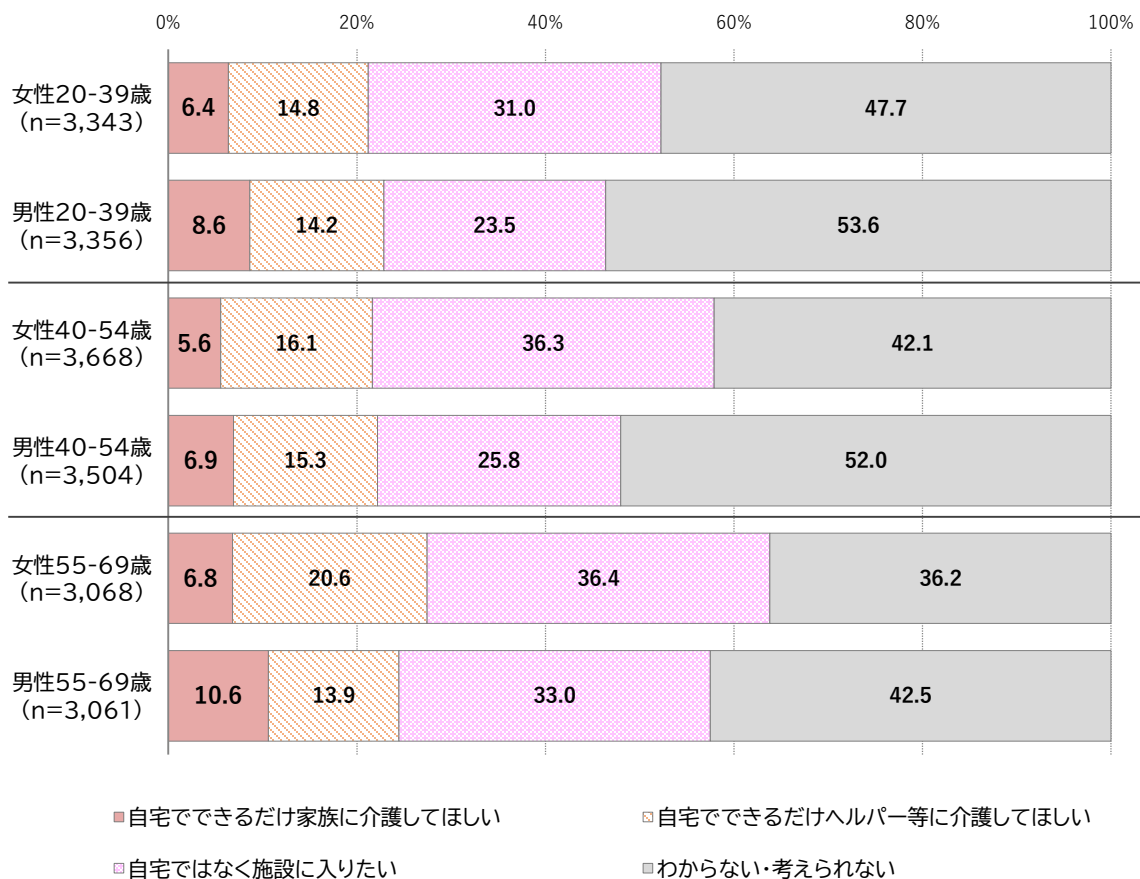
・今後の自分の親の介護へのかかわり方については、全ての年代において男性に比べて女性の方が「自分が中心的に介護すると思う・している」と回答した割合が多く、特に「女性40-54歳」で20.2%、「女性55-69歳」で22.1%と高い。

・全ての年代において女性に比べて男性の方が「わからない・考えられない」の割合が高い。



(6) 自身が要介護になった時の介護の望み

・自身が要介護になった時の介護の望みについては、全ての年代で「わからない・考えられない」の次に「自宅ではなく施設に入りたい」が高く、特に「女性40-54歳」で36.3%、「女性55-69歳」で36.4%と高い。
 ・55-69歳について見ると、「自宅でできるだけ家族に介護してほしい」では男性の方が高く(女性6.8%、男性10.6%)、「自宅でできるだけヘルパー等に介護してほしい」では女性の方が高い(女性20.6%、男性13.9%)。



調査結果まとめ

◆70歳になった時の生活スタイル

1

仕事について「理想」「現実どうなりそうか」ともにどの年代でも男性で「働いている」割合が高い。
世帯収入の「現実どうなりそうか」では、どの年代でも男性の方が金額が高い。

2

居住形態の理想では、女性は男性よりも「配偶者と二人で暮らしている」割合が高く、男性は女性よりも「配偶者と子供と暮らしている」割合が高い。特に若い年代で大きく差が出ている。

3

仕事、居住形態、収入、住まいについて、70歳時に「実際どうなりそうか(現実)」は「わからない」とする割合が、54歳以下では3~4割いる。
中でも最も「わからない」割合が高いのは、「70歳時の世帯収入」。

- 70歳になった時の仕事の状況については、「理想」では女性は「働いていない」が最も高い(20-39歳で37.2%、40-54歳で41.5%、55-69歳で53.7%)。男性は20-39歳、40-54歳で「フルタイムで働いている」がそれぞれ39.5%、33.2%と最も高く、55-69歳では「働いていない」が41.8%と最も高い。どの年代でも男性の方が「働いている」が高い傾向にある。「現実どうなりそうか」では、「わからない」の割合が男女ともに20-39歳、40-54歳では3割弱、55-69歳では2割弱いるが、「理想」と同様に男性の方が「働いている」の割合が高い。
- 世帯収入の「理想」では、男女ともどの年代でも「月30万円以上」が最も高く(5割弱~6割弱)、次に「月20万円以上」となる(3割前後)。「現実どうなりそうか」では、どの年代でも女性に比べて男性の方が金額が高い傾向にあり、女性の方が「わからない・考えられない」の割合が高い。
- 居住形態については、「理想」では全ての年代において女性の方が「配偶者と二人で暮らしている」の割合が高く、特に20-39歳で差が大きい(女性44.9%、男性33.1%)。一方、「配偶者と子供と暮らしている」の割合は男性の方が高い。
- 住まいについては、「理想」では若い年代(20-39歳)の男女で「今とは別の持ち家に住んでいる」が最も高く(3~4割)、上の年代(40-54歳、55-69歳)で「今住んでいる持ち家に住み続けている」が最も高くなっており(5割弱~6割強)、性別よりも年代による差が大きい。
- 仕事・居住形態・収入・住まいについての「70歳時の現実予想(実際どうなりそうか)」は、70歳までまだ遠い20-39歳、また40-54歳でも「わからない」とする割合が3~4割と多く、現実問題として考えられていないとも推測される。中でも最も「わからない」が高い(どうなるか予測できない)ものは、「70歳時の収入」だった。

◆介護の状況について

1

今後の親の介護へのかかわり方は、女性の全ての年代で「自分が中心的に介護すると思う・している」が男性に比べやや高い。一方「わからない」はより男性で高い。

2

自身が要介護になった時の望みでは、女性では全年代で「自宅ではなく施設に入りたい」が3割以上。一方「わからない」はより男性で高い。

・今後の自分の親の介護へのかかわり方

対象者区分		自分が中心的に介護すると思う・している	わからない・考えられない
20-39歳	女性	14.6%	44.3%
	男性	12.2%	51.4%
40-54歳	女性	20.2%	36.7%
	男性	13.2%	46.9%
55-69歳	女性	22.1%	33.7%
	男性	12.1%	41.9%

※30%以上に黄色色掛け

・自身が要介護になった時の望み

対象者区分		自宅ではなく施設に入りたい	わからない・考えられない
20-39歳	女性	31.0%	47.7%
	男性	23.5%	53.6%
40-54歳	女性	36.3%	42.1%
	男性	25.8%	52.0%
55-69歳	女性	36.4%	36.2%
	男性	33.0%	42.5%

※30%以上に黄色色掛け

7. 生活全般への考え方や満足度・将来不安

(1) 現在の不安、将来の不安

・現在の不安について、女性では「当てはまる+やや当てはまる」の値が最も高いものは、「生活がぎりぎり、貯金ができない」で30.8%、次いで「子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変である(子供がいる人のみ)」で22.7%。

・将来の不安は、現在の不安と比べ30%を超える項目が多く見られ、特に「高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない」が最も高く34.9%。次いで「高齢になっても働かないといけなくなる」が33.4%の順。

※30%を超えるセルに色掛け

女性

		0%	20%	40%	60%	80%	100%	当てはまる +やや当て はまる	
現在の不安	衣食住に困ることがある	n=10,079	4.2	8.5	22.8	15.2	49.4	12.7%	
	生活がぎりぎり、貯金ができない	n=10,079	14.6	16.2	22.9	14.0	32.4	30.8%	
	借金返済(住宅ローン、奨学金含む)が重荷である	n=10,079	7.3	10.7	20.6	9.9	51.6	17.9%	
	家事や子育て、介護負担が大変である	n=10,079	4.1	11.0	24.6	13.1	47.3	15.0%	
	子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変である※子供がいる人のみ	n=5,775	8.2	14.6	20.2	10.4	46.6	22.7%	
	仕事時間が長時間・残業が多く、なかなか休めない※有職者のみ	n=5,838	2.9	9.2	25.5	16.5	45.8	12.2%	
	仕事で精神的な疲労が溜まっているが、なかなか休めない※有職者のみ	n=5,838	6.4	14.2	27.4	15.1	36.9	20.6%	
	家族から暴力(DV・ドメスティックバイオレンス)を受けている	n=10,079	1.0	3.9	16.4	7.6	71.1	4.9%	
	家族の中に居場所がないと感じる	n=10,079	2.5	5.4	20.3	9.9	61.9	7.9%	
	周りに親しい人がおらず孤立している	n=10,079	4.7	9.5	24.9	13.5	47.4	14.2%	
将来の不安	仕事以外の時間を楽しめない・することがなくなる	n=10,079	3.0	8.0	24.1	13.1	43.4	8.4	11.0%
	子供が自立できない・面倒をみないといけなくなる	n=10,079	2.6	6.9	22.5	9.8	43.8	14.3	9.5%
	自分の周りに頼る人・面倒を見てくれる人がいなくなる	n=10,079	9.4	14.7	26.9	10.9	27.5	10.7	24.1%
	自分の周りに一緒に時間を過ごす・住む人間がいなくなる	n=10,079	8.5	14.4	27.6	11.6	27.4	10.5	22.8%
	高齢になっても十分な生活ができなくなる	n=10,079	13.6	19.0	26.8	9.9	19.4	11.4	32.6%
	高齢になっても十分な介護が受けられなくなる	n=10,079	12.2	17.4	29.7	9.4	18.6	12.6	29.6%
	高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない	n=10,079	17.3	17.5	25.1	9.9	18.9	11.2	34.9%
	高齢になっても働かないといけなくなる	n=10,079	13.4	17.1	26.5	10.2	20.9	11.9	30.5%
	高齢になっても身体が不自由になり、誰かの介助が必要になる	n=10,079	14.0	19.4	29.5	8.0	15.3	13.9	33.4%
	高齢になっても孤立してしまう	n=10,079	12.6	15.7	31.0	9.8	17.8	13.2	28.3%

■ 当てはまる □ やや当てはまる □ どちらとも言えない
 □ やや当てはまらない ■ 当てはまらない □ わからない・考えられない

(1) 現在の不安、将来の不安

・現在の不安について、男性で「当てはまる+やや当てはまる」の値が最も高いものは、「生活がぎりぎり、貯金ができない」で28.1%。ただし、女性30.8%に比べその値は低い。

・将来の不安について、「高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない」27.5%が最も高く、女性と共通。次いで「高齢になっても働かないといけなくなる」「高齢になっても身体が不自由になり、誰かの介助が必要になる」がどちらも26.2%となる。

※30%を超えるセルに色掛け

男性

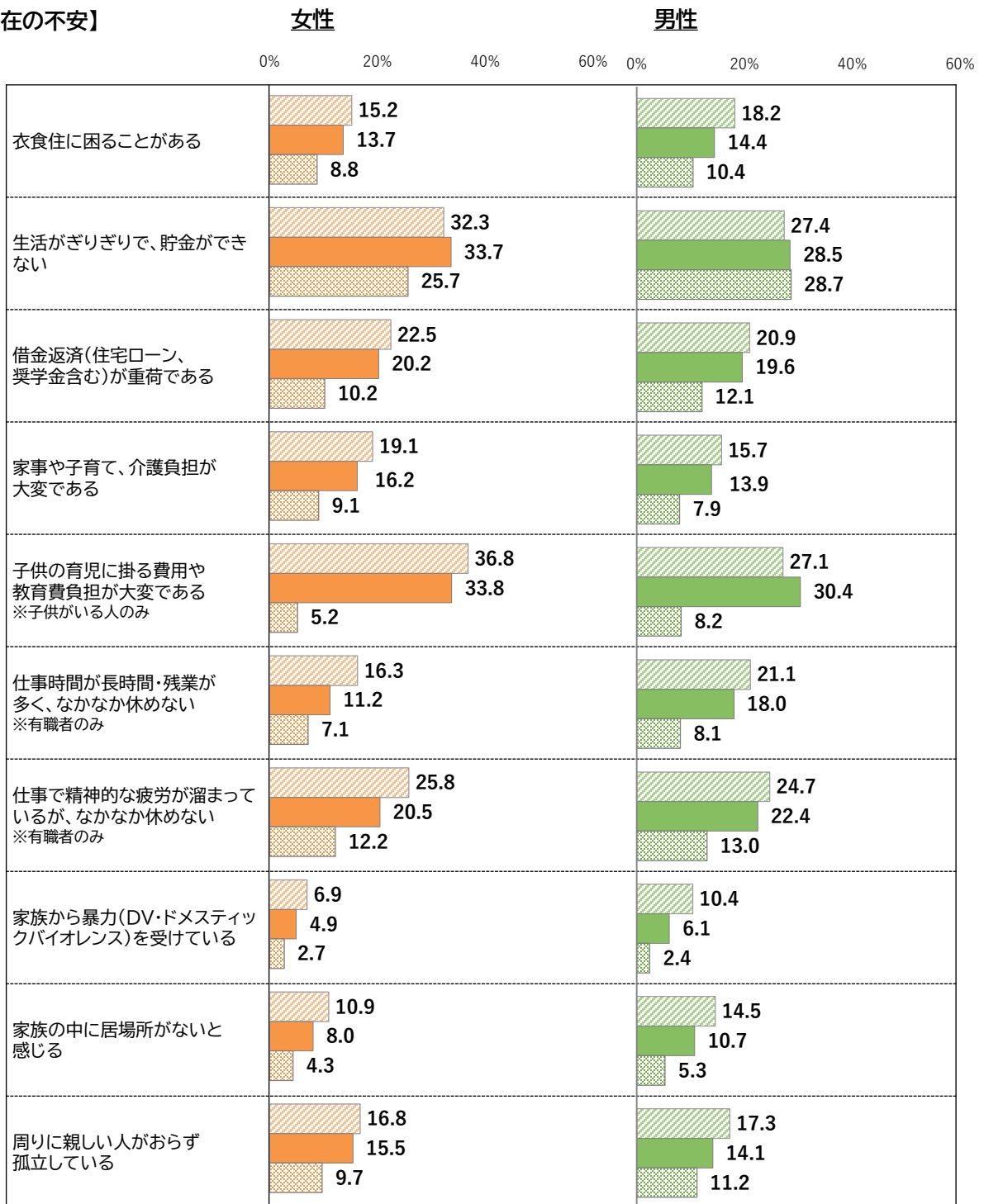
		0%	20%	40%	60%	80%	100%	当てはまる +やや当て はまる	
現在の不安	衣食住に困ることがある	n=9,921	4.8	9.6	30.9	15.9	38.7	14.5%	
	生活がぎりぎり、貯金ができない	n=9,921	12.0	16.1	31.3	14.5	26.1	28.1%	
	借金返済(住宅ローン、奨学金含む)が重荷である	n=9,921	6.4	11.3	29.2	12.3	40.7	17.7%	
	家事や子育て、介護負担が大変である	n=9,921	3.3	9.4	32.9	13.9	40.5	12.7%	
	子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変である※子供がいる人のみ	n=4,941	5.7	14.7	30.1	13.0	36.6	20.4%	
	仕事時間が長時間・残業が多く、なかなか休めない※有職者のみ	n=8,235	4.5	11.7	35.0	17.5	31.2	16.2%	
	仕事で精神的な疲労が溜まっているが、なかなか休めない※有職者のみ	n=8,235	6.4	14.1	36.1	16.0	27.4	20.5%	
	家族から暴力(DV・ドメスティックバイオレンス)を受けている	n=9,921	1.4	4.9	25.7	9.3	58.7	6.4%	
	家族の中に居場所がないと感じる	n=9,921	3.2	7.1	30.9	12.2	46.5	10.3%	
	周りに親しい人がおらず孤立している	n=9,921	4.9	9.3	34.8	14.4	36.6	14.3%	
将来の不安	仕事以外の時間を楽しめない・することがなくなる	n=9,921	3.3	9.7	33.1	14.4	30.6	8.8	13.0%
	子供が自立できない・面倒をみないといけなくなる	n=9,921	2.3	7.6	31.3	11.6	32.3	14.8	10.0%
	自分の周りに頼る人・面倒を見てくれる人がいなくなる	n=9,921	6.6	12.5	35.9	12.3	21.1	11.6	19.1%
	自分の周りに一緒に時間を過ごす・住む人間がいなくなる	n=9,921	6.6	11.6	36.1	12.7	21.5	11.4	18.3%
	高齢になっても十分な生活ができなくなる	n=9,921	9.1	16.4	34.9	11.6	16.4	11.6	25.5%
	高齢になっても十分な介護が受けられなくなる	n=9,921	8.2	15.8	36.8	11.2	15.5	12.5	24.0%
	高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない	n=9,921	12.5	15.0	34.1	11.1	16.3	11.0	27.5%
	高齢になっても働かないといけなくなる	n=9,921	10.6	15.6	34.7	10.7	16.7	11.6	26.2%
	高齢になっても身体が不自由になり、誰かの介助が必要になる	n=9,921	8.9	17.3	37.3	9.8	13.3	13.5	26.2%
	高齢になっても孤立してしまう	n=9,921	9.5	14.7	37.6	10.5	14.5	13.1	24.3%

■ 当てはまる ■ やや当てはまる ■ どちらとも言えない
 ■ やや当てはまらない ■ 当てはまらない ■ わからない・考えられない

(1) 現在の不安、将来の不安

- ・現在の不安について、男女別・年代別に見ると、女性は、全体で最も高かった「生活がぎりぎりで、貯金ができない」が、20-39歳、40-54歳で3割を超える一方、50-69歳では25.7%。その他、子供がいる人が対象の「子供の育児に掛かる費用や教育費負担が大変である」、「借金返済(住宅ローン、奨学金含む)が重荷である」も同様に、20-39歳、40-54歳で高い。
- ・男性では「生活がぎりぎりで、貯金ができない」は年代に関わらず3割弱。「子供の育児に掛かる費用や教育費負担が大変である」については、「20-39歳」「40-54歳」どちらの年代でも、女性に比べ男性の方が低い。

【現在の不安】



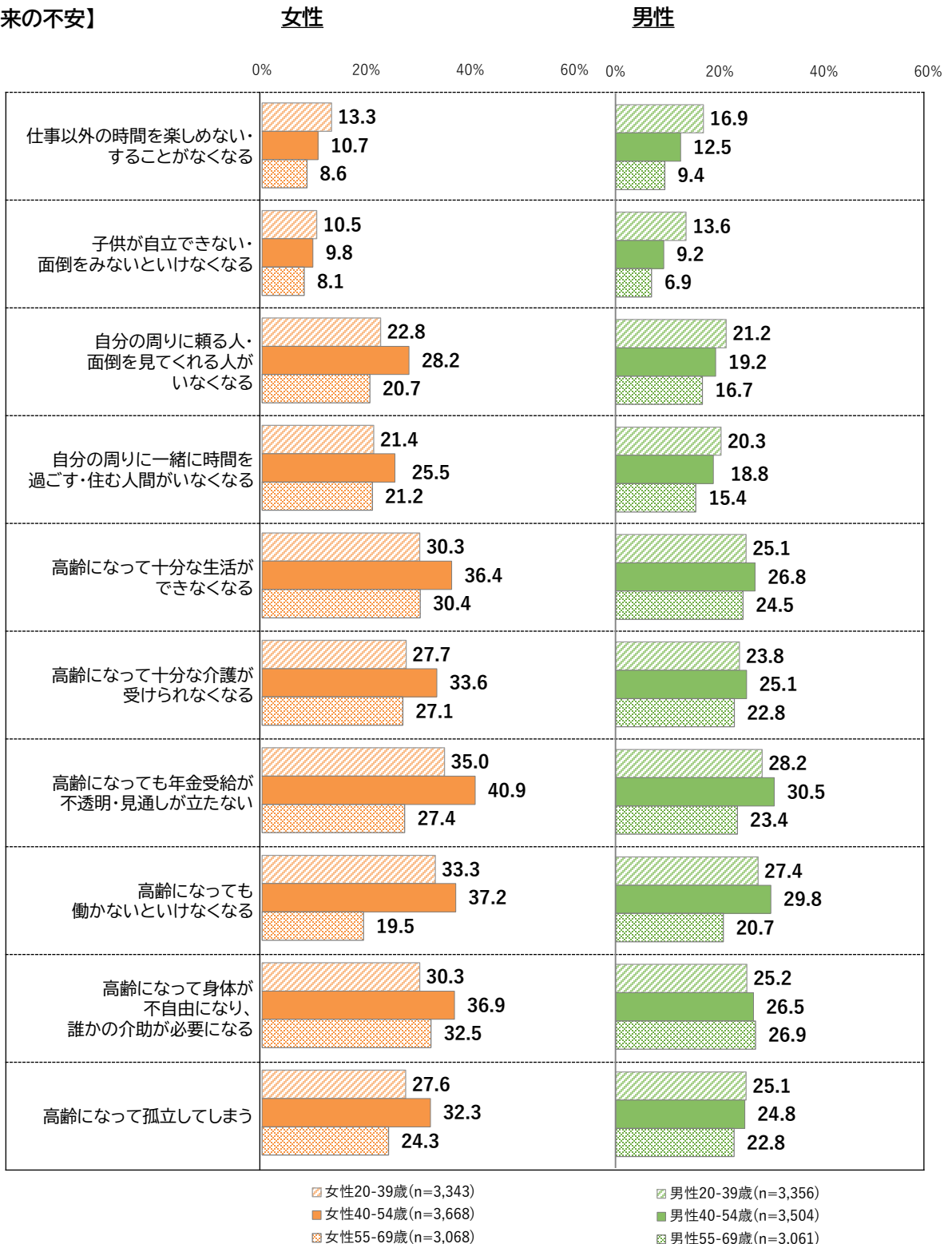
□ 女性20-39歳(n=3,343)
 ■ 女性40-54歳(n=3,668)
 ▨ 女性55-69歳(n=3,068)

□ 男性20-39歳(n=3,356)
 ■ 男性40-54歳(n=3,504)
 ▨ 男性55-69歳(n=3,061)

(1) 現在の不安、将来の不安

- ・将来の不安について、女性では「40-54歳」が他年代に比べ最も高い項目が多く、中でも「高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない」40.9%が最も高く、次いで「高齢になっても働かないといけなくなる」37.2%も高い。
- ・男性でも「40-54歳」の値が最も高い項目が多い点は女性と同様の傾向も、他年代との差は、女性と比べ小さい。

【将来の不安】

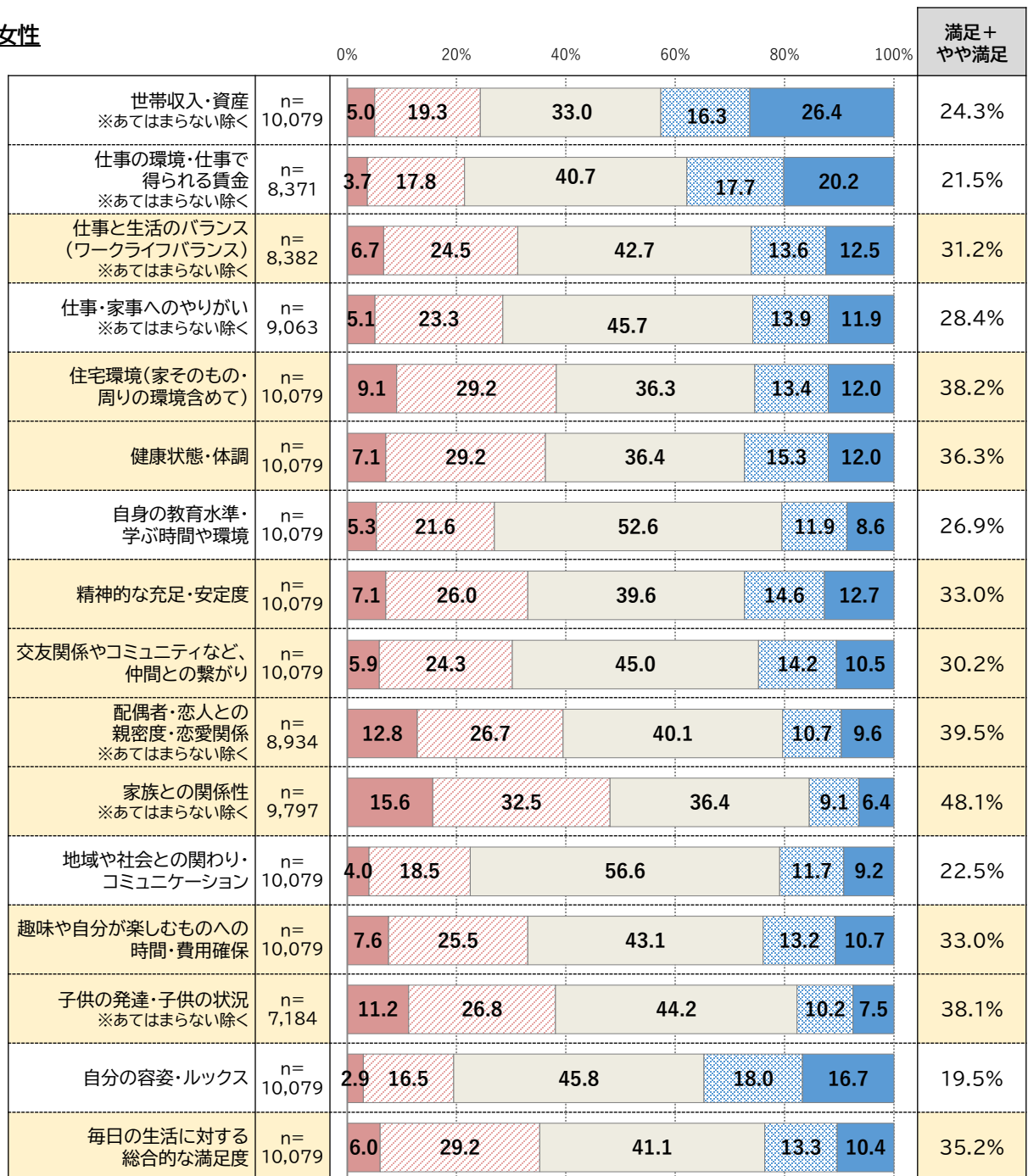


(2) 現在の満足度

- ・現在の満足度について、女性で「満足+やや満足」の合計が最も高いのは「家族との関係性」で、48.1%と唯一4割を超える項目。次いで「配偶者・恋人との親密度・恋愛関係」39.5%、「住宅環境(家そのもの・周りの環境含めて)」38.2%、「子供の発達・子供の状況」38.1%の順。
- ・一方で、「満足していない+やや満足していない」の合計が最も高いのは、「世帯収入・資産」で42.7%、次いで「仕事の環境・仕事で得られる賃金」が37.9%。

※30%を超えるセルに色掛け

女性



■ 満足 □ やや満足 □ どちらとも言えない
 ■ やや満足していない ■ 満足していない

※「あてはまらない」がある項目は除外して集計（回答対象数が異なる）

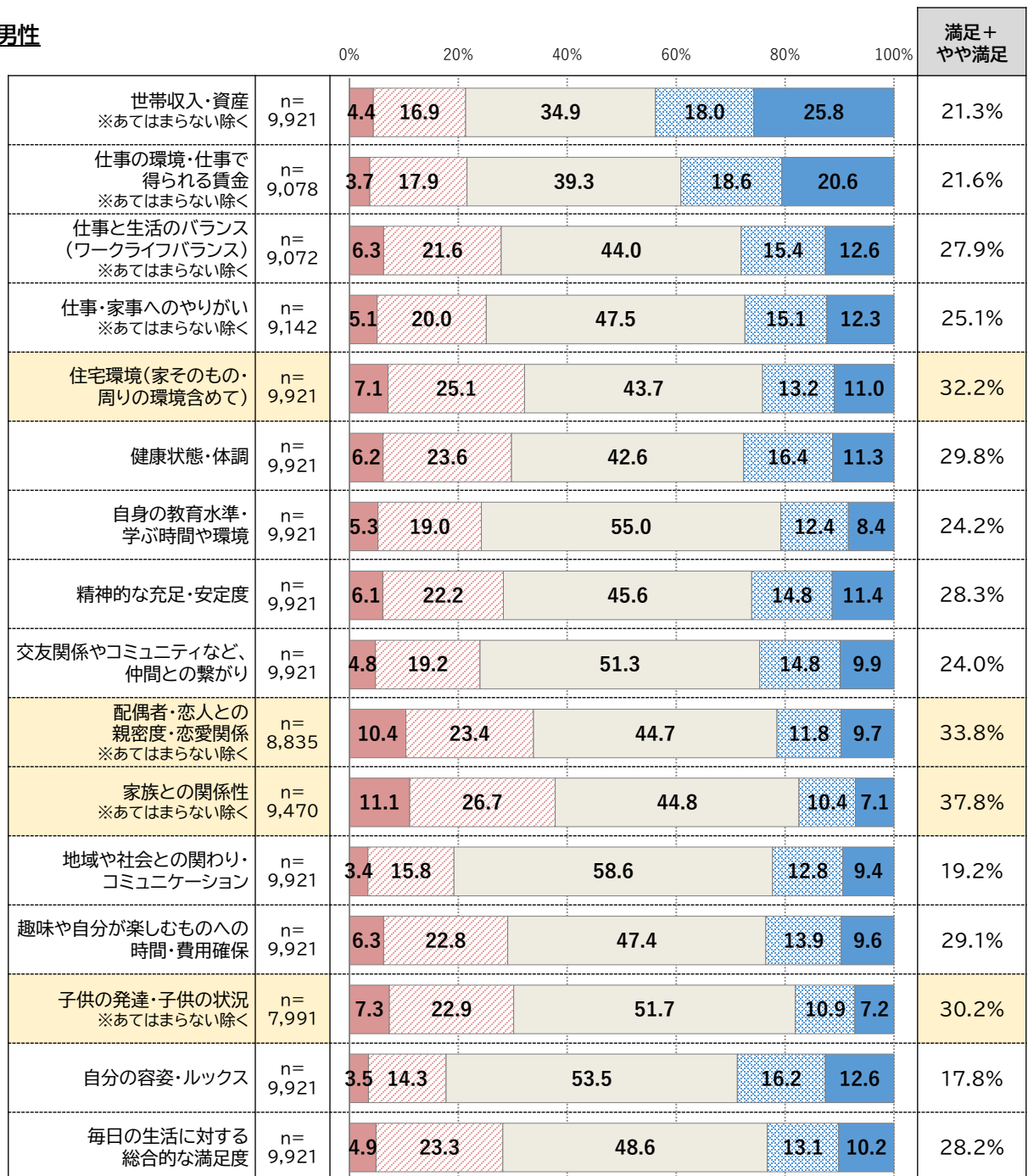
(2) 現在の満足度

・現在の満足度について、男性で「満足+やや満足」の値が最も高いのは「家族との関係性」で37.8%、次いで「配偶者・恋人との親密度・恋愛関係」33.8%、「住宅環境(家そのもの・周りの環境含めて)」32.2%、「子供の発達・子供の状況」30.2%と、傾向は「女性」と同様。ただし、多くの項目において「女性」より満足度の値は低い。

・一方で、「満足していない+やや満足していない」の値が最も高いのは、女性と同じく「世帯収入・資産」43.8%、次いで「仕事の環境、仕事で得られる賃金」が39.2%。

※30%を超えるセルに色掛け

男性

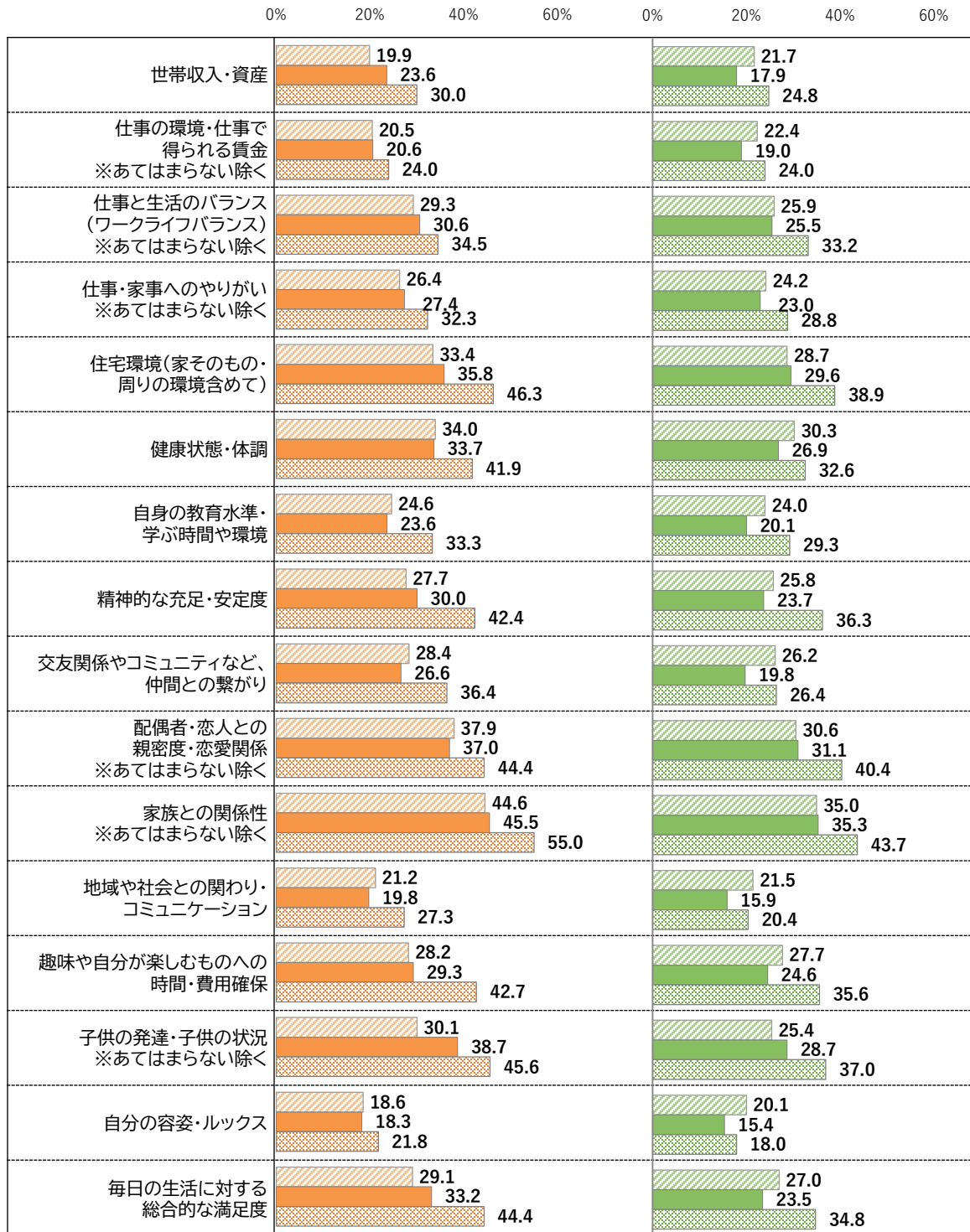


■ 満足 □ やや満足 □ どちらとも言えない
 ■ やや満足していない ■ 満足していない

※「あてはまらない」がある項目は除外して集計（回答対象数が異なる）

(2) 現在の満足度

- ・現在の満足度について、男女別・年代別に見ると、「毎日の生活に対する総合的な満足度」は男女ともに「55-69歳」で最も高く、特に「女性55-69歳」で44.4%。女性では年代が若いほど総合満足度は低くなるが、男性では「40-54歳」が最も低く、23.5%。
- ・男女ともに満足度が最も高かった「家族との関係性」では、男女ともに「55-69歳」の値が高く、特に「女性55-69歳」で55.0%と半数以上を占める。逆に満足度が低かった「世帯収入・資産」「仕事の環境・仕事で得られる賃金」については、女性では年代が若くなるほど低く、男性では「40-54歳」で最も低い。



※「あてはまらない」がある項目は除外して集計(回答対象数が異なる)
※満足度は、「満足」+「やや満足」の累計値

■ 女性20-39歳(n=3,343)
■ 女性40-54歳(n=3,668)
■ 女性55-69歳(n=3,068)

■ 男性20-39歳(n=3,356)
■ 男性40-54歳(n=3,504)
■ 男性55-69歳(n=3,061)

(3) 幸福度

・「20歳のころ」の幸福度について、男女ともに年代が高いほど幸福率(6以上の合計)は高く、「女性55-69歳」で63.3%と最も高い。一方で、最も低いのは「男性21-39歳」で38.6%。同年代の「女性」と比べても5%ポイント程度下回る。

・「現在」の幸福度については、「20歳のころ」と同様に、男女ともに年代が高いほど幸福率(6以上の合計)は高く、「女性55-69歳」で60.8%と最も高い。最も低いのは「20歳のころ」と同様に、「男性20-39歳」で38.1%となった。

・「20歳のころ」と「現在」の幸福度の比較では、「現在」は「55-69歳」で男女ともに減少しており、特に男性は5.9%ポイント減少。

※幸福率とは6以上の合計
※50%を超えるセルに色掛け

【20歳のころの幸福度(※20歳の人を除く)】

	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	幸福率	
女性21-39歳 (n=3,251)	4.6 1.3	3.5	5.8	6.3	34.5			9.5	11.7	11.9	5.3	5.6	43.9%
男性21-39歳 (n=3,255)	4.1 1.6	3.6	5.3	6.0	40.8			9.6	11.0	10.1	3.2	4.6	38.6%
女性40-54歳 (n=3,668)	3.0 1.3	2.5	5.0	5.0	33.6			8.0	11.4	15.7	6.4	7.9	49.5%
男性40-54歳 (n=3,504)	3.7 1.2	2.1	4.4	5.3	38.2			10.3	12.2	13.0	4.5	5.1	45.2%
女性55-69歳 (n=3,068)	1.5 1.1	1.6 3.3	3.0	26.1			8.3	16.1	20.6	9.3	9.0		63.3%
男性55-69歳 (n=3,061)	1.2 0.8	1.5 3.3	3.9	29.9			11.5	15.6	19.2	6.0	7.0		59.4%

【現在の幸福度】

※50%を超えるセルに色掛け

	[0]	[1]	[2]	[3]	[4]	[5]	[6]	[7]	[8]	[9]	[10]	幸福率	
女性20-39歳 (n=3,343)	3.9 2.2	3.4	5.9	6.3	31.0			8.6	11.4	13.2	7.6	6.6	47.3%
男性20-39歳 (n=3,356)	4.4 2.6	4.2	6.7	7.0	37.0			8.8	10.7	9.3	4.5	4.8	38.1%
女性40-54歳 (n=3,668)	3.9 2.3	4.6	5.5	5.9	27.2			8.4	11.6	15.0	8.6	6.8	50.5%
男性40-54歳 (n=3,504)	5.7 3.5	4.2	6.0	6.6	32.7			9.7	10.5	11.7	4.7	4.7	41.4%
女性55-69歳 (n=3,068)	2.2 2.1	3.0	4.5	4.7	22.8			9.0	15.6	20.0	10.2	5.9	60.8%
男性55-69歳 (n=3,061)	3.0 2.7	4.5	5.7	5.9	24.6			10.2	14.1	17.5	7.0	4.7	53.5%

(4) ジェンダー・家制度に対する考え方

※「賛成+やや賛成」「反対+やや反対」の合計値を掲載、「どちらとも言えない」の値は割愛
 ・女性では、「賛成+やや賛成」「反対+やや反対」の値で差が大きいのは、「長男がお墓を守るべきである」「長子が家を継ぐ・家を守るべきである」「長男の嫁は、長男の嫁としての役割を果たすべきである」で「反対」の割合が高く、30%ポイント以上の差。
 ・一方で、賛成側に高いのは、「男性にある程度収入がないと結婚すべきでない」で、「賛成」40.4%、「反対」14.2%。

女性(n=10,079)

※「賛成」「反対」で10%以上の差があるセルに色掛け

賛成+ やや賛成	40%			0%			反対+ やや反対
	20%	0%	40%	20%	40%		
22.2%	16.5	5.6	15.2	14.4	29.6%		
13.2%	10.4	2.8	19.5	19.8	39.2%		
20.6%	16.3	4.3	16.1	17.0	33.1%		
40.4%	27.2	13.2	5.9	8.3	14.2%		
11.7%	8.8	2.9	20.2	17.1	37.4%		
25.7%	17.7	8.0	9.4	10.5	19.9%		
25.2%	17.7	7.5	7.5	9.1	16.6%		
16.9%	12.4	4.5	19.1	14.8	33.9%		
12.6%	9.6	3.0	25.2	16.3	41.5%		
20.9%	14.3	6.6	14.6	12.4	27.0%		
29.0%	23.4	5.6	8.7	10.0	18.7%		
25.1%	20.8	4.3	8.9	10.8	19.6%		
8.9%	6.8	2.2	26.2	17.7	43.9%		
8.5%	6.6	1.9	27.2	17.7	45.0%		
9.5%	7.2	2.3	30.2	17.1	47.3%		

■ 賛成である

▨ やや賛成である

■ 反対である

▨ やや反対である

(4) ジェンダー・家制度に対する考え方

・男性では、「賛成+やや賛成」の値の方が10%ポイント以上高い項目が、前項の「女性」と比べ多く見られる。特に、「事実婚や同棲よりも結婚(法律婚)すべきである」「お見合いや婚活サイト等よりも自然な恋愛結婚が望ましい」は女性と比べ「反対」の割合が低い。

・また、「男女とも結婚(法律婚)して一人前と認めるべきである」「男女とも子供を持って一人前と認めるべきである」「結婚したら夫婦で同じ名字・姓を名乗るべきである」(黒枠)は、女性に比べて「反対」としている人が少ない。

男性(n=9,921)

※「賛成」「反対」で10%以上の差があるセルに色掛け

賛成+ やや賛成	40% 20% 0%				0% 20% 40%			反対+ やや反対
	[Bar Chart]				[Bar Chart]			
23.1%	17.0 6.2			男性は外で働き、 女性が家の中で 家事を支えるべきである	10.8 12.0			22.8%
16.0%	12.6 3.3			女性は結婚後は仕事を セーブ~辞めるべきである	12.9 15.4			28.3%
20.2%	15.9 4.4			女性は出産後は仕事を セーブ~辞めるべきである	11.0 13.7			24.7%
33.5%	23.4 10.1			男性にある程度収入が ないと結婚すべきでない	5.9 9.8			15.6%
11.1%	8.5 2.6			女性よりも男性の方が良い 大学・教育を受けるべきである	15.9 15.6			31.5%
27.6%	18.8 8.8			事実婚や同棲よりも結婚 (法律婚)するべきである	6.4 8.3			14.7%
28.2%	20.4 7.8			お見合いや婚活サイト等よりも 自然な恋愛結婚が望ましい	4.8 7.6			12.4%
20.6%	15.3 5.3			男女とも結婚(法律婚)して 一人前と認めるべきである	11.7 12.4			24.1%
16.9%	12.6 4.3			男女とも子供を持って 一人前と認めるべきである	14.6 13.4			28.0%
26.0%	16.8 9.2			結婚したら夫婦で同じ名字 ・姓を名乗るべきである	8.0 9.1			17.1%
27.8%	22.3 5.5			女性は仕事や家事で忙しくて も外見や美容に 気を遣うべきである	5.6 7.9			13.5%
24.9%	19.9 5.1			男性は仕事や家事で忙しくて も外見や美容に 気を遣うべきである	5.8 8.7			14.5%
15.1%	11.9 3.3			長男がお墓を守るべきである	13.4 13.5			26.9%
14.6%	11.5 3.1			長子が家を継ぐ・ 家を守るべきである	13.4 13.2			26.6%
14.8%	11.4 3.4			長男の嫁は、 長男の嫁としての役割を 果たすべきである	14.1 13.3			27.3%

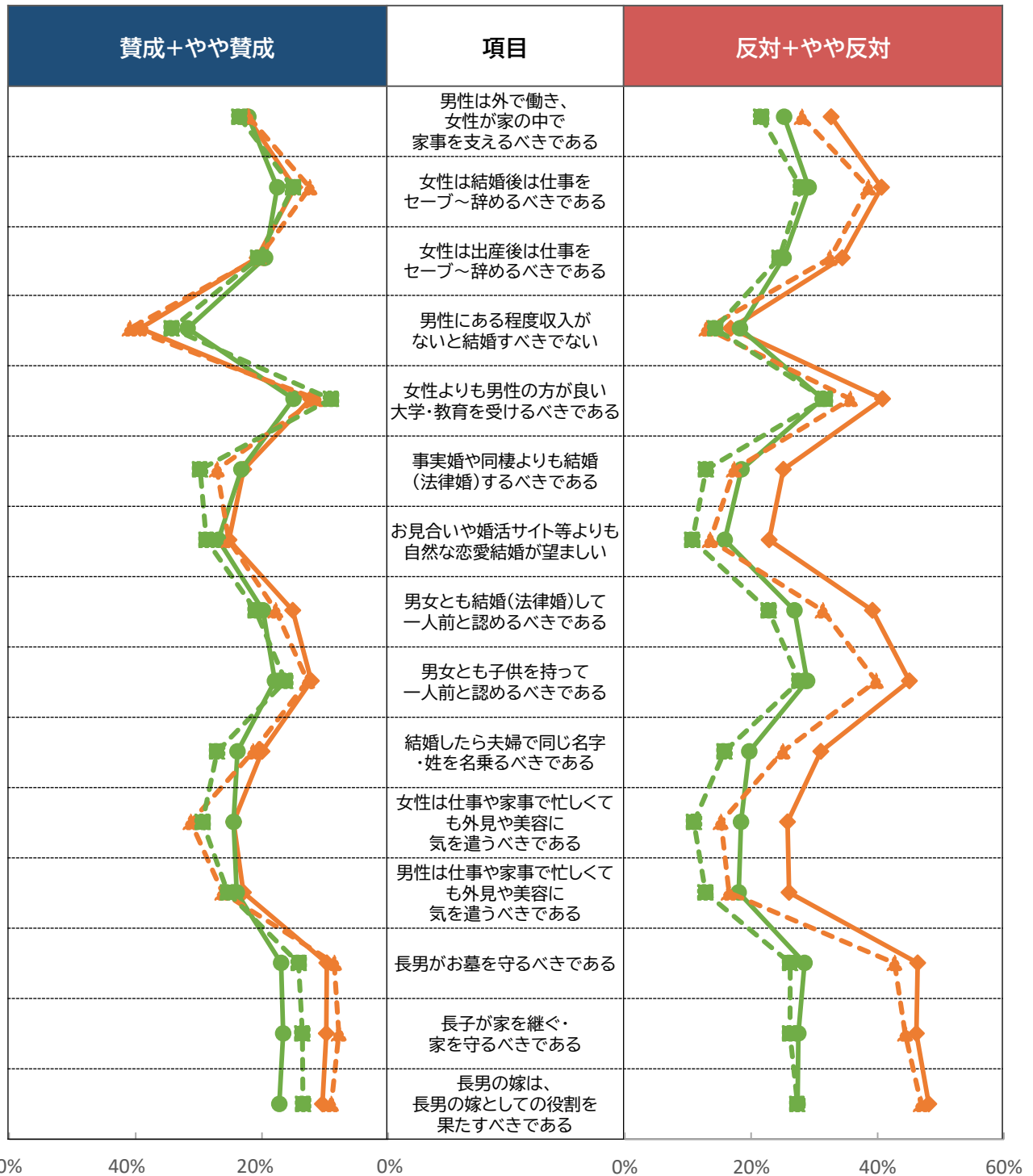
■ 賛成である
▨ やや賛成である

■ 反対である
▨ やや反対である

(4) ジェンダー・家制度に対する考え方

- ・男女別・年代別に傾向を見ると、「女性20-39歳」で多くの項目で最も「反対+やや反対」の割合が高く、次いで「女性40-69歳」、「男性20-39歳」「男性40-69歳」の順。
- ・「賛成+やや賛成」については、「女性20-39歳」「女性40-69歳」では多くの項目では「賛成」の値が「男性」と比べ低いが、「男性にある程度収入がないと結婚すべきでない」については、逆に「賛成」の値が高い。

—◆— 女性20-39歳 (n=3,343) —●— 男性20-39歳 (n=3,356)
-▲- 女性40-69歳 (n=6,736) -■- 男性40-69歳 (n=6,565)



(4) ジェンダー・家制度に対する考え方

	女性/20-39歳 (n=3, 343)		男性/20-39歳 (n=3, 356)		女性/40-69歳 (n=6, 736)		男性/40-69歳 (n=6, 565)	
	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対	賛成+ やや賛成	反対+ やや反対
男性は外で働き、 女性が家の中で 家事を支えるべきである	22.3%	32.7%	22.2%	25.2%	22.1%	28.0%	23.6%	21.6%
女性は結婚後は仕事を セーブ～辞めるべきである	14.8%	40.6%	17.6%	29.1%	12.4%	38.6%	15.1%	27.9%
女性は出産後は仕事を セーブ～辞めるべきである	20.8%	34.4%	19.5%	25.1%	20.5%	32.5%	20.6%	24.5%
男性にある程度収入が ないと結婚すべきでない	39.3%	16.8%	31.8%	18.2%	40.9%	12.9%	34.3%	14.3%
女性よりも男性の方が良い 大学・教育を受けるべきである	12.3%	40.8%	15.0%	31.3%	11.3%	35.7%	9.1%	31.7%
事実婚や同棲よりも結婚 (法律婚)するべきである	22.9%	25.1%	23.3%	18.5%	27.1%	17.3%	29.8%	12.8%
お見合いや婚活サイト等よりも 自然な恋愛結婚が望ましい	25.2%	22.9%	26.9%	15.8%	25.2%	13.5%	28.8%	10.7%
男女とも結婚(法律婚)して 一人前と認めるべきである	15.1%	39.2%	19.8%	26.8%	17.8%	31.3%	21.0%	22.7%
男女とも子供を持って 一人前と認めるべきである	12.2%	45.0%	17.9%	28.8%	12.8%	39.8%	16.3%	27.6%
結婚したら夫婦で同じ名字 ・姓を名乗るべきである	20.0%	31.0%	23.9%	19.7%	21.4%	25.0%	27.1%	15.8%
女性は仕事や家事で忙しくても外 見や美容に 気を遣うべきである	24.5%	25.8%	24.5%	18.4%	31.3%	15.2%	29.4%	10.9%
男性は仕事や家事で忙しくても外 見や美容に 気を遣うべきである	22.9%	26.0%	24.0%	18.0%	26.2%	16.5%	25.4%	12.8%
長男がお墓を守るべきである	9.7%	46.4%	17.0%	28.4%	8.6%	42.7%	14.2%	26.2%
長子が家を継ぐ・ 家を守るべきである	9.8%	46.1%	16.6%	27.4%	7.8%	44.4%	13.6%	26.2%
長男の嫁は、 長男の嫁としての役割を 果たすべきである	10.4%	48.1%	17.3%	27.4%	9.0%	46.9%	13.5%	27.3%

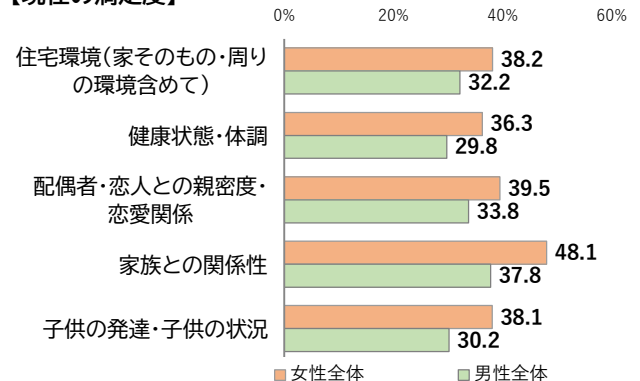
調査結果まとめ

◆現在、将来の不安と満足度

- 1 「現在」、「将来」ともに女性で「不安」が高く、特に「現在」は、「子供の育児に掛る費用や教育費負担が大変」「生活がぎりぎり、貯金ができない」と**金銭面で男性より不安が高い**。
- 2 将来の不安は、男女ともに「40-54歳」で不安とする項目が多い。特に女性で顕著であり、「高齢になって十分な介護が受けられるか」「年金受給が出来るか」など。
- 3 現在の満足度は、男女ともに「家族との関係性」が最も高い。全体として上の年代で満足度は高い傾向にあり、男性は「40-54歳」、女性は「20-39歳」で満足度が低い。

		女性全体	男性全体
現在不安	生活がぎりぎり貯金ができない	30.8%	28.1%
	家族の中に居場所がない	7.9%	10.3%
将来不安	高齢になって十分な生活ができない	32.6%	25.5%
	高齢になっても年金受給が不透明	34.9%	27.5%
	高齢になっても働かないといけな	30.5%	26.2%
	高齢になって身体が不自由になり誰かの介助が必要になる	33.4%	26.2%

【現在の満足度】



◆ジェンダー・家制度に対する考え方

- 1 女性では、**長男・長子・長男の嫁など「家制度」に対する反対割合が高い**。男性では「法律婚すべき」「自然な恋愛結婚が望ましい」等で反対の割合が女性に比べ低い。
- 2 男女別・年代別では、「年代の若い女性」→「上の年代の女性」→「若い男性」→「上の年代の男性」の順に、「反対」の割合が高い。

- ・「女性」では特に「長男がお墓を守るべき」や「長子や長男の嫁に対する役割」に対する反対割合が高く、「家」に対する考え方は既存の家制度に納得できない・反対する考えが男性に比べ大きいと推測される。
- ・一方で、男性は女性と比べ、法律婚や子供を持つ事、夫婦で同姓であることへの「賛成」の割合が高い（反対も少ない）。「法律婚して子供がいることで一人前」という既存の考え方に沿うことが、「社会的に自分がどう見られるか」ということに繋がると意識しており、それがこの結果に繋がっているとも推測される。

		女性(n=10,079)		男性(n=9,921)	
		賛成	反対	賛成	反対
収入	男性にある程度収入がないと結婚すべきではない	40.4%	14.2%	33.5%	15.6%
結婚・子供	事実婚や同棲よりも結婚（法律婚）するべきである	25.7%	19.9%	27.6%	14.7%
	お見合いや婚活サイト等よりも自然な恋愛結婚が望ましい	25.2%	16.6%	28.2%	12.4%
	男女とも結婚（法律婚）して一人前と認めるべきである	16.9%	33.9%	20.6%	24.1%
	男女とも子供を持って一人前と認めるべきである	12.6%	41.5%	16.9%	28.0%
	結婚したら夫婦で同じ名字・姓を名乗るべきである	20.9%	27.0%	26.0%	17.1%
家制度	長男がお墓を守るべきである	8.9%	43.9%	15.1%	26.9%
	長子が家を継ぐ・家を守るべきである	8.5%	45.0%	14.6%	26.6%
	長男の嫁は、長男の嫁としての役割を果たすべきである	9.5%	47.3%	14.8%	27.3%

第3章 分析視点別結果

第3章 分析視点別結果

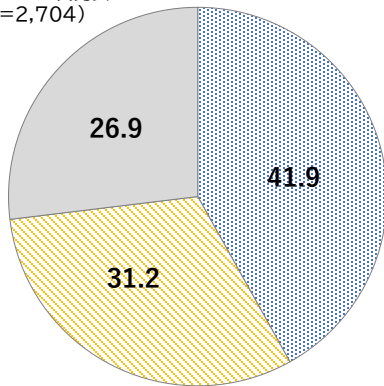
1. 独身中高年を取り巻く状況

※中高年=男女40代-50代を対象としている

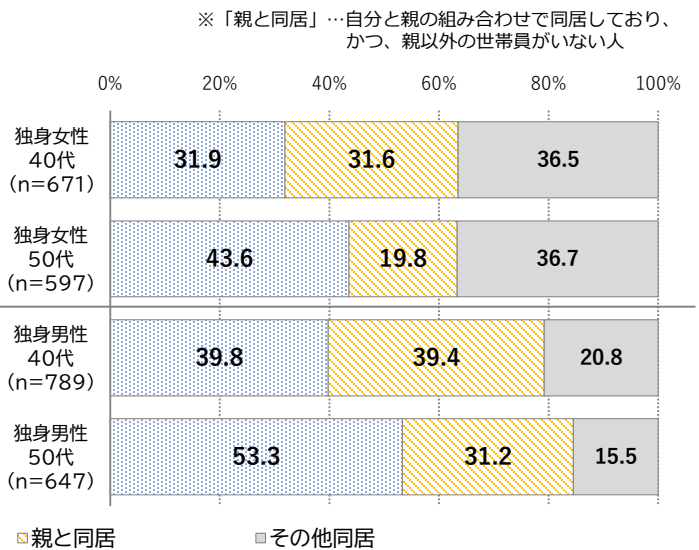
(1) 現在の同居形態

・中高年の状況について、現在独身の40-50代男女に絞り、現在の同居形態について見たところ、40-50代男女全体では、「一人暮らし」が41.9%と最も高く、続いて「親と同居」で31.2%。
 ・男女別・年代別にみると、男女ともに40代で「親と同居」の割合が高く、特に「独身男性40代」で39.4%、「独身女性40代」で31.6%。反対に「独身女性50代」では「一人暮らし」が43.6%、「独身男性50代」で53.3%と半数を超える。

独身40-50代男女
(n=2,704)

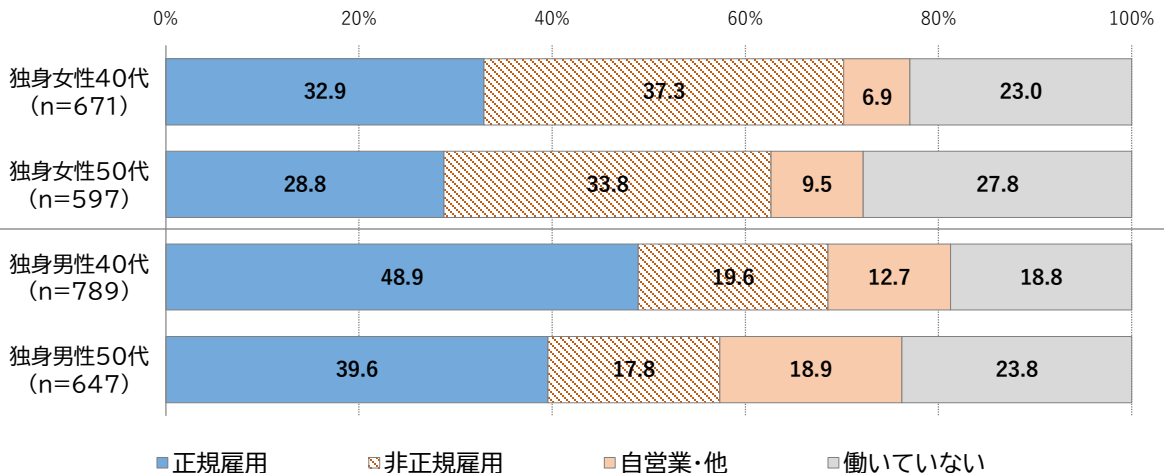


■一人暮らし



(2) 現在の就業状況

・現在の就業状況について、「非正規雇用」は「独身女性40代」で37.3%と最も高く、「正規雇用」は「独身男性40代」で48.9%となる。
 ・一方で、男性では「働いてない」の割合が同年代の既婚者と比べ高く(無職率(P45参照):「既婚男性40代」2.6%、「既婚男性50代」4.0%)、「独身男性40代」で18.8%、「独身男性50代」で23.8%。反対に女性では「働いてない」の割合が既婚女性に比べて低く、「正規雇用」の割合が高い。「正規雇用」の割合は、「既婚女性40代」17.3%、「既婚女性50代」11.8%(P45参照)に対して、「独身女性40代」で32.9%、「独身女性50代」で28.8%。



■正規雇用

■非正規雇用

■自営業・他

■働いてない

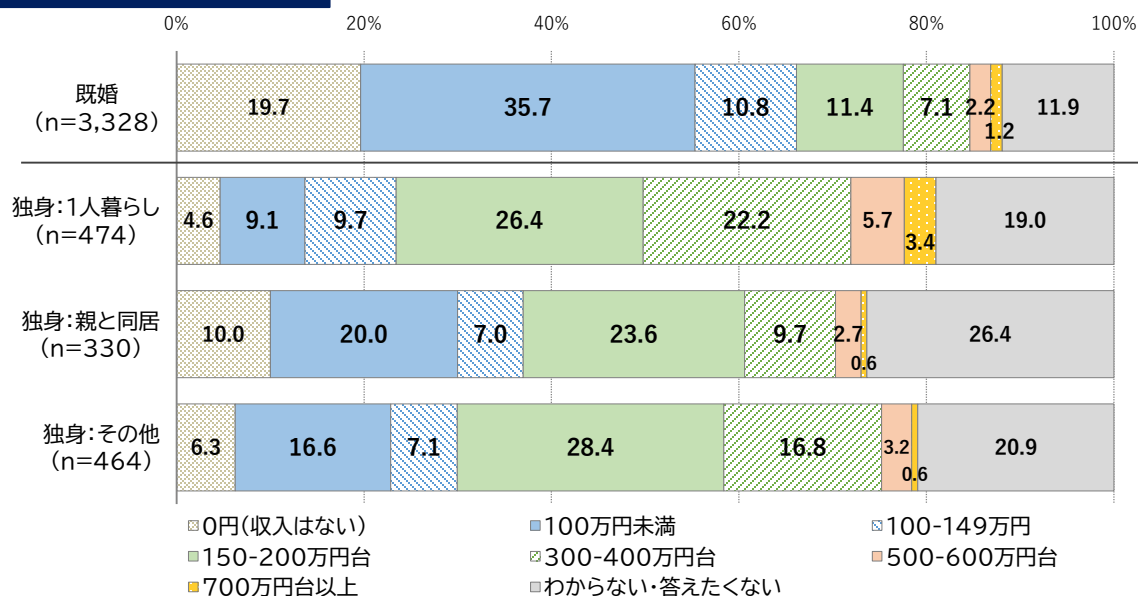
(3) 個人年収(既婚者と独身者(居住形態別)の比較)

※40代・50代男女に絞って、個人年収を見た。

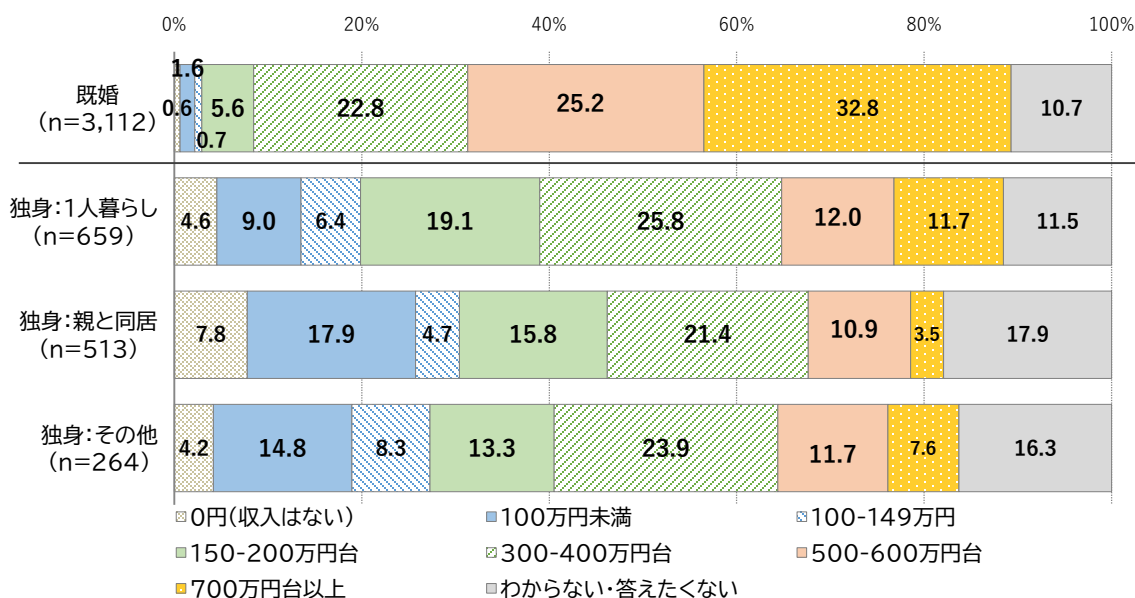
・女性では、「既婚」では主婦(働いていない)割合も高いことから、「100万円未満」の割合が「独身」と比べ高く、反対に「独身」では「150-200万円台」「300-400万円台」の割合が高い。

・男性では、女性と反対に「既婚」で「100万円未満」の割合が低く、1.6%。一方、「独身:親と同居」では「100万円未満」が17.9%と最も高く、「独身:その他」で14.8%。また、「700万円台以上」以上の割合が「独身」で低い。

①40-59歳 女性



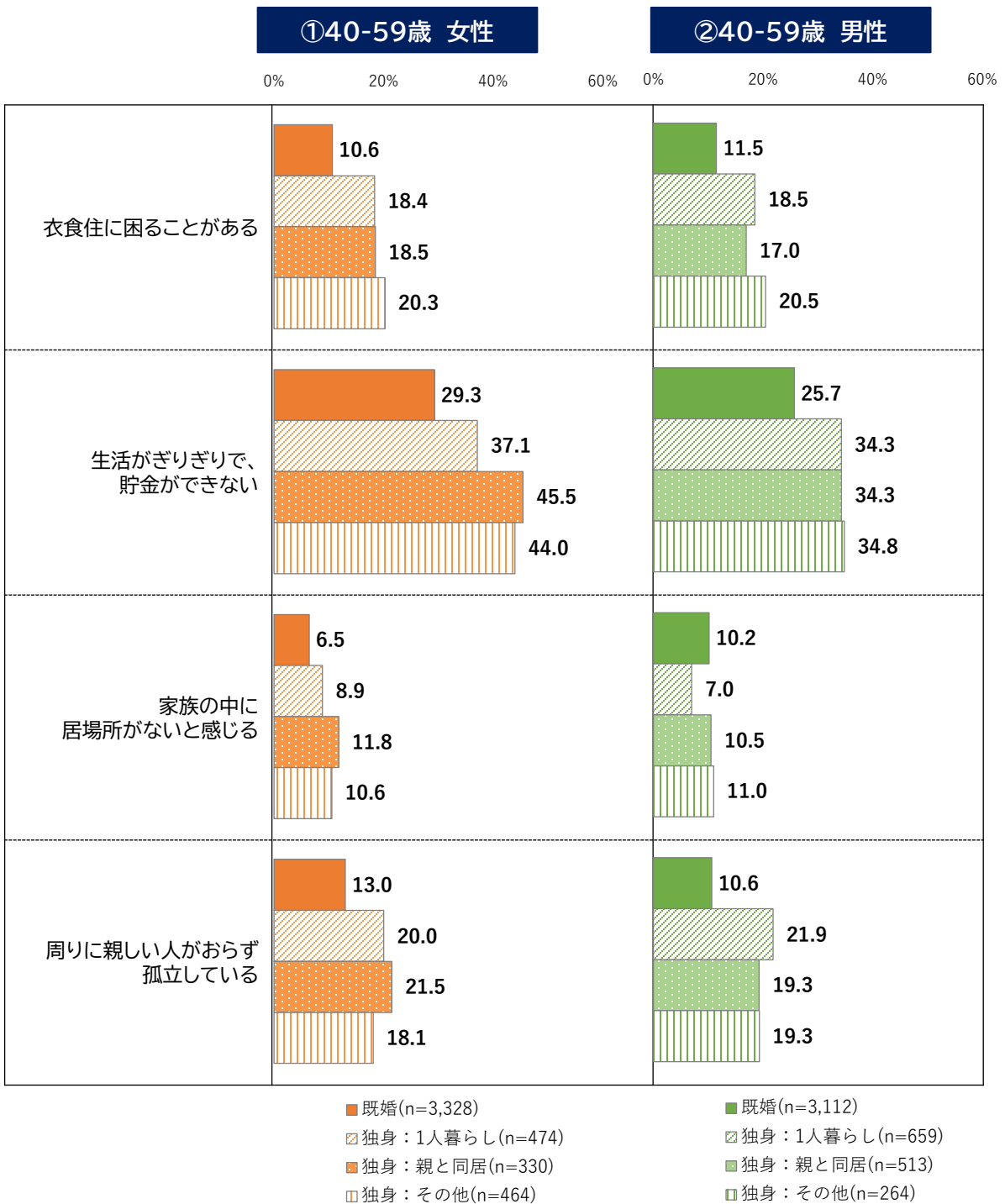
②40-59歳 男性



(4) 現在の不安

・現在の不安について、「40-59歳女性」では、「独身」で「衣食住に困る」「生活がぎりぎりで、貯金ができない」「周りに親しい人がおらず孤立している」の値が高く、「既婚」と比べ、差が見られる。また、「家族の中に居場所がないと感じる」も同様の傾向であり、「独身:1人暮らし」と比べ「独身:親と同居」の方が高い値。

・「40-59歳男性」も女性と同様の傾向であり、「既婚」と比べ「独身」で値が高い。また、「家族の中に居場所がないと感じる」は「既婚」「独身:親と同居」「独身:その他」で値が高く、「独身:1人暮らし」で低い。



※「当てはまる」 + 「やや当てはまる」の累計値を掲載

(5) 将来の不安(未既婚別)

・「40-59歳女性」では、「独身」で将来への不安の値が高く、「既婚」との差が見られる。「既婚者」内で比較すると、「夫婦ともに正規雇用」で将来への不安が最も低い。

・男性も同様の傾向が見られ、「既婚」に比べ「独身」で将来への不安が高い。また、「十分な介護が受けられない」「年金受給が不透明・見通しが立たない」は「夫婦ともに正規雇用」において不安が低い。

①40-59歳 女性

		自分の周りに頼る人・面倒を見てくれる人がいなくなる	高齢になって十分な生活ができなくなる	高齢になって十分な介護が受けられなくなる	高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない	高齢になって孤立してしまう
既婚	夫婦ともに正規雇用 (n=413)	20.8%	23.7%	23.2%	27.6%	19.4%
	夫:正規/妻:非正規 (n=874)	21.3%	33.2%	30.9%	38.0%	28.7%
	夫:正規/妻:無職 (n=1,098)	24.9%	35.2%	33.0%	39.8%	30.9%
	配偶者有りその他 (n=943)	25.0%	31.1%	29.0%	36.7%	26.4%
独身	1人暮らし (n=474)	36.3%	43.2%	38.8%	44.9%	39.7%
	親と同居 (n=330)	46.4%	52.1%	48.5%	54.2%	50.6%
	その他 (n=464)	32.8%	45.9%	41.2%	48.1%	37.3%

②40-59歳 男性

		自分の周りに頼る人・面倒を見てくれる人がいなくなる	高齢になって十分な生活ができなくなる	高齢になって十分な介護が受けられなくなる	高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない	高齢になって孤立してしまう
既婚	夫婦ともに正規雇用 (n=955)	13.9%	19.3%	17.2%	21.2%	16.9%
	夫:正規/妻:非正規 (n=956)	13.9%	24.2%	22.4%	27.9%	19.5%
	夫:正規/妻:無職 (n=687)	13.2%	21.8%	21.5%	26.9%	19.2%
	配偶者有りその他 (n=514)	15.8%	25.3%	24.3%	32.1%	19.8%
独身	1人暮らし (n=659)	27.2%	32.3%	31.3%	35.1%	32.5%
	親と同居 (n=513)	30.6%	37.4%	34.3%	39.2%	40.0%
	その他 (n=264)	27.3%	34.5%	31.1%	36.4%	33.0%

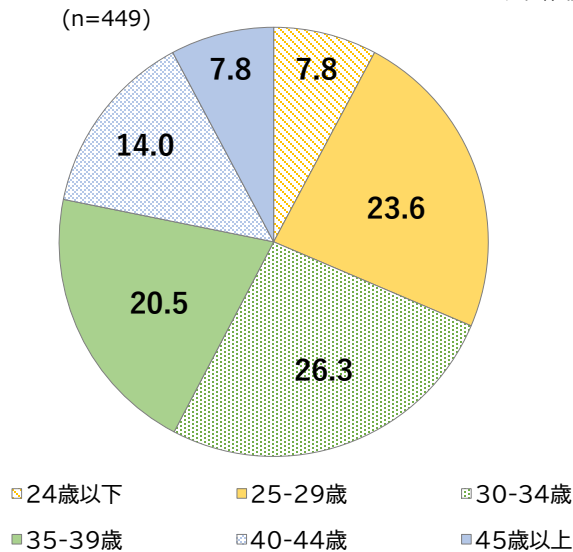
2. シングルマザーを取り巻く状況

(1) シングルマザーになった年齢

・シングルマザーになった年齢について、最も高かったのは「30-34歳」で26.3%、次いで「25-29歳」で23.6%、「35-39歳」で20.5%の順であり、「30代でシングルマザーとなった人」が全体の46.8%と半数近くを占める。

・実際の年齢を、シングルマザー以外の女性と比較したところ、「最初に結婚した年齢」は24.5歳と、シングルマザー以外の女性(26.8歳)と比べ2歳早かった。また、「第一子を持った年齢」も同様に、シングルマザー25.9歳に対し、シングルマザー以外の女性は28.1歳と2歳程度の差。

※集計対象者…離婚・死別経験があり子供がいる女性で、「離婚時の年齢」「第一子を持った年齢」のどちらも回答している人、かつ、最初に離婚した時に第一子がいる(離婚時の年齢が第一子を持った年齢を上回る)人、かつ、離婚時に子供が19歳以下の人を対象とした
※現在配偶者がいない人を対象とした



	現在の年代				
	20代	30代	40代	50代	60代
20代でなった人 (n=141)	7.1%	14.9%	31.9%	24.1%	22.0%
30代でなった人 (n=210)	-	13.3%	23.3%	31.4%	31.9%
40代でなった人 (n=98)	-	-	23.5%	36.7%	39.8%

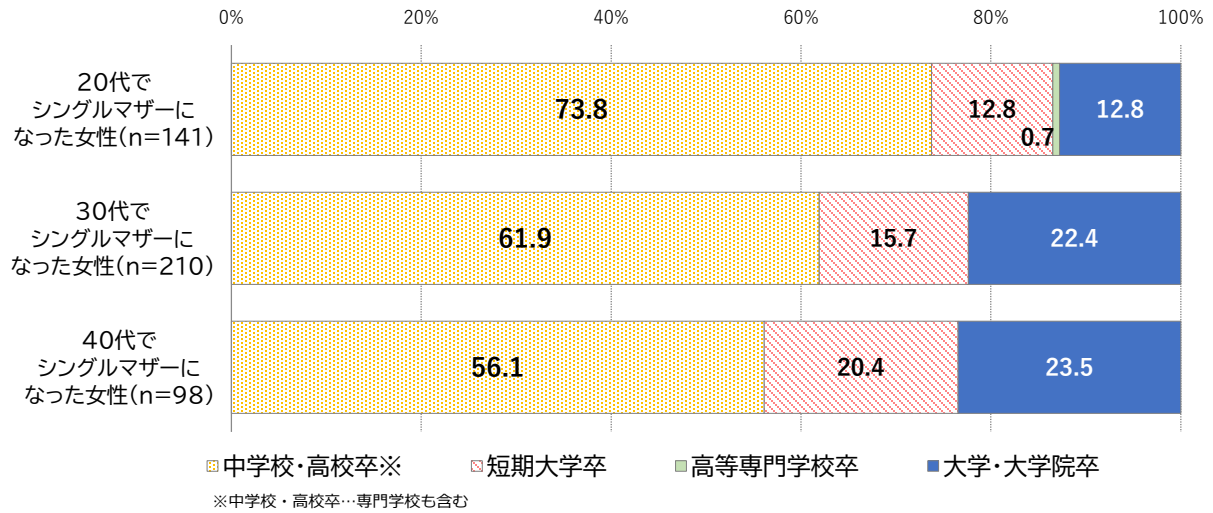
※全て全回答値の平均年齢

現実の年齢	シングルマザー (n=449)	シングルマザー 以外の女性
最初に結婚した年齢	24.5歳	26.8歳 (n=6,757)
第一子を持った年齢	25.9歳	28.1歳 (n=5,127)
シングルマザーになった時 (最初に離婚した時)の年齢	33.4歳	34.1歳 (n=821)

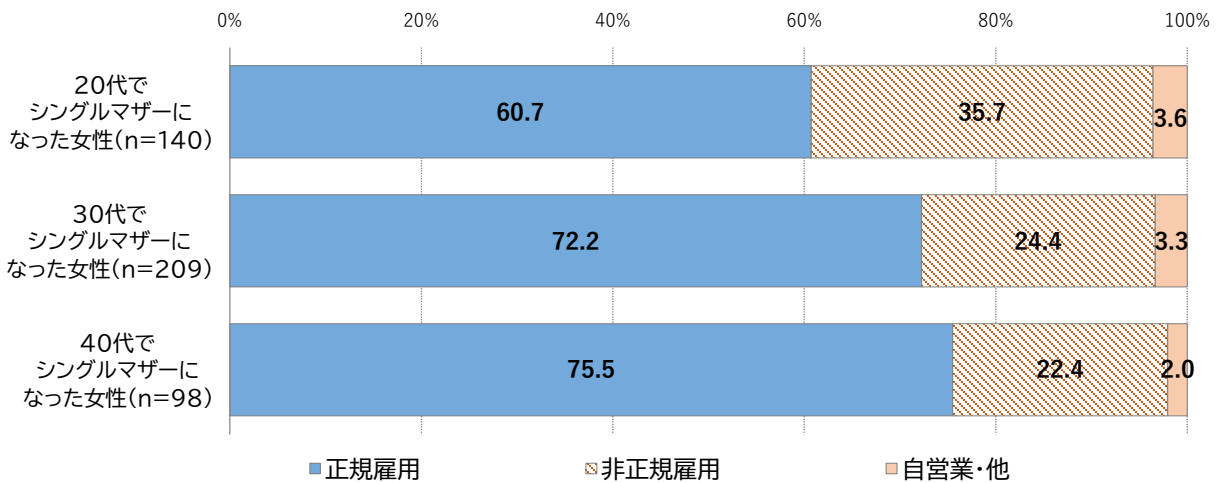
(2) 最終学歴と初職の状況

- ・シングルマザーになった年齢別に、最終学歴を見たところ、「20代でなった人」は73.8%が「中学校・高校卒」なのに対し、「40代でなった人」は「中学校・高校卒」が56.1%、「大学・大学院卒」が23.5%と、シングルマザーになった年齢が遅いほど、「中学校・高校卒」の割合が低くなる。
- ・最終学歴後の初職については、「20代でなった人」は「非正規雇用」の割合が最も高く35.7%。一方で「40代でなった人」は、「正規雇用」の割合が75.5%を占める。

【最終学歴】



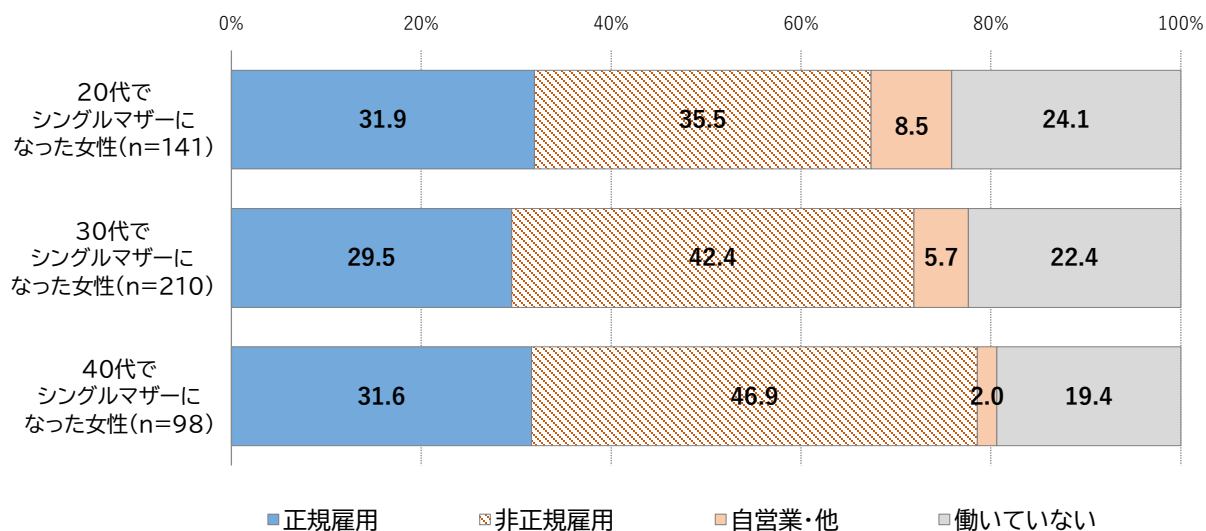
【初職の就業状況】 ※初職で働いていない2名を除く



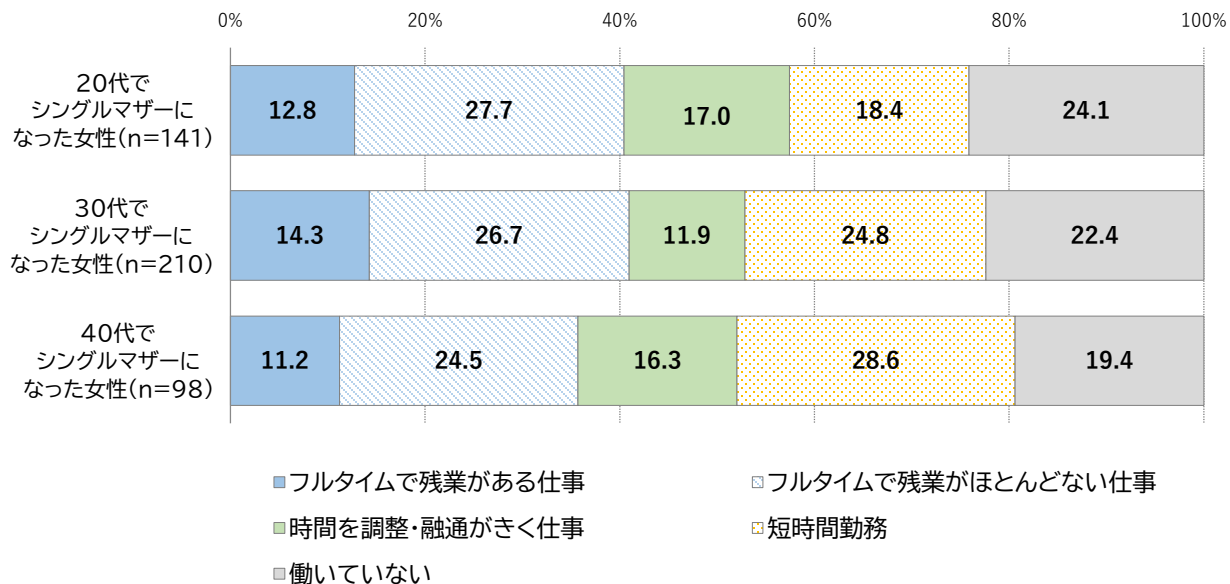
(3) 現在の職業状況

- ・現在の就業状況について、「正規雇用」の割合はどの層も3割前後と、シングルマザーになった年齢によって大きな差は見られないが、「40代でなった人」は現在「非正規雇用」である割合が最も高く46.9%。
- ・現職の勤務形態も、非正規雇用率に関連して「40代でなった人」で「短時間勤務」の割合が高く、28.6%。

【現在の就業状況】



【勤務形態】



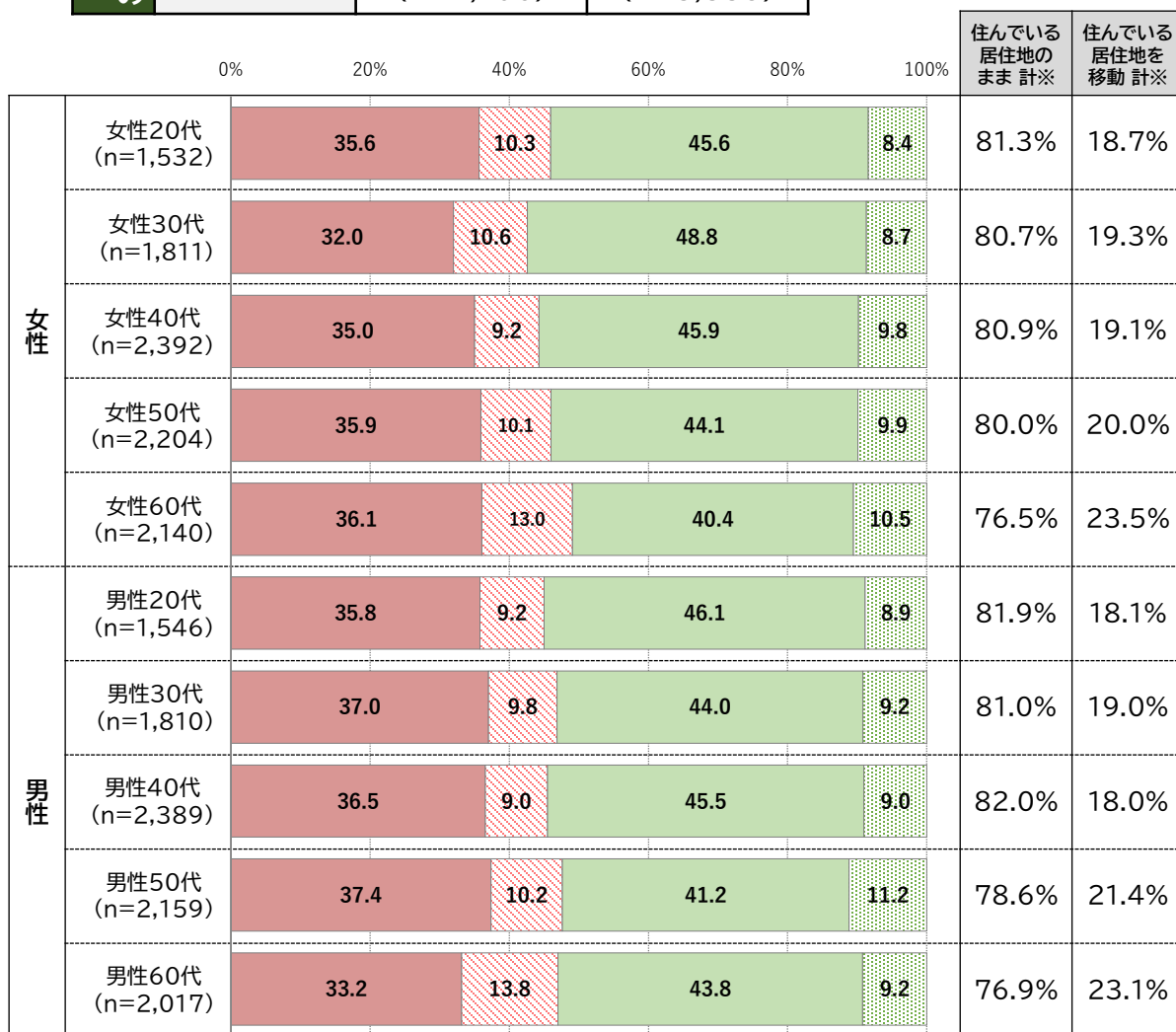
3. 都市部への流入による影響について

(1) 中学校卒業時の居住地と現在の居住地の関係

- ・地域を大都市圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、愛知県、大阪府、福岡県）と、その他都市に分け、中学校卒業時の居住地と現在の居住地との関係を見た。
- ・全体では「その他都市-その他都市」が最も高く、次いで「大都市圏-大都市圏」の順。「その他都市-大都市圏」は「男性60代」で13.8%、「女性60代」で13.0%と高い。男女ともに20-50代は傾向に大きな差は見られない。

		現在の居住地	
		大都市圏	その他都市
中学校卒業時の居住地	大都市圏	1.大都市圏-大都市圏層 (n=7,099)	4.大都市圏-その他都市層 (n=1,910)
	その他都市	2.その他都市-大都市圏層 (n=2,106)	3.その他都市-その他都市層 (n=8,885)

※住んでいる居住地のまま計…
「大都市圏-大都市圏」「その他都市-その他都市」の累計値
※住んでいる居住地を移動計…
「その他都市-大都市圏」「大都市圏-その他都市」の累計値



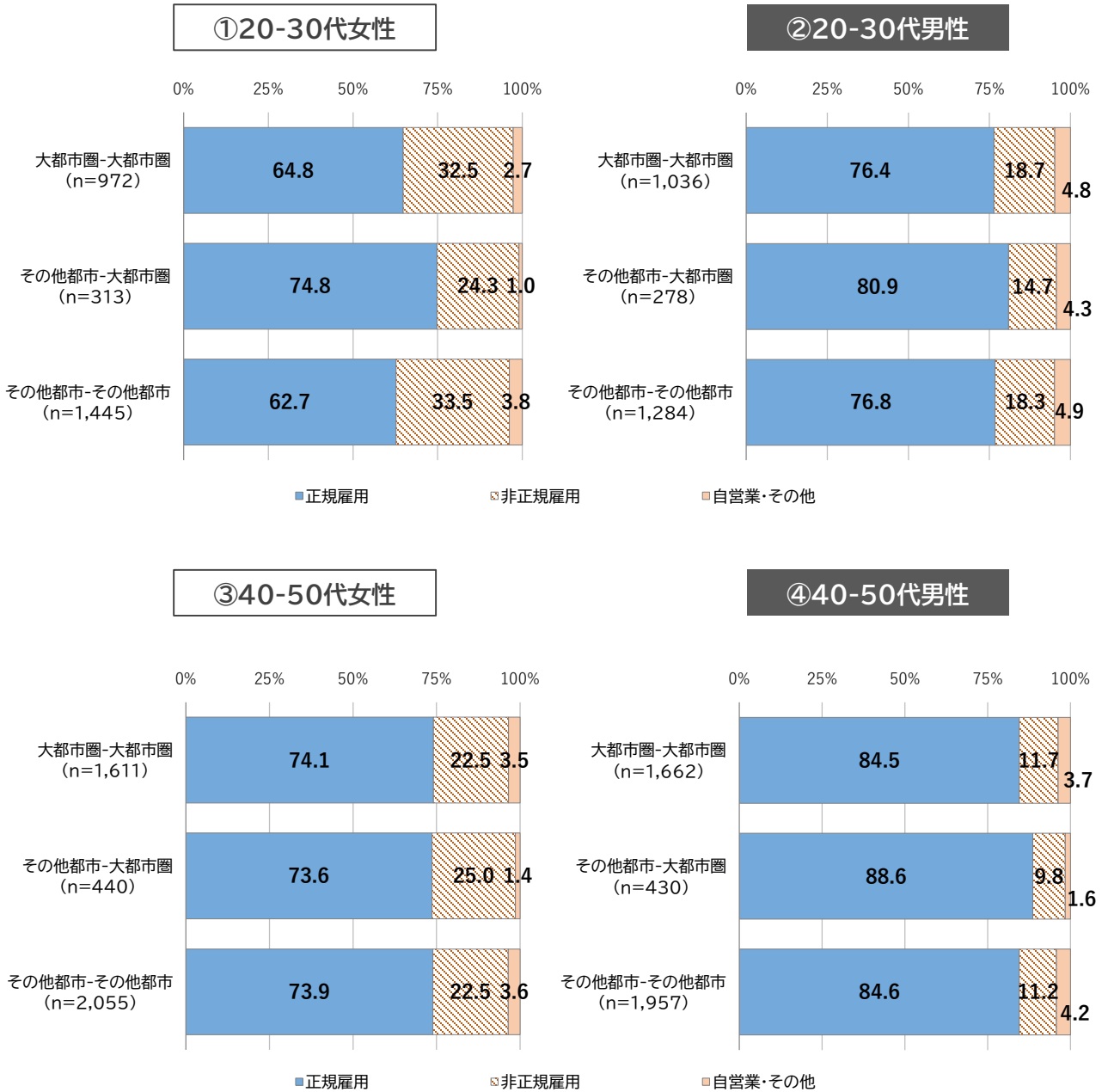
■ 大都市圏-大都市圏 ▨ その他都市-大都市圏
■ その他都市-その他都市 ▩ 大都市圏-その他都市

(2) 居住地の変化と初職の雇用形態

※居住地の組み合わせにより、初職の雇用形態について見た。ただし、中学校卒業時の居住地と現在の居住地との組み合わせであり、どの時点で移動したのか(進学、結婚、転勤等に伴い)等の詳細は不明である点に注意が必要。

・「20-30代女性」では、「その他都市-大都市圏」で「正規雇用」が74.8%と最も高く、同様に「20-30代男性」「40-50代男性」も「その他都市-大都市圏」で「正規雇用」割合が最も高い。

※「大都市圏-その他都市」については、本パートは都市部への流入を中心に見ていく為、割愛

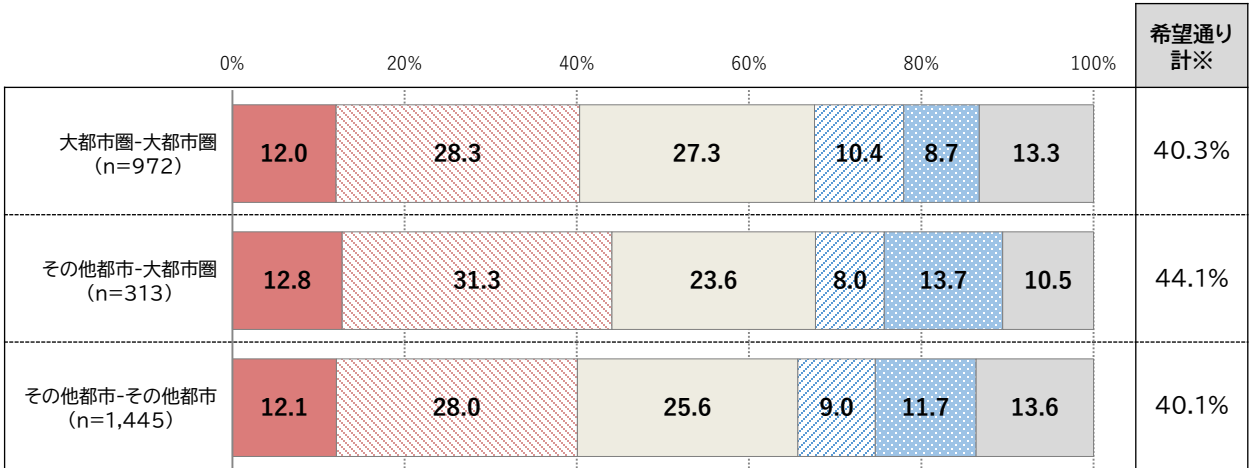


(3) 居住地の変化と初職への希望度

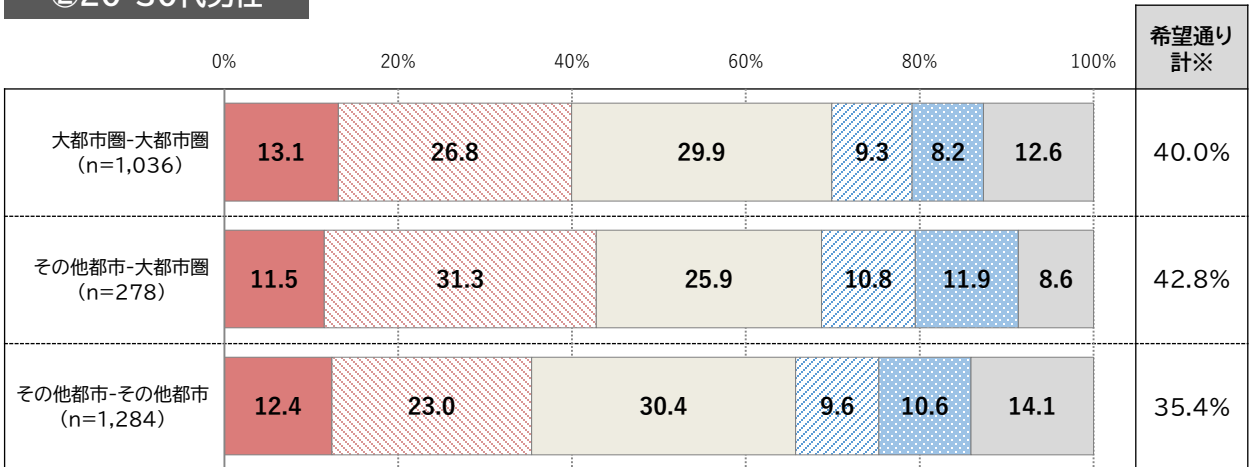
・初職について就職前の希望度を見たところ、「20-30代女性」では、「希望通り+やや希望通り」の累計値は、「その他都市-大都市圏」で最も高く44.1%、「大都市圏-大都市圏」「その他都市-その他都市」は4割。
 ・「20-30代男性」も同様に、「その他都市-大都市圏」で最も高く42.8%、一方で「その他都市-その他都市」で最も低く35.4%。

①20-30代女性

※「希望通り」+「やや希望通り」の累計値



②20-30代男性



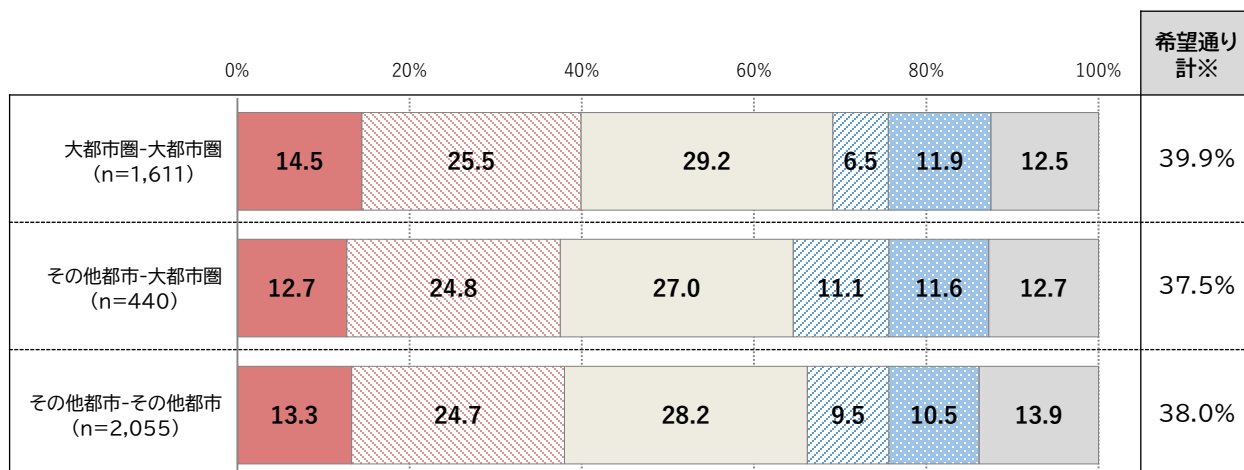
- 希望通り
- ▨ やや希望通り
- どちらとも言えない
- ▨ やや希望通りでない
- 希望通りでない
- 覚えていない

(3) 居住地の変化と初職への希望度

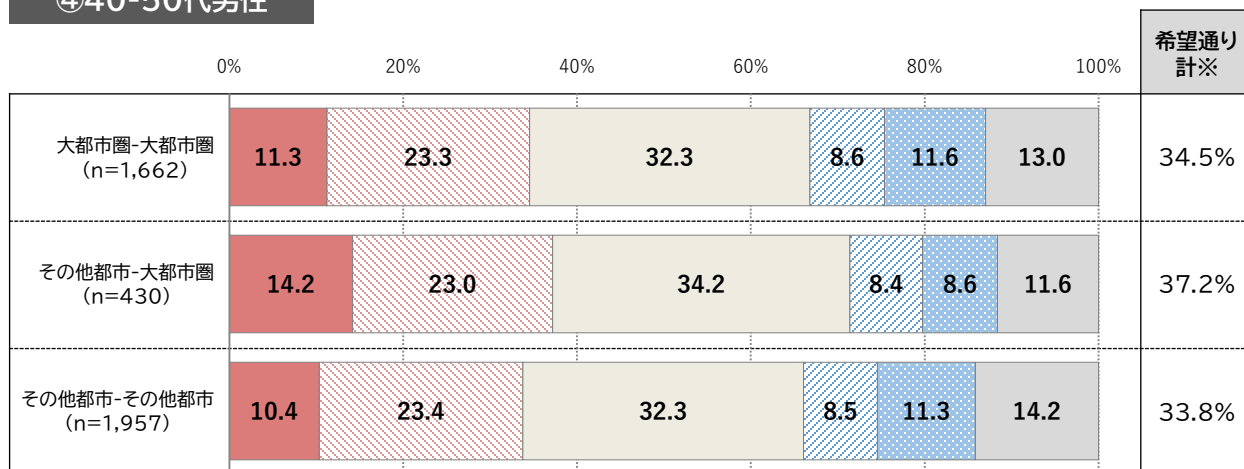
- ・「40-50代男性」も20-30代男女と同様に、「その他都市-大都市圏」で「希望通り計」の値が高く37.2%、「大都市圏-大都市圏」で34.5%、「その他都市-その他都市」で33.8%。
- ・一方で、「40-50代女性」では、大きな差は見られず、「希望通り計」は38-40%の間。

③40-50代女性

※「希望通り」+「やや希望通り」の累計値



④40-50代男性



- 希望通り
- ▨ やや希望通り
- どちらとも言えない
- ▤ やや希望通りでない
- 希望通りでない
- 覚えていない

4. 離婚リスクについて

(1) 夫婦の就業状況・年代別

※夫婦の就業状況及び年代別に離婚リスクを見た。「離婚可能性あり(定義は注釈参照)」の値を掲載。

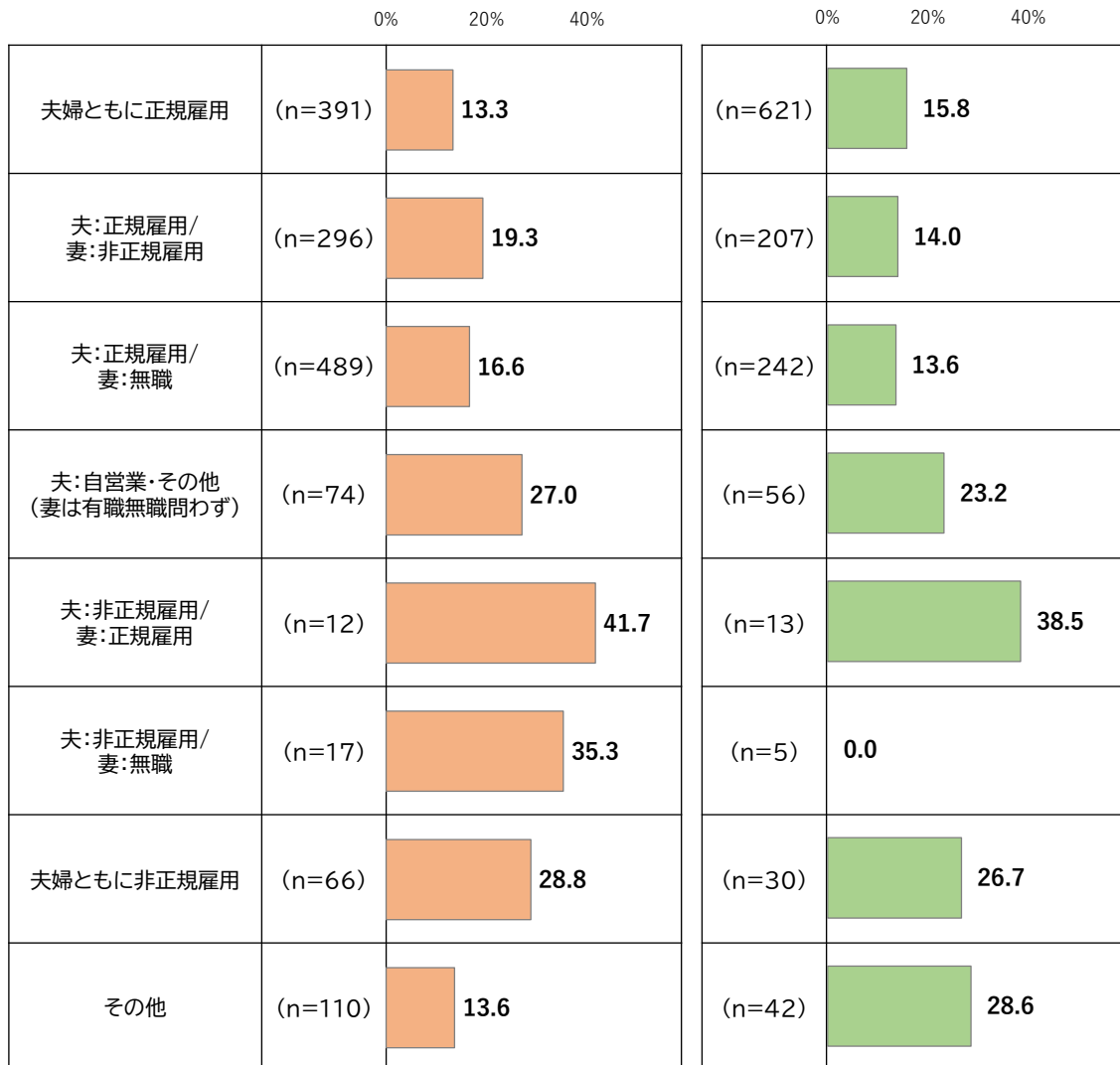
・「20-39歳女性」では、「夫婦ともに正規雇用」の場合で離婚リスクは最も低く13.3%、反対に「夫:非正規雇用/妻:正規雇用」「夫:非正規雇用/妻:無職」「夫婦ともに非正規雇用」「夫:自営業・その他」で離婚可能性が高い。

・「20-39歳男性」では、「夫:正規雇用」の場合で離婚可能性は最も低く、「夫:非正規雇用/妻:正規雇用」「夫婦ともに非正規雇用」「夫:自営業・その他」の場合で離婚可能性が高い。

※離婚可能性7段階について、「あるかもしれない」+「かなりありそう」+「現在、離婚準備中」の累計値を掲載

①既婚20-39歳 女性

②既婚20-39歳 男性



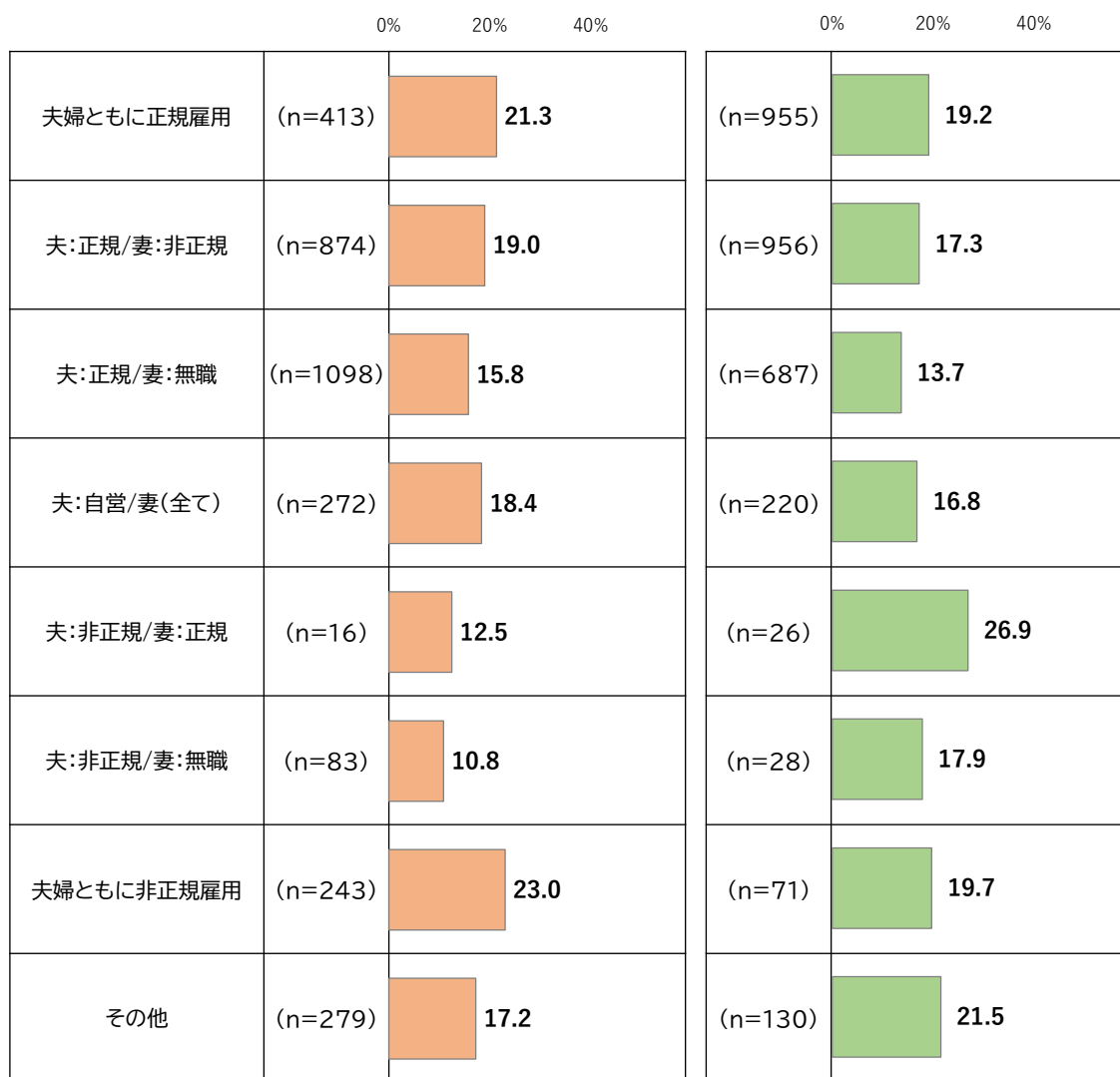
(1) 夫婦の就業状況・年代別

・「40-59歳女性」については、「夫婦ともに非正規雇用」の場合に離婚可能性が最も高く、23.0%。「40-59歳男性」では、「夫:非正規雇用/妻:正規」の場合において、離婚可能性が最も高く、26.9%。

※離婚可能性7段階について、
「あるかもしれない」+「かなりありそう」+「現在、離婚準備中」
の累計値を掲載

③既婚40-59歳 女性

④既婚40-59歳 男性



(2) 個人年収別

※個人年収別に離婚可能性を見た。

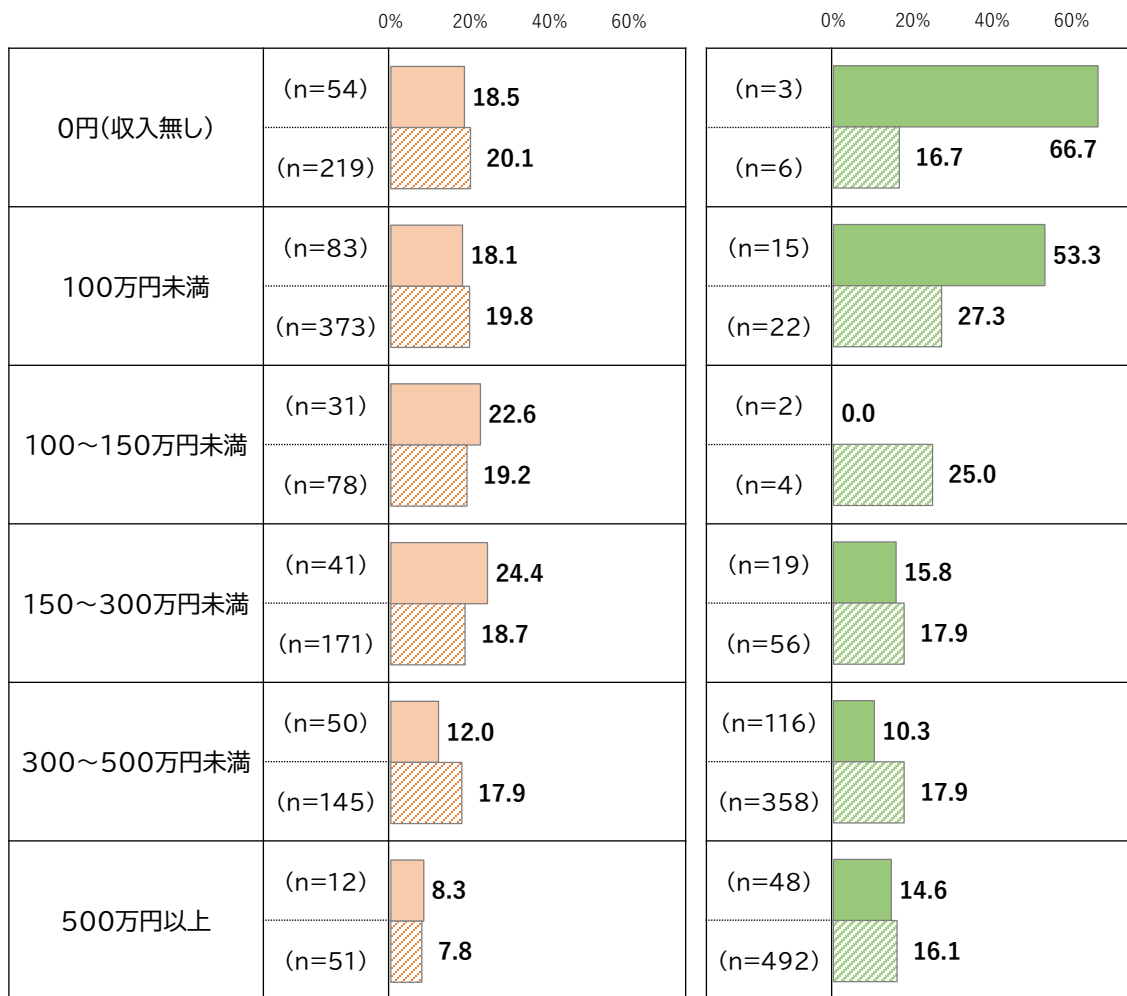
・「女性20代」では、「300～500万円未満」(12.0%)、「500万円以上」(8.3%)で、それ以下の個人年収の場合と比べ、離婚可能性が低くなっている。「女性30代」では、「500万円以上」で離婚可能性は7.8%と最も低い。

・「男性20代」では、対象者数は少ないが、「0円(収入無し)」「100万円未満」で150万円以上と比べ離婚可能性が高くなっている。「男性30代」では、「100万円未満」で離婚可能性は最も高いが、個人年収によって大きな差は見られない。

※離婚可能性7段階について、「あるかもしれない」+「かなりありそう」+「現在、離婚準備中」の累計値を掲載

①既婚 女性20代・30代

②既婚 男性20代・30代



■ 女性20代
▨ 女性30代

■ 男性20代
▨ 男性30代

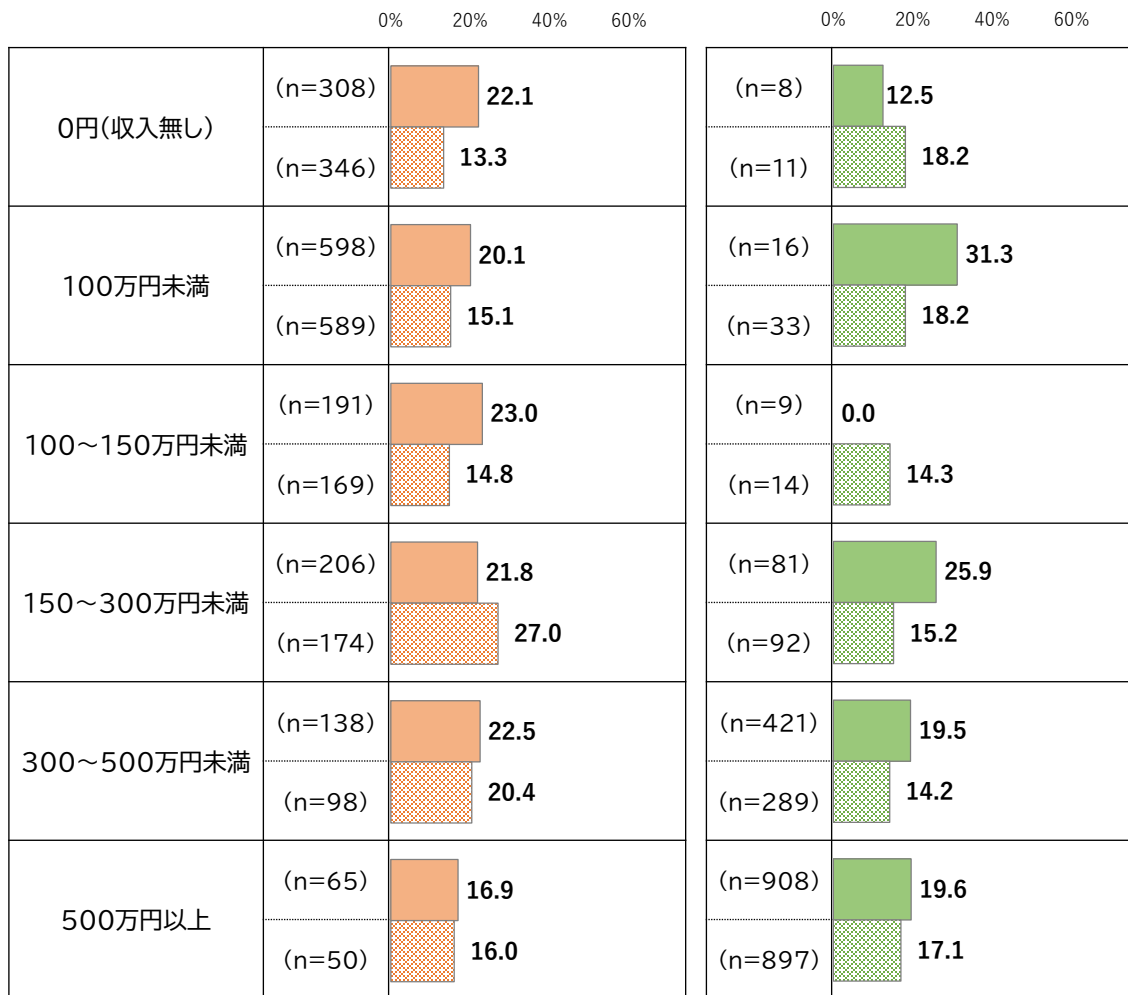
(2) 個人年収別

- ・「女性40代」は個人年収によって離婚可能性に大きな差は見られないものの、「500万円以上」で16.9%と最も低い。「女性50代」では、「150～300万円未満」で27.0%と、それ以下と比べ高い。
- ・「男性40代」では「100万円未満」で離婚可能性が最も高いものの、年収により大きな差は見られない。「男性50代」でも大きな差は見られない。

※離婚可能性7段階について、「あるかもしれない」+「かなりありそう」+「現在、離婚準備中」の累計値を掲載

③既婚 女性40代・50代

④既婚 男性40代・50代



■ 女性40代
 ■ 女性50代

■ 男性20代
 ■ 男性30代

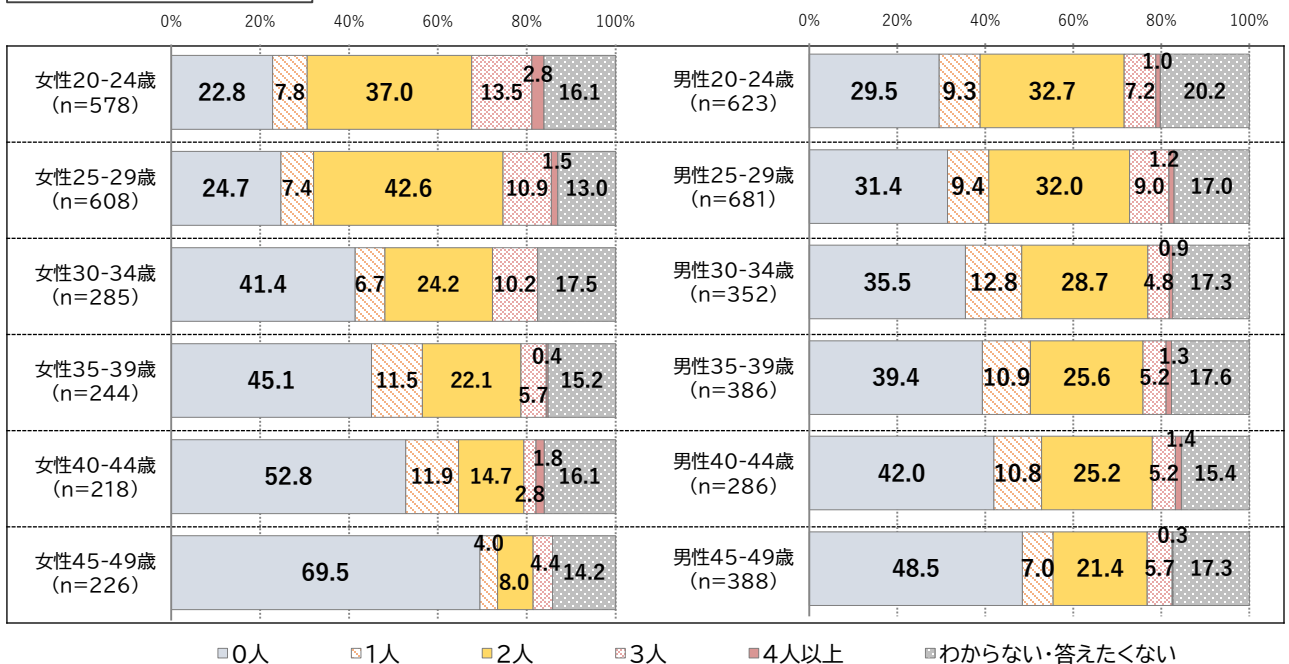
5. 婚姻状況と理想の子供の数について

(1) 婚姻状況別の理想の子供の数

- ・理想の子供の数について、「独身(未婚)女性」では、「20-24歳」「25-29歳」で「2人」の値が他年代と比べ高く、4割前後。また年代が上がるほど、「0人」の割合も高くなる。「独身(未婚)男性」でも同様に「0人」は年代が上がるほど割合が高まり、「20-24歳」で最も「2人」の割合が高いものの、年代による差は女性と比べ小さい。
- ・「独身(離死別)」では、「女性30-34歳」で「2人」の割合が52.8%と高く、男性では「2人」の割合は、「男性35-39歳」で37.5%と最も高いものの、「30-34歳」「40代」も3割前後。
- ・独身者を「未婚」と「離死別」で比較すると、特に女性で、どの年代でも「未婚」の方が、「0人」とする割合が高い。

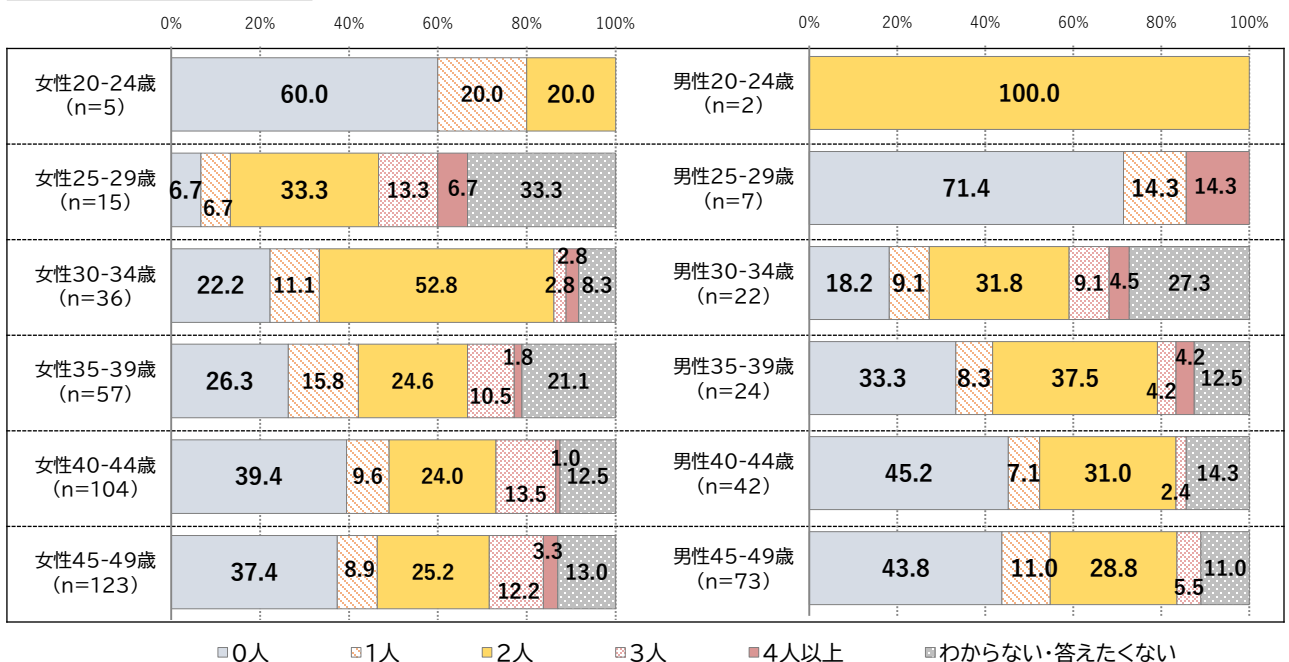
※対象者が20人を超えるものを中心にコメントを記載

①独身(未婚)



0人 1人 2人 3人 4人以上 わからない・答えたくない

②独身(離死別)

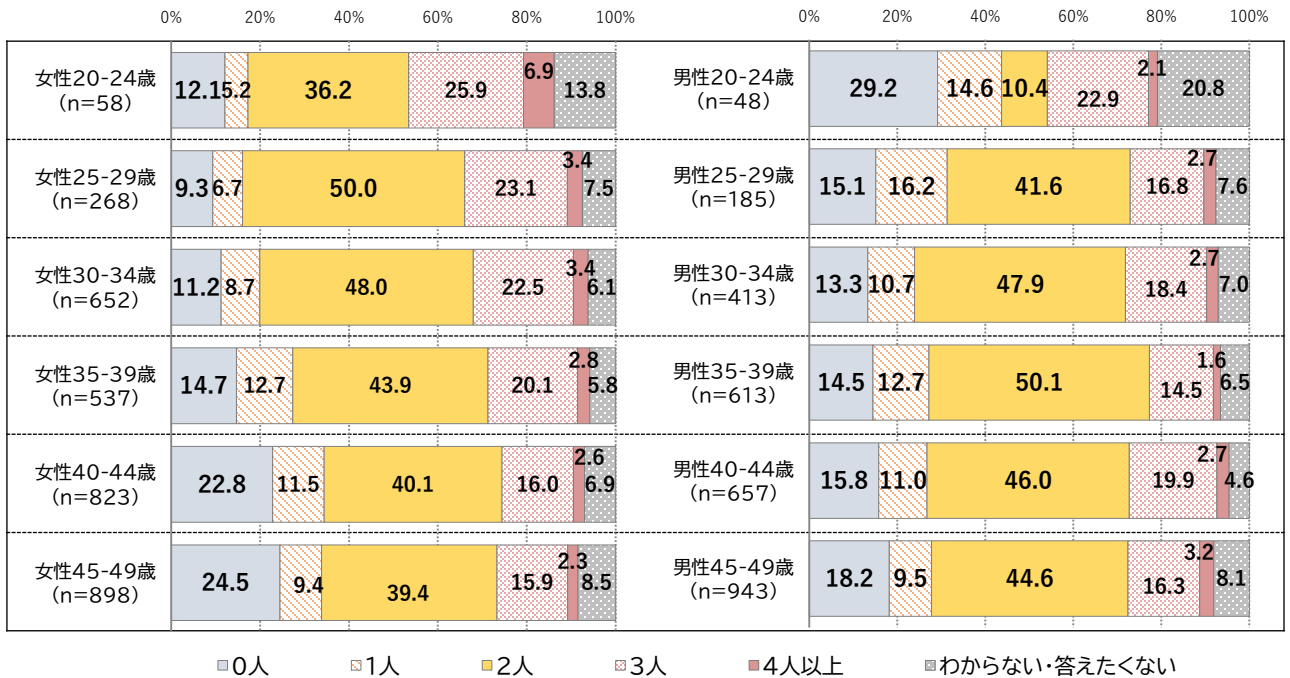


0人 1人 2人 3人 4人以上 わからない・答えたくない

(1) 婚姻状況・男女別・年代別の理想の子供の数

- ・「既婚」では、女性は全ての年代で「2人」の割合が最も高く、特に「女性25-29歳」で50.0%、「女性30-34歳」で48.0%と高い。また、「3人」の割合も15~25%程度と、「独身」と比べ高い値。
- ・「男性20-24歳」では、「0人」の値が他年代と比べ高く29.2%。それ以上の年代では、「2人」の割合が最も高く、4~5割。

③既婚



6. 結婚後のライフスタイルの理想と現実の年代別傾向

(1) 結婚後(子供がいない時)の働き方(理想)

・結婚後の「理想」の働き方について、「既婚者」では、「女性20代・30代」で「夫婦ともにフルタイム」が5割弱、「男性20代・30代、40-44歳」で5割強と他年代と比べ高い値。「夫:フルタイム/妻:家事に専念」は「女性」では「40歳以上」で、「男性」では「50代」以上で10%以上となった。

・「独身・結婚意思あり・女性」では、「20代」で「夫婦ともにフルタイム」が最も高く40.6%、「独身・結婚意思あり・男性」では、「20代」「30代」が「夫婦ともにフルタイム」3割前後と、男女ともに年代が若い層で高い値。反対に「夫:フルタイム/妻:パート・アルバイト等」は、「女性60代」を除き概ね2割程度。

既婚

理想		(%)				
		夫婦ともにフルタイム	夫:フルタイム/ 妻:パート・ アルバイト等	夫:フルタイム/ 妻:家事に専念 (働かない)	その他	覚えていない・特 に希望はなかった
女性	20代 (n=326)	46.6	22.7	5.2	5.5	19.9
	30代 (n=1,189)	46.9	25.0	9.4	4.7	14.0
	40-44歳 (n=823)	40.8	24.1	14.7	4.9	15.6
	45-49歳 (n=898)	37.4	22.4	16.4	6.3	17.5
	50代 (n=1,607)	39.5	23.1	19.5	5.0	12.9
	60代 (n=1,599)	39.0	17.8	23.6	4.3	15.3
男性	20代 (n=233)	53.6	14.2	4.3	4.3	23.6
	30代 (n=1,026)	52.2	19.8	5.4	2.2	20.4
	40-44歳 (n=657)	50.8	24.0	6.8	2.3	16.0
	45-49歳 (n=943)	43.5	26.6	8.9	2.5	18.5
	50代 (n=1,512)	38.9	25.0	15.1	2.1	18.9
	60代 (n=1,544)	36.2	23.5	25.1	1.4	13.9

独身・結婚意思あり

理想		(%)				
		夫婦ともにフルタイム	夫:フルタイム/ 妻:パート・ アルバイト等	夫:フルタイム/ 妻:家事に専念 (働かない)	その他	特に希望はな かった
女性	20代 (n=997)	40.6	20.3	5.4	5.2	28.5
	30代 (n=456)	30.5	22.8	9.2	2.0	35.5
	40-44歳 (n=216)	33.8	23.6	12.5	2.8	27.3
	45-49歳 (n=212)	26.9	21.7	12.7	3.8	34.9
	50代 (n=245)	25.3	22.4	13.1	2.0	37.1
	60代 (n=120)	28.3	12.5	18.3	5.8	35.0
男性	20代 (n=1,021)	29.4	20.7	3.8	5.0	41.1
	30代 (n=571)	30.6	19.8	2.6	3.3	43.6
	40-44歳 (n=228)	25.9	18.4	5.3	3.5	46.9
	45-49歳 (n=315)	27.9	15.2	5.1	2.5	49.2
	50代 (n=400)	22.0	20.0	7.3	2.8	48.0
	60代 (n=281)	22.8	20.6	13.2	1.4	42.0

(1) 結婚後(子供がいない時)の働き方(実際にどうだったか(現実))

- ・「既婚」では、実際にどうだったか(現実)について、「夫婦ともにフルタイム」は「女性20代・30代」で高く、4割前後。また「男性20代・30代・40-44歳」で「夫婦ともにフルタイム」が4割弱～4割以上。
- ・「夫:フルタイム/妻:家事に専念」は男女ともに年代が若いほど低く、年代が上の方が高い。

既婚

(%)

実際にどうだったか (現実)		夫婦ともに フルタイム	夫:フルタイム/ 妻:パート・ アルバイト等	夫:フルタイム/ 妻:家事に専念 (働かない)	その他	特に希望はない
女性	20代 (n=326)	38.7	21.2	15.0	7.4	17.8
	30代 (n=1,189)	41.2	21.0	17.9	6.5	13.4
	40-44歳 (n=823)	33.4	24.9	20.5	7.2	14.0
	45-49歳 (n=898)	29.6	25.3	23.9	7.6	13.6
	50代 (n=1,607)	33.2	24.3	24.8	6.9	10.9
	60代 (n=1,599)	33.8	17.5	30.3	6.3	12.1
男性	20代 (n=233)	45.9	17.6	7.7	5.2	23.6
	30代 (n=1,026)	42.3	22.6	11.8	3.3	20.0
	40-44歳 (n=657)	37.7	28.2	14.6	4.3	15.2
	45-49歳 (n=943)	32.0	31.5	14.6	4.1	17.7
	50代 (n=1,512)	30.4	29.1	21.2	3.6	15.7
	60代 (n=1,544)	31.3	24.9	30.7	2.7	10.4

(2) 第一子が生まれた後の配偶者の働き方への望み・どう思っていたか

- ・「子供がいる」人の「理想」では、「夫婦ともに育休・復帰後フルタイム」は、男女ともに年代が若いほど高く、特に「男性20代」で43.1%、「男性30代」で31.5%と3割を超える。反対に「夫:フルタイム/妻:専業主婦」は、男女ともに年代が若いほど低くなっている。特に、「男性20代」「男性30代」では1割を下回り低い。
- ・「現実」は、「夫婦ともに育休・復帰後フルタイム」は、「理想」と同じく男女ともに若い世代で高く、「夫:フルタイム/妻:専業主婦」は年代が上がるほど高い。

子供がいる人

(%)

理想		夫婦ともに育休・復帰後フルタイム	夫:フルタイム/妻:専業主婦(働かない)	妻だけ育休・復帰後、夫婦ともにフルタイム	夫婦ともに短時間勤務	夫:フルタイム/妻:短時間	夫:フルタイム/妻:パート・アルバイト	その他	覚えていない・特に希望はなかった
女性	20代 (n=215)	19.5	14.9	24.2	0.5	11.2	7.0	1.4	21.4
	30代 (n=932)	15.7	24.5	21.8	1.0	10.4	8.3	1.5	17.0
	40-44歳 (n=688)	13.1	33.0	15.7	0.3	7.3	7.3	2.5	20.9
	45-49歳 (n=753)	7.7	39.2	15.8	0.9	7.2	7.2	1.1	21.0
	50代 (n=1,495)	6.6	43.6	12.8	0.7	6.7	5.6	2.0	22.0
	60代 (n=1,692)	6.3	45.3	10.9	0.6	5.0	4.8	2.4	24.8
男性	20代 (n=123)	43.1	3.3	12.2	0.8	2.4	1.6	10.6	26.0
	30代 (n=769)	31.5	9.8	23.0	2.1	3.3	2.3	5.7	22.4
	40-44歳 (n=533)	24.4	14.3	24.6	1.1	4.7	3.4	5.3	22.3
	45-49歳 (n=773)	18.4	21.1	18.1	0.9	4.8	4.4	4.9	27.4
	50代 (n=1,302)	9.8	27.5	14.6	0.4	4.9	5.1	3.4	34.3
	60代 (n=1,441)	7.2	40.5	11.2	0.6	5.1	5.1	2.8	27.5

(%)

実際にどうだったか(現実)		夫婦ともに育休・復帰後フルタイム	夫:フルタイム/妻:専業主婦(働かない)	妻だけ育休・復帰後、夫婦ともにフルタイム	夫婦ともに短時間勤務	夫:フルタイム/妻:短時間	夫:フルタイム/妻:パート・アルバイト	その他	覚えていない
女性	20代 (n=215)	11.2	30.2	20.0	0.0	7.4	5.6	2.8	22.8
	30代 (n=932)	7.8	34.7	19.7	0.8	9.3	8.8	2.5	16.4
	40-44歳 (n=688)	5.5	40.8	16.4	0.1	7.8	6.8	3.8	18.6
	45-49歳 (n=753)	4.1	48.5	11.4	0.4	6.1	8.9	2.0	18.6
	50代 (n=1,495)	2.9	52.8	9.6	0.2	4.4	7.1	3.5	19.5
	60代 (n=1,692)	2.5	49.8	9.0	0.4	4.0	6.1	3.6	24.6
男性	20代 (n=123)	35.0	8.9	15.4	0.8	2.4	0.0	11.4	26.0
	30代 (n=769)	18.6	17.3	24.3	1.3	4.9	3.6	7.7	22.2
	40-44歳 (n=533)	13.7	21.4	25.5	0.8	6.6	5.8	5.6	20.6
	45-49歳 (n=773)	9.8	30.5	18.4	0.8	5.8	5.0	4.9	24.7
	50代 (n=1,302)	6.1	34.2	12.7	0.4	4.8	6.2	3.6	32.0
	60代 (n=1,438)	3.5	45.1	10.9	0.3	4.3	4.9	2.7	28.2

(2) 第一子が生まれた後の配偶者の働き方への望み・どう思っていたか

・「子供がいない」人の「理想」では、「夫婦ともに育休・復帰後フルタイム」は、男女ともに年代が若いほど高く、「子供がいる」人と同じ傾向。「夫：フルタイム/妻：専業主婦」は、男女ともに年代が若いほど低くなっているが、特に女性で「子供がいる」人に比べ、「子供がいない」人で「夫：フルタイム/妻：専業主婦」の値が低い傾向にある。

子供がいない人

(%)

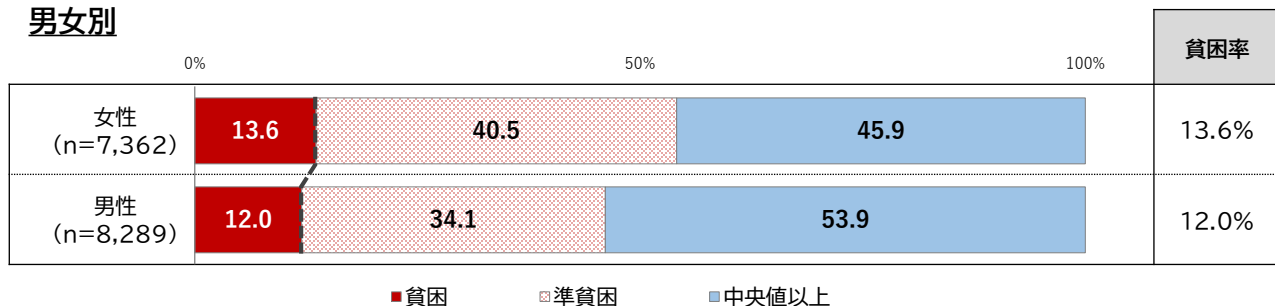
理想		夫婦ともに育休・復帰後フルタイム	夫：フルタイム/妻：専業主婦(働かない)	妻だけ育休・復帰後、夫婦ともにフルタイム	夫婦ともに短時間勤務	夫：フルタイム/妻：短時間	夫：フルタイム/妻：パート・アルバイト	その他	特に希望はない
女性	20代 (n=824)	25.4	6.9	22.2	2.9	8.9	8.6	3.2	22.0
	30代 (n=415)	22.2	14.7	18.3	2.9	8.7	9.6	2.2	21.4
	40-44歳 (n=133)	11.3	21.1	15.8	0.0	15.0	6.8	3.0	27.1
	45-49歳 (n=101)	6.9	16.8	12.9	3.0	7.9	14.9	2.0	35.6
	50代 (n=117)	9.4	17.9	16.2	1.7	12.0	7.7	1.7	33.3
	60代 (n=90)	8.9	31.1	10.0	3.3	2.2	7.8	2.2	34.4
男性	20代 (n=731)	30.5	4.5	15.0	6.3	4.4	2.2	8.5	28.6
	30代 (n=485)	29.9	4.9	13.8	3.5	5.6	4.3	5.6	32.4
	40-44歳 (n=185)	25.9	4.3	15.1	2.2	5.4	3.8	7.0	36.2
	45-49歳 (n=202)	23.3	5.9	14.9	2.5	8.4	3.0	5.0	37.1
	50代 (n=214)	15.4	7.5	15.4	4.7	8.9	3.3	1.9	43.0
	60代 (n=153)	16.3	19.6	7.2	3.3	9.8	2.6	2.0	39.2

7. 貧困と幸福度

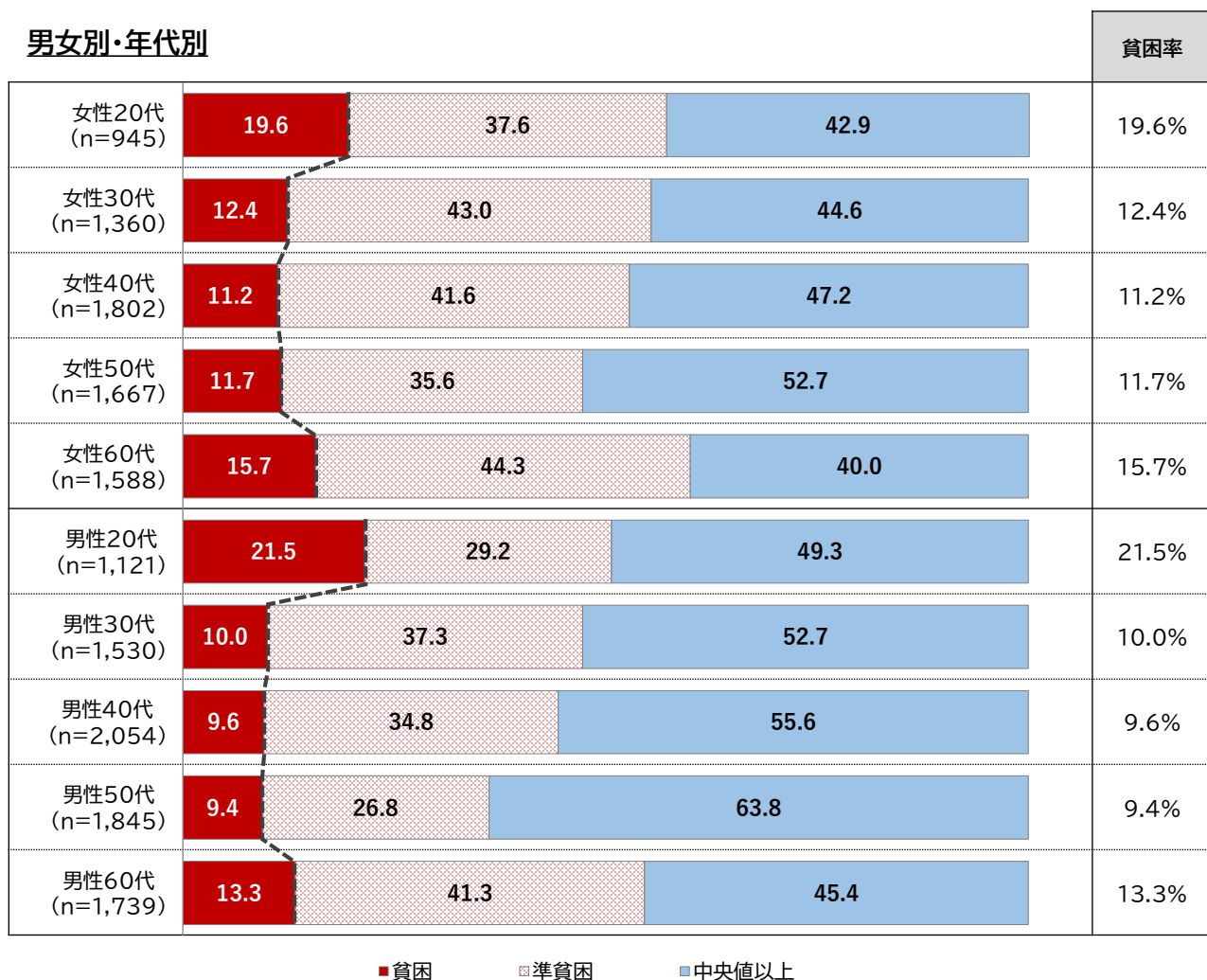
(1) 貧困率

- ・貧困率について、男女別で見たところ、「女性」で13.6%、「男性」で12.0%。
- ・男女別・年代別では、「男性20代」で21.5%と最も高く、次いで「女性20代」で19.6%と、20代で貧困率が高い。男女ともに「30代」～「50代」で貧困率は低くなるが、「60代」では上昇し、特に「女性60代」で15.7%。

男女別



男女別・年代別

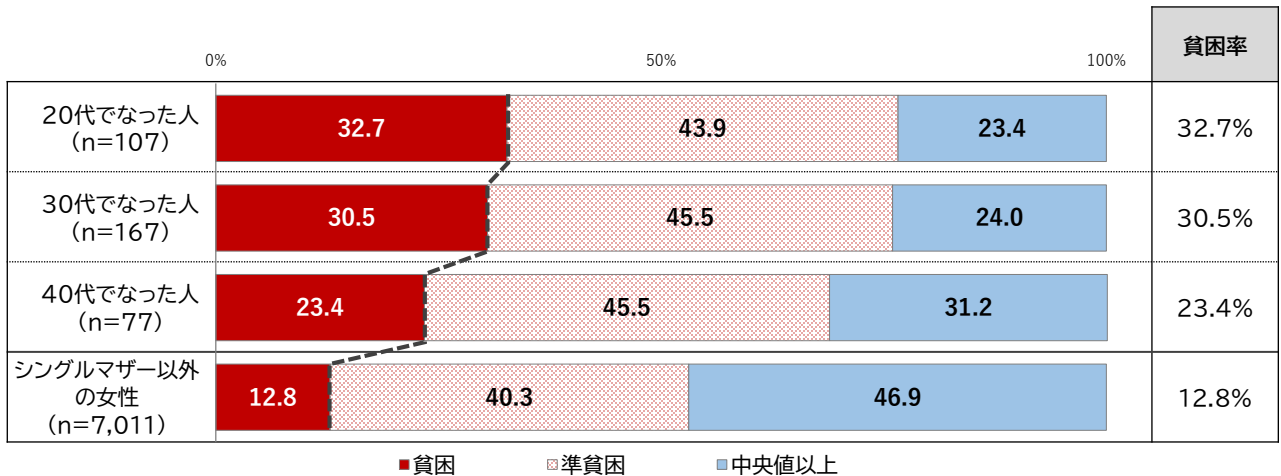


※等価可処分所得の中央値(ちょうど真ん中の人の値)の半分を貧困線という。世帯の等価収入がそれ未満であるとき、一般にそうした世帯を「貧困層」と呼び、その割合を「貧困率」という。本調査では可処分所得を測定していないため、かわりに世帯収入を用いる。世帯収入を世帯人数の平方根(4人世帯なら2)で割ったものを等価収入といい、本調査では平均379.9万円、中央値350.0万円であった(n=15,651)(世帯収入の計算では1円～50万円なら25万円など各回答の中央値を用い、2,000万円以上は2,000万円とした)。その結果、貧困線は175万円となった。ここでは等価収入がそれ未満の世帯を「貧困層」、貧困線以上で中央値未満を「準貧困層」、中央値以上を「中央値以上層」と呼ぶ(準貧困概念はNPO法人キッズドア理事長渡辺由美子氏の示唆による)。

(1) 貧困率

・シングルマザーについて貧困率を見たところ、「20代でなった人」が最も高く32.7%、次いで「30代でなった人」が30.5%、「40代でなった人」23.4%と、若い年代でシングルマザーとなった人の方が貧困率が高い。

【シングルマザーの貧困率】



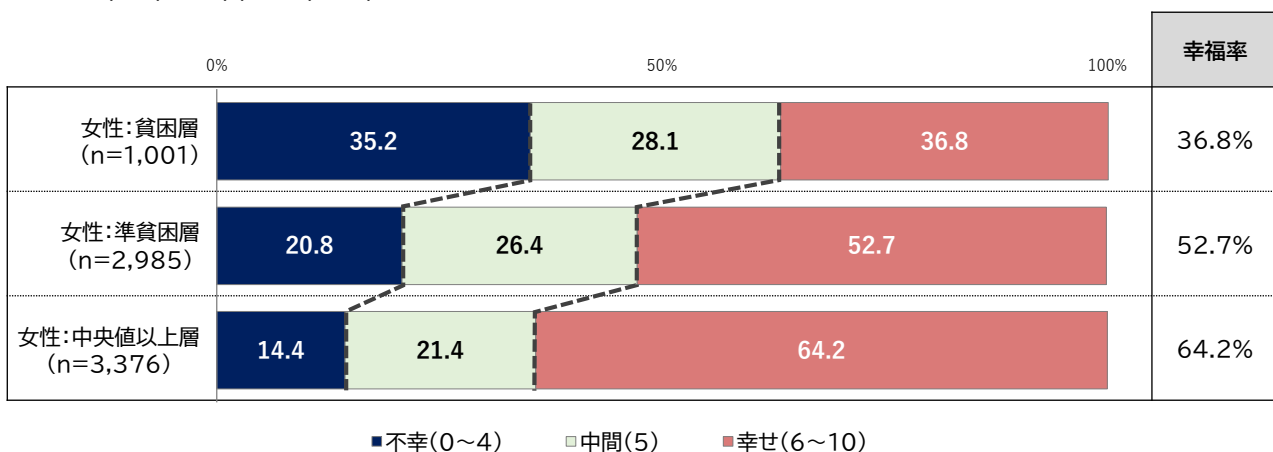
(2) 貧困と幸福度

- ・貧困の度合い別に現在の幸福度を見たところ、「女性：貧困層」で最も幸福率は低く36.8%、一方で「女性：中央値以上層」は64.2%と差が大きい。
- ・男性も女性と同様の傾向も、「男性：貧困層」で「幸福率」は28.9%と、「女性：貧困層」の方が7.9%ポイント高い。同様に、「男性：中央値以上層」は52.8%と、こちらも「女性：中央値以上層」の方が11.4%ポイント高い。

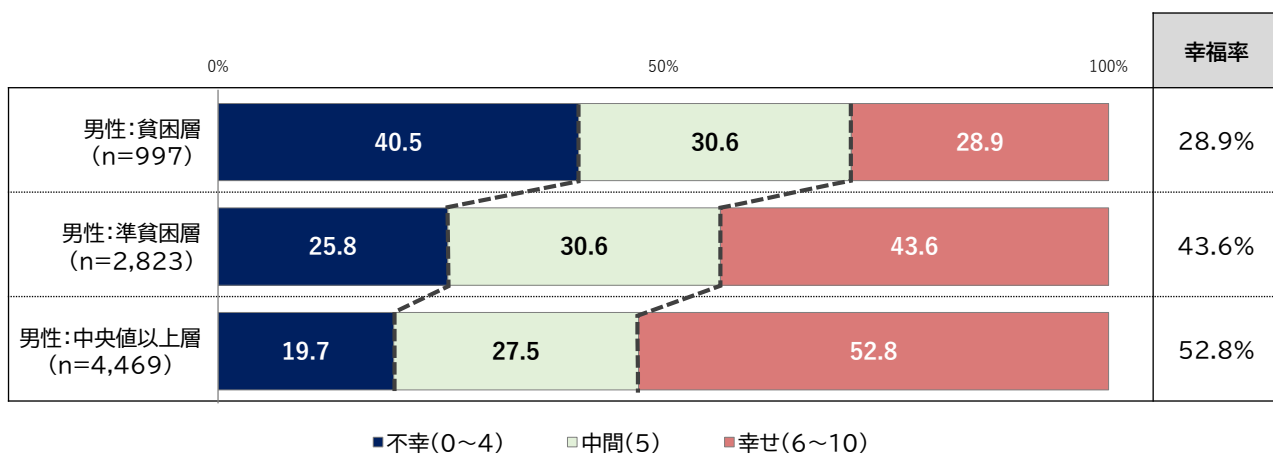
【貧困層の幸福度】

※現在の幸福度について、下記の11段階で聞いたものを、不幸(0~4)、中間(5)、幸せ(6~10)の3区分で記載

※幸福率とは6以上の合計



※幸福率とは6以上の合計



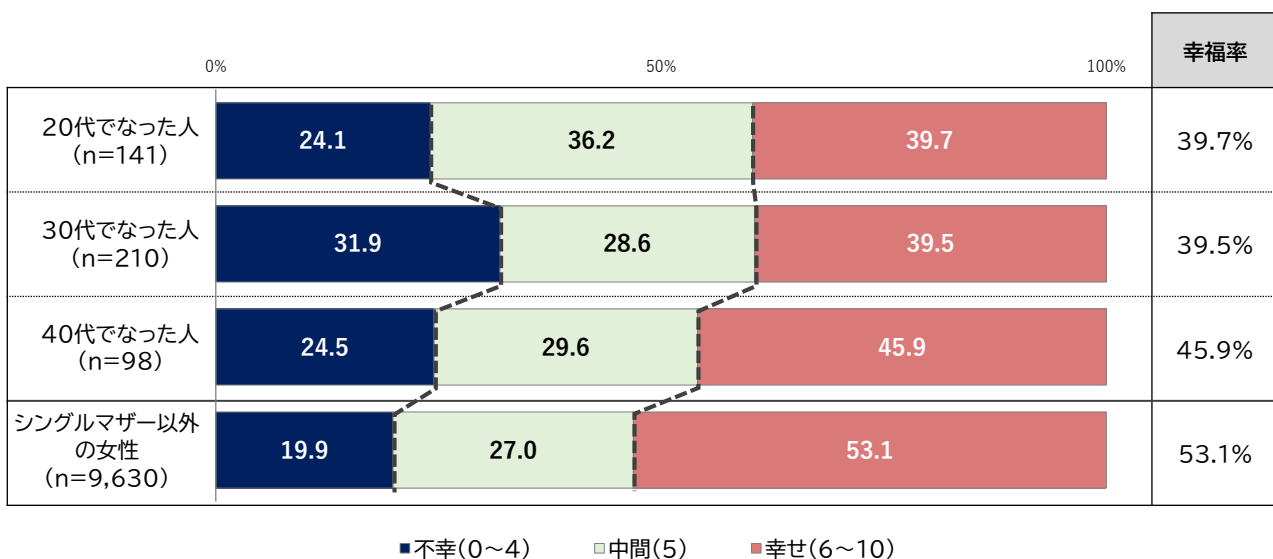
(2) 貧困と幸福度

・シングルマザーについて、現在の幸福度を見たところ、「30代でなった人」「20代でなった人」は「幸福率」が4割以下と低く、「40代でなった人」は45.9%。一方で、「シングルマザー以外の女性」は53.1%と5割を超えて高い。

【シングルマザーの幸福度】

※現在の幸福度について、下記の11段階で聞いたものを、不幸(0~4)、中間(5)、幸せ(6~10)の3区分で記載

※幸福率とは6以上の合計



分析結果 まとめ

1. はじめに

「人生100年時代」が現実のものとなってきた。今から60年前、1960年の日本人の平均寿命は男性67歳、女性73歳。それが、2020年には男性82歳、女性88歳に伸びている(1歳未満四捨五入)。統計がある1963年には100歳以上人口はわずか153人。2021年には8万6510人の方が存命で、毎年増大している。特に寿命が長い日本では、今の若者の半数は100歳を迎えるという予測まである。

ただ、寿命が延びると言うことは、人生70年時代が単に延長され、老後の期間が延びると言うことではない。リンダ・グラットンとアンドリュー・スコットの世界的ベストセラー『ライフ・シフト(原題、The 100year Life)』では、①(25歳くらいまでの)教育期－②(20-65歳くらいまでの)仕事期、－③(65歳くらいからの)引退期という3ステージの考え方で、うまくいったのは過去の話。それでは、今後の社会にうまく適応できなくなる可能性が高まる時代になったことが強調されている。

そもそも、長期化して人生の三分之一を占める高齢期に悠々引退してゆつりのある生活が出来る人は今後ますます少なくなっていくだろう。そんな中、中年期にもう一度教育を受けて高齢期に別の仕事に就くという可能性もあるし、最初からダブル・キャリアの仕事に就いたり、起業はもちろん、充電のために仕事を離れる期間を持つ人も出てくるかも知れない。

家族も同じである。①30歳くらいまでに結婚して独身状態を脱出、②30代-50代は、「夫は(正規雇用で)仕事、妻は主に家事、子育て」で子どもを育て上げ、③60代引退後は、配偶者と子どもたちに囲まれて余生を暮らす、という昭和の時代に典型的な3ステージが可能な状況ではなくなっている。

確かに、雇用形態や家族形態は多様化している。女性の労働力率は上がっており、共働きが一般化している。しかし、非正規雇用が広がり、男性の中でも非正規雇用率が高まっている。また、未婚率が高まり、離婚、再婚が増えている中で、家族形態が急速に多様化している。

調査をみても、未だ「性別役割型分業家族」がメインを占めていることがわかる。就業状況は、男性は正規雇用約6割なのに、女性は22.4%、20代は多いがそれでも42%にすぎない。非正規雇用率も女性約3割、つまり、自立できる収入を得ている女性の割合は男性に比べ相当低い(p.44)。希望では、男女ともフルタイムで就労が最も支持を集めるが、それを実現できていない(p.60)。

また、独身者も結婚希望をもつものも多く、結婚した時点では離婚を予測することはまずない。未婚や離婚、そして、その結果としてのひとり親が増えているということは、本人にとって不本意な家族形態を強いられるリスクが高まっているということになる。

人生100年時代、ライフコースの中で、工作上、家族上、様々なリスクに遭遇する確率が高まっている。その実態、及び、どのような立場の人に、どのような困難が生じているかを調査によって明らかにしていくことが、これからますます求められている。

2. 中年独身者の状況について

人生100年時代を迎え、家族形態や雇用の多様化が進み、今後、様々な問題が顕在化するのが、独身中年である。人生70年時代、特に戦後から昭和にかけての時期は、中高年独身者の存在は「例外」とみなされてきた。そして、中年期(40-50代を想定)は、性別役割分業家族の下、男性の大部分は正規雇用者年功序列で、収入も増える時期、女性の大部分は専業主婦かパートで、子どもが育ち、老後を見据える「安定した年代」と見なされてきた。

しかし、未婚化が進行し、離婚が増えた影響で、2020年の国勢調査によると、40代で約4割、50代で約3割に配偶者がいないという状況になっている。また、仕事をみても、本調査によると、女性でも正規雇用労働者(役員以外)は、40代20%程度、50代16%程いるが、男性の正規雇用者率は40代でも75%、50代で69%にすぎない(p.44)。

本項では、近年増大している中高年独身者を取り分けてその状況を考察する。

中年独身者と言っても、その中身は多様である。独身理由は未婚、離別、死別に分けられる。本調査では、未婚と離死別は2020年の国勢調査に従ってサンプル段階で調整し、40代未婚男性28.3%、離死別男性4.8%。未婚女性18.6%、離死別女性9.5%。50代未婚男性21.1%、離死別男性7.8%、未婚女性13.4%、離死別女性13.7%となっている(p.7)。なお独身者を分母とする離婚経験者は、40代男性13.8%、女性31.9%、50代男性24.3%、女性44.7%となっている(p.12)。独身者の中で、40代は男女とも50代でも男性は未婚者が多いが、女性の離死別者と未婚者はほぼ同じくらい。そして、男性に比べ、女性で離別独身者が多いことがわかる。これは男性の再婚率が高いことを反映している。

次に居住状況は、一人暮らしが41.9%、親とのみ同居31.2%、その他同居26.9%と多様であることがわかる(p.102)。

つぎに、既婚者とその経済状況を比較してみよう(p.102-103)。

まず、仕事状況をみてみると、正規雇用で働く女性は約30%と、既婚女性(40代17.3%、50代11.8%)に比べれば高いが、独身男性に比べても低い水準にある。無職率は男女とも18-28%であり、特に既婚男性の無職率に比べ極めて高い水準にある。収入は、男性は既婚に比べ相当低い。既婚中年男性では、500万円以上58.0%であるのに対し、一人暮らし男性でも23.7%にすぎず、親同居男性だと14.4%にすぎない。年収100万円(0円(収入はない)含む)未満のものは、既婚男性だと2.2%であるが、一人暮らし男性でも13.6%、その他同居男性では19.0%、親同居男性で25.7%となっている。

女性は、既婚女性に比べれば個人収入は多いが、独身男性に比べても、収入は少ない。特に、年収100万円未満が、一人暮らしでは13.7%と男性と同水準だが、その他同居では22.9%、親同居では30%と相当高くなっている。

更に、現在の困難をみてみると、既婚中年と比べ、困難を感じる人が多い。例えば、衣食住に困ることがある人は、既婚者では男女とも11%前後なのに、独身者は19%とほぼ倍となっている。心理的孤立においても、周りに親しい人がいなくて孤立している人は、ほぼ一割程度の既婚者に比べ、男女ともほぼ2割に達している。(p.104)

更に将来不安(p.105)をみてみると、独身者は既婚者に比べ大幅に不安を感じる人が多いことが分かる。また、不安の強さは、女性>男性、親同居>一人暮らし、その他同居ときれいに順位がつき、特に「親同居未婚女性」に、「十分な生活ができなくなる」、「年金受給の見通しがたたなくなる」といった将来の経済不安を半数以上の人が抱えていることが分かる。

また、既婚者について触れると、独身者に比べれば、将来不安を感じる人は少ないが、中では、夫婦共に正規雇用者が、将来不安がもっとも少ない層であることは注目してよいと考えられる。

まとめると、増大している中高年独身者は、既婚者に比べ、生活に困難を感じ、将来に不安がある人の割合が多い。その理由は、非正規雇用は大きく、収入は低いことにある。現在親同居等で生活できている、特に親同居未婚の女性は、将来の貧困、孤立に直面することが予想される。これらの層に重点的な対策をうつことが必要になっている。

3. 結婚、離婚、再婚をめぐる

未婚率が年々高まり、離婚率も高止まりし、ほぼ三組に一組が離婚する状態になっている。また、結婚に占める再婚の割合は増えており(2020年少なくともどちらかが再婚の割合は26.4%)、「30歳くらいまでに結婚して、離婚せずに、高齢を迎える」という人生70年時代に当たり前だったライフコースを全員が辿ることができるわけではなくなった。

それにつれて、結婚時期も多様化しており、再婚家族も増えている。本調査では、過去、離婚経験のある既婚者は、50代で女性9.3%、男性8.3%となり、今後、その割合は上昇していくと考えられる(p.12)。結婚願望についても、本調査では、従来調査はされなかった中高年にも聞いている。本調査では、結婚願望あり、結婚願望なしだけでなく、「どちらでもいいと思う」を選択肢に入れている(p.14、15)。

興味深いのは、未婚者と離死別者において、男女の傾向が違っていることである。女性は各年代とも未婚者の方が、離死別者よりも結婚願望が強いのに、男性は、離死別者の方が未婚者より結婚願望が強い。これは、結婚したくない理由において、失敗経験が男性より女性の方が高い(p.38)。これは、中高年における結婚の質が、女性側に不利であることを推測させるデータである。

また、年代によっても男女差がでており、未婚者では、女性の方が結婚願望が高く、中高年では男性の方が結婚願望が高い。50代未婚男性で26.6%、離死別男性で29.0%が結婚を望んでおり、どちらでもよいという回答も3割以上ある。今後、中高年希望者へのサポート等が必要になると思われる。

既婚者に注目すると、本調査では、離婚リスクを聞いている。全体では、15%程度だが、40代では男女ともほぼ2割の人が「離婚の可能性」を意識している(p.29)。ただ、若年世代を詳しく見ていくと、本人が非正規雇用だったり、年収が低いと「離婚の可能性」を意識する人が増える傾向がある(p.30,116)。リスクを意識することと実際に離婚することは必ずしも一致しないが、離婚を防ぐには、若年者の収入の安定が望まれる。

人生100年時代のスタートを切る若者とその次世代育成意欲へのサポート

人生100年時代は新たな時代である。新しい時代にあつて、日本社会が豊かさを維持するには、若い世代が仕事能力を形成し、次世代育成を行えることが必要である。労働市場の変化と社会規範の変化に見合う政策とは何か、今回の調査が示す点を見ていきたい。

1. 出産後の夫婦の働き方の理想の変化:夫婦フルタイム就業が理想に

日本の世帯年収は、夫の年収水準で規定され、妻の経済貢献が低い時代が長く続いたと知られている。この調査でも有配偶女性の4割は無職であり、40歳代、50歳代では、働くとしても非正規雇用の有配偶女性が4割を占め、低収入である。

しかし第一子出産後子どもが2~3歳の頃の夫婦の働き方の理想を見ると明らかな変化が見られる。「夫がフルタイム就業、妻が専業主婦」が理想と回答したのは、60歳代の男女では、女性の45% (男性40%)と4割以上であったが、20歳代では、大幅に後退している。子どものいる者では、女性の15% (男性はなんと3%)、子どもがいない(が子どもを持つ意欲がある)者では女性の7% (男性の5%)である。大きく上昇しているのが、夫婦がともに、あるいは妻のみが育休をとり、その後復帰し夫婦フルタイムで働くことを理想とする家族像である。子どもがいる、子がいないが子を持つ意欲がある20歳、30歳代の男女を見ると、4割から5割が育児休業復帰後夫婦フルタイム雇用を理想と回答しており、これは大きい変化だといえる。

2. 出産後の夫婦の働き方の現実の変化:20代有子男性は少数だが半数が育休利用

現実にも、60歳代では女性の5割が第1子出産後に専業主婦となったが、20歳代で第1子を持った者を見ると(これは子どもを持つ意欲ありの20歳代回答者のうち女性で2割、男性では14%と少数派だが)、夫婦または妻が育児休業をとりフルタイム復帰したとする者が20歳代女性の30% (男性の50%)である。20歳代男性の回答に育休復帰後の共働き割合が高いのは、男性が20歳代で子どもを持つとなると、男性も育休をとれるような安定雇用でないと、夫婦ともに子どもをもつ決断が難しいと考える者が相対的に多いためなのかもしれない。

第1子出産後に専業主婦世帯となる夫婦は、世代が上がるほど高く、30歳代の回答者では女性の3人に1人、40歳代前半では女性の4割、40歳代後半の回答者では5割弱である。しかし若い世代ほど、子どもを希望する層は「専業主婦」に魅力を見出さず、夫婦ともに育児休業をとってフルタイム復帰する家族の在り方を理想とする者が増加している。

3. 若年層が描くライフプランにおける理想子ども数の低下

このように20歳代、30歳代では、夫婦が希望する働き方の変化がみられるが、一方で、20歳代、30歳代は未婚者も多い。そして今後のライフプランを見ると、結婚することや子どもを持つことに消極的な者が驚くほど多い。

回答者に占める未婚者は、20歳代女性の8割、男性の85%程度となる。未婚者のうち、結婚意欲ありとした20歳代の女性は6割強 (男性6割弱)にとどまる。また理想とする子ども数について、1人以上を回答した未婚女性は20歳代で6割 (男性で5割)にとどまった。未婚者は年齢階層の上昇とともに、結婚意欲も子どもを持つ意欲も大きく下がっていく。詳しく見ると、理想の子ども数が0人と回答した未婚女性は20歳代で2割強 (男性で3割)であり、「わからない」も2割弱 (男性で2割)であった。30歳代後半では理想子ども数0が女性の45% (男性の40%)に増え、わからないは15%程度となる。

自分の将来のライフプランに結婚や子どもを持つことを入れ込んでいない若年層が増えている点は注目すべき点である。

4. 若い世代の経済収入や雇用安定性の低迷

このような変化の背景には、労働市場の変化によって、家族形成がリスクとなっており、これに対応する社会的保護が不十分なことがあるのではないだろうか。

60歳代の男女について、夫がフルタイムで働き妻が専業主婦という未来を第一子出産時に理想とする者が多かったのは、第一子が生まれた1970年代後半から1980年代の雇用状況を反映しているだろう。当時は日本的雇用慣行が確立した時期でもあり、高卒層も含めて夫の安定雇用と年功賃金を見通せた一方で、有配偶女性のキャリア構築の機会は乏しかった。

これに対して、現在では男女ともに初職で非正規雇用の者が増え、若者の雇用は全般に不安定となり、正社員に就いた者についても賃金の年功的な上昇期待は下がっている。初職の給料への不満は就職氷河期以降、4割強であり、実際に就いた初職の魅力は、就職氷河期前よりも特に女性で下がっている(p.51)。独身者の個人年収に注目すれば、20歳代女性で100万円未満から200万円台以下の者が45%(男性も40%強)を占めており(p.72)、この年収では子どもは考えにくいに違いない。同じ年齢層でも、配偶者のいる男性では、個人年収200万円台以下の者は15%程度に過ぎないことからわかるように(p.71)、男性が低年収だと家族をもちにくい状況は現在も続いている。一方、20歳代未婚者で年収の高い層を見れば、個人年収300万円以上の割合は女性3割弱(男性4割)であり、男女差は小さい。女性が子どもを持って仕事も継続したいと考えるのもこのような経済状況を鑑みれば納得できる。

20-39歳の独身者が結婚したくないと考える理由をみると、「結婚するほど好きな人に巡り合っていない」、「結婚に縛られたくない」、といった女性が5割(男性4割弱)いるほかに、女性には仕事と家事の二重の負担を嫌う者が4割弱と高く、また非正規雇用の20-39歳男女では、「結婚生活を送る経済力が無い・仕事不安定」が4割に上る(p.39-40)。20-39歳層では住宅も賃貸住宅が4割強をしめ、住宅費の負担もある中で(p.13)、経済的には余裕がない層が多いだろう。

20-39歳の独身者の中で、これまで恋人がいたことがない者は、男性の4割弱(女性の4人に1人)と高く(p.35)、家族を持つことについて資源面だけでなく、スキル面での準備も整わないのかもしれないし、また家族をつくることへの嗜好も下がっているかもしれない。

5. 将来不安、若い世代の次世代育成へのサポートと社会保障

しかし20歳代未婚者の4割が子どもを持つ未来を考えていないことは、高齢化社会が進む日本の今後には影を落とすものである。今日、家族親族にまで幅を広げると、公的年金や介護保険や医療保険の給付の利益を受けていない国民は少数である。これらの社会保障は、現役世代の労働収入からの仕送りなしには実現できない構造になっている。次世代育成の不足は、未来の日本社会の社会保障の縮小、税金の上昇を意味し、その影響はすべての世代にわたる。若い労働力の縮小はイノベーションの停滞を通じても経済に影響するだろう。

調査から、将来社会への不安は、40-54歳層の女性がもっとも強く感じていることがわかる。高齢期の生活不安、介護不安、年金不安、孤立不安などを3人に1人以上が感じている。女性の年金不安は4割に達しているが、日本の女性の年金は男性よりも大幅に低く、理由のない不安ではない(p.91)。もし今後も若い世代の給料が低いままにとどまり、若い世代の女性の出産可能年齢内で、十分に子どもが生まれなければ、今の若い世代が中年期になったときの不安は一段と高いものとなるだろう。

若年男女の稼得収入の増加と、収入を失わずに子育てをすることができるという安心な仕組みの構築が必要なのではないか。また非正規雇用などに陥っている若い世代について、その人的資本の形成の道筋を明確に考えることも必要だ。

若い世代のライフスタイルに合致した政策転換はいまだ不十分である。たとえば、公的年金、健康保険、介護保険ともに、サラリーマン世帯であれば妻が低年収にとどまることを奨励する社会保険、税制、および、企業の賃金制度が依然として続く一方で、若い層が望むような、夫婦ともに育児休業をとって復帰できる環境にない若者も多い。具体的には非正規雇用であったり自営であったり無職であったりする20-39歳層の未婚男女はこの調査では5割強にのぼる。こうした層は育児休業の権利がないか、権利があるにしてもとりにくい。男性の育児休業率はようやく1割を超えたが(令和2年『雇用均等調査』)、依然としてとりにくい。また世帯年収が低いとしても児童手当の水準は一定であり高くはない。若い世代に対して、経済資源と、雇用者の身分を失わないままに育児時間を与えるような政策を拡充することが重要だろう。

一方で、将来不安を感じている40-54歳層の女性の多くが低収入の非正規雇用にしか就けていない。こうした層に対しては、社会保険料の免除よりは、安定した雇用に就けるような労働政策が重要と考えられる。

豊かで幸せな人生100年時代を目指して:シングルマザーと貧困の分析

人生100年時代とは、単に100年を生き延びればよいわけではない。せつかくなら、豊かで、幸せな100年であってほしい——誰でもこう願うはずだ。では、人びとは現実には、どれくらい豊かな生活を送り、幸せを感じているのだろうか。ここではとくに、厳しい状況が伴いがちなシングルマザーや貧困層に着目して、本調査データを分析してみよう(この項のみ、分析にあたり成蹊大学の伊藤慈晃氏、瞿甜氏に協力してもらいました。記して感謝します)。

シングルマザー(本調査で集計対象としたの)は、どれくらいいたのか。449人いた。そのうち20代でシングルマザーとなったのは141人、30代でなったのは210人、40代でなったのは98人であった(詳細はp.106)。

その結果、女性のうち貧困層は13.6%、準貧困層は40.5%、中央値以上層は45.9%いた。男性のうちだと、貧困層12.0%、準貧困層34.1%、中央値以上層53.9%だった。したがって、貧困率は女性13.6%、男性12.0%となる(貧困の厳密な定義はp.123)。

幸せは、現在の幸福度について、0とても不幸から10とても幸せまで11段階で質問した。その結果、0とても不幸～4をまとめて「不幸」な人とする、女性のうち20.3%、男性のうち24.3%いた。5中間は女性27.2%、男性31.7%だった。6～10とても幸せをまとめて「幸せな人」とし、その割合を「幸福率」と呼ぼう。女性52.6%、男性44.0%だった(詳細はp.95)。

1. シングルマザーの分析:高学歴タイプの発見

シングルマザーは、低学歴で若い人たちだ——シングルマザーについての一般的な理解は、このようなものかもしれない。では、ほんとうにそうなのだろうか。それとも、これはステレオタイプであり、実際にはもっと多様なのだろうか。

シングルマザーになった年代で最終学歴を比較すると、20代でなったグループでは(短大、高専、大学、大学院卒をあわせた高学歴者が)26.3%いた。これが、30代だと38.1%、40代だと43.9%へと、1.67倍に増える(p.107)。ただし、(第3章にないが)シングルマザー以外の女性では、50%を超える。

学校卒業後の最初の仕事を比較すると、20代でなったグループだと正規雇用が60.7%いた。これが30代72.2%、40代75.5%へと、1.24倍に増える(p.107)。(第3章にないが)40代グループは、シングルマザー以外の女性より正規雇用者が多かった。

現在の仕事ではどうか。20代でなったグループでは正規雇用が31.9%、30代29.5%、40代31.6%へと大きな違いはない(p.108)。(第3章にないが)シングルマザー以外の女性では4割ほどが正規雇用者である。

シングルマザーの平均年齢は51.7歳だった。(第3章にないが)20代でシングルマザーとなった人たちは、平均すると21.9歳で最初の結婚(初婚)をし、22.8歳で最初の子(第一子)をもち、25.8歳で離婚し、(再婚した人は)30.7歳で再婚した。シングルマザー以外の女性だと、平均して初婚26.8歳、第一子28.1歳のあと(離婚する人は)34.1歳で離婚し、35.8歳で再婚するので、たしかにそれと比べると早い。しかし、40代でシングルマザーとなった人たちは、26.8歳で最初に結婚し、29.1歳で第一子をもち、43.3歳で離婚し(再婚した人は)42.0歳で再婚していた。そのため、シングルマザー以外の女性と同じくらいか、むしろ遅かった。

このように、シングルマザーといっても一括りにはできない。むしろ、多様な人びとがいることが、本調査データから明らかとなった。

特徴を強調するなら、タイプAは相対的に低学歴で、最初に正規雇用の仕事に就けず、20代でシングルマザーとなる。結婚、出産、離婚、再婚が20代から30歳までで一周し、レコードの早回しのように早い。このタイプAは、シングルマザーの一般的なイメージに近いといえよう。

一方、タイプBは、より高学歴で(タイプAの1.67倍)、シングルマザー以外の女性と同レベルで最初に正規雇用の仕事に就き(タイプAの1.24倍)、40代でシングルマザーとなる。結婚、出産は20代だが、離婚、再婚は40代で起こるため、シングルマザー以外の女性と同じかむしろ遅い。30代でシングルマザーとなる人たちは、タイプAとBの間に位置する。

参考まで、筆者がインタビューしたあるシングルマザーは、大学卒業後、正規雇用の仕事に就いた。結婚して退職し、出産後に30代でシングルマザーとなる。現在は40代で、非正規の仕事に就き、収入面で貧困層と準貧困層の境目にいる。40代でシングルマザーとなるタイプBのライフコースに、近いだろう。「忙しいと、子どもに食事をつくったり、かまったりできない」のが残念だという。

高学歴なタイプBは、本調査データによっていわば「発見」されたといえよう。タイプBの存在は、これまでタイプAの影に隠れて見おとされてきた。しかし、この先タイプBが増え、シングルマザーがますます多様化する可能性がないとはいえない(むしろその可能性は高い)。そのため、今後はタイプBの存在も前提として、人生100年時代の未来を構想する必要があるだろう。

2. 貧困の分析:シングルマザー、20代、60代の危険

どのような人たちが、貧困に苦しみ、豊かな生活を送れないのか。

男女で比べると、女性の貧困率は13.6%、男性は12.0%と、やや女性が高く、準貧困層も多い。さらに年代に分けると、女性では40代で貧困率が最も低く11.2%であった(中央値以上層が最も多く豊かなのは50代)。男性では50代の9.4%が最も低い(中央値以上層も最多(p.123))。どちらも、仕事、家族が安定するようになるためであろう。

最も貧困率が高くなるのは、女性だと20代の19.6%で(準貧困層が最多は60代)、これは最も低い40代の1.75倍となる。男性では、やはり20代で最多の21.5%となり(準貧困層が最多は60代)、最も低い50代の2.29倍となった(p.123)。若いため、本人の収入が少なく、さらに結婚などによる家族からのサポートが得られにくいためかもしれない。

シングルマザーではどうか。シングルマザー以外の女性では貧困率12.8%なのに対し、シングルマザー全体で29.6%と大きく増える(2.31倍)。内訳は、20代でシングルマザーとなったグループだと貧困率32.7%、30代30.5%、40代23.4%と、徐々に減る(p.124)(それぞれシングルマザー以外の2.55倍、2.38倍、1.83倍)。

このように、貧困層は男女ともに20代で多く、準貧困層は60代が多かった(最大で女性1.75倍、男性2.29倍貧困率が高い)。シングルマザーでは、シングルマザー以外の女性と比べて、2.31倍貧困率が高かった。

参考まで、内閣府「令和3年子供の生活状況調査の分析報告書」によれば、全国の中学2年生の子とその保護者をランダムサンプリング調査した結果、シングルマザーのうち54.4%が貧困層、35.2%が準貧困層で、中央値以上はわずか10.3%であった(n=281、図2-1-1-3より)。その結果、過去1年の間にお金がなくて必要な食料を買えなかった世帯がシングルマザーのうち32.1%、衣服が買えなかった世帯が41.0%いた(ふたり親世帯ではそれぞれ8.5%、13.1%、図2-1-1-13、図2-1-1-16より)。

貧困の問題は、表に現れにくいと、ややもすれば見すごされかねない。とはいえ、世代間やシングルマザーとそれ以外で貧困率に倍ほどの差があるため、放置してよいはずがない。

3. 幸福の分析:シングルマザー、貧困層、未婚者への支援の必要性

シングルマザーや貧困といった厳しい状況は、幸福度にどう影響するのか。

シングルマザー以外の女性では幸福率53.1%に対し、シングルマザーでは41.0%へと幸せな人が減った(0.77倍)。内訳は、20代でシングルマザーとなったグループは39.7%、30代39.5%、40代45.9%であった(シングルマザー以外の0.75倍、0.74倍、0.86倍)。20代と30代では幸福率に違いはないが、(4以下の)不幸な人の割合が20代でなったグループは24.1%なのに対し、30代だと31.9%へと増える(p.126)。

貧困層はどうか。女性だと、幸福率が中央値以上層のうち64.2%なのが、準貧困層52.7%、貧困層36.8%へと低下する(中央値以上層の0.82倍、0.57倍)。男性でも同様に、中央値以上層52.8%が、準貧困層43.6%、貧困層28.9%へと減った(0.83倍、0.55倍)(p.125)。シングルマザーでもたしかに幸せな人が減るが(最大0.74倍)、貧困層のほうがさらに減少させることが分かった(最大0.55倍)。

なお、(第2章、第3章にないが)婚姻状態別だと、男女ともに既婚者に最も幸福な人が多く(女性61.8%、男性54.6%)、死別して現在未婚者(50.5%、40.0%)、離別して現在未婚者(41.2%、28.6%)へと続く。幸福な人がもっとも少ないのは、男女とも結婚経験のない未婚者(33.6%、28.1%)であった(女性で既婚者の0.54倍、男性では0.51倍)。

このように、シングルマザー、貧困層、未婚者で幸福度が低下した。減り幅が大きかったのは、貧困層と未婚者である(幸せな人の割合が中央値以上層、既婚者の約半分)。

すべての人が、豊かで幸せな人生100年時代のチャンスを受けとれる——そのためには、本調査データの分析から、とくにシングルマザー、貧困層、未婚者に寄り添った支援が不可欠だといえそうである。

参考資料 WEBアンケート調査票

令和3年度 人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査 【スクリーニングアンケート】

あなたの年齢をお知らせください。

直接入力

お住まいの地域を教えてください。(1つ)

※ブルダウンで47都道府県表示

Q1 中学卒業時どこにお住まいでしたか。(1つ)

お住まいの地域を教えてください。(1つ)

※ブルダウンで47都道府県+その他表示

Q2 現在、結婚相手や配偶者、恋人がいますか。(1つ)

※法律婚・婚姻の届出をしている

※事実婚・婚姻の届出をしていないが、事実上婚姻と同様の状態にあることを指す。当人同士に結婚の意思があり、共同生活を営んでいるのであれば事実婚として成立。

- 1 配偶者、恋人はいない(未婚)
- 2 配偶者はいないが恋人はいる(未婚)
- 3 配偶者(事実婚・内縁)がいる
- 4 配偶者(法律婚)がいる

Q3 過去に離婚・死別の経験はありますか。(いくつでも)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※回答したくない方は「答えたくない」とお答えください

- 1 過去に離婚・死別の経験はない
- 2 過去に離婚したことがある
- 3 過去に死別したことがある
- 4 これまで一度も結婚していたことはない
- 5 答えたくない

Q4 現在、同居している方がいますか。同居している人数についてもお答えください。(いくつでも)

※あなたから見た続柄でお答えください

※配偶者には、婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含みます。

※子供は養子・連れ子・里子も含めてください

※親は里親も含めてください

※「寮」「施設」「ルームシェア」などに複数人と同居している方は、「その他(寮、施設、ルームシェアなど)」とお答えください

- 1 一緒に住んでいる人はいない
- 2 配偶者
- 3 恋人 ⇒ 人
- 4 子供(独身・離死別含む) ⇒ 人
- 5 子供(既婚) ⇒ 人
- 6 子供の配偶者 ⇒ 人
- 7 あなたの親 ⇒ 人
- 8 配偶者の親 ⇒ 人
- 9 あなた・配偶者の祖父母 ⇒ 人
- 10 孫 ⇒ 人
- 11 その他親族(兄弟姉妹、叔母、叔父など) ⇒ 人
- 12 その他非親族(友人など) ⇒ 人
- 13 寮、施設、ルームシェアなど

Q5 あなたの子供について、年齢別に①同居している子供の有無と人数 と、②別居している子供の有無と人数を教えてください。(数字記入)

※養子、里親等も含みます。

※子供の配偶者は含みません

	①同居している 子供の人数	②別居している 子供の人数
1 該当する子供はいない	1	1
2 ~3歳未満	2 ()人	2 ()人
3 3歳以上~6歳(小学生未満)	3 ()人	3 ()人
4 小学生	4 ()人	4 ()人
5 中学生~19歳以下	5 ()人	5 ()人
6 20~39歳 ※独身・離死別含む	6 ()人	6 ()人
7 20~39歳 ※既婚	7 ()人	7 ()人
8 40歳以上 ※独身・離死別含む	8 ()人	8 ()人
9 40歳以上 ※既婚	9 ()人	9 ()人

Q6 現在のお住まいの住居形態を教えてください。(1つ)

※本人名義は、共同持ち分も含みます。

- 1 持ち家 本人名義(ローンなし)
- 2 持ち家 本人名義(ローン返済中)
- 3 持ち家 家族名義(ローンなし)
- 4 持ち家 家族名義(ローン返済中)
- 5 賃貸住宅
- 6 給費住宅(寮、社宅など)
- 7 その他

Q7 最後に行かれた(または現在行かれている)学校は次のどれにあたりますか。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。(1つ)

- 1 小学校
- 2 中学校
- 3 高等学校
- 4 専門学校(中学卒業後)
- 5 専門学校(高校卒業後)
- 6 短期大学
- 7 高等専門学校(5年制)
- 8 大学
- 9 大学院

Q8 あなたの職業・雇用形態について、あてはまるものを選択してください。(1つ)

※学生でアルバイトとして働いている方は、「学生」を選んでください。

※契約社員・労働契約にあらかじめ雇用期間が定められている者

※嘱託・定年退職者等を一定期間再雇用する目的で契約し、雇用される者

※労働派遣事業所の派遣社員・労働者派遣法に基づく労働者派遣事業所に雇用され、そこから派遣されている者

※パート・アルバイト・常用労働者のうち、1日の所定労働時間が正社員より短い者又は1週の所定労働日数が正社員より少ない者のいずれかに該当する者であって、「嘱託」、「契約社員」以外の者

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

仕事をしている／雇用されている人

- 1 正規の会社員・職員・従業員
- 2 パート・アルバイト
- 3 労働派遣事業所の派遣社員
- 4 契約社員
- 5 嘱託
- 6 その他の形で雇用されている

仕事をしている／上記以外

- 7 会社などの役員
- 8 自営業・自由業(従業員がいる)
- 9 自営業・自由業(従業員がいない)
- 10 自家営業の手伝い(家族従業員)
- 11 家庭内の賃仕事(内職)
- 12 その他

仕事をしていない

- 13 主婦・主夫
- 14 学生
- 15 その他(働いていない)

■Q8で1～12(仕事をしている)と答えた方にお聞きします。

Q9 現在の勤務形態について、最もあてはまるものを選択してください。(1つ)

※フルタイム・1週間の労働時間が40時間程度の勤務(1日8時間で週5日など)

※短時間勤務・フルタイムと比べ、1週間の労働時間が短い勤務(1日6時間で週4日、または1日8時間で週3日など)

- 1 フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
- 2 フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事
- 3 フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
- 4 フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事
- 5 時間を調整・融通がきく(裁量労働、フレックスタイム、自営業、アルバイトなど)仕事で週64時間を超える仕事
- 6 時間を調整・融通がきく(裁量労働、フレックスタイム、自営業、アルバイトなど)仕事で週64時間以下の仕事
- 7 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 8 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 9 短時間勤務(週20時間未満)

■Q8で1～12(仕事をしている)と答えた方にお聞きします。

Q10 あなたの勤務先の業種について教えてください。(1つ)

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

- | | |
|-----------------|----------------|
| 1 農業・林業・漁業 | 11 不動産業・物品賃貸業 |
| 2 鉱業・採石業・砂利採取業 | 12 宿泊業・飲食サービス業 |
| 3 建設業 | 13 教育・学習支援業 |
| 4 製造業 | 14 医療・福祉業 |
| 5 電気・ガス・熱供給・水道業 | 15 他サービス業 |
| 6 情報通信業 | 16 その他の産業 |
| 7 運輸業・郵便業 | |
| 8 卸売業 | |
| 9 小売業 | |
| 10 金融業・保険業 | |

■Q8で1～12(仕事をしている)と答えた方にお聞きます。

Q11 あなたご自身の仕事の種類について、実際にしている主な仕事の内容をお選びください。(1つ)

※仕事先が複数ある場合は、主に働いているところ(時間が多いところ)を選んでお答えください。

- 1 事務職
- 2 管理職 ※課長相当以上
- 3 専門・技術職
- 4 販売
- 5 サービス
- 6 保安職
- 7 農林漁業
- 8 生産工程従事
- 9 輸送・機械運転
- 10 建設・探掘
- 11 運搬・清掃・包装など
- 12 その他

Q12 今年度(2021年度)の①あなたご自身の個人年収と、②世帯年収について、教えてください。(各々1つ)

※今年度(2021年度)見込み額でお答えください

※年金、株式配当、臨時収入、副収入なども含めて、税込みでお答えください

※世帯年収は、あなたの年収を含む世帯年収でお答えください

	①個人 年収	②世帯 年収
1 1円～50万円未満	1	1
2 50万円～99万円	2	2
3 100万円～149万円	3	3
4 150万円～199万円	4	4
5 200万円台	5	5
6 300万円台	6	6
7 400万円台	7	7
8 500万円台	8	8
9 600万円台	9	9
10 700万円台	10	10
11 800万円台	11	11
12 900万円台	12	12
13 1,000万円～1,400万円台	13	13
14 1,500万円～1,900万円台	14	14
15 2,000万円以上	15	15
16 0円(収入はない)	16	16
17 わからない/答えたくない	17	17

■SC2で2～4(配偶者・恋人がいる)と答えた方にお聞きます。

Q13 現在の配偶者、または恋人の職業・雇用形態を教えてください。(1つ)

※以降の設問については、複数の仕事をしている場合、最も主な仕事についてご回答ください。

※学生でアルバイトとして働いている方は、「学生」を選んでください。

※契約社員・労働契約にあらかじめ雇用期間が定められている者

※嘱託・定年退職者等を一定期間再雇用する目的で契約し、雇用される者

※労働派遣事業所の派遣社員・労働者派遣法に基づく労働者派遣事業所に雇用され、そこから派遣されている者

※パート・アルバイト・常用労働者のうち、1日の所定労働時間が正社員より短い者又は1週の所定労働日数が正社員より少ない者のいずれかに該当する者であって、「嘱託」、「契約社員」以外の者

仕事をしている／雇用されている人

- 1 正規の会社員・職員・従業員
- 2 パート・アルバイト
- 3 労働派遣事業所の派遣社員
- 4 契約社員
- 5 嘱託
- 6 その他の形で雇用されている

仕事をしている／上記以外

- 7 会社などの役員
- 8 自営業・自由業(従業員がいる)
- 9 自営業・自由業(従業員がいない)
- 10 自家営業の手伝い(家族従業者)
- 11 家庭内の賃仕事(内職)
- 12 その他

仕事をしていない

- 13 主婦・主夫
- 14 学生
- 15 その他(働いていない)

把握していない

- 16 把握していない

■SC13で1～12と答えた方にお聞きします。

Q14 現在の配偶者、または恋人の勤務形態について、最もあてはまるものを選択してください。(1つ)

※フルタイム・・・1週間の労働時間が40時間程度の勤務(1日8時間で週5日など)

※短時間勤務・・・フルタイムと比べ、1週間の労働時間が短い勤務(1日6時間で週4日、または1日8時間で週3日など)

- 1 フルタイムで残業が非常に多い(月46時間以上残業)仕事
- 2 フルタイムで残業が多い(月25時間～45時間残業)仕事
- 3 フルタイムで残業がある程度ある(月10時間～24時間残業)仕事
- 4 フルタイムで残業はほとんどない(月9時間以下残業)仕事
- 5 時間を調整・融通がきく(裁量労働、フレックスタイム、自営業、アルバイトなど)仕事で週64時間を超える仕事
- 6 時間を調整・融通がきく(裁量労働、フレックスタイム、自営業、アルバイトなど)仕事で週64時間以下の仕事
- 7 短時間勤務(週30時間以上40時間未満)
- 8 短時間勤務(週20時間以上30時間未満)
- 9 短時間勤務(週20時間未満)

■SC2で2～4と答えた方にお聞きします。

Q15 今年度(2021年度)の配偶者、または恋人の個人年収について教えてください。(1つ)

※今年度(2021年度)見込み額でお答えください

はっきりと年収を把握している

- 1 0円(収入はない)
- 2 1円～50万円未満
- 3 50万円～99万円
- 4 100万円～149万円
- 5 150万円～199万円
- 6 200万円台
- 7 300万円台
- 8 400万円台
- 9 500万円台
- 10 600万円台
- 11 700万円台
- 12 800万円台
- 13 900万円台
- 14 1,000万円～1,400万円台
- 15 1,500万円～1,900万円台
- 16 2,000万円以上

はっきりとは知らないが自分と比べての年収は把握している

- 17 自分よりかなり多いと思う
- 18 自分より多いと思う
- 19 自分と同じくらいと思う
- 20 自分より少ないと思う
- 21 自分よりかなり少ないと思う

その他

- 22 わからない・答えたくない

令和3年度 人生100年時代における結婚・仕事・収入に関する調査 【本調査】

■Q2で1、2(現在、結婚していない)と答えた方にお聞きします。

Q16 あなたは今後、結婚したいと思いますか。(1つ)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

- 1 現在、既に予定がある・決まっている
- 2 現在、予定はないが是非したい
- 3 現在、予定はないが出来ればしたい
- 4 どちらでもいいと思う
- 5 出来ればたくない
- 6 たくない
- 7 その他

Q17 ①現実とは別に、あなたにとって理想的な子供の数は何人ですか(1つ)。また、②あなたは今後、子供を育てたいと思いますか(1つ)。子供がいる人は、「(今いるお子様の人数は除き)、今後何人子供を育てたいと思うか」でお答えください。

※養子、里親等も含みます。

※回答したくない方は、「答えたくない」をお選びください

	①理想的な子供の数	②今後育てたい子供の数
1 0人(子供はいらない、もしくはもう育てたいと思わない)	1	1
2 1人	2	2
3 2人	3	3
4 3人	4	4
5 4人	5	5
6 5人以上	6	6
7 わからない・答えたくない	7	7

Q18 A.あなたの人生において、下記のタイミングについて「何歳ぐらいでしたい」と考えている、もしくは考えていましたか。実際にどうであるかは別として、ご自身の理想を教えてください。(数字記入) また、B.あなたの人生の中で、下記のタイミングは「何歳」の時でしたか。(数字記入)

※A.理想の年齢については、現在の年齢より下でも構いませんので、「〇歳でしたい」と思っている・思っていた年齢をご記入ください。

※理想の年齢がない人・答えたくないまたは覚えていない人は空白にしてください。

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※子どもには養子、里親等も含みます。

※⑥については、生まれてからずっと同じ都道府県に住んでいる場合は「0」歳とお答えください。

		年齢
A 理想の年齢	①最初に結婚する理想の年齢	()歳
	②最初の結婚時の理想の配偶者の年齢	()歳
	③第一子を持つ理想の年齢	()歳
	④自分が「〇歳までは働きたい」と思う理想の年齢	()歳
	⑤配偶者に「〇歳まで働いて欲しい」と思う理想の年齢	()歳
B 実際の年齢	⑥現在の居住都道府県に最初に住み始めた年齢	()歳
	⑦最初に結婚した年齢	()歳
	⑧最初に離婚した時の年齢	()歳
	⑨二回目に結婚した時の年齢	()歳
	⑩第一子を持った年齢	()歳
	⑪現在の配偶者の年齢	()歳

■Q2で3、4(現在、結婚している)、もしくはQ16で1~4(結婚意思がある~どちらでもいい)と答えた方にお聞きします。

Q19 結婚相手に求めることについて、教えてください。(優先度の高いもの5つまで)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※現在結婚されている方は、①結婚前に、相手に求めたこと、②現在、相手に求めることを選んでください。

※現在結婚されていない方は、①結婚相手に求めることを選んでください。

	①結婚相手に求めたこと	②現在相手に求めること
1 価値観が近い	1	1
2 一緒にいて楽しい	2	2
3 一緒にいて落ち着ける・気を遣わない	3	3
4 家事力・家事分担できる	4	4
5 仕事への理解がある	5	5
6 恋愛感情がある	6	6
7 満足いく経済力・年収	7	7
8 正規雇用である	8	8
9 金銭感覚が近い	9	9
10 子供好きである	10	10
11 学歴	11	11
12 容姿・ルックスに好感がもてる	12	12
13 家柄	13	13
14 初婚である	14	-
15 既に子供がいないこと	15	-
16 親兄弟・親族と上手につき合う	16	16
17 年齢	17	17
18 その他	18	18
19 特になし	19	19

■Q2で3、4(現在、結婚している)、もしくは結婚経験がある、もしくはQ16で1~4(結婚意思がある~どちらでもいい)と答えた方にお聞きします。

Q20 どのような流れで結婚したいと思っている・思っていましたか。(いくつでも)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※現在結婚されている方は、①現在の結婚に思っていたことと、②現在の結婚について、実際どうだったかを選んでください。

※離婚、死別して現在配偶者(事実婚・内縁も含む)がない方は、①一番最近の結婚前に思っていたことと、②その結婚について、実際どうだったかを選んでください。

	①理想の結婚への流れ(いくつでも)	②実際、どうだったか(1つ)
1 職場や仕事の関係、アルバイト先	1	1
2 幼なじみ、隣人関係	2	2
3 学校	3	3
4 学校以外のサークル、習い事	4	4
5 見合い(親戚、上司の紹介も含む)	5	5
6 友人や兄弟姉妹の紹介	6	6
7 結婚相談所、インターネット上の婚活サイト	7	7
8 マッチングアプリ	8	8
9 SNS	9	9
10 パーティや合コン	10	10
11 街中や旅行先	11	11
12 その他()	12	12
13 特になし	13	

■Q2で3、4(現在、結婚している)、もしくは結婚経験がある、もしくはQ16で1~4(結婚意思がある~どちらでもいい)と答えた方にお聞きします。

Q21 現在結婚している方は、当時結婚した理由、また現在未婚の方は、今後結婚したいと思う理由について、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※離婚、死別して現在配偶者(事実婚・内縁も含む)がない方は、一番最近の結婚前に思っていたことを選んでください。

- 1 好きな人と一緒に生活をしたい・したかったから
- 2 子供が欲しい・欲しかったから
- 3 家族を持ちたい・持ちたかったから
- 4 精神的な安らぎの場を持ちたい・持ちたかったから
- 5 一人では寂しい・寂しかったから
- 6 社会的に認められたい・認められたかったから
- 7 経済的な安定を得たい・得たかったから
- 8 両親や親類を安心させたい・させたかったから
- 9 両親や知人など周囲にした方がよいと言われる・言われたから
- 10 好きな人と同じ名字・姓にしたい・したかったから
- 11 家を守る必要がある・あったから
- 12 家から出たい・出たかったから
- 13 仕事や家事の負担を減らしたい・減らしたかったから
- 14 老後が心配・心配だったから
- 15 結婚に失敗した経験があり、次こそは幸せになりたいと思ったから
- 16 その他
- 17 特になし

■Q16で4~6(どちらでもいい~結婚意思がない)と答えた方にお聞きします。

Q22 今後、積極的に結婚したいと思わない理由について、あてはまるものをお選びください。(いくつでも)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

	当てはまる	やや当てはまる	どちらとも言えない	やや当てはまらない	当てはまらない
1 結婚相手として条件をクリアできる人に巡り合えそうにないから	1	2	3	4	5
2 結婚するほど好きな人に巡り合っていないから	1	2	3	4	5
3 名字・姓が変わるのが嫌・面倒だから	1	2	3	4	5
4 結婚という形式に拘る必要性を感じないから	1	2	3	4	5
5 結婚に縛られたくない、自由でいたいから	1	2	3	4	5
6 今のままの生活を続けた方が安心だから	1	2	3	4	5
7 結婚生活を送る経済力がない・仕事が不安定だから	1	2	3	4	5
8 仕事・家事・育児・介護を背負うことになるから	1	2	3	4	5
9 仕事を優先したい・キャリアを中断したくないから	1	2	3	4	5
10 誰かと一緒に生きていきたいと思わないから	1	2	3	4	5
11 結婚・恋愛に失敗した経験があり、もうしたくないと思うから	1	2	3	4	5

■Q2で2~4(配偶者・恋人あり)と答えた方にお聞きします。

Q23 あなたと配偶者、または恋人との仲について、最も当てはまるものを教えてください。(1つ)

- 1 大変仲が良い
- 2 仲は良い方だと思う
- 3 仲は普通だと思う
- 4 あまり仲はよくないと思う
- 5 かなり仲はよくないと思う
- 6 現在、離婚もしくは別れることを考えている

■Q2で3~4(配偶者・事実婚含めあり)と答えた方にお聞きします。

Q24 将来離婚する可能性はあると思いますか。(1つ)

- 1 絶対にないと思う
- 2 まあないと思う
- 3 どちらとも言えない
- 4 あるかもしれないと思う
- 5 かなりありそうだと思う
- 6 現在、離婚準備中(調停中・裁判中含む)である
- 7 わからない・考えられない

●「最終学歴直後に就いた仕事」についてお聞きします。

Q25 先ほどお答えいただいた、**最終学歴** ※回答内容提示 を卒業された後、働かれていましたか。(1つ)

- 1 卒業してすぐ(卒業してから1年以内)働いていた
- 2 卒業して1年以内ではないが、2年以内に働いていた
- 3 卒業してしばらく働かず、3年以上後に働いていた
- 4 卒業してから今まで働いていない

■Q25で1~3と答えた方にお聞きします。

Q26 最終学歴後に就いた仕事の職業・雇用形態について、あてはまるものを選択してください。(1つ)

※契約社員・労働契約にあらかじめ雇用期間が定められている者

※嘱託・定年退職者等を一定期間再雇用する目的で契約し、雇用される者

※労働派遣事業所の派遣社員・労働者派遣法に基づく労働者派遣事業所に雇用され、そこから派遣されている者

※パート・アルバイト・常用労働者のうち、1日の所定労働時間が正社員より短い者又は1週の所定労働日数が正社員より少ない者のいずれかに該当する者であって、「嘱託」、「契約社員」以外の者

仕事をしている／雇用されている人

- 1 正規の会社員・職員・従業員
- 2 パート・アルバイト
- 3 労働派遣事業所の派遣社員
- 4 契約社員
- 5 嘱託
- 6 その他の形で雇用されている

仕事をしている／上記以外

- 7 会社などの役員
- 8 自営業・自由業(従業員がいる)
- 9 自営業・自由業(従業員がいない)
- 10 自家営業の手伝い(家族従業者)
- 11 家庭内の賃仕事(内職)
- 12 その他

■Q26で1~7(雇用されている人、もしくは会社役員)と答えた方にお聞きします。

Q27 最終学歴後に就いた仕事について、勤め先の従業員数を教えてください。(1つ)

※本社、支店、工場なども含めた従業員総数。パートなども含みます。

※官公庁にお勤めの方は、「官公庁」をお選びください。

- 1 1名~4名
- 2 5名~29名
- 3 30名~49名
- 4 50名~99名
- 5 100名~299名
- 6 300名~999名
- 7 1,000名以上
- 8 官公庁
- 9 民間企業・官公庁以外に勤めている
- 10 わからない

■Q25で1~3と答えた方にお聞きします。

Q28 最終学歴後に就いた仕事について、継続勤務年数を教えてください。(1つ)

※産休・育休などを挟んだ場合は、その年数も含めてお答えください

- 1 1年未満
- 2 1~3年
- 3 4~5年
- 4 6~10年
- 5 11~15年
- 6 16~20年
- 7 21年以上
- 8 覚えていない

参考資料 WEBアンケート調査票

■Q25で1～3と答えた方にお聞きします。

Q29 最終学歴後に就いた仕事について、①就職前の希望度と、②実際に働いてみての魅力度を教えてください。(それぞれ1つずつ)

	希望通り・魅力的	やや希望通り・やや魅力的	どちらとも言えない	やや希望通りでない・やや魅力的でない	希望通りでない・魅力的でない	覚えていない
① 就職前に感じていた仕事に対する希望度	1	2	3	4	5	6
② 実際に働いてみての魅力度	1	2	3	4	5	6

■Q29①で3～5(希望通りでない)と答えた方にお聞きします。

Q30 どの点について希望通りでない～どちらとも言えなかったのか、あてはまるものを選択してください。(いくつでも)

- 1 雇用形態
- 2 勤務形態・勤務時間
- 3 業種・業界
- 4 職種
- 5 給料
- 6 勤務地
- 7 転勤がある
- 8 会社・勤め先の規模
- 9 会社・勤め先の安定性
- 10 会社・勤め先の雰囲気
- 11 福利厚生
- 12 その他
- 13 覚えていない

■Q29②で1～5と答えた方(覚えていないと答えた人以外)にお聞きします。

Q31 最終学歴直後に就いた仕事について、それぞれの要素に対する満足度を教えてください。(それぞれ1つずつ)

	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満
1 雇用形態	1	2	3	4	5
2 仕事内容	1	2	3	4	5
3 人間関係	1	2	3	4	5
4 やりがい・能力を活かせる仕事かどうか	1	2	3	4	5
5 仕事自体の楽しさ	1	2	3	4	5
6 仕事の見通し・将来像が描ける仕事かどうか	1	2	3	4	5
7 勤務時間が長くない・残業がそこまでない	1	2	3	4	5
8 通勤のしやすさ	1	2	3	4	5
9 休みのとりやすさ	1	2	3	4	5
10 責任を持って仕事を出来るかどうか	1	2	3	4	5
11 昇進や給与等における男女差別のなさ	1	2	3	4	5
12 仕事内容における男女差別のなさ	1	2	3	4	5
13 給料のよさ・昇給スピードの速さ	1	2	3	4	5
14 勤務地・転勤の有無	1	2	3	4	5
15 会社規模	1	2	3	4	5
16 会社・勤め先の安定性	1	2	3	4	5
17 福利厚生	1	2	3	4	5

■Q2で3、4(現在、結婚している)、もしくはQ16で1～4(結婚意思がある～どちらでもいい)と答えた方にお聞きします。

●「結婚」と「仕事」についてお聞きします。

Q32 結婚後(初婚)子供がいない時の自分と配偶者の「仕事」について、①結婚前にどのような形を望んでいるか(現在結婚していない人)、望んでいたか(現在結婚している人)、②結婚後、実際はどうだったか(現在結婚している人)について、最も当てはまるものを教えてください。(1つ)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※現在結婚をしていない人は、①結婚前の望み(理想)、現在結婚している人は、①結婚前の望み(理想)と、②実際どうだったか(現実)についてお答えください。

※結婚を起点として、前後1年間ぐらいのことを想定してお答えください

	①結婚前の望み(理想)	②実際どうだったか(現実)
1 夫婦ともに原則フルタイムで勤務	1	1
2 自分は原則フルタイムで勤務し、配偶者はパートタイム・アルバイトなどで勤務	2	2
3 配偶者は原則フルタイムで勤務し、自分はパートタイム・アルバイトなどで勤務	3	3
4 自分は原則フルタイムで勤務し、配偶者は家事に専念(働かない)	4	4
5 配偶者は原則フルタイムで勤務し、自分は家事に専念(働かない)	5	5
6 その他	6	6
7 覚えていない・特に希望はない	7	7

■Q32①で1～4と答えられた方(働く意思がある人)にお聞きします。

Q33 **結婚後(初婚)子供がいない時**の自分の「収入」について、①結婚前にどのような形を望んでいるか(現在結婚していない人)、望んでいたか(現在結婚している人)、②結婚後、実際はどうだったか(現在結婚している人)について、最も当てはまるものを教えてください。(1つ)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※現在結婚をしていない人は、①結婚前の望み(理想)、現在結婚している人は、①結婚前の望み(理想)と、②実際どうだったか(現実)についてお答えください。

※結婚を起点として、前後1年間ぐらいのことを想定してお答えください

	①結婚前の望み(理想)	②実際どうだったか(現実)
1 結婚前と同様の収入	1	1
2 結婚前を上回る収入	2	2
3 結婚前を下回っても家庭の為に時間のある程度使えるぐらいの収入	3	3
4 配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらいの収入	4	4
5 その他	5	5
6 覚えていない・特に希望はない	6	6

■Q32で3、4(現在、結婚している)、もしくはQ16で1～4(結婚意思がある～どちらでもいい)と答えられた方にお聞きします。

Q34 **結婚後(初婚)子供がいない時、配偶者**にはどのような形で仕事に向き合ってほしいと思っていますか。最も当てはまるものを選んでください。(1つ)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※現在結婚している人は、結婚前に相手に対してどう思っていた・願っていたか についてお答えください。

- 1 家庭と仕事を両立してほしい
- 2 どちらかと言うと仕事に専念してほしい
- 3 どちらかと言うと家庭に専念してほしい
- 4 扶養の範囲内で働き、家庭のことをやってほしい
- 5 出来れば残業を減らして早く帰宅してほしい
- 6 出来れば収入を増やしてほしい
- 7 出来れば仕事を辞めてほしい・家にいてほしい
- 8 特に相手に求めることはない・気にせず自分の考えで働いてほしい
- 9 その他
- 10 特に希望はない

Q35 **結婚後(初婚)子供がいない時**の居住地の希望について、①結婚前にどのような形を望んでいるか(現在結婚していない人)、望んでいたか(現在結婚している人)、②結婚後、実際はどうだったか(現在結婚している人)について、最も当てはまるものを教えてください。(1つ)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※現在結婚をしていない人は、①結婚前の望み(理想)、現在結婚している人は、①結婚前の望み(理想)と、②実際どうだったか(現実)についてお答えください。

※結婚を起点として、前後1年間ぐらいのことを想定してお答えください

	①結婚前の望み(理想)	②実際どうだったか(現実)
1 2人が住んでいるエリア	1	1
2 自分が住んでいるエリア	2	2
3 その時に配偶者の住んでいるエリア	3	3
4 自分の勤務地がある・通いやすいエリア	4	4
5 配偶者の勤務地がある・通いやすいエリア	5	5
6 自分の故郷があるエリア・都道府県	6	6
7 配偶者の故郷があるエリア・都道府県	7	7
8 その他	8	8
9 特に希望はない・なかった	9	

■Q5①②のどちらもでない人(子供がいる人)、もしくはQ17①②のどちらもでない人(「理想的な子供の数」でも「今後育てたい子供の数」でも0人と答えていない人)

●「子供を持つこと」と「仕事」についてお聞きします。

Q36 **第一子が生まれた後、子供が2～3歳の頃**の自分と配偶者の「仕事」について、①第一子が生まれる前にどのような形を望んでいるか(現在子供がいない人)、望んでいたか(現在子供がいる人)、②子供が2～3歳の頃、実際はどうだったか(現在子供がいる人)について、最も当てはまるものを教えてください。(1つ)

※現在子供がいない人は、①子供が生まれる前の望み(理想)、現在子供がいる人は、①子供が生まれる前の望み(理想)と、②実際どうだったか(現実)についてお答えください。

※第一子が生まれてから、子供が2～3歳の頃を想定してお答えください

	①生まれる前の望み(理想)	②実際どうだったか(現実)
1 夫婦ともに育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	1	1
2 自分だけ育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	2	2
3 配偶者だけ育児休業等を取得、復帰後に夫婦ともに原則フルタイムで勤務	3	3
4 夫婦ともに育児のために短時間で勤務	4	4
5 自分は育児のために短時間で勤務、配偶者は原則フルタイムで勤務	5	5
6 配偶者は育児のために短時間で勤務、自分は原則フルタイムで勤務	6	6
7 自分はパートタイム・アルバイトなどで勤務、配偶者は原則フルタイムで勤務	7	7
8 配偶者はパートタイム・アルバイトなどで勤務、自分は原則フルタイムで勤務	8	8
9 自分は家事・育児に専念(働かない)、配偶者は原則フルタイムで勤務	9	9
10 配偶者は家事・育児に専念(働かない)、自分は原則フルタイムで勤務	10	10
11 その他	11	11
12 覚えていない、特に希望はない	12	12

参考資料 WEBアンケート調査票

■Q36①で1～8、10と答えた方(働く意思がある人)にお聞きします。

■Q5①②のどちらも1でない人(子供がいる人)、もしくはQ17①②のどちらも1でない人(「理想的な子供の数」でも「今後育てたい子供の数」でも0人と答えていない人)

Q37 **第一子が生まれた後、子供が2～3歳の頃の自分の「収入」について**、①第一子が生まれる前にどのような形を望んでいるか(現在子供がいない人)、望んでいたが(現在子供がいる人)、②子供が2～3歳の頃、実際はどうだったか(現在子供がいる人) について、最も当てはまるものを教えてください。(1つ)

※現在子供がいない人は、①子供が生まれる前の望み(理想)、現在子供がいる人は、①子供が生まれる前の望み(理想)と、②実際どうだったか(現実) についてお答えください。

※第一子が生まれてから、子供が2～3歳の頃を想定してお答えください

	①生まれる前の望み(理想)	②実際どうだったか(現実)
1 第一子が生まれる前と同様の収入	1	1
2 第一子が生まれる前を上回る収入	2	2
3 第一子が生まれる前を下回っても育児の為に時間をある程度使えるぐらいの収入	3	3
4 配偶者控除や企業の配偶者手当を受けられるぐらいの収入	4	4
5 その他	5	5
6 覚えていない・特に希望はない	6	6

■Q5①②のどちらも1でない人(子供がいる人)、もしくはQ17①②のどちらも1でない人(「理想的な子供の数」でも「今後育てたい子供の数」でも0人と答えた人)

Q38 **第一子が生まれた後、子供が2～3歳の頃、配偶者**にはどのような形で仕事に向き合ってほしいと思っていますか。最も当てはまるものを選んでください。(1つ)

※婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含めてお答えください

※現在子供がいる人は、子供が生まれる前に相手に対してどう思っていた・願っていたか についてお答えください。

- 1 家庭・育児と仕事を両立してほしい
- 2 どちらかと言うと仕事に専念してほしい
- 3 どちらかと言うと家庭・育児に専念してほしい
- 4 扶養の範囲内で働き、家庭・育児をやしてほしい
- 5 出来れば残業を減らして早く帰宅してほしい
- 6 出来れば収入を増やしてほしい
- 7 出来れば仕事自体を辞めて欲しい・家にいてほしい
- 8 特に相手に求めることはない・気にせず自分の考えで働いてほしい
- 9 その他
- 10 特に希望はない

●「結婚・育児と仕事・収入の関係」についてお聞きします。

■Q12①で1～15(個人年収あり)、かつ、Q15で1～21(配偶者・恋人の年収がわかる人)にお聞きします

Q39 **配偶者・恋人との年収の違いについて、当てはまるものを全て教えてください。(いくつでも)**

- 1 自分の仕事時間・内容を鑑みると、年収に差があるのがもどかしい
- 2 年収に差があるので色んなことが平等でないように感じる
- 3 相手の年収はもっと高い方が望ましい
- 4 相手の年収は今のまま～下がってもいい
- 5 相手が扶養を受けることを考えると、相手の年収は今のまま～下がってもいい
- 6 相手が扶養から一時的に外れても、相手の年収はもっと高い方が望ましい
- 7 相手の年収との関係で、自分の意見を言いにくい
- 8 相手の年収との関係で、家事・育児等は出来れば自分がやらなければならないと思う
- 9 相手の年収の方が低いので、家事・育児等は出来るだけやって欲しい
- 10 相手の年収との関係で、自分が長時間勤務・残業するのに気を遣う
- 11 相手の年収の方が低いので、出来れば長時間勤務・残業はしてほしくない
- 12 その他
- 13 気にしていない

■Q8で1～12(現在働いている人)にお聞きします。

Q40 **あなたは将来的に「昇進したい」と思いますか。(1つ)**

※昇進・それ以前の役職・地位よりも高い役職・地位に就くこと

- 1 昇進したい
- 2 出来れば昇進したい
- 3 どちらとも言えない
- 4 出来れば昇進したくない
- 5 昇進したくない
- 6 昇進するような仕事ではない

Q41 **人生の各段階における、あなたご自身へのスキルアップ～キャリアアップに向けた教育投資・企業内訓練について、それぞれ当てはまるものをお選びください。(それぞれ1つずつ)**

※教育投資＝希望する進学先・就職先に進むため、仕事で昇進や昇給を実現するため、プライベートでお金と時間をかけて必要とされる知識や技能を習得すること(例:大学進学のために親から塾費を出してもらい、資格取得のために自分で教材を買う…)

※企業内訓練＝効率的に職務を遂行するために必要とされる知識や技能を習得させるために、企業が従業員のために提供する職業訓練のこと(例:中長期的なキャリア形成に向けて外部研修に会社の費用で参加する…)

回答方向→	投資は必要ないと判断し、していなかった	投資をしたかったが出来なかった・してくれなかった	ある程度投資をした・された	十分な投資をした・された	該当しない
① 高校進学時(教育投資)	1	2	3	4	5
② 大学進学時(教育投資)	1	2	3	4	5
③ 就職時(教育投資)	1	2	3	4	5
④ 就職後～働いている段階(教育投資)	1	2	3	4	5
⑤ 就職後～働いている段階(企業内訓練)	1	2	3	4	5

■Q41選択肢④⑤で1・2(教育投資・企業内訓練は必要ないと判断、しなかったが出来なかった)と答えた方にお聞きます。

Q42 就職後～働いている段階での教育投資・企業内訓練について、どうして必要ないと判断・もしくはしなかったが出来なかったのか、理由を教えてください。(いくつでも)

※教育投資＝希望する進学先・就職先に進むため、仕事で昇進や昇給を実現するため、プライベートでお金と時間をかけて必要とされる知識や技能を習得すること(例：大学進学のために親から差費を出してもらい、資格所得の為に自分で教材を買う…)
 ※企業内訓練＝効率的に職務を遂行するために必要とされる知識や技能を習得させるために、企業が従業員のために提供する職業訓練のこと(例：中長期的なキャリア形成に向けて外部研修に会社の費用で参加する…)

- 1 教育投資が必要な仕事ではなかったから
- 2 教育投資しても成果が得られる見込みがなかったから
- 3 教育投資してスキルアップすることに興味がなかったから
- 4 会社が、訓練機会のあるような仕事は回してくれなかったから
- 5 会社が、自分に対しては訓練機会は必要ないと判断したから
- 6 プライベートの時間を使ってまで仕事に関することをしたくなかったから
- 7 仕事にそこまでやりがいを感じていなかったから
- 8 ずっと働く訳ではないと思ったから
- 9 早く結婚したい・子供が欲しいので長く仕事は続けないと思ったから
- 10 結婚・子供が生まれたらキャリアがストップすると思ったから
- 11 その時間が取れない・取れそうになかったから
- 12 周り比べて自分がそこまで頑張る必要がないと感じたから
- 13 会社の自分に対する期待が低かったから
- 14 教育投資しても出世が難しそうだったから
- 15 その他
- 16 特に理由はない

Q43 以下のような考え方について、あなたのご意見に最も近いものを教えてください。(それぞれ1つずつ)

	賛成である	やや賛成である	どちらとも言えない	やや反対である	反対である
1 男性は外で働き、女性が家の中で家事を支えるべきである	1	2	3	4	5
2 女性は結婚後は仕事をセーブ～辞めるべきである	1	2	3	4	5
3 女性は出産後は仕事をセーブ～辞めるべきである	1	2	3	4	5
4 男性にある程度収入がないと結婚すべきでない	1	2	3	4	5
5 女性よりも男性の方が良い大学・教育を受けるべきである	1	2	3	4	5
6 事実婚や同棲よりも結婚(法律婚)するべきである	1	2	3	4	5
7 お見合いや婚活サイト等よりも自然な恋愛結婚が望ましい	1	2	3	4	5
8 男女とも結婚(法律婚)して一人前と認めるべきである	1	2	3	4	5
9 男女とも子供を持って一人前と認めるべきである	1	2	3	4	5
10 結婚したら夫婦で同じ名字・姓を名乗るべきである	1	2	3	4	5
11 女性は仕事や家事で忙しくても外見や美容に気を遣うべきである	1	2	3	4	5
12 男性は仕事や家事で忙しくても外見や美容に気を遣うべきである	1	2	3	4	5
13 長男がお墓を守るべきである	1	2	3	4	5
14 長子がお墓を継ぐ・家を守るべきである	1	2	3	4	5
15 長男の嫁は、長男の嫁としての役割を果たすべきである	1	2	3	4	5

Q44 あなたには、以下のような人が何人ぐらいいるか、それぞれお答えください。(それぞれ1つ)

※答えない、または覚えていない方は「答えない・覚えていない」をお選びください
 ※現在、結婚をしていない方は、現在までの人数をお答えください

	0人	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人以上	答えない・覚えていない
① これまでの「結婚相手(事実婚・内縁も含む)」の人数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
② 中学卒業から最初の結婚まで、「恋人として交際した人数(結婚相手含む)」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
③ 中学卒業から最初の結婚まで、「デートした人数(結婚相手含む、恋人でない人含む)」	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

参考資料 WEBアンケート調査票

●「あなたが70歳になった時の生活スタイル」についてお聞きします。

Q45 あなたが70歳になった時の「仕事」を考え、①どのような形が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。(それぞれ1つ)

	①理想	②現実、どうなりそうか
1 フルタイムで働いている	1	1
2 パートタイム・短時間勤務で働いている	2	2
3 自営業やフリーランスとして働いている	3	3
4 その他の形で働いている	4	4
5 働いていない	5	5
6 わからない・考えられない		6

Q46 あなたが70歳になった時の「家族と居住形態」を考え、①どのような形が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。(それぞれ1つ)

※配偶者には婚姻届を出していない事実婚・内縁の関係も含みます

	①理想	②現実、どうなりそうか
1 配偶者と、結婚した子供と一緒に暮らしている	1	1
2 配偶者と、独身の子供と暮らしている	2	2
3 配偶者と二人で暮らしている	3	3
4 自分と、結婚した子供と暮らしている	4	4
5 自分と、独身の子供と一緒に暮らしている	5	5
6 兄弟・姉妹で暮らしている	6	6
7 恋人と暮らしている	7	7
8 友人と暮らしている	8	8
9 老人ホームやグループホームなど施設に入所している	9	9
10 シェアハウスで暮らしている	10	10
11 一人暮らしをしている	11	11
12 わからない・考えられない		12

Q47 あなたが70歳になった時の「お住まい」を考え、①どのような形が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。(それぞれ1つ)

	①理想	②現実、どうなりそうか
1 今住んでいる持ち家に住み続けている	1	1
2 今住んでいる賃貸に住み続けている	2	2
3 今とは別の持ち家に住んでいる	3	3
4 今とは別の賃貸に住んでいる	4	4
5 老人ホームやグループホームなど施設に入所している	5	5
6 シェアハウスに住んでいる	6	6
7 ホテル住まいなど家を持たずに過ごしている	7	7
8 わからない・考えられない		8

Q48 あなたが70歳になった時の「世帯収入」を考え、①どの程度が理想か と、②現実にはどうなりそうか、一番近いものをお選びください。(それぞれ1つ)

※年金、働いて得る収入、資産収入など

	①理想	②現実、どうなりそうか
1 月30万円以上	1	1
2 月20万円台	2	2
3 月10万円台	3	3
4 月10万円未満	4	4
5 収入なし	5	5
6 わからない・考えられない		6

Q49 過去～現在において、あなたご自身は介護をしている・していましたか。当てはまるものを教えてください。(いくつでも)

※1年間におおよそ30日以上、何らかの介護をしている・していた場合は「介護している・していた」としてご回答ください。

※介護とは、日常生活における入浴・着替え・トイレ・移動・食事などの際に何らかの手助けをすることを言います。

※「要介護認定」を受けていない人に対する介護も含めます。

※一時的に病氣やケガなどで寝ている人に対する介護は除きます。

- 1 現在、自宅内で介護をしている
- 2 現在、自宅以外の場所で介護をしている
- 3 過去に、自宅内で介護をしていた
- 4 過去に、自宅以外の場所で介護をしていた
- 5 介護をしていたことはない

参考資料 WEBアンケート調査票

■Q49で1・2(現在介護している人)と回答した方にお聞きします。

Q50 現在、あなたは介護にどのぐらいの時間を使っていますか。1日あたりの平均として、最も当てはまるものを教えてください。(1つ)

- 1 ほとんど終日
- 2 半日程度
- 3 2～3時間程度
- 4 必要な時に手を貸す程度
- 5 その他
- 6 決まっていない

Q51 今後、あなたの親(自分の親、配偶者の親含め)が要介護状態になった時、どのように関わるとお考えですか。お考えに最も近いものを教えてください。(1つ)

※既にご両親(自分の親・配偶者の親含め)が要介護状態の場合は、現在どのように関わっているかでお答えください。

- 1 自分が中心的に介護すると思う・している
- 2 自分が補助的に介護すると思う・している
- 3 必要な時に手を貸す程度で介護を手伝うと思う・している
- 4 施設やヘルパーに任せると思う・任せている
- 5 わからない・考えられない

Q52 今後、あなたご自身が要介護状態になった時、どのような形での介護を望みますか。お考えに最も近いものを教えてください。(1つ)

- 1 自宅でできるだけ家族に介護してほしい
- 2 自宅でできるだけヘルパー等に介護してほしい
- 3 自宅ではなく施設に入りたい
- 4 わからない・考えられない

Q53 ①現在、あなたご自身が抱えている不安と、②将来、不安に思うようなこと・状態について、それぞれ当てはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	当てはまる	やや当てはまる	どちらとも言えない	やや当てはまらない	当てはまらない	わからない・考えられない
1 衣食住に困ることがある	1	2	3	4	5	-
2 生活がぎりぎり、貯金ができない	1	2	3	4	5	-
3 借金返済(住宅ローン、奨学金含む)が重荷である	1	2	3	4	5	-
4 家事や子育て、介護負担が大変である	1	2	3	4	5	-
5 子どもの育児に掛る費用や教育費負担が大変である	1	2	3	4	5	-
6 仕事時間が長時間・残業が多く、なかなか休めない	1	2	3	4	5	-
7 仕事で精神的な疲労が溜まっているが、なかなか休めない	1	2	3	4	5	-
8 家族から暴力(DV・ドメスティックバイオレンス)を受けている	1	2	3	4	5	-
9 家族の中に居場所がないと感じる	1	2	3	4	5	-
10 周りに親しい人がおらず孤立している	1	2	3	4	5	-
11 仕事以外の時間を楽しめない・することがなくなる	1	2	3	4	5	6
12 子どもが自立できない・面倒をみないといけなくなる	1	2	3	4	5	6
13 自分の周りに頼る人・面倒を見てくれる人がいなくなる	1	2	3	4	5	6
14 自分の周りに一緒に時間を過ごす・住む人間がいなくなる	1	2	3	4	5	6
15 高齢になって十分な生活ができなくなる	1	2	3	4	5	6
16 高齢になって十分な介護が受けられなくなる	1	2	3	4	5	6
17 高齢になっても年金受給が不透明・見通しが立たない	1	2	3	4	5	6
18 高齢になっても働かないといけなくなる	1	2	3	4	5	6
19 高齢になって身体が不自由になり、誰かの介助が必要になる	1	2	3	4	5	6
20 高齢になって孤立してしまう	1	2	3	4	5	6

参考資料 WEBアンケート調査票

Q54 現在の、各項目へのあなたの満足について、それぞれ当てはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや満足していない	満足していない	あてはまらない
1 世帯収入・資産	1	2	3	4	5	
2 仕事の環境・仕事で得られる賃金	1	2	3	4	5	6
3 仕事と生活のバランス(ワークライフバランス)	1	2	3	4	5	6
4 仕事・家事へのやりがい	1	2	3	4	5	6
5 住宅環境(家そのもの・周りの環境含めて)	1	2	3	4	5	
6 健康状態・体調	1	2	3	4	5	
7 自身の教育水準・学ぶ時間や環境	1	2	3	4	5	
8 精神的な充足・安定度	1	2	3	4	5	
9 交友関係やコミュニティなど、仲間との繋がり	1	2	3	4	5	
10 配偶者・恋人との親密度・恋愛関係	1	2	3	4	5	6
11 家族との関係性	1	2	3	4	5	6
12 地域や社会との関わり・コミュニケーション	1	2	3	4	5	
13 趣味や自分が楽しむものへの時間・費用確保	1	2	3	4	5	
14 子どもの発達・子どもの状況	1	2	3	4	5	6
15 自分の容姿・ルックス	1	2	3	4	5	
16 毎日の生活に対する総合的な満足度	1	2	3	4	5	

Q55 以下の時に、あなたはどの程度幸せでした(です)か。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点ぐらいになると思いますか。いずれか1つだけ選んでください。(それぞれ1つずつ)

	とても不幸					中間					とても幸せ
20歳のころ	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
現在	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10